

Oracle® Hyperion Financial Management

ユーザー・ガイド

リリース 11.2.1

F26631-04

2020年5月

著者: EPM Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software" or "commercial computer software documentation" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Inside は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Epyc, AMD ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて.....	xiii
ドキュメントのフィードバック.....	xv
1 Financial Management の概要	
Financial Management の機能.....	1-1
EPM Workspace	1-1
Financial Management のディメンション	1-2
ユーザー定義の要素	1-3
2 Financial Management の基本手順	
Financial Management の開始.....	2-1
アプリケーションを開く	2-2
アプリケーションを閉じる	2-2
ユーザー・プリファレンスの設定	2-2
クラスタの指定.....	2-2
説明のデフォルト言語の指定.....	2-3
数値のフォーマットの指定.....	2-3
ファイルの抽出オプションの指定.....	2-3
ドキュメント・マネージャをデフォルトのページとして使用.....	2-3
ユーザー・プリファレンスの設定.....	2-3
マルチバイト言語の日付/時刻フォーマットを使用可能にする	2-4
Financial Management の使用方法に関するヘルプ.....	2-5
Financial Management の終了.....	2-5
Financial Management の使用.....	2-5
視点バー・オプションの設定.....	2-5
視点のメンバーの選択.....	2-6
複数メンバーの選択.....	2-8
ディメンション・メンバーの検索.....	2-9
選択したメンバーの検索.....	2-10
お気に入りメンバーの保存.....	2-10
お気に入りメンバーの選択.....	2-11

データ・フォームでのメンバーの選択	2-11
メンバー・プロパティの表示	2-11
アクティブなエンティティの表示	2-12
列の表示	2-12
タブの並替え	2-13
タブを閉じる	2-13
フィルタの使用	2-13
ドキュメントの管理	2-14
ドキュメントまたは Web ページへのリンクの設定	2-18
ドキュメント・リンクのコピー	2-19
カスタム・ドキュメントの使用	2-19
関連コンテンツへのアクセス	2-19
タスク・リストの管理	2-20
お気に入りの管理	2-22

3 データの管理

データ・ファイルの使用	3-1
データ・ファイルのセクション	3-1
ディメンションのグループ化	3-5
データ・ファイルの例	3-5
ロード方法	3-6
マージ	3-6
置換	3-7
セキュリティを基準にして置換	3-7
累計	3-8
ロードの例	3-8
データのロード	3-9
データのロード状況の表示	3-11
データのロード・タスクの取消し	3-11
送信グループのロード	3-11
ドリル可能な領域定義のロード	3-12
データの抽出	3-13
フラット・ファイル抽出オプション	3-13
フラット・ファイルへのデータの抽出	3-14
データの管理	3-15
データのコピー	3-16
データのクリア	3-18

4 データ・グリッドの使用

データ・グリッドの作成	4-1
データ・グリッドを開く	4-2
データ・グリッドのチャートとしての表示と印刷	4-2
データ・グリッドの操作	4-4

データ・グリッドの使用	4-4
データ・グリッドの行と列の設定	4-4
グリッドの表示オプションの設定	4-5
グリッド・ディメンション・オプションの設定	4-6
データ・グリッドの設定の保存	4-7
データ・グリッドのフォルダの作成	4-8
データ・グリッドの抽出	4-9
データ・グリッドのロード	4-9
データ・グリッドの削除	4-9
データの入力と編集	4-10
要約レベルの期間へのデータの入力	4-10
セル値のコピーおよび貼付け	4-11
データのクリア	4-11
ステータスを判別するためのデータ・セルの色の使用方法	4-11
データのリフレッシュ	4-13
データ・グリッドのデータの表示	4-13
算出ステータスの表示	4-13
プロセス単位のレベルの表示	4-15
セル情報の表示	4-16
セル調整の表示	4-16
セル・テキストの追加	4-16
セル・テキストの表示	4-18
データ・グリッドへのドキュメントの添付	4-18
ライン・アイテムの詳細の追加	4-19
ライン・アイテムの詳細の表示	4-20
ライン・アイテムの詳細のオプション	4-20
セルの履歴の表示	4-21
データ配賦の実行	4-21
データ・グリッドからのエクイティ・ピックアップ計算の実行	4-21
データのロック	4-22
データのロック解除	4-22
ソース取引と宛先取引の表示	4-23
エンティティ詳細レポートの実行	4-23
エンティティ詳細レポートの表示	4-24
外部 URL によるエンティティ詳細レポートへのアクセス	4-24
レポートの視点	4-24
レポートの行と列の選択	4-25
ライン・アイテムの詳細の表示	4-26
基本レベルの詳細の表示	4-26
ソース取引と宛先取引の表示	4-26
仕訳の詳細へのリンク	4-27
エンティティ詳細レポートの印刷	4-27
内部取引のドリルスルー	4-27

ソース・データへのドリルスルー	4-27
Oracle Financial Management Analytics の起動	4-28
プロセス管理のオプション	4-28
5 データの連結	
連結プロセス	5-1
換算レートの入力	5-5
連結比率の入力	5-6
データの計算	5-7
データの換算	5-8
連結オプション	5-8
データの連結	5-10
連結の進行状況の表示	5-10
連結タスクの取消し	5-11
連結ステータス	5-11
6 データ・フォームの使用法	
データ・フォームの操作	6-1
データ・フォームを開く	6-2
データ・フォームのツールバーの使用法	6-2
データ・フォームの指示の表示	6-3
データ・フォームのチャートとしての表示	6-3
Smart View でデータ・フォームを開く	6-5
データ・フォームのデータの入力	6-5
ショートカット・メニュー・コマンド	6-6
セル・テキストの使用	6-8
データ・フォームのセル・テキストの入力	6-8
データ・フォームのセル・テキストの表示	6-10
データ・フォームのセル・テキストの編集	6-10
データ・フォームへのドキュメントの添付	6-11
データ・フォームのライン・アイテムの詳細の入力	6-12
データ・フォームのライン・アイテムの詳細の表示	6-13
データ・フォームでのライン・アイテムの詳細の削除	6-13
リンクされたフォームの使用法	6-13
データ・フォームの視点の変更	6-14
データ・フォームのデータの計算	6-14
データ・フォームでのオンデマンド・ルールの実行	6-15
データ・フォームのデータの非表示	6-16
データ・フォームへのメンバーの追加	6-16
データ・フォームの印刷	6-17
内部取引のドリルスルー	6-17
ソース・データへのドリルスルー	6-18

7	出資比率の管理	
	出資比率の管理	7-1
	視点の変更	7-2
	表示オプションの設定	7-2
	出資比率情報の入力	7-2
	出資比率値のコピーおよび貼付け	7-4
	出資比率の計算プロセス	7-5
	出資比率の計算	7-6
8	エクイティ・ピックアップの管理	
	エクイティ・ピックアップの概要	8-1
	エクイティ・ピックアップ調整の例	8-1
	例 1: 直接出資比率	8-2
	例 2: 換算を行う直接出資比率	8-3
	例 3: カスケード所有権と関連子会社	8-4
	例 4: クロス所有権	8-6
	エクイティ・ピックアップの管理	8-8
	エクイティ・ピックアップの管理表の表示変更	8-9
	エクイティ・ピックアップ調整の計算	8-10
	エクイティ・ピックアップ・レポートの印刷	8-11
	EPU 計算プロセス	8-11
9	Financial Management のデータのレポート	
	レポートの作成	9-1
	レポートを開く	9-1
	システム・レポートのフォーマット	9-2
	レポートの編集	9-3
	レポートの保存	9-3
	内部取引のドリルスルー	9-4
	レポートの印刷	9-4
	レポートの削除	9-4
10	内部取引の処理	
	内部取引モジュールの機能	10-1
	内部取引のセキュリティ役割	10-2
	内部取引タスクフローの例	10-3
	内部取引のロード・ファイル	10-5
	内部取引のロード方法	10-7
	内部取引のロード	10-8
	内部取引ファイルの抽出	10-9
	内部取引の管理について	10-10
	内部取引の作成	10-10

内部取引の表示	10-14
内部取引の選択	10-17
内部取引の編集	10-18
内部取引の複製	10-18
内部取引への理由コードの割当て	10-18
内部取引の照合	10-19
内部取引自動照合プロセス	10-19
内部取引の自動照合	10-22
自動照合テンプレートの使用	10-23
許容差を使用した手動照合	10-24
許容差を使用しない手動照合	10-26
取引金額の差の調整	10-26
照合ステータス	10-27
照合コード	10-27
内部取引を未照合に戻す	10-28
内部取引の転記	10-29
内部取引の転記を戻す	10-30
内部取引の進行状況の表示	10-31
内部取引の削除	10-31
内部取引のレポート	10-32
内部取引明細レポートの実行	10-32
内部取引明細レポートの列の表示	10-33
内部取引明細レポートの行の表示	10-34
照合レポートの実行	10-35
照合レポートのオプションの選択	10-35
勘定科目による照合レポートの実行	10-36
取引 ID による照合レポートの実行	10-38
取引の詳細へのドリルスルー	10-39
内部取引の電子メール・アラート	10-40

11 仕訳の使用方法

仕訳について	11-2
仕訳のセキュリティ役割	11-2
仕訳テンプレートの使用方法	11-2
仕訳の標準テンプレートの作成	11-3
繰返しテンプレートの作成	11-4
仕訳テンプレート・リストの表示	11-6
仕訳テンプレートの編集	11-7
仕訳テンプレートの印刷	11-7
仕訳テンプレートの削除	11-7
仕訳の期間の管理	11-8
仕訳の処理	11-8
仕訳の作成	11-9

自動逆仕訳の作成.....	11-11
繰返しテンプレートを使用した仕訳の作成.....	11-12
仕訳のスキャン.....	11-13
仕訳ステータス.....	11-13
仕訳グループの管理.....	11-13
仕訳グループの作成.....	11-14
仕訳グループの削除.....	11-14
仕訳リストの表示.....	11-14
仕訳の編集.....	11-15
仕訳のディメンションのメンバーの選択.....	11-15
仕訳セルのコピーと貼付け.....	11-16
仕訳の送信.....	11-17
仕訳の送信を戻す.....	11-17
仕訳の承認.....	11-17
仕訳の却下.....	11-18
仕訳の転記.....	11-18
仕訳の転記の戻し.....	11-19
仕訳の確認.....	11-19
仕訳の検証.....	11-19
自動連結仕訳の表示.....	11-20
仕訳レポートの作成.....	11-21
レポートの列の表示.....	11-22
レポート用の仕訳リストのフィルタ.....	11-23
仕訳レポートの保存.....	11-23
仕訳レポートの印刷.....	11-23
個々の仕訳レポートの印刷.....	11-24
仕訳の削除.....	11-24
Smart View での仕訳の操作.....	11-24
Smart View でフォームを開く.....	11-25
タスクリストから仕訳の管理へのアクセス.....	11-25

12 プロセス管理の使用

プロセス管理について.....	12-1
プロセス管理の有効化.....	12-1
プロセス単位へのアクセス.....	12-2
プロセス管理のセキュリティ役割.....	12-2
プロセス単位のレベル.....	12-3
要約期間のプロセス単位のレベル.....	12-5
確認レベルと提出フェーズ.....	12-5
プロセス管理の開始.....	12-5
プロセス・コントロールの使用方法.....	12-6
プロセス・コントロールのチャートの表示と印刷.....	12-7
プロセス・コントロール・タスク.....	12-8

データ・ビューの選択.....	12-8
プロセス・コントロールのエンティティの選択.....	12-9
プロセス・コントロールの複数行の選択.....	12-10
プロセス・コントロールの表示オプションの設定.....	12-10
プロセス・コントロールでの提出フェーズの表示.....	12-12
プロセス・コントロール・ツールの使用方法.....	12-12
プロセス・コントロールの要約の表示.....	12-13
合格または不合格のステータスの表示.....	12-13
検証勘定の詳細の表示.....	12-14
算出ステータスの表示.....	12-15
仕訳ステータスの表示.....	12-16
レート・データの表示.....	12-16
出資比率の管理情報の表示.....	12-17
プロセス単位へのドキュメントの添付.....	12-17
プロセス・コントロールでのデータの計算.....	12-18
プロセス・コントロールでのデータの換算.....	12-18
プロセス・コントロールでのデータの連結.....	12-18
プロセス・コントロールからのエクイティ・ピックアップ計算の実行.....	12-18
プロセス単位のレベルを上げる.....	12-19
プロセス単位の送信.....	12-20
プロセス単位の承認.....	12-21
プロセス単位の却下.....	12-22
プロセス単位のサインオフ.....	12-23
プロセス単位の発行.....	12-24
プロセス単位のロックとロック解除.....	12-25
プロセス管理の履歴の表示.....	12-25
プロセス・コントロールの電子メール・アラート.....	12-26
プロセス管理の検証.....	12-26
プロセス管理と連結.....	12-27

13 電子メール・アラートの使用方法

電子メール・アラートについて.....	13-1
内部取引のアラートの生成.....	13-2
内部取引の電子メール・アラートの送信.....	13-2
内部取引の電子メールの内容.....	13-2
内部取引の電子メール・アラートの受信.....	13-3
プロセス・コントロールのアラートの生成.....	13-3
プロセス・コントロールの電子メールの内容.....	13-4
プロセス・コントロールの電子メール・アラートの受信.....	13-5

14 タスクの自動化

タスクの自動化の概要.....	14-1
自動化に使用可能な Financial Management タスク.....	14-1

タスクの自動化に必要な条件	14-2
タスクフローの管理	14-2
タスクフローの表示	14-3
タスクフローの作成	14-3
タスクフローへのステージの追加	14-4
Financial Management のステージのアクションとパラメータ	14-7
タスクフローへのリンクの追加	14-12
タスクフローの編集	14-13
タスクフローの削除	14-14
タスクフローのコピー	14-14
テストのためのタスクフローの手動での実行	14-15
タスクフローへのアクセスの制御	14-15
タスクフローのスケジュール	14-16
タスクフローのステータスの表示	14-16
アクティブ・タスクフローの停止	14-19
「タスクフローの参加者(要約)」の表示	14-19
「タスクフロー参加者(詳細)」の表示	14-20

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>、聴覚に障害があるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントのフィードバックを提出するには、epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信するか、Oracle Help Center のトピックで「目次」のすぐ下にある「フィードバック」ボタンをクリックします(場合によってはボタンを表示するために下にスクロールする必要があります)。

次のソーシャル・メディア・サイトで、EPM Information Development をフォローしてください。

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

YouTube - <https://www.youtube.com/oracleepminthecloud>

Financial Management の概要

次も参照:

[Financial Management の機能](#)

[EPM Workspace](#)

[Financial Management のディメンション](#)

[ユーザー定義の要素](#)

Financial Management の機能

Oracle Hyperion Financial Management には、次の機能があります:

- 会社の財務情報を統一された形式で表示。様々なソースからの実績情報や指標をスケーラブルな Web ベースのアプリケーションにまとめられます。
- ファスト・バーチャル・クローズ機能。Web ベースのプロセス管理、Web ベースの会社間調整、仕訳の調整、データやビジネス・メジャーの一貫性機能が備わっており、決算にかかる時間が短縮されます。
- パワフルなマルチディメンショナル分析機能。会社、コスト・センター、製品、ブランド、顧客、流通経路の財務とビジネスの主要な傾向、収益性の新しいソースやキャッシュ・フローを確認してレポートにまとめられます。
- 仮定に基づいた柔軟なシナリオ管理機能。実際の結果、予算、予想、プランを動的に連結して、仮定と実際のデータの変化を示すレポートを作成できます。
- フォーマット済の各種レポート。1つのアプリケーションで、内部での管理用、公開用、法的機関への提出用の正確なレポートを簡単に作成できます。
- パッケージをインストールしてそのまま使用できる各種機能。国際レベルでの配賦、複数通貨換算、既存のアプリケーションや ERP、CRM システムとのデータの統合を低コストで行えます。
- カスタマイズ可能なアプリケーション。業界標準のツールを使用して、問題をすばやく低コストで解決できます。
- Web 向けの設計。ユーザーは、標準の Web ブラウザを使用して、任意の場所から財務のグローバル情報に簡単かつ安全にアクセスできます。リレーショナル・データ・ストレージによって、ミッション・クリティカルなデータをユーザーは 1 年 365 日いつでも使用できます。

EPM Workspace

Oracle Hyperion Financial Management は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で使用できます。「ナビゲート」、「お気に入り」、「管理」または「ツール」の各メニューで使用できるプリファレンスや機能など、EPM Workspace

で実行できるタスクの詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』およびオンライン・ヘルプを参照してください。

Financial Management のディメンション

ディメンションは、組織のデータを表し、通常は関連するメンバーのグループを含みます。ディメンションの例には、勘定科目、エンティティおよび期間があります。Oracle Hyperion Financial Management には、システム定義のディメンションが 8 つ用意されており、勘定科目に適用できるカスタム・ディメンションを無制限に追加できます。

ディメンションを構成する要素はメンバーと呼ばれます。たとえば、GrossMargin および TotalRevenues は勘定科目ディメンションのメンバーです。

ディメンション・メンバーは階層に配置されます。上位レベルのメンバーは親メンバーと呼ばれ、親メンバーの直下のメンバーは子と呼ばれます。親の下にいるすべてのメンバーは子孫と呼ばれます。最下位レベルの階層の階層メンバーは基本レベルのメンバーと呼ばれます。

一部のデータ・ディメンションでは階層を定義できません。たとえば、年ディメンションでは階層をサポートしていません。

データはディメンションの基本レベルのメンバーに入力され、親メンバーには入力されません。親レベルのメンバーの値は、親レベルのメンバーの子から集計されます。基本レベルのメンバーのデータが計算される場合もあります。

次の項では、システム定義のディメンションについて説明します。

シナリオ・ディメンション

シナリオ・ディメンションは、実績、予算、予測などの一連のデータを表します。たとえば、実績シナリオは、過去と現在の企業経営を表す総勘定元帳のデータを含むことができます。予算シナリオは、対象とする企業経営を表すデータを含むことができます。予測シナリオは一般に、将来の期間の予測に対応するデータを含みます。リーガル・シナリオは、リーガル GAAP のフォーマットとルールに従って計算されたデータを含むことができます。

1 つのアプリケーションに対して任意の数のシナリオを定義し、デフォルト期間単位、デフォルトのビュー、ゼロ・データの設定など、シナリオ・ディメンションのメンバーの属性を定義できます。

年ディメンション

年ディメンションは、データの会計年度またはカレンダー年を表します。アプリケーションは、2 年以上のデータを含むことができます。アプリケーションを作成して、年ディメンションからデータを処理する年を選択する場合は、年の範囲を指定します。

期間ディメンション

期間ディメンションは、四半期や月などの期間を表します。期間を階層で表示すると、期間と期間単位が含まれます。たとえば、実績シナリオでデータを毎月管理する場合は、通常、このシナリオで 1 年に 12 個のデータ期間を使用できます。Financial Management は、期間ディメンションに対して年、月および週をサポートします。

エンティティ・ディメンション

エンティティ・ディメンションは、管理構造および法的な報告構造などの会社の組織構造を表します。エンティティは、部門、子会社、工場、地域、国、法的部門、事業部門、部署、その他の組織単位などを表すことができます。任意の数のエンティティを定義できます。

エンティティ・ディメンションは、システムの連結ディメンションです。エンティティ・ディメンションの階層は、データの様々な連結ビューを示します。様々な階層は、地理的な連結、法的な連結またはアクティビティごとの連結に対応できます。組織に存在する各メンバー・コンポーネント間のすべての関係は保管されてこのディメンシ

ョンで管理されます。ある組織のエンティティは従属エンティティ、基本エンティティまたは親エンティティに分類できます。依存エンティティは、組織内の他のエンティティによって所有されます。基本エンティティは、組織構造の下部に存在し、他のエンティティを所有しません。親エンティティは、1つ以上の依存エンティティを含み、直接報告を受けます。

デフォルト通貨やセキュリティ・クラスなどのエンティティ・ディメンションのメンバーの属性を定義し、エンティティで調整が可能かどうか、および内部取引の詳細を保管するかどうかを指定する属性を定義します。

値ディメンション

値ディメンションは、アプリケーションに保管された様々なタイプの値を表し、入力通貨、親通貨、調整および比例、消去、コントリビューションの詳細などの連結の詳細を含めます。たとえば、エンティティ通貨のメンバーはエンティティの値をその現地通貨に保管します。親通貨のメンバーは、親エンティティの通貨に換算されたエンティティの値を保管します。値ディメンションは、データに適用される取引の監査証跡を作成する際に便利です。

勘定科目ディメンション

勘定科目ディメンションは、通常の勘定科目の階層を表します。勘定科目は、エンティティとシナリオの財務データをアプリケーションに保管します。各勘定科目には、会計の動作を定義する収益、費用などのタイプがあります。

勘定科目タイプ、表示する小数点以下の桁数、勘定科目が計算済勘定科目か、連結済勘定科目か、内部取引パートナーの勘定科目かなど、勘定科目ディメンションのメンバーの属性を定義します。

内部取引ディメンション

内部取引ディメンションは、勘定科目に存在する内部取引のすべての残高を表します。これは、勘定科目ディメンションと任意のカスタム・ディメンションとの組合せに使用される予約ディメンションです。**Financial Management** は、すべての勘定科目とエンティティについて、内部取引の詳細を追跡および消去できます。また、内部取引照合レポートを実行して内部取引を表示できます。

ビュー・ディメンション

ビュー・ディメンションは、次のようなカレンダー・インテリジェンスの様々なモードを表します; 期別、年次累計、四半期累計などの期間単位。ビューを「期別」に設定すると、各月の値が表示されます。ビューを「年次累計」または「四半期累計」に設定すると、年次または四半期の累積値が表示されます。

カスタム・ディメンション

カスタム・ディメンションは、勘定科目に関連付けられたディメンションです。これらのディメンションを使用すると、製品、マーケット、チャネル、貸借対照表の動向または消去のタイプなど、勘定科目に関連付けられているその他の詳細を指定できます。たとえば、カスタム・ディメンションには、製品ライン、地域、チャネル、顧客などがあります。**Sales** および **COGS** 勘定科目に関連付けられている製品のカスタム・ディメンションでは、売上と費用の詳細を製品ごとに追跡できます。

ユーザー定義の要素

Oracle Hyperion Financial Management の多くの要素はユーザー定義です。たとえば、仕訳の作成時には、仕訳にラベルと説明を指定します。

次の表に、ユーザー定義の要素、各要素の最小長と最大長、およびその他の制限を示します。この表では、要素がモジュール別にグループ分けされています。

表 1-1 ユーザー定義の要素

要素	最小の長さ	最大の長さ	制限
アプリケーション・プロファイル			
言語	1	20	なし
期間のラベル	1	80	<ul style="list-style-type: none"> 特殊文字は使用できません。 空白、記号、ウムラウトなどの発音区別符号は使用できません。
ビューのラベル	1	10	<ul style="list-style-type: none"> 特殊文字は使用できません。 空白、記号、ウムラウトなどの発音区別符号は使用できません。
ビューの説明	0	40	アンパサンド(&)は使用できません。
期間の説明	0	40	アンパサンド(&)は使用できません。
アプリケーションの作成			
アプリケーションのラベル	1	10	<ul style="list-style-type: none"> 特殊文字は使用できません。 1文字目は数字にできません。 空白、記号、ウムラウトなどの発音区別符号、ドイツ語の大文字エスツェットなどの特殊文字は使用できません。
<hr/> <p>ノート: アプリケーション・ラベルでは、大文字と小文字は区別されません。たとえば、App1 と APP1 は同じアプリケーション・ラベルとみなされます。</p> <hr/>			
アプリケーションの説明	1	255	<ul style="list-style-type: none"> アンパサンド(&)は使用できません。 スペースは使用できません。

表 1-1 (続き) ユーザー定義の要素

要素	最小の長さ	最大の長さ	制限
メンバーのラベル	1	80	<p>一意にする必要があります。空白も含め、80 文字まで入力できますが、1 文字目は空白にできません。</p> <p>次の文字は使用できません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アンパサンド(&) • アスタリスク(*) • アット記号(@) • カンマ(,) • 中カッコ({}) • 二重引用符(") • スラッシュ(/) • マイナス記号(-) • シャープ記号(#) • ピリオド(.) • プラス記号(+) • セミコロン(;) <hr/> <p>ノート: エンティティ名を「ALL」にすることはできません。</p> <hr/>
メンバーの説明	0	40	<p>アンパサンド(&)は使用できません。</p> <hr/> <p>ノート: 説明モードで操作する場合は、メンバーの説明でピリオド(.)を使用しないでください。</p> <hr/>
別名のラベル	0	80	<p>アンパサンド(&)は使用できません。</p>
セキュリティ			

表 1-1 (続き) ユーザー定義の要素

要素	最小の長さ	最大の長さ	制限
セキュリティ・クラス	1	80	次の文字は使用できません: <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク(*) • アット記号(@) • カンマ(,) • 中カッコ({}) • 二重引用符(") • マイナス記号(-) • シャープ記号(#) • ビリオド(.) • プラス記号(+) • セミコロン(;) • スラッシュ(/)
仕訳			
仕訳のラベル	1	20	次の文字は使用できません: <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク(*) • アット記号(@) • カンマ(,) • 中カッコ({}) • 二重引用符(") • スラッシュ(/) • マイナス記号(-) • シャープ記号(#) • ビリオド(.) • プラス記号(+) • セミコロン(;)
仕訳の説明	0	255	なし
仕訳グループ	0	30	なし
仕訳のライン・アイテムの説明	0	50	なし
ロード/抽出			

表 1-1 (続き) ユーザー定義の要素

要素	最小の長さ	最大の長さ	制限
区切り文字	1	1	<p>次の文字のいずれかを使用する必要がありますが、ファイル内またはファイル名では使用できません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アンパサンド(&) • アット記号(@) • 円記号(バックスラッシュ) (\) • 脱字記号(^) • コロン(:) • カンマ(,) • ドル記号(\$) • 線() • パーセント記号(%) • 疑問符(?) • セミコロン(;) • チルダ(~) <hr/> <p>ノート: ファイル全体で同じ区切り文字を使用する必要があります。同じファイル内で異なる区切り文字を使用すると、ファイルのロード時にエラーが発生します。</p> <hr/>
データ・グリッド			
セルの説明	1	1900	なし
ライン・アイテムの詳細	1	80	なし
注釈	0	255	なし
小数点	1	1	<p>次の文字は、データ・グリッドでは小数点として使用できません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 円記号(バックスラッシュ) (\) • スラッシュ(/) • マイナス記号(-) • プラス記号(+)
ドキュメント			

表 1-1 (続き) ユーザー定義の要素

要素	最小の長さ	最大の長さ	制限
ドキュメント名 (フォルダおよびレポート 名を含む)	1	16	<p>次の文字は、ドキュメント名には使用できません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アスタリスク(*) • アット記号(@) • 円記号(バックスラッシュ) (\) • コロン(:) • カンマ(,) • 中カッコ({}) • 二重引用符(") • スラッシュ(/) • 大なり記号(>) • 小なり記号(<) • 線() • シャープ記号(#) • ドキュメント名の最後のピリオド(.) • プラス記号(+) • 疑問符(?) • セミコロン(;) <hr/> <p>ノート: ドキュメント名の末尾または先頭を空白文字にすることはできません。</p> <hr/>

Financial Management の基本手順

次も参照:

[Financial Management の開始](#)

[アプリケーションを開く](#)

[アプリケーションを閉じる](#)

[ユーザー・プリファレンスの設定](#)

[マルチバイト言語の日付/時刻フォーマットを使用可能にする](#)

[Financial Management の使用方法に関するヘルプ](#)

[Financial Management の終了](#)

[Financial Management の使用](#)

Financial Management の開始

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace 環境の Oracle Hyperion Financial Management を操作します。

EPM Workspace のインストールおよび構成の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System インストレーションおよび構成ガイド*を参照してください。

Financial Management を起動するには:

1. Web サーバーが開始され、Web アプリケーション・サーバーがサービス・パネルで実行中であることを確認します。
2. ブラウザで、EPM Workspace のログオン・ページの URL を入力します。

ノート:

デフォルトの EPM Workspace の URL は `http://host:port/workspace` で、`host` は BI+サーバーの名前、`port` は Oracle HTTP サーバーです。デフォルト・ポートは 19000 です。

3. システム・ユーザー名を入力します。
4. システム・パスワードを入力します。
5. 「ログオン」をクリックします。
6. EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「連結」の順に選択し、アプリケーションを選択します。

アプリケーションを開く

アプリケーションは、一定の分析要件またはレポート要件を満たすディメンションおよびディメンション・メンバーの集合です。たとえば、あるアプリケーションで税金のデータに関するレポートを作成し、別のアプリケーションでは販売の分析を行えます。

Oracle Hyperion Financial Management では、アプリケーション内のすべてのデータが処理されます。一度に複数のアプリケーションを開いて作業できます。

ノート:

アプリケーションにアクセスするには、アプリケーションのユーザーとして割り当てられる必要があります。

アプリケーションを開くには:

1. 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「連結」の順に選択します。
2. アプリケーションを選択します。

アプリケーションを閉じる

作業している現在のアプリケーションを閉じたり、複数のアプリケーションを開いている場合は同時にすべて閉じたりすることができます。

アプリケーションを閉じるには、次のいずれかの操作を行います:

- 「ファイル」、「閉じる」、「現在」の順に選択するか、「すべて」を選択します。
- アプリケーションを開いているタブの上部の「X」をクリックします。

ユーザー・プリファレンスの設定

アプリケーションのユーザーのプリファレンスを設定できます。

ユーザー・プリファレンスに加えた変更を有効にするには、一旦ログオフし、ログインしなおす必要があります。

次の手順を参照してください:

- [クラスタの指定](#)
- [説明のデフォルト言語の指定](#)
- [数値のフォーマットの指定](#)
- [ファイルの抽出オプションの指定](#)
- [ユーザー・プリファレンスの設定](#)

クラスタの指定

アプリケーションを起動アプリケーションとして指定できます。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の「全般プリファレンス」でアプリケーションを選択すると、EPM Workspace からログオフして再ログオンしたときに、

選択した Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションが自動的に開きます。

表示されるサーバー・クラスタは、ログオン時に使用されたクラスタに基づきます。別のクラスタを選択できます。

説明のデフォルト言語の指定

メタデータの説明に表示するデフォルトの言語を指定できます。選択できる言語は、アプリケーションの設定時に定義した言語に基づきます。

数値のフォーマットの指定

小数点や3桁ごとの区切り文字に関する数値のフォーマットを指定できます。区切り文字には、アラビア数字(0 から 9 など)、アンパサンド(&)、円記号(バックスラッシュ) (\)、小なり記号(<)、疑問符(?)以外の文字を使用できます。

ファイルの抽出オプションの指定

抽出されたすべてのファイルを Unicode フォーマットで保存するかどうかを指定できます。テキストをエンコードする Unicode フォーマットでは、多言語の文字を表示できます。このオプションを選択すると、レポート、メタデータ・ファイル、メンバー・リスト・ファイル、仕訳、ルール、セキュリティ・ファイルなどの抽出ファイルが、UTF-16 文字セットを使用して Unicode フォーマットで保存されます。

ノート:

データ・ファイルは、この設定に関係なく、常に Unicode フォーマットで抽出されます。

抽出ファイルに日本語などのマルチバイト文字が含まれており、Web サーバーのコード・ページでそれらの文字をサポートしていない場合は、Unicode ファイルのオプションを選択します。たとえば、Web サーバーのデフォルトのコード・ページが英語で、日本語の文字を含むファイルを抽出した場合、日本語の文字が正しく表示されるのは、このオプションを選択した場合のみです。

ドキュメント・マネージャをデフォルトのページとして使用

アプリケーションを開いたとき、ドキュメント・マネージャをデフォルトのページとして設定できます。このオプションを選択した場合、「ドキュメント・マネージャ」ページでアプリケーションが開き、ここで、ドキュメントを表示、作成、編集、削除、ロードおよび抽出できます。

ユーザー・プリファレンスの設定

Oracle Hyperion Financial Management を使用する際には、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace を使用してユーザー・プリファレンスを設定します。

ユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. ワークスペースで、「ファイル」、「プリファレンス」、「連結」の順に選択します。
2. アプリケーションのリストからアプリケーションを選択します。

ノート:

現在の設定が表示されます。ログオン時に使用した Web サーバーとクラスタに基づいて、アプリケーションとクラスタのリストが自動的に入力されます。

3. **オプション:** サーバー・クラスタを変更するには、ドロップダウン・リストからクラスタを選択します。
 4. 「**説明のデフォルト言語**」で、説明に使用する言語を選択します。
-
-

ノート:

言語は、アルファベット順にソートされています。

5. 「**小数点記号**」に、小数点に使用する 1 文字を入力します。
6. 「**3 桁ごとの区切り文字**」に、3 桁ごとの区切りに使用する 1 文字を入力します。
7. **オプション:** 「**すべてのファイルを Unicode フォーマットで保存します。**」を選択します。
8. **オプション:** ドキュメント・マネージャを使用してアプリケーションが開くよう設定するには、「**ドキュメント・マネージャをデフォルトのページとして使用します。**」を選択します。
9. プリファレンスを保存するには、「**保存**」をクリックします。

プリファレンスは、現在のアプリケーションのデータベースに保存されます。

ヒント:

設定をデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」をクリックします。

10. 「**OK**」をクリックします。
11. 変更を反映させるには、一旦ログオフしてから、ログオンしなおします。

マルチバイト言語の日付/時刻フォーマットを使用可能にする

Oracle Hyperion Financial Management の日付と時刻のフォーマットは、地域の設定ではなく、ブラウザの言語設定に基づきます。

マルチバイトまたは右から左方向に書く言語を使用する場合、それらの言語のシステム・ファイルをインストールする必要があります。それらがインストールされていない場合、アプリケーションを開いたときに、「指定された LCID は使用できません」というエラー・メッセージが表示されることがあります。

ノート:

ブラウザ・マシンと Web サーバーが異なる場合、システム言語ファイルはそれらの両方にインストールする必要があります。

システム・ファイルがインストールされているかどうかを確認するには:

1. 「**コントロールパネル**」で「**地域と言語のオプション**」を選択し、「**言語**」タブを選択します。

2. 「補足言語サポート」セクションで、次のオプションが選択されていることを確認します:
 - 複合文字や右から左方向に書く言語 (タイ語を含む) のファイルをインストールする
 - 東アジア言語 (マルチバイト) のファイルをインストールする
3. 必要なタイプが選択されていない場合は、選択して、「適用」をクリックします。システム・ファイルがインストールされます。マシンを再起動する必要があります。

Financial Management の使用方法に関するヘルプ

ヘルプにアクセスするには、Oracle Hyperion Financial Management の Web ページの上部にある「ヘルプ」をクリックします。

Financial Management の終了

どのモジュールからも Oracle Hyperion Financial Management を終了できます。

Financial Management の Web ページからログオフするには、「ファイル」、「ログオフ」を選択するか、トップ・メニューで「ログオフ」、「はい」をクリックして、ログオフすることを確認します。「ログオン」ダイアログ・ボックスに戻るの、必要であればもう一度ログオンできます。

Financial Management の使用

ブラウザ・ビューでは、タスクやドキュメントへの移動、および頻繁に使用するタスクやドキュメント用のタスク・リストのカスタマイズ設定が可能です。

Web のポップアップ・ブロックの例外に Oracle Hyperion Financial Management 追加することをお勧めします。データのロードなどのいくつかのタスクを実行すると、ステータス・ウィンドウにタスクのステータスが表示されます。コンピュータでポップアップ・ブロックを使用可能にしている場合、このステータス・ウィンドウは表示されません。

視点バー・オプションの設定

視点(POV)は、ユーザーが定義するディメンション・メンバーのセットで、アプリケーションにアクセスしたデータを判別します。「視点」バーからディメンション・メンバーを選択して、データ・グリッド、データ・フォーム、仕訳、プロセス・コントロール・タスクおよび出資比率の管理タスクの行と列にデータを表示します。

Oracle Hyperion Financial Management では、視点の初期設定が提供されています。ディメンションの選択を変更すると、視点がその変更内容で更新されます。各ディメンションの POV で選択された最新のメンバーはユーザーにより保存され、そのユーザーのデフォルト値として使用されます。これはユーザー視点と呼ばれ、アプリケーションのセッション全体で使用できます。アプリケーションを終了すると、視点は保存され、次にアプリケーションを開いたときに使用できます。

「POV」バーで、ディメンションを表示するためのオプションを設定します。ディメンションのロング名(シナリオや年など)またはディメンションのショート名(シナリオには S、年には Y など)を表示することができ、ディメンション名を表示しないよう選択することもできます。ラベル、説明およびアイコンを表示し、POV を折り返すことができます。

あるモジュールで「POV」バーのこれらのオプションを選択すると、それらは他のモジュールに保存および適用されます。たとえば、データ・グリッドでディメンション

のロング名を表示するよう選択した場合、仕訳を開いたとき、POV はディメンションのロング名を表示します。アプリケーションを閉じて再度開いた場合、設定は維持されます。

ディメンションの表示、非表示または並替えができます。「非表示ディメンションの表示」、「ディメンションの表示/非表示」、「POV 詳細」および「ディメンションの並べ替え」設定は、他のモジュールに自動的に適用されません。

POV バーのオプションを設定するには:

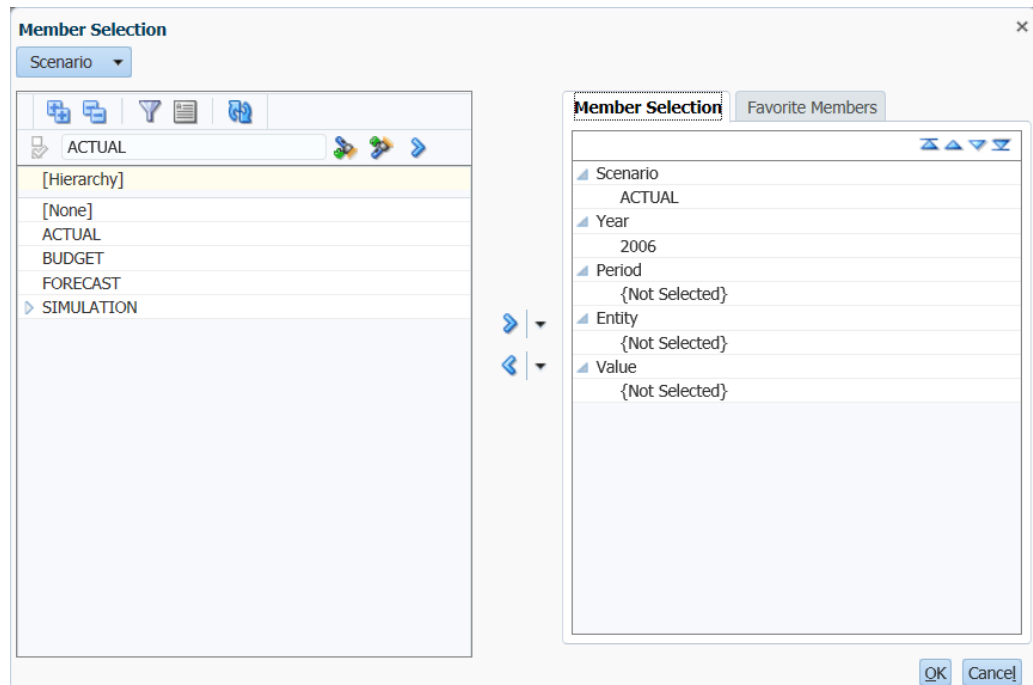
1. アプリケーションを開きます。
2. POV バーで、バーの右側にある「POV オプション」アイコンをクリックし、次のオプションを選択します:
 - ディメンションのロング名の表示
 - ディメンションのショート名の表示
 - ディメンション名を表示しない
 - ラベルの表示
 - 説明の表示
 - ディメンション・アイコンの表示
 - POV の折返し
 - 非表示ディメンションの表示
 - ディメンションの表示/非表示: 非表示にするディメンションを選択し、「OK」をクリックします。
 - POV 詳細: ディメンション・メンバーの名前および説明を表示し、「OK」をクリックします。
 - ディメンションの並べ替え: ディメンションを選択し、上下の矢印を使用してディメンションの順序を変更し、「OK」をクリックします。

視点のメンバーの選択

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスにはディメンションのメンバーの階層が表示され、ディメンションから1つ以上のメンバーを選択できます。視点(POV)に割り当てられたディメンションで選択されたメンバーによって、データ・グリッド、データ・フォーム、仕訳、プロセス・コントロール・タスクおよび出資比率の管理タスクの行と列におけるデータのコンテキストが決まります。たとえば、データ・グリッドの POV でシナリオ・ディメンションが予算に設定されている場合、そのデータ・グリッドのすべての行と列には、予算シナリオのデータが表示されます。POV は常に各 POV ディメンションに対して1つのメンバーに設定されます。

POV には、ディメンションの追加メンバーがあることを示すフォルダを含めることができます。このフォルダを展開すると、階層の追加メンバーを表示できます。「階層」メンバー・リストには、ディメンションのすべてのメンバーが含まれています。

メンバーのプロパティを表示するには、メンバーを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



視点のメンバーを選択するには:

1. アプリケーションを開き、視点バーからディメンションをクリックします。
2. 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで、左側のディメンション・リストからメンバーを選択します。1つ以上の親メンバーの展開が必要になる場合があります。
3. 「右へシャトル」矢印をクリックして、メンバーを右側の選択したメンバー・リストに移動します。

ヒント:

ディメンション・リストのメンバーをダブルクリックして、メンバーを選択したメンバー・リストに移動できます。ディメンションに対して複数のメンバー選択が許可されている場合、[Ctrl]+左クリックを使用して、一度に複数のメンバーを選択できます。

4. オプション: ディメンションのラベルのみでなく、説明も表示するには、「説明の表示」をクリックします。
5. オプション: アクティブなエンティティのみ表示するには、「アクティブのみ」をクリックします。

ノート:

このオプションは、アプリケーションで期間別組織が使用可能に設定されている場合のみ表示されます。

6. オプション: リストをフィルタ処理するには、「フィルタ」下矢印をクリックし、TopMember を選択します。

ヒント:

リストをリセットしてすべてのメンバーを表示するには、「リセット」をクリックします。

7. **オプション:** 選択したメンバーを選択したメンバー・リストの中で上下に動かすには、メンバーをハイライトして、上下の矢印をクリックします。

ヒント:

選択したメンバー・リストからメンバーを削除するには、1つ以上のメンバーを選択して左へシャトル矢印をクリックするか、下矢印および「すべて削除」を選択します。

8. 「OK」をクリックし、選択した内容を保存します。

複数メンバーの選択

データの管理、データベースへのデータの抽出などのモジュールでは、複数のディメンションのメンバーを選択したり、メンバー・リストを使用してメンバー選択を定義したりできます。

メンバー・リストには、ディメンションに属する関連メンバーのサブセットが表示されます。これにより、メンバーの階層を参照するのにかかる時間を短縮できます。たとえば、エンティティ・ディメンションの POV で Italy、France および UK が頻繁に使用される場合、European Region という名前のメンバー・リストを作成し、エンティティ・ディメンションの階層全体から参照するかわりに、リストから European メンバーを選択できます。

Oracle Hyperion Financial Management には、[Descendants]および[Children]など、システム定義のメンバー・リストがあります。システム定義メンバー・リスト名は大カッコ([])で囲まれています。

特定のモジュールで、ディメンションに複数のメンバーを選択した場合、視点バーでディメンションにカーソルを置くと、カッコ内に選択したメンバーの数が表示されます。これは、データの管理、仕訳の抽出、データベースへのデータの抽出に使用できます。たとえば、5つのエンティティを選択した場合、視点でエンティティ・ディメンションの上にカーソルを置くと、ツールチップに選択したメンバーとその数(5)が表示されます。ツールチップには最大 20 のメンバーが表示され、20 を超えるメンバーが存在する場合は、後に省略記号(...)が付きます。

メンバー・リストから複数のメンバーを選択するには:

1. 視点バーで、ディメンションをクリックします。
2. **オプション:** ディメンション・メンバーを展開または縮小するには、「セクタ・オプション」下矢印から、「すべて展開」または「すべて縮小」を選択します。
3. 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスから、次のいずれかの方法を使用します:
 - メンバーを選択し、「右へシャトル」矢印をクリックして、メンバーを選択したメンバー・リストに移動します。
 - 下矢印をクリックし、選択したメンバー・リストに移動するリストを選択します。

ヒント:

選択したメンバー・リストからメンバーを削除するには、1つ以上のメンバーを選択して左へシャトル矢印をクリックするか、下矢印および「すべて削除」を選択します。

4. **オプション:** デイメンションのラベルのみでなく、説明も表示するには、「**説明の表示**」をクリックします。
5. **オプション:** アクティブなエンティティのみ表示するには、「**アクティブのみ**」をクリックします。

ノート:

このオプションは、アプリケーションで期間別組織が使用可能に設定されている場合のみ表示されます。

6. **オプション:** リストをフィルタ処理するには、「**フィルタ**」下矢印をクリックし、TopMember を選択します。

ヒント:

リストをリセットしてすべてのメンバーを表示するには、「**リセット**」をクリックします。

7. **オプション:** 選択したメンバーを選択したメンバー・リストの中で上下に動かすには、メンバーをハイライトして、上下の矢印をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックし、選択した内容を保存します。

デイメンション・メンバーの検索

「視点」ダイアログ・ボックスを使用して、大規模なデイメンションでメンバーをすばやく見つけることができます。また、このダイアログ・ボックスには、検索機能だけでなく、デイメンション階層の場所を表示する機能もあります。

メンバー名の前、後、または途中で、*con、con*または*con*などのワイルドカードを使用できます。たとえば、Massachusetts エンティティを検索するには、「ma*」と入力します。検索では、「ma」で始まる名前を持つ最初のメンバーがデフォルトで表示されます。[Enter]キーを押すと、この検索条件を満たす次のメンバーにカーソルが移動します。

「**メンバーの選択**」からデイメンション・メンバーを検索するには:

1. 視点バーで、デイメンションをクリックします。
2. **オプション:** 「**メンバー選択**」ダイアログ・ボックスから、検索基準の「**テキストのフィルタ選択の使用可能/使用不可**」をクリックします。
3. テキスト・ボックスに、検索するメンバー名を入力します。検索はメンバー・ラベルにのみ適用され、説明には適用されません。

ヒント:

ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用します(例: Sales*)。

4. 「**下へ検索**」をクリックします。一致するメンバーが見つかった場合、それがハイライトされます。一致するメンバーがさらにある場合、「**下へ検索**」をクリックして次の結果を表示します。

ヒント:

「**上へ検索**」および「**下へ検索**」を使用して、検索結果間を移動します。

5. メンバーを検索および選択したら、「**右へシャトル**」矢印をクリックして、メンバーを選択したメンバー・リストに移動します。

6. 「OK」をクリックします。

「メンバーの追加」テキスト・ボックスからディメンション・メンバーを検索するには:

1. 「視点」バーから、ディメンションを[Ctrl]+左クリックして、「メンバーの追加」テキスト・ボックスを表示します。
2. テキスト・ボックスにメンバー名を入力します。

ノート:

説明ではなく、メンバー・ラベルを入力する必要があります。

3. メンバーを検索するには、テキスト・ボックスの横にある緑の矢印ボタンをクリックします。

選択したメンバーの検索

「メンバー選択」ダイアログから、左側のツリー・パネルのディメンション・メンバーの場所を検索できます。

選択したメンバーを検索するには:

1. 視点バーで、ディメンションをクリックします。
2. 右側のツリー・パネルで選択したメンバーをダブルクリックします。
左側のツリー・パネルに、同じメンバーが検索およびハイライトされます。

ノート:

右側の「メンバー選択」リストで使用可能なディメンションを選択した場合のみ、このアクションが機能します。

お気に入りメンバーの保存

メンバーを選択する場合、「お気に入りメンバー」タブを使用して、現在視点に表示されている各ディメンションの頻繁に使用するメンバーを保存できます。お気に入りメンバーを保存すると、アプリケーションの他のモジュールから選択できます。お気に入りメンバーのリストは、次のアプリケーションのログイン時にも保持されます。

「お気に入りメンバー」タブは、年などの単一のメンバー選択を使用するディメンションの視点でのみ使用可能です。

お気に入りメンバーを保存するには:

1. 視点バーで、ディメンションをクリックします。
2. オプション: ディメンション・メンバーを展開または縮小するには、「セレクト・オプション」下矢印から、「すべて展開」または「すべて縮小」を選択します。
3. 「メンバー選択」ページから、「お気に入りメンバー」タブをクリックします。
4. お気に入りとして保存する1つ以上のメンバーを選択します。
5. 「右へシャトル」矢印をクリックして、選択したメンバーを「お気に入りメンバー」タブに移動して、「OK」をクリックします。

ヒント:

選択したメンバー・リストからメンバーを削除するには、1つ以上のメンバーを選択して左へシャトル矢印をクリックするか、下矢印および「すべて削除」を選択します。

お気に入りメンバーの選択

一部のページでは、「お気に入りメンバー」ドロップダウン・リストからメンバーを迅速に選択できます。この機能は、「お気に入りメンバー」リストにディメンション・メンバーを保存した場合にのみ使用可能です。

メンバーを選択するには:

1. 「視点」バーから、メンバー名の横にある下矢印をクリックします。
2. ドロップダウン・リストから目的のメンバーを選択します。

データ・フォームでのメンバーの選択

Web フォームでは、選択可能なディメンションのメンバーを迅速に選択できます。お気に入りメンバーは、リストの上部に表示されます。制約条件に一致するメンバーは、次に表示されます。

データ・フォームでメンバーを選択するには:

1. 「視点」バーから、メンバー名の横にある下矢印をクリックします。
2. ドロップダウン・リストから目的のメンバーを選択します。

メンバー・プロパティの表示

メンバー・セレクトタから、シナリオ、エンティティ、勘定科目、ICP またはカスタム・ディメンションのディメンション・メンバー・プロパティを表示できます。データ・フォーム、データ・グリッド、仕訳または「プロセス管理」ページで、メンバー・プロパティを表示することもできます。「メンバーのプロパティ」を選択すると、メンバー名、説明、デフォルトの親およびメンバー・プロパティが表示されます。たとえば、シナリオ・ディメンションの場合、名前、親メンバー、および、デフォルト期間単位、デフォルト・ビュー、セキュリティ・クラスなどのメタデータ・プロパティが表示されます。

「メンバーのプロパティ」は、年、期間、ビューまたは値のディメンション・メンバーには使用できません。

ディメンション・メンバーが有効なメンバーではない場合、そのプロパティは表示されません。データ・フォームおよびデータ・グリッドで複数のメンバーを選択すると、最初に選択したメンバーのプロパティが表示されます。仕訳では、メンバー・フィールドが空の場合、メンバー・プロパティは表示されません。

メタデータ・プロパティの設定の詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

メンバー・プロパティを表示するには、次のいずれかの方法を使用します:

- メンバー・セレクトタから、左側のペインでメンバーを右クリックし、「メンバーのプロパティ」を選択します。
- メンバー・セレクトタから、「選択したメンバー」タブでメンバーを右クリックし、「メンバーのプロパティ」を選択します。
- メンバー・セレクトタから、「お気に入りメンバー」タブでメンバーを右クリックし、「メンバーのプロパティ」を選択します。

- データ・フォーム、データ・グリッド、仕訳または「プロセス管理」ページから、メンバーを右クリックし、「メンバーのプロパティ」を選択します。

アクティブなエンティティの表示

アプリケーションで「期間別組織」設定をサポートするよう設定されている場合は、親の下にアクティブな子のリストを表示できます。「期間別組織」設定を使用すると、過去の組織構造を保持し、これをアプリケーション内で現在の組織と共存させることができます。このような組織の変更は、買収、売却、合併または更正を行う場合に発生します。

期間別組織は、期間別組織の設定とアクティブなシステム勘定科目を使用して決定します。アクティブな勘定科目の値は、エンティティを連結に含めるかどうかを制御します。

アクティブなエンティティのみを表示するオプションは、視点でシナリオ、年または期間を選択したときのみ表示されます。

アクティブ勘定科目を表示、変更するには、データ・グリッドを使用します。視点では、勘定科目に「アクティブ」、内部取引パートナー・ディメンション・リストに「システム」を選択します。

アクティブなエンティティを表示するには:

1. 視点バーで、ディメンションをクリックします。
2. 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスから、メンバー・リストを選択します。
3. 「アクティブのみ」を選択します。

ノート:

このオプションは、アプリケーションで期間別組織が使用可能に設定されている場合のみ表示されます。

4. 「OK」をクリックします。

列の表示

「Oracle Hyperion Financial Management」ページにどの列を表示するかを指定できます。列を展開、縮小、および順序変更できます。

列の選択

ページに表示する列の指定や、使用可能なすべての列の表示が可能です。たとえば、「仕訳の管理」ページでは、次の任意またはすべての列の表示を選択できます: 「ラベル」、「説明」、「短縮説明」、「ステータス」、「グループ」、「タイプ」、「残高の種類」、「作成者」、「作成日」、「承認者」、「承認日」、「転記者」、「転記日」、「エンティティ」、「親」、「セキュリティ」。

列を選択するには:

1. ページ上部のメニューから、「表示」、「列」の順に選択します。
2. 表示する列を選択するか、すべての列を表示する場合は、「すべて表示」をクリックします。

列の並替え

ページの列を並べ替えることができます。

列を並べ替えるには:

1. ページ上部のメニューから、「表示」、「列の順序変更」の順に選択します。
2. 「表示列」リストから、1つ以上の列を選択し、上矢印と下矢印を使用して上または下に表示順を移動します。
3. 「OK」をクリックします。

タブの並替え

開いているアプリケーションのタブを並べ替えることができます。たとえば、「ドキュメント」、「仕訳のロード」および「仕訳の抽出」タブが開いている場合、これらの順序を変更できます。

タブを並べ替えるには、次のいずれかの方法を使用します:

- 目的の順序にタブをドラッグ・アンド・ドロップします。
- タブ名を右クリックして「タブの並替え」をクリックし、上矢印と下矢印を使用してタブを並べ替え、「OK」をクリックします。

タブを閉じる

モジュール間を移動している場合、右クリック・オプションを使用して複数のタブを簡単に閉じることができます。

タブを閉じるには、次のいずれかの方法を使用します。

- 現在のタブを閉じるには、タブ名を右クリックして「閉じる」をクリックします。
- 現在のタブ以外のタブをすべて閉じるには、現在のタブ名を右クリックして「他を閉じる」を選択します。

ノート:


保存されていない変更が複数のタブにある場合、それらの変更が保存されるまで、「他を閉じる」オプションは使用できません。保存されていない変更がいずれか1つのタブにある場合、その変更を保存するように警告メッセージが表示されます。

フィルタの使用

フィルタを使用して、セキュリティ・アクセス権のあるタスクやドキュメントのサブセットを定義および表示できます。たとえば、「仕訳の管理」ページでは、仕訳のリストをエンティティ、グループ、ラベル、説明、仕訳の種類、残高の種類、またはステータスでフィルタ処理できます。


フィルタ条件を表示または非表示にするため、「フィルタ」ペインを展開、縮小またはサイズ変更できます。

データをフィルタ処理するには:

1. 「フィルタ」ペインから、カテゴリの横にある「フィルタ」ボタン()をクリックします。
2. 使用できるアイテムのリストから、表示するアイテムを選択します。

3. 「OK」をクリックして、フィルタ条件でリストをリフレッシュします。

ヒント:

フィルタ条件を削除してすべてのアイテムを表示するには、「フィルタのリセット」ボタンをクリックします。 .

ドキュメントの管理

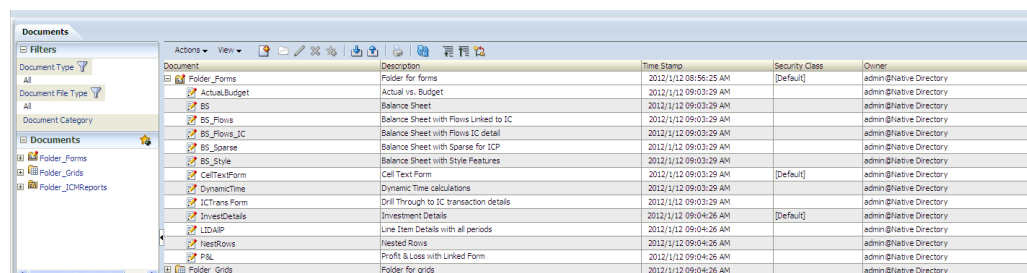
ドキュメント・マネージャは、アプリケーション内のドキュメントを管理できる中央の場所を提供します。ドキュメント・マネージャから、タスク・リスト、データ・グリッド、データ・フォーム、システム・レポート、リンク、関連コンテンツおよびカスタム・ドキュメントを処理できます。

ドキュメント・マネージャから、次のドキュメント・タスクを実行できます:

- 作成
- 開く
- 編集
- ロード
- 抽出
- お気に入りに追加
- 印刷
- 削除
- ドキュメント・リストの表示
- フォルダの作成

他のユーザーと共有可能なパブリック・ドキュメント、または作成したユーザーのドキュメント・リストにのみ表示されるプライベート・ドキュメントを作成できます。

カスタム・ドキュメント、関連コンテンツ、アプリケーションへのリンクなどの外部ドキュメントを統合できます。



Document	Description	Time Stamp	Security Class	Owner
Folder_Forms	Folder for forms	2012/1/12 08:56:25 AM	[Default]	admin@Native Directory
Actual_Budget	Actual vs. Budget	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
BS	Balance Sheet	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
BS_Flows	Balance Sheet with Flows Linked to IC	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
BS_Flows_IC	Balance Sheet with Flows IC detail	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
BS_Sparse	Balance Sheet with Sparse for ICP	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
BS_Style	Balance Sheet with Style Features	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
CallTextForm	Call Text Form	2012/1/12 09:03:29 AM	[Default]	admin@Native Directory
DynamicTime	Dynamic Time calculations	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
ICTrans Form	Drill Through to IC transaction details	2012/1/12 09:03:29 AM		admin@Native Directory
InvestDetails	Investment Details	2012/1/12 09:04:26 AM	[Default]	admin@Native Directory
LDAIP	Line Item Details with all periods	2012/1/12 09:04:26 AM		admin@Native Directory
NestRows	Nested Rows	2012/1/12 09:04:26 AM		admin@Native Directory
P&L	Profit & Loss with Linked Form	2012/1/12 09:04:26 AM		admin@Native Directory
Folder_Grids	Folder for grids	2012/1/12 09:04:26 AM		admin@Native Directory

ドキュメント・リストは、「ドキュメント・タイプ」、「ドキュメント・ファイル・タイプ」、「ドキュメント・カテゴリ」などの条件を使用してフィルタ処理できます。ドキュメント・カテゴリは管理のセキュリティ権限を持つユーザーにのみ使用可能になります。「他のユーザーの個人用ドキュメントの表示」オプションが選択されていると、管理者は、「ドキュメントの管理」ページで他のユーザーのドキュメントを表示することができますが、「フィルタ」ペインではできません。

左側の「ドキュメント」ペインを展開、縮小またはサイズ変更して、ドキュメントのリストを表示できます。

ドキュメント・マネージャにアクセスするには:

1. 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「連結」の順に選択します。
2. アプリケーションを開きます。ドキュメント・マネージャがデフォルトで表示されない場合は、「連結」、「ドキュメント」の順に選択します。

ドキュメントを開く

いくつかの方法を使用して、1つまたは複数のドキュメントを開くことができます。

「ドキュメントの管理」ページから、方法を選択します:

- 「ドキュメントの管理」リストからドキュメントを選択して、「**選択したドキュメントを開く**」をクリックします。
- 「ドキュメントの管理」リストからドキュメントを選択して、「**アクション**」、「**開く**」の順に選択します。
- 「ドキュメントの管理」リストから、ドキュメント名をダブルクリックして開きます。
- 左側の「ドキュメント」ペインから、ドキュメント名をダブルクリックして開きます。
- 左側の「ドキュメント」ペインから、ドキュメントを選択し、右クリックして「**開く**」を選択します。

ドキュメントの保存

ドキュメントを保存する場合、デフォルトではルート・フォルダが使用されます。ドキュメントを保存する場所を変更して、個人用ドキュメントにするかどうかを指定できます。個人用ドキュメントは、それらを作成したユーザーの「ドキュメント」リストにのみ表示されます。

ドキュメントを保存するには:

1. 「ドキュメントの管理」ページから、ドキュメントを作成または編集します。
2. 「**保存**」をクリックするか、「**アクション**」、「**保存**」の順に選択します。
3. 宛先フォルダを変更するには、ファイルの場所を入力します。
4. 「**名前**」に、ドキュメント名を入力します。
名前には、空白を含め、最大 20 文字まで入力できます。
5. **オプション**: ドキュメントのセキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
6. **オプション**: 説明を入力します。
説明には、空白を含め、最大 255 文字まで入力できます。
7. **オプション**: ドキュメントをプライベートにする場合は、「**個人用**」を選択します。
8. **オプション**: ファイルを上書きするには、「**既存のドキュメントを上書き**」を選択します。

9. 「保存」をクリックします。

ドキュメント・フォルダの作成

フォルダ階層を作成して、ドキュメントを整理できます。Root フォルダはデフォルトで使用できますが、削除できません。作成するフォルダは、すべて Root フォルダの下に作成されます。

フォルダ名には次の文字を使用できません: アスタリスク(*)、アット記号(@)、円記号(バックスラッシュ)またはスラッシュ(/)、コロン(:)、カンマ(,), 中カッコ((), 二重引用符(")、大なり記号または小なり記号(>), シャープ(#)、ピリオド(.), パイプ(|), プラス記号(+), 疑問符(?), またはセミコロン(;). フォルダ名の末尾または先頭は空白にできません。

ノート:

フォルダを作成するには、「上級ユーザー」のセキュリティ役割が必要です。

ドキュメント・フォルダを作成するには:

1. ドキュメント・マネージャから、「新規」、「フォルダ」の順に選択するか、「アクション」、「新規」、「フォルダ」の順に選択します。
2. フォルダ名を入力します。
名前には、空白を含め、20 文字まで入力できます。
3. オプション: フォルダの説明を入力します。
説明には、空白を含め、80 文字まで入力できます。
4. 「セキュリティ・クラス」で、フォルダに割り当てるセキュリティ・クラスを選択します。
5. 「コンテンツ・タイプ」で、フォルダのドキュメント・タイプを選択します。

ヒント:

フォルダをすべてのドキュメント用にする場合は、「すべて」を選択します。

6. オプション: フォルダをプライベートにする場合は、「個人用」を選択します。

ノート:

プライベート・フォルダは、他のユーザーが表示したり共有したりできません。このオプションは、少なくとも1つのセキュリティ・クラスに対して「すべて」のアクセス権を持っている場合にのみ使用できます。

7. 「作成」をクリックします。

ドキュメント・フォルダの表示

ドキュメント・フォルダを表示および展開または縮小できます。

ドキュメント・フォルダを表示するには:

1. 「連結」、「ドキュメント」の順に選択します。

2. ドキュメント・リストを展開または縮小するには、フォルダの横にあるプラス(+)またはマイナス(-)記号をクリックするか、右クリックして「下をすべて展開」、「縮小」または「下をすべて縮小」を選択します。

ドキュメントのロード

次のタイプのドキュメントをロードできます:

- データ・フォーム
- データ・グリッド
- タスク・リスト
- レポート
- リンク
- 関連コンテンツ
- カスタム・ドキュメント

「ドキュメントのロード」ページの「デフォルト」セクションで「パス」を選択すると、システムに存在する、ドキュメントをロードできるフォルダのリストが表示されます。参照して、ドキュメントをロードするフォルダを選択できます。

デフォルトのロード・オプションを変更すると、ファイルを選択しないかぎり、オプションがすべての行に対して更新されます。特定の行に対して「セキュリティ・クラスのオーバーライド」オプションを選択すると、デフォルトのセキュリティ・クラスを変更する場合にその行のセキュリティ・クラスは更新されません。デフォルト・ロード・セクションの現在のドキュメントのパスまたは個別の各行を変更できます。

ノート:

すでにロードされているドキュメントと同じ名前でも、ユーザーがアクセス権を持たないセキュリティ・アクセスのカスタム・ドキュメントは上書きモードでロードできません。

ロード・プロセスが完了すると、ログのリンクが表示されるため、エラーを表示できません。

ドキュメントをロードするには:

1. 「連結」、「ロード」、「ドキュメント」の順に選択するか、「ドキュメント・マネージャ」ツールバーから「ドキュメントのロード」をクリックします。
2. 「ドキュメント・タイプ」リストから、ロードするドキュメントのタイプを選択します。
3. 「セキュリティ・クラス」で、ドキュメントのセキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
4. オプション: ロードするファイルで指定されているセキュリティ・クラスを上書きするには、「セキュリティ・クラスのオーバーライド」を選択して、「セキュリティ・クラス」からセキュリティ・クラスを選択します。
5. オプション:: ドキュメントが個人用ドキュメントの場合は、「個人用」を選択します。
6. オプション: 「既存のドキュメントを上書き」を選択します。

7. **オプション:** Firefox をブラウザとして使用している場合は、複数のファイルをロードできます。まだ選択していない場合は「**複数の選択**」を選択し、「**参照**」をクリックしてファイルを検索します。

一度に最大 10 個のファイルを選択できます。次に、システムによって選択したファイルが詳細行に移入されます。

また、ファイルをファイル選択コンテンツ領域にドラッグ・アンド・ドロップできます。

8. さらに行を追加するには、「**追加**」をクリックします。

追加のドキュメントのロードに使用できる行が追加されます。

ヒント:

行を削除するには、行を選択して「**削除**」をクリックします。

9. 「**ロード**」をクリックします。

既存のファイルをリロードすると、それらのファイルを再度使用するかどうかを確認する警告プロンプトが表示されます。行う場合、「**はい**」をクリックします。

ヒント:

設定をデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」をクリックします。

ドキュメントまたは Web ページへのリンクの設定

Web ページへのリンクを作成し、タスク・リストおよび「お気に入り」セクションに追加できます。リンクを作成すると、それを Oracle Hyperion Financial Management アプリケーション内に表示するか、別のブラウザ・ウィンドウに表示するかを指定できます。

ページを開く前に要求されるオプションを指定できます。たとえば、開くのに時間がかかる Web ページへのリンクを開く場合に、このオプションを指定できます。

Web ページをリンクするには:

1. ドキュメント・マネージャから、「**新規**」、「**リンク**」の順にクリックするか、「**アクション**」、「**新規**」、「**リンク**」の順に選択します。
2. Web ページの URL を入力します。
3. 現在のウィンドウにページを表示するには、「**タスクリストで同じページ内にリンクを開く**」を選択します。

ノート:

このオプションを選択しないと、ページは別のブラウザ・ウィンドウで開きます。

4. **オプション:** 「**リンクを開く前にメッセージを表示する**」を選択すると、ページを開く前に確認のダイアログ・ボックスが表示されます。
5. **オプション:** シングル・サインオン情報をページに戻すには、「**シングル・サインオン情報をページ要求に含める**」を選択します。
6. リンクを保存するには、「**保存**」をクリックし、情報を入力して、「**保存**」をクリックします。

ドキュメント・リンクのコピー

データ・グリッドまたはデータ・フォームから Oracle Hyperion Financial Management ドキュメント・リンクをコピーし、それをブックマークとして使用できます。

ドキュメント・リンクをコピーするには:

1. データ・グリッドまたはデータ・フォームを開きます。
2. ツールバーから、「ドキュメント・リンクのコピー」をクリックします。
3. ダイアログからリンク・テキストをコピーし、それを使用して、ブラウザでブックマークを作成します。
4. このブックマークを使用して、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace を開き、ドキュメントを表示します。ドキュメントを開く前に、ログオンするよう求められます。

カスタム・ドキュメントの使用

データ・グリッド、データ・フォーム、およびプロセス・コントロールのセルには、1 つ以上のドキュメントを添付できます。タスク・リストに保管したあらゆるタイプのパブリック・ドキュメントを添付できます。たとえば、Microsoft Word ドキュメント、Excel スプレッドシートまたは XML ファイルを添付できます。まず、Financial Management データベースにドキュメントをアップロードする必要があります。ドキュメントはデータベースに格納され、セキュリティ・クラスを適用することができます。

カスタム・ドキュメントは、Oracle Hyperion Financial Management のドキュメントと同じようにロード、抽出、整理、表示および削除できます。

カスタム・ドキュメントをサーバーに添付またはサーバーから抽出するには、「カスタム・ドキュメントの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

アプリケーションを作成するときに、ユーザーごとにドキュメントの添付ファイルのサイズ制限や最大数を指定できます。この制限は、アプリケーションのメタデータの AppSettings 属性に指定します。

関連コンテンツへのアクセス

ワークスペースに含まれているコンテンツを Oracle Hyperion Financial Management のタスク・リスト内に直接含めることができます。Financial Management では、関連コンテンツ・ドキュメントを作成すると、別の製品のリソースへのリンクとして機能します。たとえば、Oracle Hyperion Financial Reporting のレポートを HTML または PDF ファイルで表示できます。アイテムをタスク・リストに追加することや、「関連コンテンツ」メニューから個別に起動することができます。コンテンツを表示するには、適切なセキュリティ権限が割り当てられている必要があります。

関連コンテンツを使用する前に、次の操作を行ってください。

- 関連コンテンツのリソース・サーバーにリンクを設定します。すべての関連コンテンツ・ドキュメント用の単一のリポジトリがあり、これには 1 つの URL からアクセスできます。
- 外部認証を構成します。外部認証を使用しないと、「ドキュメントの管理」ダイアログ・ボックスに「関連コンテンツ」タブが表示されません。

Oracle Enterprise Performance Management System インストラクションおよび構成ガイドを参照してください。

関連コンテンツにアクセスするには:

1. 外部認証の権限があることと、関連コンテンツ・リソース・サーバーにリンク設定されていることを、管理者に確認します。
2. 「ドキュメント」から、「新規」、「関連コンテンツ」の順に選択するか、または「アクション」、「新規」、「関連コンテンツ」の順に選択します。

ノート:

外部認証が使用可能になっていないと、「関連コンテンツ」タブが表示されません。

3. 「リソース・ドキュメント」にドキュメントの名前を入力するか、「参照」をクリックしてファイルを検索します。
4. 「開く形式」から、ドキュメントを開くフォーマットを選択します。
5. オプション: ドキュメントをプレビューするには、「プレビュー」をクリックします。
6. 「保存」をクリックし、ドキュメントを保存します。

タスク・リストの管理

データ・グリッド、データ・フォーム、レポートなど、頻繁に使用するドキュメントやタスクのタスク・リストを作成できます。タスク・リストを使用すると、様々なモジュール間を移動せずに、これらのアイテムに簡単にアクセスできます。たとえば、データ・フォームに会社間残高を入力し、その会社間残高をレポートで確認し、データ・グリッドで親エンティティを換算する必要があるとします。タスク・リストを作成することで、フォーム、グリッドおよびレポートの各モジュールを移動しなくても、ワークフローを完了できます。

次の手順を参照してください:

- [タスク・リストの作成](#)
- [タスク・リストの編集](#)
- [タスク・リストの削除](#)

タスク・リストの作成

個人用またはパブリックのタスク・リストを作成できます。パブリック・タスク・リストは、他のユーザーと共有できます。個人用タスク・リストは、他のユーザーには表示されず、作成したユーザーのみがアクセスできます。リストへのアクセスを制限するには、リストにセキュリティ・クラスを割り当てます。

次のアイテムをタスク・リストに追加できます: タスク、データ・フォーム、データ・グリッド、内部取引レポート、仕訳レポート、Web サイトまたはファイルへのリンク、関連コンテンツ、フォルダおよびカスタム・ドキュメント。タスク・リストには、タスクまたはドキュメントの複数のインスタンスを含めることができます。たとえば、タスク・リストに、ワークフローの入力グリッド、データのロード、入力グリッド、プロセス・コントロールのアイテムが含まれている場合があります。

タスク・リストを別のタスク・リストに追加することもできます。たとえば、仕訳アクションのタスク・リストを作成し、これを月次の終了タスクのタスク・リストに追加できます。タスク・リストを作成するときは、他のタスク・リストに追加できるかどうかを定義します。主なリストに添付されたタスク・リストは、別のタスク・リストに含めることはできません。

タスク・リストのドキュメントを管理するには、タスク・リストにドキュメント・フォルダを追加します。ユーザーは、フォルダを展開して、1つ以上のドキュメントを選択できます。たとえば、データ・フォームのフォルダを追加できます。サブフォルダのあるフォルダを追加して、タスク・リストに添付されたフォルダを変更し、これにサブフォルダを追加できます。タスク・リストには、無制限にフォルダを追加できます。

タスク・リストを作成するには:

1. ドキュメント・マネージャから、「新規」、「タスク・リスト」の順にクリックするか、「アクション」、「新規」、「タスク・リスト」の順に選択します。
2. 「追加」をクリックするか、「アクション」、「追加」の順に選択してアイテムを選択します:
 - フォルダ
 - タスク・リスト
 - カスタム・ドキュメント
 - データ・フォーム
 - データ・グリッド
 - リンク
 - 関連コンテンツ
 - レポート
 - タスク
3. 追加するアイテムを選択して、「選択」をクリックします。
4. オプション: タスク・リストのアイテムの順序を変更するには、移動するアイテムを選択し、タスク・リスト・アイテムを移動する矢印をクリックして、アイテムを上、下、最上位、または最下位に移動します。

ヒント:

タスク・リストからアイテムを削除するには、アイテムを選択して「削除」または「すべて削除」をクリックします。

5. 「保存」をクリックするか、「アクション」、「保存」の順に選択します。
6. 「名前」に、タスク・リストの名前を入力します。

ノート:

タスク・リスト名では次の文字を使用できません: コロン(:)、セミコロン(;)、小なり記号または大なり記号(< >)、一重引用符または二重引用符('、")。

7. 「セキュリティ・クラス」で、セキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
8. オプション: 「説明」で、説明を入力します。
9. オプション: このタスク・リストを他のユーザーに表示しない場合は、「個人用」を選択します。

10. **オプション:** タスク・リストを上書きするには、「**既存のドキュメントを上書き**」を選択します。

11. 「**保存**」をクリックします。

タスク・リストの編集

タスク・リストでアイテムを追加、順序変更および除去できます。

ノート:

タスク・リストからアイテムを除去すると、選択したタスク・リストからのみ除去されます。システムからは削除されません。

タスク・リストを編集するには:

1. ドキュメント・マネージャから、タスク・リストを開いて「**編集**」をクリックします。
2. アイテムを追加または除去するには:
 - a. アイテムを追加するには、「**追加**」をクリックして、アイテムを選択します。
 - b. アイテムを除去するには、アイテムを選択して「**削除**」または「**すべて削除**」をクリックします。
3. **オプション:** アイテムの順序を変更するには、移動するアイテムを選択し、タスク・リスト・アイテムを移動する矢印をクリックして、アイテムを上、下、最上位、または最下位に移動します。
4. アイテムの編集が終わったら、「**保存**」をクリックします。

タスク・リストの削除

不要になったタスク・リストは削除できます。

タスク・リストを削除するには:

1. ドキュメント・マネージャから、削除するタスク・リストを選択します。
2. 「**削除**」をクリックします。
3. 削除を確認するメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。

お気に入りの管理

よく使用するドキュメントをお気に入りのリストに追加できます。お気に入りの追加したドキュメント・リストは、「お気に入り」から表示してすばやくアクセスしたり、お気に入りのアイテムを除去したりできます。

追加のお気に入りを表示または非表示にするため、「お気に入り」ペインを展開、縮小またはサイズ変更できます。

お気に入りのリストに加えた変更は、アプリケーションからログアウトするときに保存されます。

次の手順を参照してください:

- [お気に入りの追加](#)

- お気に入りの削除

お気に入りの追加

データ・フォーム、データ・グリッド、レポートなど、よく使用するアイテムを「お気に入り」セクションに追加できます。

お気に入りに追加したドキュメントは、ブラウザ・ビューの「お気に入り」から直接表示してアクセスできるようになります。

お気に入りを追加するには:

1. 左側のペインの「ドキュメント」で、追加するアイテムを選択します。
2. 「お気に入りに追加」をクリックします。

新しく追加されたアイテムは、「お気に入り」ペインに自動的に表示されます。

お気に入りの削除

「お気に入り」リストから不要なアイテムを削除できます。

お気に入りのリストからアイテムを除去するには:

1. 「お気に入り」リストから、削除するアイテムを選択します。
2. 右クリックして、**お気に入りから削除**を選択します。

次も参照:

- [データ・ファイルの使用](#)
- [ロード方法](#)
- [データのロード](#)
- [送信グループのロード](#)
- [ドリル可能な領域定義のロード](#)
- [データの抽出](#)
- [データの管理](#)
- [データのコピー](#)
- [データのクリア](#)

データ・ファイルの使用

Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションにデータを追加するには 2 つの方法があります:

- データ・ファイルを作成して、アプリケーションにロードします。
- データ・グリッドにデータを入力します。

データ・グリッドにデータを入力するかわりに、データ・ファイルを作成およびロードできます。データ・ファイルは、マルチバイト文字セット(MBCS)対応の ASCII フォーマットか、Unicode にエンコードしたフォーマットで作成します。デフォルトでは、データ・ファイルに DAT ファイル拡張子が使用されます。データ・ファイルには、ファイル・データをディメンションにマップするセクションがあり、次のセクションを含めることができます:

- 列順序
- ビュー
- データ
- ライン・アイテムの詳細
- 説明

データ・ファイルのセクション

データ・ファイルのセクションに、列順序、データ、ビュー、ライン・アイテムの詳細、および説明が含まれます。

表 3-1 データ・ファイルのセクション

ファイルのセクション	説明
列順序	<p>ディメンション・メンバーが表示される順序を指定します。デフォルトの列順序を指定する構文を次に示します:</p> <pre data-bbox="885 420 1331 514">!Column_Order = Scenario, Year, Period, View, Entity, Value, Account, ICP, Custom</pre> <p>デフォルトのディメンション・シーケンスはオプションです。必要に応じて列順序を変更でき、データ・ファイルには、複数の列順序セクションを指定できます。後続の各列順序セクションは、前に定義されたセクションを上書きします。</p> <hr/> <p>ノート:</p> <p>カスタム順序はロード・パフォーマンスに影響します。最適なパフォーマンスを維持するため、シナリオ、年、エンティティおよび期間ディメンションを先にリストします。</p> <hr/> <p>列順序のシーケンスでシナリオ、年または期間ディメンションを指定しない場合は、データ・ファイルの別のセクションで指定されているとみなされます。シーケンスに ICP またはカスタム・ディメンションを含めない場合は、「ICP None」および「なし」とであるとみなされます。</p>
ビュー	<p>後続のすべてのデータのデフォルト・ビューを指定します。データ・ファイルには、複数の表示セクションを指定できます。各セクションは、有効な値ディメンションで開始する必要があります。後続の各表示セクションは、前に定義されたセクションを上書きします。表示セクションを指定しない場合は、視点でビューを指定する必要があります。</p>

表 3-1 (続き) データ・ファイルのセクション

ファイルのセクション	説明
データ	<p>有効な入力セルの数値を指定します。勘定科目でライン・アイテムの詳細を使用できない場合は、勘定科目にデータをロードする必要があります。</p> <p>次に、このセクションの構文を示します。</p> <pre data-bbox="963 531 1422 638"> <Scenario>; <Year>; <Period>; <View>; <Entity>; <Value>; <Account>; <ICP>;_ <Custom>; <Data> </pre>
	<p>ノート:</p> <p>ゼロはデータとして保管されます。アプリケーションにはゼロをなるべくロードしないでください。データベースのサイズが大きくなり、パフォーマンスが下がることがあります。</p>
	<p>データ・ファイル全体にいくつかのデータ・セクションを指定できます。データ・セクションを最初の列順序セクションの前に配置すると、デフォルトの列順序が使用されます。</p> <p>出資比率データを使用して、選択した親の子孫の最終出資比率と連結比率が計算されます。</p> <p>出資比率情報は、システムにより自動的に生成される System と呼ばれるメンバー・リストを介して、ICP ディメンション内で管理されます。</p> <p>連結比率データでは、エンティティ・メンバーの階層の親を認識しておく必要があります。連結比率データでは親が必要ですが、その他のすべての状況では無視されます。</p>

表 3-1 (続き) データ・ファイルのセクション

ファイルのセクション	説明
<p>ライン・アイテムの詳細</p>	<p>ライン・アイテムの詳細を、ライン・アイテムの詳細をサポートする有効なディメンションの組合せである勘定科目にロードします。ライン・アイテムは説明と値から構成される、区切られたペアで示されます。データ・ファイル全体の複数のライン・アイテムの詳細セクションを指定できます。次に、サンプルの視点、ライン・アイテムの詳細、およびライン・アイテムの値を指定する構文を示します。</p> <pre data-bbox="889 598 1347 787">!Line_Item_Detail Actual; 2014; January; Periodic; Connecticut; USD; Salaries; [ICP None];_ Golfballs; Customer2; [None]; Increases;_ "John Doe"; 5000</pre> <p>ライン・アイテムの詳細は1つの期間にロードする必要があります。これを複数の期間にロードすることはできません。シナリオのデフォルトのビュー(YTDまたは期別)により、ライン・アイテムの詳細をロードする方法が決定されます。</p> <p>ライン・アイテムの詳細の説明を空白にすることはできませんが、ライン・アイテムの詳細の値を空白のままにしておくことはできます。説明を一意にする必要はありません。視点を設定した後に説明と値のペアを入力しない場合は、エラーが発生し、ライン・アイテムの詳細の説明を入力するように求められます。</p>
	<p>ノート:</p> <p>ライン・アイテムの詳細には、二重引用符(")のみ使用してください。一重引用符(')はサポートされていません。</p>

表 3-1 (続き) データ・ファイルのセクション

ファイルのセクション	説明
説明	<p>セル・テキスト情報を指定します。</p> <p>セル・テキストの内容を区切るには、次のいずれかの区切り文字を使用します: パイプ記号()またはチルダ(~)。</p> <p>次の構文は、サンプルのセル・テキストを指定しています:</p> <pre>!Description Actual; 2014;February;Periodic;California ;USD;Sales;[ICP None];GolfBalls;Customer2; [None];Increases;"MaturityDate~02 /28/12 CouponRate~8% Rating~AAA"</pre>

ディメンションのグループ化

グループ・ディメンション・セクションは、データ・セクションに含まれるロード・データの視点を設定します。期間ディメンションの場合は、1つまたは複数の期間を指定できます。グループ・ディメンション・セクションに指定されたその他すべてのディメンションに対して定義できるのは、1つのメンバーのみです。

たとえば、次のセクションを使用して、1月から3月の期間の範囲を指定することはできません:

```
!Period = January...March
```

ディメンションのグループ化は、データ・ファイル全体に必要なだけ指定できます。ただし、該当する列順序のシーケンスに従う必要があります。後続のグループ化は、前のグループ化を上書きします。

データ・ファイルの例

次は、データ・ファイルの例です。ロード・ファイルはセクションに分かれています。各感嘆符(!)はセクションの開始を示しています。感嘆符の後に有効なセクション名を続ける必要があります。各アポストロフィ(')は、コメント行の開始を示しています。データ・ファイルの情報を区切るには、次のいずれかの区切り文字を使用します。

```
, ~ @ $ % & ^ | : ; ? \
```

ノート:

ファイル名やファイル内の別の場所で使われているものと同じ文字は使用できません。たとえば、エンティティ・メンバー名にアンパサンド(&)が入っている場合は、アンパサンドを区切り文字にすることはできません。ファイル全体で同じ区切り文字を使用する必要があります。同じファイル内で異なる区切り文字を使用すると、ファイルのロード時にエラーが発生します。

```
!Column_Order = Scenario, Year, Period, View, Entity, Value, Account, ICP, Flows,
Market, Region, CostCenter
```

```
!DATA
```

```
`Budget data for six months.
```

```
Budget; 2014; July; Periodic; Connecticut; USD; Sales;[ICP None]; Flows; Market;  
Region; CostCenter; 1200000
```

```
Budget; 2014; August; Periodic; Connecticut; USD; Sales; [ICP None]; Flows; Market;  
Region; CostCenter; 1100000
```

```
Budget; 2014; September; Periodic; Connecticut; USD; Sales;[ICP None]; Flows;  
Market; Region; CostCenter; 11500000
```

```
Budget; 2014; October; Periodic; Connecticut; USD; Sales;[ICP None]; Flows; Market;  
Region; CostCenter; 1000000
```

```
Budget; 2014; November; Periodic; Connecticut; USD; Sales;[ICP None]; Flows; Market;  
Region; CostCenter; 1250000
```

```
Budget; 2014; December; Periodic; Connecticut; USD; Sales;[ICP None]; Flows; Market;  
Region; CostCenter; 1200000
```

ロード方法

アプリケーションにデータ・ファイルをロードするには、次のオプションを使用できます:各ロード・プロセスで、これらのオプションのいずれかを選択します。

- マージ
- 置換
- セキュリティを基準にして置換
- 累計

ノート:

計算されたデータをアプリケーションにロードすることはできません。

マージ

アプリケーションのデータを、ロード・ファイルのデータで上書きするには、「マージ」オプションを選択します。

データ・ファイルとアプリケーションに視点がある場合は、アプリケーションにある各視点のデータが、データ・ファイルの値で上書きされます。

ノート:

データ・ロード・ファイルに、同じ視点のファイルの複数の値が含まれている場合は、最後の値のみがロードされます。

データ・ロード・ファイルによって変更されていないアプリケーションのデータはアプリケーションに残ります。

「マージ」オプションと一緒に「ファイル内の累計」オプションを選択すると、データ・ファイル内の同じ視点の値がすべて加算され、この値でアプリケーション内のデータが上書きされます。

視点がデータ・ファイルのみにある(アプリケーションにはない)場合は、データ・ファイルの各視点の値がアプリケーションにロードされます。

置換

アプリケーションのデータを、ロード・ファイルのデータで置き換えるには、「置換」オプションを選択します。「置換」オプションでは、データ・ファイル内のシナリオ、年、期間、エンティティおよび値の一意の組合せごとに、アプリケーションのすべての勘定科目値がクリアされ、データ・ファイルから値がロードされます。

ノート:

ファイルの同じディメンションの組合せに複数の値がある場合は、最後の値のみがロードされます。

「置換」オプションと一緒に「ファイル内の累計」オプションを選択すると、アプリケーションの値がクリアされ、データ・ファイルにある同じ視点の値をすべて加算した値がロードされます。

データベース管理モジュールを使用して「置換」オプションと一緒に「ファイル内の累計」オプションを使用すると同じ結果になります。シナリオ、年、エンティティ、値および期間に基づいて、ファイルのデータをグループに整理できます。

データベース管理モジュールの「データのクリア」タブを使用して、システム勘定科目を含むすべての勘定科目を選択し、これらのディメンションの一意の組合せをクリアします。データ・グリッドに手でデータを入力するか、「マージ」または「累計」ロード・オプションを使用して、アプリケーションにデータをロードまたはコピーします。サブキューブの期間に対して「クリア」操作を行うと、データ、セルのテキスト、およびライン・アイテムの詳細はクリアされますが、セルの添付ドキュメントはクリアされません。

ノート:

特にデータが非常に大きいときやファイルに出資比率データが含まれている場合は、データ・ファイルをロードするために、「置換」モードを使用していくつかの小さなファイルを作成する必要がある場合があります。ファイルが大きすぎる場合は、ファイルをロードしようとすると、エラー・メッセージが表示されます。

置換モードを使用してデータをロードし、後続の期間のデータが含まれている場合、後続の期間のデータはファイルで累計される場合があります。この問題が発生した場合は、データ・ファイルにシナリオのデフォルト・ビューと同じビューを使用してデータをリロードします。たとえば、シナリオのデフォルト・ビューが YTD の場合、期間データではなく YTD データをリロードします。中間期間をロードする際も、同じデータ・ファイルに後続のすべての期間を含めてロードしてください。

セキュリティを基準にして置換

「セキュリティを基準にして置換」オプションは、アクセス権のあるメンバーのみがロードされる置換モードでデータ・ロードを実行するときに選択します。このオプションにより、アクセス権のない勘定科目がある場合も、置換モードでデータ・ロードを実行できます。サブキューブの期間にクリア操作を実行する場合は、アクセス権のあるセルのみがクリアされます。データ、セル・テキストおよびライン・アイテムの詳細はクリアされますが、セルの添付ファイルはクリアされません。

累計

「累計」オプションは、アプリケーションのデータに、ロード・ファイルのデータを累計するときに選択します。データ・ファイルの一意の視点ごとに、ロード・ファイルの値がアプリケーションの値に加算されます。

ノート:

システム勘定科目のデータは累積されません。

ファイル内の累計

「ファイル内の累計」オプションは、「マージ」オプションおよび「置換」オプションと一緒に使用できます。データ・ロード・ファイルに同じ視点の複数のデータ行が含まれる場合、このオプションは、最初にファイルのデータを累計し、選択したロード・オプションに基づいて、アプリケーションに合計をロードします。

ファイルに出資比率データを含む

ロードするファイルに出資比率データが含まれている場合は、「**ファイルに出資比率データを含む**」を選択してこれを示す必要があります。データ・ファイルに出資比率が含まれている場合、またはデータを共有している場合にこのオプションを選択しないと、ファイルをロードするときにエラーが発生します。

ファイルにプロセス管理データを含む

このオプションは、ロードするファイルに提出フェーズに割り当てるプロセス管理の送信グループのデータが含まれている場合に選択します。

ロードの例

次の例では、ロード・オプションの動作を示します。アプリケーションに、Sales 勘定科目と Purchases 勘定科目の次のデータがあるとします:

```
...Sales;... 15
```

```
...Purchases;... 10
```

このデータがアプリケーションにロードされます:

```
...Sales;... 50
```

```
...Sales;... 25
```

```
...Sales;... NODATA
```

次の表に、データ・ファイルをロードすると、アプリケーションのデータがどのように変わるかをモード別に示します。

表 3-2 アプリケーションへのデータ・ファイルのロード

モード	データのロード		「ファイル内の累計」 オプションを選択した場合	
ロード・モード	売上高	購入	売上高	購入
マージ	NODATA NODATA がデータ・ファイルの最後にあるので、この値で、Sales の値が書き込まれます。	10 この勘定科目は、データ・ファイルに入っていない。	75 データ・ファイルにある値が合計されて 75 になります。この値(75)で、アプリケーションの値(10)が書き込まれます。	10 この勘定科目は、データ・ファイルに入っていない。
置換またはセキュリティを基準にして置換	NODATA アプリケーションでは、この勘定科目の値がクリアされます。NODATA がデータ・ファイルの最後にあるので、この値が入力されます。	NODATA アプリケーションでは、この勘定科目の値がクリアされます。この勘定科目にはデータがないため、NODATA が値として入力されます。	75 アプリケーションでは、この勘定科目の値がクリアされます。データ・ファイルにある値が合計されて 75 になります。この値(75)が値として入力されます。	NODATA アプリケーションでは、この勘定科目の値がクリアされます。この勘定科目にはデータがないため、NODATA が値として入力されます。
累計	90 データ・ファイルの同じ POV の値が合計され、アプリケーションにある値に加算されます。 (75 が 15 に加算されます)。	10 データ・ファイルには、値に加算する値が入っていません。	N/A	N/A

データのロード

ファイル・データをディメンションにマップするセクションが含まれるテキスト・ファイルを使用して、データをロードできます。複数のデータ・ファイルをロードする場合は、シーケンシャル順序でロードされます。データのロード中に、レポートやブック、バッチを実行しないでください。

ロードするデータ・ファイルの名前を指定し、ログ・ファイルのディレクトリを設定してあることを確認します。ログ・ファイルには、構文エラーや無効なレコードなど、ロード・プロセスについての情報が保管されます。

デフォルトでは、データ・ファイルに DAT ファイル拡張子が使用されます。ロード・プロセスでは、TXT ファイル拡張子も受け入れますが、DAT ファイル拡張子の使用をお勧めします。

Web のポップアップ・ブロックの例外に Oracle Hyperion Financial Management 追加することをお勧めします。データのロードなどのいくつかのタスクを実行すると、ステータス・ウィンドウにタスクのステータスが表示されます。コンピュータでポップアップ・ブロックを使用可能にしている場合、このステータス・ウィンドウは表示されません。

データをロードするには:

1. データをロードするアプリケーションを開きます。
2. 「連結」、「ロード」、「データ」の順に選択します。
3. **オプション:** ロードするファイルに所有株式などの出資比率データが含まれている場合は、「デフォルトのロード・オプション」から「ファイルに出資比率データを含む」を選択します。

注意:

出資比率データがファイルに含まれている場合は、このオプションを選択する必要があります。選択しない場合、ファイルをロードするときにエラーが発生します。

4. **オプション:** ロード・ファイルに提出フェーズに割り当てるプロセス管理の送信グループのデータが含まれている場合は、「ファイルにプロセス管理データを含む」を選択します。
5. **オプション:** アプリケーションにロードする前に、ロード・ファイルの同じセルにある複数の値を合計する場合は、「ファイル内の累計」を選択します。
6. 「区切り文字」で、ファイルのデータを区切るデフォルト文字を選択します。有効な区切り文字は次のとおりです: , ~ @ # \$ % ^ & | : ; ? \

ノート:

ファイル名やファイル内でその文字が使用されていなければ、有効な任意の文字を使用できます。たとえば、エンティティ・メンバー名にアンパサンド(&)が入っている場合は、アンパサンドを区切り文字にすることはできません。

7. 「ロード・モード」で、次のいずれかのモードを選択します:
 - **マージ:** アプリケーションのデータを上書きします
 - **置換:** アプリケーションのデータを置換します
 - **セキュリティを基準にして置換:** セキュリティ権限に従って、アクセスできるデータに置換します
 - **累計:** アプリケーションのデータにデータを追加します**ロード方法**を参照してください。
8. **オプション:** Firefox をブラウザとして使用している場合は、複数のファイルをロードできます。まだ選択していない場合は「複数の選択」を選択し、「参照」をクリックしてファイルを検索します。

一度に最大 10 個のファイルをドラッグ・アンド・ドロップできます。次に、システムによって選択したファイルが詳細行に移入されます。

また、ファイルをファイル選択コンテンツ領域にドラッグ・アンド・ドロップできます。
9. **オプション:** デフォルトのロード・オプションを上書きするには、「上書き」を選択し、ファイルの異なるロード・オプションを選択します。
10. **オプション:** ファイル・フォーマットが正しいかどうかを確認するには、「スキャン」をクリックします。

11.「ロード」をクリックします。

既存のファイルをリロードすると、それらのファイルを再度使用するかどうかを確認する警告プロンプトが表示されます。行う場合、「はい」をクリックします。

プロセスが終了すると、ロード・タスクの進行状況と各ロード・ファイルのログ・ファイルが表示されます。エラーや無効なレコードを含むすべてのデータ・ロード情報は、このログ・ファイルに保存されます。

ヒント:

値をリセットするには、「リセット」をクリックします。

データのロード状況の表示

データをロードする場合は、データのロード状況をモニターできます。ロード・プロセス中は、進行状況バーのページが別のブラウザ・ウィンドウに表示されます。このページには、現在の進行状況(%)、ステータス、および前回の更新時間が表示されます。

また、データのロード・ステータスは、タスクの実行モジュールからも表示できます。タスクの実行モジュールでは、実行しているすべてのタスクを表示できますが、取り消すことができるのは開始したタスクのみです。

データのロード状況を表示するには:

1. 「連結」、「ロード」、「データ」の順に選択します。
2. 次のいずれかのアクションを選択します:
 - 「進行状況」 ページで、データのロード状況を表示します。
 - 「連結」、「メンテナンス」、「タスクの実行」の順に選択します。「タスクの実行」ページの「タスク」フィルタから「データのロード」を選択し、「OK」をクリックして、進行状況を表示します。

データのロード・タスクの取消し

データをロードする際は、データのロードを取り消すことができます。タスクの実行モジュールからデータのロード状況を表示している場合は、開始したデータのロードのみを取り消すことができます。管理者はリソースを解放するため、任意のユーザーにより実行されているタスクを取り消すことができます。

データのロードを取り消すには、次のいずれかのアクションを実行します:

- 「進行状況」 ページで、データ・ロードの「タスクの中止」をクリックします。
- 「タスクの実行」 ページで「タスク」フィルタから「データのロード」タスクを選択し、「タスクの中止」をクリックするか、「アクション」、「タスクの中止」の順に選択します。

送信グループのロード

データのロード・タスクでは、プロセス管理のフェーズ送信グループのロードおよび抽出ができます。ロード・ファイルに、提出フェーズのレコードとデータ・レコードの両方を含めることはできません。提出フェーズ番号は1から9(含む)までで、グループ番号は0から99(含む)に指定する必要があります。

期間に、フェーズ1から9の重複送信グループを割り当てることはできません。重複提出グループが割り当てられている場合は、その期間の全体のロードは無視され、ロード前のステータスに戻ります。

置換モードでは、その期間の新しいグループ/フェーズ割当てが処理される前に、期間の全データがクリアされ、古いデータは新しいデータで置換されます。

例: Scenario=Actual; Period=January has these assignments: Phase=1, Groups=1,3,5, and Phase=2, Groups=2, 4, 6.

次のデータをロードする場合:

```
!SUBMISSION PHASE
```

```
Actual;January;1;"7,8,9"
```

1月の全データ(フェーズ2の割当てを含む)がクリアされ、最終結果は次のようになります:

```
Scenario=Actual;Period=January
```

```
Actual;January;1;"7,8,9"
```

マージ・モードでは、期間の新規グループ/フェーズの割当てにより、同じグループに対する割当ては上書きされますが、他のグループに対する割当ては保持されます。期間でエラーが検出された場合は、期間のすべての新規割当てが無視されます。

アプリケーションに送信グループ・ファイルがロードされた後、そのアプリケーションを使用しているユーザーに対し、システムが変更されたのでアプリケーションからログオフして再びログオンする必要があることが通知されます。

ロード・フォーマットは次のとおりです:

```
!SUBMISSION PHASE
```

```
<scenario>;<period>;<phase#>;<"group assignment">
```

ファイルのロードの例

```
!SUBMISSION PHASE
```

```
Actual;January;1;"ALL"
```

```
Actual;February;1;"1,3,5"
```

```
Actual;February;2;"2,4,6-15"
```

```
Actual;March;1;"1,2,3-5,7,9"
```

```
Actual;March;2;"8,10-13,15"
```

```
Actual;March;3;"14"
```

送信グループをロードするには、[データのロード](#)を参照してください。

ドリル可能な領域定義のロード

データをロードする場合、ドリル可能な領域定義をロードできます。ドリル可能な領域定義は、総勘定元帳ソース・システムからロードされたデータの定義に使用され、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition にドリル可能なデータを指定します。

FDMEETを使用して領域定義をロードできます。FDMEETの詳細は、*Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition 管理者ガイド*を参照してください。

データ・グリッドおよびデータ・フォームでは、領域をロードした後、ドリル可能なセルは、セルの左上隅の薄青のアイコンによって示されます。セルのコンテキスト・メニューには、定義した表示名が表示されます。それにより、FDMEE ページなどの指定の URL が開きます。

領域定義ロード・ファイルは、次の情報で構成されています:

- シナリオ、年、期間、エンティティ、勘定科目
- 表示名(セル・コンテキスト・メニュー)と URL (ドリル先)

データの抽出

このセクションの手順を使用して、フラット・ファイルとしてデータを抽出します。

ノート:

データベースにデータを抽出することもできます。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドのデータベースへのデータの抽出に関する項を参照してください。

基本レベルの入力データや数種類の計算済データを、アプリケーションから抽出できます。デフォルトでは、データ・ファイルでは、DAT 拡張子が使用されます。データをデータ・ファイルに抽出した後は、テキスト・エディタで表示および変更できるようになります。

計算済データおよび派生データを抽出するには、拡張分析のセキュリティ役割が必要です。

データを抽出するときは、シナリオ・ディメンションと年ディメンションのメンバーを指定する必要があります。期間、エンティティおよび勘定科目ディメンションでは、1 つ以上のメンバーを指定できます。

また、次のタイプの計算済データも抽出できます。

- 親エンティティの連結データ。
- ルールに従って計算される勘定科目ディメンションとカスタム・ディメンションの基本メンバー。
- CustomTopMember および ICPTopMember と交差する親勘定科目。CustomTopMember データの属性が空白または「すべて」の場合は、[None]メンバーが使用されます。有効なデータ交差のみが抽出されます。一意の各視点では、データがファイルのデータ行に表示されます。グループ見出しは作成されません。

データを抽出するオプションを選択する場合、テンプレートとして選択を保存できます。テンプレートは、現在のタイプ、抽出フォーマット、視点および選択したオプションを格納します。保存したテンプレートを選択する場合、抽出オプションにデフォルト値が移入されます。

ログ・ファイルおよび抽出されたファイル用のディレクトリを設定していることを確認します。ログ・ファイルには、抽出の開始時刻と終了時刻、および抽出されたレコードの数などのプロセスについての情報が記録されます。

フラット・ファイル抽出オプション

フラット・ファイル・フォーマットのメンバーを抽出する場合は、ファイル・ヘッダーを含めるかどうかを選択できます。

例: ヘッダーを含むフラット・ファイル

```
Scenario=Actual
Year=2014
Period=[Year]
View=YTD
Entity=CORP_OPS
Parent=GROUP
Value=[Parent Total]
Possible Duplicated Records=No
SalesIC;CHINA;[None];[None];[None];[None];100000
SalesIC;CHINA;[None];AllCustom2;[None];[None];100000
Scenario=Actual
Year=2014
Period=[Year]
View=Periodic
Entity=CORP_OPS
Parent=GROUP
Value=[Parent Total]
Possible Duplicated Records=No
SalesIC;CHINA;[None];[None];[None];[None];100000
SalesIC;CHINA;[None];AllCustom2;[None];[None];100000
```

例: ヘッダーを含まないフラット・ファイル

```
!Data
Actual;2014;[Year];YTD;GROUP.CORP_OPS;[Parent Total];SalesIC;CHINA;[None];[None];
[None];[None];100000
Actual;2014;[Year];YTD;GROUP.CORP_OPS;[Parent Total];SalesIC;CHINA;[None];AllCustom2;
[None];[None];100000
Actual;2014;[Year];Periodic;GROUP.CORP_OPS;[Parent Total];SalesIC;CHINA;[None];
[None];[None];[None];100000
Actual;2014;[Year];Periodic;GROUP.CORP_OPS;[Parent Total];SalesIC;CHINA;
[None];AllCustom2;[None];[None];100000
```

フラット・ファイルへのデータの抽出

フラット・ファイルにデータを抽出するには:

1. データを抽出するアプリケーションを開きます。

2. 「連結」、「抽出」、「データ」の順に選択します。
3. 次のいずれかのタスクを行います:
 - POV ディメンションをテンプレートに保存した場合、「テンプレート」から、テンプレートを選択します。視点および抽出オプションは、テンプレートからデフォルト値が移入されます。
 - テンプレートを使用していない場合、エクスポートする POV ディメンション・メンバーを選択します。
4. 宛先タイプの抽出で、「フラット・ファイル」を選択します。
5. 「抽出フォーマット」で、「ヘッダーなし」または「ヘッダー付き」のいずれかのフォーマットを選択します。
6. オプション: 「オプション」で、次の抽出オプションを1つ以上選択します:
 - 動的勘定科目の抽出
 - 算出データ
 - 派生データ
 - セル・テキスト
 - フェーズ送信グループ・データ
7. 「区切り文字」で、区切り文字を選択します。
8. 「ライン・アイテムの詳細」から、抽出オプションを選択します。
 - 個々のライン・アイテム
 - セルの合計要約
 - なし
9. オプション: 「抽出されたファイル接頭辞」で、接頭辞を入力するか、アプリケーション名のデフォルトの接頭辞を使用します。
10. 「抽出」をクリックします。
11. ダウンロード・ボックスから、「保存」を選択します。
12. 抽出したファイルの名前を入力し、ファイルの場所が設定したディレクトリ内であることを確認します。

ノート:

デフォルトでは、データ・ファイルに DAT ファイル拡張子が使用されます。

13. 「保存」をクリックします。

データの管理

「データの管理」 ページで、次のタスクを実行できます:

- データのコピー

特定のシナリオ、年、期間または期間のリストから、特定の宛先にデータをコピーできます(宛先がロックされていない場合)。データのコピー・プロセスには、ライン・アイテムの詳細および内部取引が含まれます。

データをコピーするには、データベース管理のセキュリティ役割が必要です。

[データのコピー](#)を参照してください。

- データのクリア

データベースからデータをクリアできます。

データをクリアするには、データベース管理のセキュリティ役割が必要です。

[データのクリア](#)を参照してください。

- 無効なレコードのクリア

データベースから無効なレコードを検索してクリアできます。無効なレコードをクリアするには、管理者である必要があります。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

データのコピーまたはクリア、あるいは無効なレコードのクリアを行うには:

1. アプリケーションを開きます。
2. 「**連結**」、「**データ**」、「**管理**」の順に選択します。
3. 「**データの管理**」ページから、1つ以上のセクションを展開します:
 - データのコピー
 - データのクリア
 - 無効なレコードのクリア

データのコピー

特定のシナリオ、年、期間または期間のリストから、特定の宛先にデータをコピーできます(宛先がロックされていない場合)。ソース期間の期間単位は、宛先期間の期間単位と同一である必要があります。期間のリストをコピーするときは、ソース期間の数を宛先期間の数と同じにする必要があります。また、ソースおよび宛先のシナリオも同じデフォルトの期間単位にする必要があります。値を更新するには、データをコピーした後に値を連結する必要があります。

値ディメンションの場合、値をコピーできるのはエンティティ通貨メンバーからのみで、システムおよび為替レート勘定科目を含めることができます。

データをコピーするには、データベース管理のセキュリティ役割が必要です。

コピーされたデータ値に乗算する係数を定義できます。この係数でソース金額を乗算してから、データを宛先にコピーします。たとえば、**Actual 2013** のデータ値を 15% で乗算してから **Forecast 2014** にコピーするというように、1つのシナリオのデータ値を増やしてから、別のシナリオにコピーできます。定義した乗算係数は、システム勘定科目には適用されません。

また、ロードしたビジネス・ルールが、勘定科目のデータに影響するかどうかを考慮する必要があります。たとえば、ある期間の勘定科目の計算に使用できるルールが、他の期間では使用できない場合があります。

アプリケーションにデータをコピーする方法を指定できます。データのマージ、置換または累計からいずれか1つを選択できます。すべてのモード・オプションで、データのコピーおよびロードのオプションは同じです。[ロード方法](#)を参照してください。

コピー・プロセスの開始時刻と終了時刻、アクセス違反など、コピー・プロセスに関する情報を保管するログ・ファイルも指定します。

データをコピーするには:

1. データをコピーするアプリケーションを開きます。
2. 「**連結**」、「**データ**」、「**管理**」の順に選択します。
3. 「データの管理」ページから、「**データのコピー**」を展開します。
4. 「**ソース**」で、データをコピーするシナリオと年を1つずつ、および期間を1つ以上選択します。
5. 「**宛先**」で、データをコピーするシナリオと年を1つずつ、およびデータのコピー先と同じ期間数を選択します。
6. 「**コピーするメンバー**」で、データのコピー元の勘定科目とエンティティ・メンバーを選択します。
7. 「**オプション**」の「**モード**」で、次のいずれかのオプションを選択します:
 - **累計**: 宛先シナリオのデータに加算します。
 - **マージ**: 宛先シナリオのデータを上書きします。
 - **置換**: 宛先シナリオのデータを置換します。
8. 「**表示**」で、「**期別**」または「**YTD**」を選択します。
9. 1つ以上のオプションを選択します。
 - 「**エンティティ通貨データ**」: 値ディメンションのエンティティ通貨メンバーのデータをコピーします
 - **レートとシステム・データ**: システム勘定科目と為替レート勘定科目のデータをコピーします
 - **セル・テキスト**: セル・テキストをコピーします
 - **派生データのコピー**: 派生データをコピーします。
10. オプション: ログ・ファイルにコピーに関する情報を保管するには、「**詳細ロギングの使用可能**」を選択します。
11. オプション: 「**乗数**」に、1.0 など、コピーするデータに乗算する係数を入力します。

ノート:

この係数は、システム勘定科目には適用されません。

12. 「**コピー**」をクリックします。
13. オプション: コピー・プロセスのログを表示するには、「**ログの表示**」をクリックします。

データのクリア

特定のシナリオ、年、期間、または期間リストの選択したエンティティと勘定科目のデータをクリアできます。データをクリアすると、基本エンティティと親エンティティの両方がクリアされます。ただし、基本レベルの勘定科目のみがクリアされます。転記済の内部取引を含むセルはクリアできません。

ノート:

データをクリアする場合、ロックされていないセルのみ選択する必要があります、それ以外の場合はクリア・プロセスが正常に完了しません。

データをクリアするには、データベース管理のセキュリティ役割が必要です。

データベースから無効なレコードをクリアするには、管理者である必要があります。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

データをクリアするには:

1. データをクリアするアプリケーションを開きます。
2. 「**連結**」、「**データ**」、「**管理**」の順に選択します。
3. 「**データの管理**」ページから、「**データのクリア**」を展開します。
4. 「**ソース**」から、「**シナリオ**」と「**年**」を選択し、クリアする期間、勘定科目、エンティティ・ディメンションのメンバーを選択します。
5. 「**オプション**」から、1つ以上のオプションを選択します。
 - 「**エンティティ通貨データ**」: 値ディメンションのエンティティ通貨メンバーのデータをクリアします
 - **レートとシステム・データ**: システム勘定科目と為替レート勘定科目のデータをクリアします
6. **オプション**: ログ・ファイルにクリアに関する情報を保管するには、「**詳細ロギングの使用可能**」を選択します。
7. 「**クリア**」をクリックします。
8. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックしてデータをクリアします。

データ・グリッドの使用

次も参照:

- [データ・グリッドの作成](#)
- [データ・グリッドを開く](#)
- [データ・グリッドのチャートとしての表示と印刷](#)
- [データ・グリッドの操作](#)
- [データ・グリッドの使用](#)
- [データの入力と編集](#)
- [データ・グリッドのデータの表示](#)
- [データ配賦の実行](#)
- [データ・グリッドからのエクイティ・ピックアップ計算の実行](#)
- [データのロック](#)
- [データのロック解除](#)
- [ソース取引と宛先取引の表示](#)
- [エンティティ詳細レポートの実行](#)
- [内部取引のドリルスルー](#)
- [ソース・データへのドリルスルー](#)
- [Oracle Financial Management Analytics の起動](#)
- [プロセス管理のオプション](#)

データ・グリッドの作成

データ・グリッドを使用して、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションにデータを入力、表示または手動で編集します。データを入力または編集した後は、データの計算、他の通貨への換算または連結を行うことができます。データのステータス、算出ステータス、プロセス単位のレベル、ライン・アイテムの詳細、および宛先取引とソース取引を表示できます。また、データのロックとロックの解除、配賦の実行、エンティティ取引詳細レポートも表示できます。

データ・グリッドには、データ、算出ステータスまたはプロセス単位のレベルを表示できます。仕訳がグリッドの選択した交差に転記されている場合は、セルに対するすべての仕訳取引を表示できます。グリッドには、セルのテキストとライン・アイテムの詳細を保管できます。

ディメンションはデータ・グリッドの行と列に表示されます。列と行を再設定しなくても、グリッド設定を保存すれば、後でグリッドを開くことができます。

データ・グリッドでは、データを計算、換算および連結するためのメニュー・コマンドを選択できます。タスクをセルに適用できない場合は、メニュー・コマンドも使用できません。

データ・グリッドを作成するには:

1. ドキュメント・マネージャから、「新規」、「データ・グリッド」の順にクリックするか、「アクション」、「新規」、「データ・グリッド」の順に選択します。
2. グリッドの行と列を設定します。データ・グリッドの行と列の設定を参照してください。
3. グリッドの表示オプションを設定します。グリッドの表示オプションの設定を参照してください。

データ・グリッドを開く

データの表示、入力および編集を行うには、データ・グリッドを使用します。データ・グリッドを開くには、そのデータ・グリッドのセキュリティ・クラスへのアクセス権を持っている必要があります。

データ・グリッドを開くには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・グリッドを選択します
2. 「選択したドキュメントを開く」をクリックするか、「アクション」、「開く」の順に選択します。

データ・グリッドのチャートとしての表示と印刷

デフォルトでは、データ・グリッドは表形式で表示されます。データ・グリッドをチャートとして表示することもでき、通常こちらの方がすばやく読み込まれます。

チャートは、データ・グリッドで使用できるデータに基づきます。これは現在のページに基づいており、次のページに移動したり、メンバーを展開または縮小すると変更されます。チャートの表示をカスタマイズできます。

データ・グリッドのチャートは印刷することもできます。

データ・グリッドをチャートとして表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 「グリッド表示オプション」の「チャート」セクションで、オプション「チャート」、「表」または「両方」を選択します。
3. 「両方」を表示する場合は、「チャートの場所」で「垂直」または「水平」を選択します。
4. 「チャートのタイプ」から、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 折れ線
 - 棒(水平)
 - 棒(垂直)
 - 円
 - ドーナツ

- 面
 - バブル
 - 極
 - レーダー
 - 縦棒(水平)
 - 縦棒(垂直)
 - ファンネル
 - パレート
5. オプション: チャートを3次元で表示する場合は「**3Dチャート**」チェック・ボックスを選択します。
6. 「**凡例の位置**」で、チャートの凡例の位置を選択します。
- 上
 - 下
 - 左
 - 右
 - なし
7. 「**ラベルの位置**」から、次のいずれかのオプションを選択します。
- **中央**。棒グラフでは、テキストは棒上の中央に表示されます。棒以外のグラフでは、テキストは、値が正の場合はデータ・ポイントの上に表示され、値が負の場合はデータ・ポイントの下に表示されます。
 - **最大**。棒グラフでは、テキストは棒上の上端近くに表示されます。棒以外のグラフでは、テキストは、値が正の場合はデータ・ポイントの下に表示され、値が負の場合はデータ・ポイントの上に表示されます。
 - **最小**。棒グラフでは、テキストは棒上の下端近くに表示されます。棒以外のグラフでは、テキストは、値が正の場合はデータ・ポイントの上に表示され、値が負の場合はデータ・ポイントの下に表示されます。
 - **なし**。ラベルは表示されません。
8. オプション: 「**すべてのラベルを表示**」を選択します。
9. 「**背景**」で、チャート背景のオプションとして、「**なし**」、「**実線**」または「**グラデーション**」のいずれかを選択します。
- 「**実線**」または「**グラデーション**」をクリックし、対応するドロップダウンから、「**最後に使用した色**」、「**デフォルト色**」または「**カスタム色**」を選択します。
10. チャート・オプションをグリッド定義に保存するには、変更後、「**保存**」をクリックします。
11. オプション: データ・グリッド・チャートを印刷するには、チャートで右クリックし、「**印刷**」を選択します。これによってチャートのみ印刷されます。

データ・グリッドの操作

データ・グリッドで、次のタスクを実行できます:

- [データ・グリッドの行と列の設定](#)
- [データの入力と編集](#)
- [視点のメンバーの選択](#)
- [セル情報の表示](#)
- [セル・テキストの追加](#)
- [セル調整の表示](#)
- [ライン・アイテムの詳細の追加](#)
- [データのロック](#)
- [セルの履歴の表示](#)
- [ソース取引と宛先取引の表示](#)
- [エンティティ詳細レポートの実行](#)
- [データ配賦の実行](#)

データ・グリッドの使用

グリッドの行と列を選択したら、これをいつでも変更できます。また、後で使用できるようにグリッド設定を保存できます。データ・グリッドは、ロード、抽出および削除して、フォルダに編成できます。

ここでは、データ・グリッドで実行できるタスクについて、次のトピックに分けて説明します:

- [データ・グリッドの行と列の設定](#)
- [グリッドの表示オプションの設定](#)
- [グリッド・ディメンション・オプションの設定](#)
- [データ・グリッドの設定の保存](#)
- [データ・グリッドのフォルダの作成](#)
- [データ・グリッドのロード](#)
- [データ・グリッドの抽出](#)
- [データ・グリッドの削除](#)

データ・グリッドの行と列の設定

データを Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションに入力する前に、POV およびデータ・グリッドの行と列に表示するディメンションとディメンションのメンバー・リストを選択する必要があります。POV バーおよびグリッドの行と列に対して、ディメンションをドラッグ・アンド・ドロップできます。

管理者が動的 POV メンバー・リストを定義した場合、それを使用して、選択したディメンションに対して有効なメンバーを持つ行および列に迅速に移入できます。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで、選択したディメンションの有効な動的 POV メンバー・リストが、ダイアログ・ボックスの下部に接尾辞@POV を付けて表示されます。

グリッドを終了すると、行と列で定義されたディメンションの値以外のすべてのディメンションのユーザーの視点が更新されます。行と列の値がグリッド設定に保管されている場合でも、グリッドを終了しても、これらの値はユーザーの視点の更新には使用されません。

グリッドの行と列を設定するには:

1. ドキュメント・マネージャから、「新規」、「データ・グリッド」の順にクリックするか、「アクション」、「新規」、「データ・グリッド」の順に選択します。
2. グリッドに表示する行および列のディメンションを選択するには、必要に応じて上部の POV から行および列にディメンションをドラッグします。
3. 行、列または POV のディメンションをクリックして、メンバーまたはメンバー・リストを選択します。
4. オプション: 「POV オプション」 ボタンを選択し、POV オプションを選択して変更します。
5. オプション: 列の横にある「列オプション」 ボタンまたは行の横にある「行オプション」 ボタンを選択し、列または行のオプションを選択して変更します。
6. オプション: 行または列のディメンションの順序を変更するには、「列オプション」 または「行オプション」 ボタンの横にある下矢印を選択し、「ディメンションの並べ替え」を選択します。ディメンションを選択し、矢印キーを使用して順序を変更し、「OK」 をクリックします。
7. オプション: データ・グリッドを表示するには、「グリッド・ビューア」 をクリックするか、「アクション」、「グリッド・ビューア」 の順に選択します。

ヒント:

グリッド・デザイナーに戻るには、「グリッド・デザイナー」 をクリックするか、「アクション」、「グリッド・デザイナー」 の順に選択します。

8. 「保存」 をクリックして、グリッド・レイアウトを保存します。

グリッドの表示オプションの設定

データ、算出ステータスまたはプロセス確認レベルをデータ・グリッドに表示するかどうかを選択できます。算出ステータスは、たとえば、データを計算、換算または連結する必要があるかどうかを示します。確認レベルは、プロセス単位と呼ばれるデータの組合せのプロセス管理レベルを示します。データ、算出ステータスおよび確認レベル間で表示を簡単に切り替えることができます。データ・グリッドは、自動的にリフレッシュされて変更内容が反映されます。

[算出ステータスの表示およびプロセス単位のレベルの表示](#)を参照してください。

メタデータのラベル、説明、またはその両方を表示するかどうかを選択することもできます。説明を有効にしている場合は、「ユーザー・プリファレンス」ダイアログ・ボックスで指定した言語で表示されます。ラベルと説明の両方を表示するよう選択した場合、ディメンション・メンバーは、「Label - Description」と表示されます。エンティティの場合、メンバーは、「Parent.Entity - Description」と表示されます。ここで、Description は、親エンティティではなく、エンティティの説明です。

また、位取りの値を選択してデータを表示する方法を決定できます。たとえば、US ドル通貨(USD)が3の位取りで定義されている場合、300,000 USD は300 と表示されま
す。

グリッド表示オプションを設定するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 「セル」で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 算出ステータスを表示するには、「算出ステータス」を選択します。
 - データを表示するには、「データ」を選択します。
 - プロセスの確認レベルを表示するには、「プロセス単位のレベル」を選択しま
す。
3. 「行の抑制」で、次のいずれかまたは両方のオプションを選択します。
 - データを含まないセルを非表示にするには、「データの無いセルを非表示」を選
択します。
 - ゼロを含むセルを非表示にするには、「ゼロの抑制」を選択します。

ノート:

データ・グリッドの抑制オプションは、基本レベル・メンバーでは機能しま
すが、親メンバーには適用されません。

4. 「メタデータ」で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - メタデータのラベルを表示するには、「ラベル」を選択します。
 - メタデータの説明を表示するには、「説明」を選択します。
 - メタデータのラベルと説明の両方を表示するには、「両方」を選択します。
5. 「位取り」で、位取りの値を選択するか、エンティティに割り当てられている通貨
で定義されたデフォルトの単位を使用します。
6. 「ページ・サイズ」で、次のオプションを設定します。
 - 「1ページ当たりの列数」に値を入力するか、デフォルトの128のままにしま
す。
 - 「1ページ当たりの行数」に値を入力するか、デフォルトの1024のままにしま
す。

グリッド・ディメンション・オプションの設定

データ・グリッドでディメンションを表示するためのオプションを設定できます。
POV バーにディメンションを表示する順序を設定したり、頻繁に使用しない POV デ
ィメンションを非表示にしたり、モジュール間で保存および共有するバックグラウンド
POV からディメンション・メンバーを使用したりできます。これらのオプション
は、データ・グリッド定義を保存するときに保存します。

カンマ区切りリストにディメンション名を入力するか、ポップアップ・ダイアログ・
ボックスから使用可能なディメンションを選択します。ディメンションのロング名(シ
ナリオなど)またはディメンションのショート名(S など)を入力できます。

ディメンション・オプションを設定するには:

1. データ・グリッドを開きます。

グリッド・デザイナーが表示されない場合、ツールバーから「グリッド・デザイナー」をクリックするか、または「アクション」、「グリッド・デザイナー」の順に選択します。


2. 右側のパネルから、「ディメンション・オプション」を展開します。

3. 「ディメンションの順序」で、次のいずれかの方法を使用して、ディメンションの順序を変更します:

- カンマ区切りリストに、POV バーに表示する順序で、ディメンション名を入力します。

ヒント:

スクロールせずにより多くのディメンションを表示するには、テキスト・ボックスの左上にある **詳細...** アイコンをクリックします。


- または、テキスト・ボックスの横にある矢印アイコン()をクリックします。「ディメンションの並べ替え」ダイアログ・ボックスから並べ替えるディメンションを選択し、矢印キーを使用してディメンションを上下に移動し、「OK」をクリックします。

ディメンションを既定の順序に戻すには、テキストボックスのコンテンツをクリアします。テキスト・ボックスの横の矢印アイコンをクリックし、「ディメンションの並べ替え」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。

4. 「POV に表示しない」に、POV に表示しないディメンション名を入力します。

ヒント:


スクロールせずにより多くのディメンションを表示するには、テキスト・ボックスの左上にある **詳細...** アイコンをクリックします。

または、テキスト・ボックスの横の「編集」アイコン()をクリックし、ディメンションを選択して、「OK」をクリックします。

5. ユーザー POV から取得に、バックグラウンド POV からメンバーを使用するディメンション名を入力します。

ヒント:

スクロールせずにより多くのディメンションを表示するには、テキスト・ボックスの左上にある **詳細...** アイコンをクリックします。

または、テキスト・ボックスの横の「編集」アイコン()をクリックし、ディメンションを選択して、「OK」をクリックします。

データ・グリッドの設定の保存

グリッド設定を保存することで、行と列のディメンションを選択するのにかかる時間を短縮できます。グリッドを保存した後、ドキュメント・マネージャから再度開くことができます。左側のペインのドキュメント・リストにも表示されます。

グリッドを保存すると、上部の POV のすべてのディメンションのメンバー選択がユーザーのバックグラウンド POV にマージされます。

グリッド設定を保存するには:

1. データ・グリッドで、「**保存**」をクリックします。
2. グリッドの名前を入力します。
名前には、空白を含め、最大 40 文字まで入力できます。
3. 「**セキュリティ・クラス**」から、フォルダのセキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
4. **オプション:** グリッドの説明を入力します。
説明には、空白を含め、最大 255 文字まで入力できます。
5. **オプション:** グリッドをプライベートにする場合は、「**個人用**」を選択します。
6. 「**保存**」をクリックして現在のグリッドを上書きするか、「**名前を付けて保存**」をクリックして現在のグリッドを新しいグリッドとして保存します。

データ・グリッドのフォルダの作成

データ・グリッドのフォルダ階層を作成できます。多くのグリッドを保存するときは、グリッドをフォルダに編成すると便利です。Root フォルダはデフォルトで使用できますが、削除できません。作成するフォルダは、すべて Root フォルダの下に作成されます。

フォルダを作成するには、「**上級ユーザー**」のセキュリティ役割が必要です。

データ・グリッドのフォルダを作成するには:

1. フォルダを作成するアプリケーションを開きます。
2. ドキュメント・マネージャから、「**新規**」、「**フォルダ**」の順に選択するか、「**アクション**」、「**新規**」、「**フォルダ**」の順に選択します。
3. フォルダ名を入力します。

ノート:

フォルダ名には、空白を含め、40 文字まで入力できます。

4. **オプション:** フォルダの説明を入力します。

ノート:

フォルダの説明には、空白を含め、255 文字まで入力できます。

5. 「**セキュリティ・クラス**」から、フォルダのセキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。

ノート:

このフォルダのユーザーは、指定したセキュリティ・クラスのアクセス権が必要です。

6. 「種類」から「データ・グリッド」を選択します。

ヒント:

フォルダをすべてのドキュメント用にすることは、「すべて」を選択します。

7. オプション: フォルダをプライベートにする場合は、「個人用」を選択します。
-
-

ノート:

プライベート・フォルダは、他のユーザーが表示したり共有したりできません。

8. 「作成」をクリックします。

データ・グリッドの抽出

アプリケーションからデータ・グリッドを抽出できます。グリッドを抽出しても、フォルダやアプリケーションからグリッドが削除されることはありません。選択した場所に抽出されるのは、グリッドのコンテンツのみです。

データ・グリッドを抽出したら、これを変更してアプリケーションにリロードできます。グリッドをリロードする場合は、古いファイルを上書きしてください。抽出したグリッドは、新規グリッドのモデルとして使用することもできます。

データ・グリッドを抽出するには:

1. グリッドを抽出するアプリケーションを開きます。
2. ドキュメント・マネージャから、抽出するデータ・グリッドを選択して「ドキュメントの抽出」をクリックするか、「アクション」、「ドキュメントの抽出」の順に選択します。
3. ダウンロード・ボックスで、「保存」をクリックし、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。

データ・グリッドのロード

事前に抽出したデータ・グリッドをアプリケーションにロードできます。

データ・グリッドをロードするには:

1. データ・グリッドをロードするアプリケーションを開きます。
2. 「連結」、「ロード」、「ドキュメント」の順に選択するか、「ドキュメント・マネージャ」から「ドキュメントのロード」をクリックします。
3. ドキュメントをロードする手順に従います。ドキュメントのロードを参照してください。

データ・グリッドの削除

使用しなくなったデータ・グリッドを削除できます。

データ・グリッドを削除するには:

1. ドキュメント・マネージャから、削除するデータ・グリッドを選択します。
2. 「**選択したドキュメントの削除**」をクリックするか、「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します。

ノート:

フォルダも削除できますが、その中のデータ・グリッドを先に削除する必要があります。

3. 削除を確認するメッセージが表示されたら、「**はい**」をクリックします。

データの入力と編集

データ・グリッドを使用して、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションの基本エンティティの入力勘定科目にデータを手動で入力します。親レベルのメンバーの値は、親レベルのメンバーの子から連結されます。基本レベルのメンバーのデータが計算される場合もあります。たとえば、Salaries メンバーが、基本レベルのメンバーで、人数と給与レートに基づいて計算されるなどです。

計算勘定科目と連結勘定科目では、データ入力できません。これは、含まれる値は、他のソースから入力されるためです。たとえば、USA East という会社に3つの依存エンティティがある場合は、この依存エンティティに値を入力します。連結した後、USA East の値はこれらの依存エンティティの合計値となります。

データを保存すると、Financial Management は、ディメンション階層の親メンバーの合計を自動的に計算します。

セルに"NODATA"と入力して、データベースからデータをクリアできます。たとえば、データを不正な交差に入力し、データベースにゼロを入力しないでデータをクリアしたい場合があります。

データを入力または編集したら、データベースを変更し、データベースからの最新のデータでグリッドをリフレッシュできます。

データを入力または編集するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. データを入力または編集するセルをダブルクリックします。
3. セルに値を入力し、[Enter]または[Tab]キーを押します。
4. 必要なデータをすべて入力または編集するまで、手順を繰り返します。
5. 「**データの送信**」をクリックして、データを保存します。

保存しないデータを破棄するには、「**データのリセット**」をクリックします。

要約レベルの期間へのデータの入力

データ・グリッドでは、期間ディメンションの親レベルのメンバーにデータを入力し、収益、支出およびフロー・タイプの勘定科目の下位レベルに均等に配分できます。たとえば、6月、7月および8月の月を含む四半期の期間に金額300を入力できます。金額100をこれらの3か月に均等に配分できます。資産、負債および残高の種類の勘定科目では、要約期間の最後の基本期間にすべての金額が配分されます。

親レベルのメンバーにデータを入力したら、データを送信して基本期間に分散させ、データベースに保存する必要があります。

要約レベルでデータを入力するときに基本期間が空白である場合は、データはすべての期間に均等に配分されます。基本期間にデータが含まれている場合は、割合に基づいてデータが配分されます。たとえば、1月、2月および3月に既存のデータとして3、3、4が指定されている場合、四半期1のメンバーに100を入力すると、1月に30、2月に30、4月に40と配分されます。

要約レベルの期間にデータを入力するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. データを入力または編集するセルをダブルクリックします。
3. セルに値を入力し、[Enter]または[Tab]キーを押します。
4. データをすべて入力または編集するまで、手順1-3を繰り返します。
5. 「データの送信」をクリックしてデータを保存するか、「データのリセット」をクリックします。

セル値のコピーおよび貼付け

コピーおよび貼付け機能を使用して、データ・グリッドの複数のセルのデータを同時に変更できます。

セル値をコピーして貼り付けるには:

1. データ・グリッドで、他のセルで使用するデータを含むセルまたはセルのブロックを選択します。
2. 右クリックして、「コピー」を選択します。
3. データの貼付け先のセルまたはセルの範囲を選択します。
4. 右クリックして「貼付け」を選択します。

ノート:

選択した範囲に編集可能なセルが含まれていない場合、貼付けオプションは使用できません。選択したセル範囲の一部のみが編集可能な場合、値が該当するセルにのみ貼り付けられます。

データのクリア

任意のセルまたはセルの範囲から値をクリアできます。選択した入力セルのみクリアされます。読取り専用のセルはクリアされません。

データ・グリッドからデータをクリアするには:

1. クリアするセルまたはセル範囲を選択します。
2. 右クリックし、「クリア」を選択します。

ステータスを判別するためのデータ・セルの色の使用方法

データ・グリッドのセルの色は、データに関する追加情報を示します。色を説明する凡例は、データ・グリッドの下部に表示されます。セルの色により、データ、算出ス

ステータス、プロセス・コントロールなどの選択したセル・オプションによって異なるステータスを示すことができます。次の表に、データ・グリッドのデフォルトのセルの色を示します。デフォルトのセルの色は編集できません。

表 4-1 デフォルトのデータ・セルの色

セルの色	意味
薄い黄色	変更済 - 次のいずれかを示します: <ul style="list-style-type: none"> セルのデータが変更されていますが、まだ保存されていません。 入力ステータスは「OK」ですが、調整のステータスが「OK」ではありません (CH、CN または TRN)。ノード・レベルの調整のステータスが CN になっている場合は、コントリビューションの計算の強制を実行して調整勘定メンバーのステータスをクリアする必要があります。
濃い黄色	影響(プロセス・コントロールおよび算出ステータスに表示)。基礎となるデータが変更されていることを示します。換算または連結を実行する必要があります。
白	入力 - これは入力セルです。データを手動で入力または編集できます。
オレンジ	無効 - セル視点は、ディメンション・メンバーの無効な組合せです。無効なセルでデータを入力することはできません。
ベージュ	ロック済 - セルがロックされているため、セル・データを変更できません。
緑	OK - 最後の計算、換算または連結プロセスからデータが変更されていません。
薄緑色	データなし - セルにデータがありません。
薄緑色	ProRata - 要約レベルの期間でデータを入力し、既存のデータに基づいて基本レベルの期間に配分できます。
深緑色	表示のみ。データは表示のみで変更できません。
青のインディケータ	セル・テキスト - セルは、1 つ以上のセル・テキストの説明を含むことができます。
赤のインディケータ	ライン・アイテム - セルは、ライン・アイテムの詳細を含みます。
緑のインディケータ	ドリル可能 - データがソース・システムからロードされ、セルからソースにドリルスルーできます。

無効なディメンション交差のセルで操作を行うことはできません。無効なディメンション交差では、最上位の親の詳細メンバーが使用されていないか、これらのディメン

ションに対して制限が設定されているため、データ入力できません。ディメンションの制限は、メタデータ・ファイルでメンバーを設定するときに設定します。たとえば、メタデータ・ファイルに売上勘定科目を設定して顧客がデータ入力できるようにする場合は、カスタム・ディメンションの Sales および None はデータ入力の無効な交差となります。

データのステータスを決定するには、データの算出ステータスとプロセス単位のレベルの両方をチェックする必要があります。[算出ステータスの表示](#)および[プロセス単位のレベルの表示](#)を参照してください。

データのリフレッシュ

データ・グリッドに表示されているデータをリフレッシュして、データベースに保存されたデータを表示できます。これにより、データに変更を加えて元のデータに復元できます。データをリフレッシュすると、データに対して行った変更を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。変更内容をデータベースに保存するか、データベースに保存されているデータを復元するかどうかを選択できます。

ノート:

複数のユーザーが、データ・グリッド上の同じセルのデータの値を更新する場合、ユーザーにセルのデータが上書きされたことは通知されません。複数のユーザーが同じセルに同時にデータを入力した場合は、最後にデータを保存したユーザーのデータがデータベースに保管されます。

データをリフレッシュするには、「[データのリセット](#)」をクリックします。

データ・グリッドのデータの表示

データ・グリッドは、データを操作するだけでなく、データの算出ステータスを表示するために使用できます。また、視点情報、セルの調整、セル・テキスト、およびライン・アイテムの詳細などのセルの情報を表示することもできます。

算出ステータスの表示

Oracle Hyperion Financial Management では、シナリオ、年、期間、エンティティ、親および値の各組合せの算出ステータスが保持されます。算出ステータスは、たとえば、データを計算、換算または連結する必要があるかどうかを示します。算出ステータスはデータ・グリッドに表示できます。

算出ステータスは、次のことが原因で変わることがあります。

- 組織構造の変更
- 勘定科目の追加や削除
- エンティティの属性の変更
- データ・グリッドへのデータの入力、または外部ソースからのデータのロード
- 仕訳の転記または転記の戻し
- 内部取引の転記または転記の戻し
- ルールのリロード
- 連結比率の変更
- 換算レートの変更

- メンバー・リストのロード
- ライン・アイテム詳細の追加、変更またはロード

表 4-2 算出ステータス

ステータス	説明
OK	指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値ディメンションのデータは、変更されていません。
OK ND	OK - データなし。計算は実行されましたが、データのないセルは計算に含まれていません。
OK SC	OK - システム変更済。指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値ディメンションのデータに影響する変更が行われました。たとえば、新しいルール・ファイル、メタデータ・ファイルまたはメンバー・リスト・ファイルがロードされたか、通貨レートが変更されました。値 10,000 など、データ自体は変更されていません。ディメンション・メンバー属性などに変更が行われています。たとえば、勘定科目に関連付けられている小数点以下の桁数が 2 に設定されている場合、値を 10,000.00 に変更する必要があります。
CH	計算が必要。指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値ディメンションの少なくとも 1 つのデータ・セルが変更されたか、メタデータのパラメータまたはルールが変更されています。その結果、計算が実行されていないので、このディメンションのその他のデータ・セルが最新ではない可能性があります。基本レベルのエンティティの場合は、データ・セルがデータ入力か、データ・ファイルのロードで入力された可能性があります。エンティティの場合は、データ・セルが仕訳の転記で入力された可能性があります。
CH ND	計算が必要 - データなし。これは、セルで計算が実行される初回を示します。
TR	換算が必要。選択された値ディメンションのメンバーは、エンティティのデフォルト通貨ではなく、換算された値が現在のものではない可能性があります。
TR ND	換算が必要 - データなし。これは、セルで換算が実行される初回を示します。

表 4-2 (続き) 算出ステータス

ステータス	説明
CN	<p>連結が必要。次のアイテムが変更されたため、指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値ディメンションのデータが最新ではない可能性があります:</p> <ul style="list-style-type: none"> 子エンティティのデータ エンティティのデフォルト通貨のデータ メタデータ・パラメータまたはルール
CN ND	<p>連結が必要 - データなし。親にデータはありませんが、子エンティティのデータが変更されています。これは、セルに対して最初の連結が行われることを示します。</p>
ロック済	<p>指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値ディメンションのデータが、管理者によってロックされました。データを手動で変更することも、計算で変更することもできません。</p> <hr/> <p>ノート: 配賦関数を使用して、ロックされた宛先 POV でデータを変更できます。</p> <hr/>
NoData	<p>指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値ディメンションにデータがありません。</p>
NoAccess	<p>ユーザーが、指定したディメンションのメンバーへのアクセス権を持っていません。</p>

算出ステータスを表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 「グリッド表示オプション」から、「セル」に「算出ステータス」を選択します。

プロセス単位のレベルの表示

プロセス・コントロールが使用可能になっている場合、Oracle Hyperion Financial Management では、シナリオ、年、期間、エンティティの組合せに関するプロセス単位のレベルの情報が保持されます。プロセス確認レベルは、たとえば、データのレベルを次のレベルに上げたり、送信したり、承認したりする必要があるかどうかを示します。[プロセス単位のレベル](#)を参照してください。

プロセス確認レベルを表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 「グリッド表示オプション」から、「セル」に「プロセス・レベル」を選択します。

セル情報の表示

グリッドには、すべてのセル情報を表示できます。セル情報には、プロセス単位、視点の詳細などの視点や表示に関する情報が含まれます。また、算出ステータス、プロセス単位のレベルおよびセキュリティ・アクセスなどのステータス情報も含まれます。アプリケーションでプロセス管理の提出フェーズを使用する場合は、セル情報にはシナリオと期間に割り当てられたセルに対する提出フェーズが含まれます。

セル情報には、基本入力通貨の値が表示されます。保管されているデータはデータベースに保管された金額で、常に単位で表示されます。最高桁数のデータは入力された金額で、ユーザー・プリファレンスで定義された小数点および3桁の桁区切り記号で示されます。

表示データは、勘定科目に小数点以下の桁数でセルに表示された金額です。表示データは、保管されたデータとは異なって表示されることがあります。これは、表示するよう選択した小数点以下の桁数に基づいて丸められるためです。

たとえば、小数点以下の桁数に0を指定する勘定科目があり、エンティティの通貨の位取りが3で、ユーザー・プリファレンスで3桁ごとの区切り文字がカンマ(,)に、小数点がピリオド(.)に指定されているとします。12345.6789 という金額を入力すると、セルの情報は次のように表示されます:

表示データ=12,346(小数点以下の桁数を表示しないように丸める)最高桁数のデータ=12,345.6789 保管データ(単位で保管される)=12345678.9

セル情報を表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 情報を表示するセルを選択します。
3. 右クリックし、「セル情報」を選択します。
4. セル情報を確認したら、「閉じる」をクリックします。

セル調整の表示

データ・グリッドを使用すると、勘定科目に対して行った調整を表示できます。調整は、1つのシナリオと期間の通常残高勘定の借方または貸方に計上する調整の集合です。

仕訳入力のラベルと金額が表示されます。セルに複数の調整が入力されている場合は、すべての入力とこれに対応する金額がリスト表示されます。

調整情報を表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 調整履歴を表示する調整勘定メンバーのセルを選択します。
3. 右クリックし、「セル調整」を選択します。
4. セルの調整の詳細情報を確認したら、「OK」をクリックします。

セル・テキストの追加

データ・グリッドの任意の有効なセルにテキストの説明を追加できます。たとえば、Entity Currency や Parent Currency などのセルの通貨情報の説明を追加できます。既存のセル・テキストも編集できます。

セル・テキスト値に任意の文字を入力でき、空白文字を使用できます。ただし、ロード・フォーマットのセル・テキスト値の区切り文字として使用した場合、パイプ(|)またはチルダ(~)文字を含むことはできません。

MaxCellTextSize アプリケーション設定のメタデータ属性を使用して、アプリケーション内のセル・テキストのサイズ制限を設定できます。デフォルト設定の最大値は 8,000 バイトです。

視点の交差のさまざまなタイプの情報を格納するため、複数のセル・テキスト・エントリが必要な場合があります。複数のセル・テキスト・エントリを作成し、セル・テキスト・ラベルを定義して、セル・テキストを表示する際に情報のタイプを簡単に識別できます。複数のセル・テキスト・エントリを入力する前に、管理者はセル・テキスト・ラベルを定義する必要があります。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

アプリケーションごとに、**[Default]**というセル・テキスト・ラベルに対してシステムで生成されたメンバーがあります。データ・セルに 1 つのセル・テキスト・エントリのみを入力する場合、**[Default]**メンバーを選択して、セル・テキスト情報を入力できます。セルは、**[Default]**セル・テキスト・ラベルを使用した 1 つのエントリ、複数のセル・テキスト・ラベル・エントリ、またはセル・テキスト・ラベルと**[Default]**のエントリの組合せを持つことができます。

セル・テキストを追加すると、青の三角が表示され、セルに関連したテキストがあることを示します。

セル・テキストを追加するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. テキストを追加するセルを選択します。
3. 右クリックし、「セル・テキスト」を選択します。

「セル・テキスト」ダイアログ・ボックスは、セル・テキストの POV 情報およびグリッドを含みます。セルのテキストが存在しない場合、空のグリッドが表示されます。

4. 「**行の追加**」をクリックします。

最初に使用可能なセル・テキストを持つ行が、セル・テキスト・ラベルとして追加されます。

5. ラベルを受け入れるか、ドロップダウン・リストから以前にロードした他のラベルのいずれかを選択します。

同じグリッドで同じラベルを 2 回使用することはできません。

ヒント:

ドロップダウン・リストのセル・テキスト・ラベルは、アルファベット順で表示されます。長いリストからセル・テキスト・ラベルをすばやく見つけるには、ラベルの 1 つ以上の文字を入力します。たとえば、**R** と入力すると、**R** で始まる最初のセル・テキスト・ラベルにすばやく移動します(たとえば、**Rating**)。

6. 「セル・テキスト」列の**[Default]**システム・メンバー・ラベルの横にある行で、セル・テキストを入力します。

ヒント:

任意の辺をドラッグして「セル・テキスト」ダイアログ・ボックス全体のサイズを変更でき、右下隅をドラッグして「セル・テキスト」列のサイズを変更できます。任意の辺をドラッグしてサイズの変更が可能な、別の大きなポップアップ・ウィンドウでセル・テキストを編集するには、「編集」ボタンをクリックします。

7. **オプション:**セル・テキストの行を追加するには、「追加」をクリックし、セル・テキスト・ラベルを選択して、テキストを入力します。
8. セル・テキストの入力が終了したら、「OK」をクリックします。
9. データを保存するには「データの送信」を、データベースをリフレッシュするには「データのリセット」をクリックします。

セル・テキストの表示

データ・グリッドからセル・テキストを表示できます。セルにセル・テキストが含まれている場合は、セルの上部に青の三角が表示されます。

セル・テキストを表示するには:

1. セル・テキストを表示する入力セルを選択します。
2. 右クリックし、「セル・テキスト」を選択します。
3. **オプション:** 読取り専用モードでセル・テキスト全体を表示するには、「展開」ボタンをクリックします。編集可能なセル・テキスト・ボックスに戻すには、「縮小」ボタンをクリックします。
4. **オプション:** 別の大きいポップアップ・ウィンドウでセル・テキストを編集するには、「編集」ボタンをクリックします。
任意の辺をドラッグして編集ポップアップ・ウィンドウのサイズを変更できます。
5. 「OK」をクリックします。

データ・グリッドへのドキュメントの添付

セル・テキストを入力するだけでなく、あるいは、セル・テキストを入力するかわりに、詳細を説明する1つ以上のドキュメントをセルに添付できます。たとえば、Microsoft Word ドキュメント、Microsoft Excel スプレッドシート、XSL ファイルまたは RPT ファイルを添付できます。カスタム・ドキュメントをサーバーに添付またはサーバーから抽出するには、「カスタム・ドキュメントの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。カスタム・ドキュメントは、ドキュメント・マネージャにあらかじめロードしておく必要もあります。

アプリケーションを作成するときに、ユーザーごとにドキュメントの添付ファイルのサイズ制限や最大数を設定できます。この制限は、アプリケーション・メタデータの AppSettings 属性で設定します。

複数のドキュメントを添付できますが、1つのセルに添付するドキュメントは3つ以下にすることをお勧めします。データベースに与えるパフォーマンスの影響を制限するために、各ドキュメントのサイズは100K未満にする必要があります。

セルにドキュメントを添付するには:

1. データ・グリッドから、ドキュメントを添付するセルを選択します。

2. 右クリックし、「セル・テキスト」を選択します。
3. 次のいずれかの手順を実行してください。
 - セルに1つのドキュメントの添付を含めるには、[Default]セル・テキスト・ラベルを使用したセルをクリックします。
 - セル・テキスト・ラベル・エントリに複数のドキュメントの添付を含めるには、各セル・テキストの行の右側にあるアイコンをクリックして、「ドキュメントの添付」ダイアログを開き、ドキュメントをそのセル・テキストの行に添付します。
4. カスタム・ドキュメントのリストで、セルに関連付けるドキュメントを1つ以上選択し、「添付」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

添付したドキュメントが、「セル・テキスト」ダイアログ・ボックスの「添付ファイル」に表示されます。

ヒント:

セルのドキュメントを添付解除するには、添付解除するドキュメントを選択し、「添付解除」を選択します。

ライン・アイテムの詳細の追加

ライン・アイテムの詳細により、勘定科目の詳細情報を収集できます。たとえば、交通費の勘定科目があり、ガソリン、通行料金、駐車料金などの費用タイプごとに金額を詳しく表示できます。交通費の情報を入力するには、まず各ライン・アイテムの詳細に金額を入力します。詳細の保存後、交通費勘定科目の合計金額が自動的に計算されます。

データ・グリッドでは、ライン・アイテムの詳細および **UsesLineItems** メンバー属性が有効である基本レベルの勘定科目およびシナリオの有効な交差部分のライン・アイテムの詳細を追加できます。セルにライン・アイテムの詳細を入力すると、赤の三角が表示され、そのセルにライン・アイテムの詳細が関連付けられていることが示されます。

ライン・アイテムの詳細は、シナリオで定義された基本期間単位でのみ入力できます。たとえば、シナリオが「月次」の場合、「四半期1」にライン・アイテムの詳細を入力することはできません。

ライン・アイテムの詳細は、**Entity Currency Value** メンバーまたはデフォルト通貨に対してのみ適用されます。

ノート:

ライン・アイテムの詳細には引用符()を使用できず、説明の最大長は 80 文字です。

ライン・アイテムの詳細を追加するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. ライン・アイテムの詳細を追加するセルを選択します。
3. 右クリックし、「セル・ライン・アイテムの詳細」を選択します。
4. 「行の追加」をクリックします。

5. ライン・アイテムの詳細の**説明と値**を入力します。
6. ライン・アイテムを入力して、**[Enter]**を押すか、別のセルを選択して変更を確認します。

ヒント:

ライン・アイテムの詳細をクリアするには、0(ゼロ)を入力します。

7. 「**OK**」をクリックして、ライン・アイテムを保存します。
8. 「**閉じる**」をクリックします。

ライン・アイテムの詳細の表示

ライン・アイテムの詳細は YTD ビューでも期別ビューでも表示できますが、シナリオで定義された基本期間単位でのみ表示されます。たとえば、シナリオが「月次」で「四半期」ビューを表示している場合は、ライン・アイテムの詳細の説明は表示されますが、金額は表示されません。セルにライン・アイテムの詳細が含まれている場合は、セルの上部に赤の三角が表示されます。

シナリオのデフォルトのビューでライン・アイテムの詳細を表示するときは、合計金額がライン・アイテムのデータの合計と一致するかどうかのみ確認できます。データを別のビューで表示すると、合計金額とライン・アイテムの詳細は最初の期間以外の後続のすべての期間で一致しなくなります。

ライン・アイテムの詳細を表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. ライン・アイテムの詳細を表示するセルを選択します。
3. 右クリックし、「**セル・ライン・アイテムの詳細**」を選択します。
4. セルのライン・アイテムの詳細を確認します。
5. 「**OK**」をクリックします。

ライン・アイテムの詳細のオプション

ライン・アイテムの詳細のオプションは、データ・グリッドとデータ・フォームのいずれを使用しているかによって異なります。

表 4-3 ライン・アイテムの詳細のオプション

タスク	データ・グリッド	データ・フォーム
複数期間の表示	いいえ	はい
単一期間の表示	はい	はい
ライン・アイテムの詳細の挿入	はい	はい
単一期間のライン・アイテムの詳細のクリア	はい	はい
複数期間のライン・アイテムの詳細のクリア	いいえ	はい

表 4-3 (続き) ライン・アイテムの詳細のオプション

タスク	データ・グリッド	データ・フォーム
複数期間のライン・アイテムの詳細の削除	いいえ	はい

セルの履歴の表示

セルの履歴は、データ監査目的に使用できます。表示できるのは、ユーザー名とサーバー、実行されたアクティビティ、変更された時間、視点、および視点の新規の値です。このオプションは、管理者がアプリケーション設定時にシナリオと勘定科目に対してデータ監査機能を使用可能に設定した場合のみ、データ・グリッドで使用できます。

データ・ロードでは、セルのデータが変更された場合、セルの履歴はデータ・ロード取引のみを記録します。複数のデータ・ロードが行われたが、特定の交差に同じ値が使用された場合、セルの履歴はこれらの取引を記録しません。

セルの履歴を表示するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 履歴を表示するセルを選択します。
3. 右クリックして、「セルの履歴」を選択します。
4. セル情報を確認したら、「閉じる」をクリックします。

データ配賦の実行

エンティティのソース勘定科目のデータを、エンティティ・リストの宛先勘定科目に配賦できます。配賦を実行するエンティティは、基本エンティティまたは親エンティティです。配賦を実行するには、配賦の実行というセキュリティ役割を割り当てる必要があります。

配賦を実行する前に、まず配賦ルールを作成する必要があります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

配賦を実行するには:

1. データ・グリッドを開きます。
2. 配賦を実行するセルを選択します。
3. 右クリックし、「配賦」を選択します。

データ・グリッドからのエクイティ・ピックアップ計算の実行

エクイティ・ピックアップ・プロセスを実行または強制して、セルに対する適切なセキュリティ・アクセス権がある場合に、データ・グリッドから直接実行できます。エクイティ・ピックアップ調整の計算を参照してください。EPU 計算を実行するには、「出資比率の管理」というセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

エクイティ・ピックアップ計算を実行または強制するには:

1. データ・グリッドで、エクイティ・ピックアップ計算を実行または強制するセルを選択します。

2. 右クリックし、「EPUの実行」または「EPUの強制」を選択します。

データのロック

ユーザーがデータを変更できないように、1つ以上の期間でエンティティをロックできます。データがロックされると、シナリオ、年、エンティティ、親、値および期間のデータは変更できません。データをロックするには、データのロックというセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

基本エンティティから始まるエンティティ・ディメンションおよび値ディメンション全体が再帰的にロックされるため、データをロックする際に選択する必要があるのは、最上位の親エンティティのみです。各エンティティに対して、「エンティティ通貨」、「なし」、「親通貨」、「コントリビューションの合計」の順に値メンバーがロックされます。

次の条件が満たされる場合にのみ期間のデータをロックできます。

- エンティティの算出ステータスはOKである必要があります。[算出ステータスの表示](#)を参照してください。
- シナリオに対してプロセス管理が使用可能になっている場合は、エンティティのプロセス単位のレベルが「Published」である必要があります。プロセス管理が使用可能になっていて、セル・ステータスがNODATAの場合は、ロックする前にプロセス単位のレベルを上げる必要があります。[プロセス単位のレベル](#)を参照してください。
- エンティティが親の場合、そのすべての子もロックする必要があります。最上位の親メンバーを選択した場合、そのすべての子がロックされます。
- エンティティの通貨とエンティティ通貨の調整の検証勘定が、ゼロであることが必要です。

ノート: データのロックにより、格納済データは変更できなくなります。階層が変更された場合は、集約データの変更が可能になります。古い集約データに影響を与えずに階層の合計を変更するには、既存の階層を変更するのではなく、新しい階層を追加して古い階層を維持する必要があります。

データをロックするには:

1. データ・グリッドで、データをロックするセルを選択します。
2. 右クリックし、「ロック」を選択します。

ノート:

データのロックにより、格納済データは変更できなくなります。階層が変更された場合は、集約データの変更が可能になります。古い集約データに影響を与えずに階層の合計を変更するには、既存の階層を変更するのではなく、新しい階層を追加して古い階層を維持する必要があります。

データのロック解除

データをロック解除するには、データのロック解除というセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

データのロックを解除するには:

1. データ・グリッドで、データのロックを解除するセルを選択します。
2. 右クリックし、「**ロック解除**」を選択します。

エンティティ・ディメンションおよび値ディメンション全体が再帰的にロック解除されるため、データをロック解除する際に選択する必要があるのは、最上位の親エンティティのみです。

ソース取引と宛先取引の表示

連結の実行後、連結プロセスによって生成されたソース取引と宛先取引を表示して、監査証跡を表示できます。連結取引を表示するには、これらの取引を保管するように連結ルール・ファイルを設定しておく必要があります。HS.Con 関数の Nature パラメータによって、連結取引が保管されるかどうかが決まります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

また、宛先視点に対する「表示」または「すべて」のセキュリティ・アクセス権が必要です。宛先視点は、取引によって影響を受ける宛先セルに対応します。ソース視点は、連結が実行されたセルに対応します。カスタム・ディメンションや ICP ディメンションの親メンバーを選択すると、選択した親のすべての基本メンバーの該当監査取引詳細がすべて生成されます。

取引の表示を選択すると、Web ブラウザで別のウィンドウが開き、そこに表示されます。

連結取引を表示するには:

1. データ・グリッドで、連結取引を表示するセルを選択します。
2. 右クリックし、オプションを選択します。
 - 連結の影響を受ける宛先データを表示するには、「**宛先取引**」を選択します。選択したセルによって生成された宛先取引や、選択したセルによって影響を受ける宛先取引がすべて表示されます。
 - 連結が実行されたソース・データを表示するには、「**ソース取引**」を選択します。選択したセルに影響を与えたすべてのソース取引が表示されます。
3. **オプション:** 取引を印刷するには、「**印刷可能なページ**」をクリックします。別のウィンドウが開き、そのウィンドウから取引を印刷できます。
4. 宛先取引またはソース取引の表示が終了したら、「**OK**」をクリックします。

エンティティ詳細レポートの実行

エンティティ詳細レポートは、指定されたエンティティの特定のデータ・セルに対して、連結パス全体の完全な監査詳細を提供します。このレポートは、エンティティ通貨値ディメンションに入力されたソース金額で開始され、そのすべての関連詳細が個々の値ディメンションに表示されます。関連詳細には、仕訳転記プロセスで生成された仕訳入力や、連結プロセスの一部として収集された監査取引詳細などがあります。勘定科目にライン・アイテムの詳細が含まれている場合は、勘定科目に入力された関連のライン・アイテムの詳細もレポートに表示されます。

このレポートには、取引の表示機能、および連結プロセスの各ステップで生成された金額詳細(通貨換算や内部取引消去など)の表示機能があります。また、以前の期間から派生したデータの取引レコードも表示されます。

次の手順を参照してください:

- [エンティティ詳細レポートの表示](#)

- [外部 URL によるエンティティ詳細レポートへのアクセス](#)
- [レポートの行と列の選択](#)
- [ライン・アイテムの詳細の表示](#)
- [基本レベルの詳細の表示](#)
- [ソース取引と宛先取引の表示](#)
- [仕訳の詳細へのリンク](#)
- [エンティティ詳細レポートの印刷](#)

エンティティ詳細レポートの表示

エンティティ詳細レポートは、データ・グリッドまたはフォームからアクセスできます。

エンティティ詳細レポートを表示するには:

1. データ・グリッドまたはフォームから、エンティティ取引の詳細を表示するセルを選択します。
2. 右クリックして、「**エンティティの詳細**」を選択します。
ブラウザで別のウィンドウが開き、レポートが表示されます。

外部 URL によるエンティティ詳細レポートへのアクセス

設定した外部リンクから、エンティティ詳細レポートにアクセスできます。アプリケーション名と POV 情報を含む URL を指定します。URL からエンティティ詳細レポートにアクセスし、対応する仕訳にもドリル・ダウンできます。

外部 URL からエンティティ詳細レポートにアクセスするには:

1. アプリケーションを作成し、アプリケーションの要素、データおよび仕訳をロードします。
2. データ・フォームを作成します。
3. 右クリックして「**エンティティの詳細**」を選択し、ダイアログ・ボックスを展開して仕訳 ID を表示します。
4. 仕訳 ID のリンクをクリックし、「仕訳」ページが開いていることを確認します。
5. POV に基づいてエンコードされた外部 URL を形成します。

URL は、手動で作成する必要があります。モジュール、`extcaller`、`uitask`、`app_instance_id` および `povstring` が含まれている必要があります。

6. 現在のセッションからログオフします。
7. リンクをテストするには、作成した URL を入力し、パスワードを入力し、「エンティティの詳細」ページから仕訳 ID のリンクをクリックします。「仕訳」ページが表示されます。

レポートの視点

エンティティ詳細レポートでは、使用しているデータ・グリッドの視点が使用されます。レポートに使用される視点情報には、シナリオ、年、期間、エンティティ、ビュー

一、勘定科目、ICP、カスタムなどのディメンションが含まれます。値ディメンション情報は無視され、すべての値メンバーがレポートに表示されます。

レポートの実行時に選択できる勘定科目は1つのみです。選択した勘定科目が親勘定科目の場合は、ライン・アイテムの詳細、仕訳の詳細、または勘定科目の監査取引の詳細は表示されません。親勘定科目の基本メンバーの詳細は表示されません。基本メンバーのサポートは、カスタム・ディメンションにのみ適用されます。たとえば、ICPのカスタム1が親メンバーの場合は、親メンバーのすべての基本メンバーに転記されるすべての入力が表示されます。

レポートの行と列の選択

レポートに表示する行と列を選択できます。これらの選択は、いつでも変更できます。

表示できる行には、Entity Currency、Entity Curr Adjs、Entity Curr Total、Parent Currency、Parent Curr Adjs、Parent Curr Total、Parent Adjs、Parent Total、Proportion、Elimination、Contribution、Contribution Adjs、Contribution Totalがあります。

列には、金額、カスタム勘定科目、ICP、借方、貸方、ID、または注記が表示されます。

適用可能なオプションを選択解除することにより、一部の取引詳細またはディメンションを非表示にできます。たとえば、レポートに仕訳の詳細のみを表示する場合は、仕訳オプションのみを選択したままで、他のすべての行表示オプションを選択解除できます。勘定科目に使用しないという理由で、カスタム列も非表示にする場合は、列表示からこれらのオプションを選択解除できます。

値列には、すべての値メンバーが含まれています。親メンバーの通貨がエンティティの通貨と同じ場合は、重複情報となるため、親通貨関連の値メンバーの表示はスキップされます。金額列には、データ・サブキューブの金額が含まれています。各取引詳細の金額は、借方列または貸方列に保管されます。どちらに保管されるかは、データ・セルの記号によって決まります。

「備考」列には、金額に関する追加情報が含まれます。値ディメンションに応じて、金額が「入力」、「計算済」、「派生」であるかどうか、または取引の監査のために Nature パラメータを使用するかどうかなど、考えられる備考コメントを含めることができます。前のレコードに関する情報も含めることができます。エンティティ詳細取引レポートの主な目的の1つは、データベースに格納された金額を構成するすべての取引レコードを表示することです。前のライン・アイテムの詳細、仕訳および取引の備考は、データベースに格納された金額が、ライン・アイテムの詳細、仕訳の調整、連結の消去、および前の期間の派生データからのものであることを示します。

表 4-4 注記列に表示される値

値ディメンション	注記
エンティティ通貨	<ul style="list-style-type: none"> • 入力 • 計算済 • 前のライン・アイテムの詳細 • 派生
調整	<ul style="list-style-type: none"> • 計算済 • グループのラベル • 前の仕訳 • 派生
比率/消去	<ul style="list-style-type: none"> • 種類 • 前の取引 • 派生

レポートの行と列を選択するには:

1. データ・グリッドで、エンティティ取引の詳細を表示するセルを選択します。
2. 右クリックして、「エンティティの詳細」を選択します。
ブラウザで別のウィンドウが開き、レポートが表示されます。
3. 「表示」、「行」の順に選択し、表示する行を選択するか、「すべて表示」を選択します。
4. 「表示」、「列」の順に選択し、表示する列を選択するか、「すべて表示」を選択します。
5. オプション: 列を表示または非表示にするには、「表示」、「列」、「列の管理」の順に選択し、矢印キーを使用して列を「非表示」または「表示可能」列リストに移動します。
6. オプション: 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、上矢印および下矢印を使用して列を並べ替えて、「OK」をクリックします。

ライン・アイテムの詳細の表示

エンティティの詳細レポートで、ライン・アイテムの詳細を表示するオプションは、ライン・アイテムの詳細を使用するように定義されているシナリオおよび勘定科目にのみ使用可能です。ライン・アイテムの詳細情報は、エンティティ通貨値ディメンションにのみ使用可能です。

基本レベルの詳細の表示

エンティティの詳細レポートで、基本の詳細を表示するオプションは、親メンバーのセルであるデータ・セルにのみ適用されます。基本の詳細を表示するオプションが選択されていない場合は、親のセルの集計金額がレポートの1つのエントリとして表示されます。基本の詳細の表示を選択した場合は、親のセルの基本レコードのすべての情報が表示されます。

たとえば、AllCustom1 がカスタム1 ディメンションの親メンバーであると仮定します。基本メンバーには、Opening、Appropriation、Variances、Increases、Decreases、Closing などがあります。レポートに基本の詳細を表示する選択をした場合は、AllCustom1 に適用できるすべての基本レコードが含まれているレポートが生成されます。基本の詳細を表示する選択をしなかった場合は、選択した親のセルの金額のみが表示されます。たとえば、親のセル AllCustom1 が、基本の詳細なしで表示されます。

ソース取引と宛先取引の表示

エンティティ詳細レポートで、連結プロセスから生成された監査取引の詳細情報を表示できます。取引の詳細を表示するために、宛先取引を表示できます。金額を生成したソース取引も表示する必要がある場合は、ソース取引も表示できます。

これらの取引を保管するための連結ルール・ファイルを設定してある場合のみ、これらの取引を表示できます。ルール・ファイルの Nature パラメータを指定して HS.CON 関数を使用する必要があります。HS.CON 関数が使用されなかったり、HS.CON 関数で Nature パラメータが指定されないと、連結プロセスの実行時に監査取引の詳細は生成されません。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

仕訳の詳細へのリンク

エンティティ詳細レポートに、調整値メンバーの仕訳の詳細が含まれている場合は、仕訳 ID とともに借方金額または貸方金額が表示されます。ID 列の仕訳 ID のリンクをクリックして、仕訳の詳細ページを表示できます。このウィンドウには、その仕訳入力のすべての情報が含まれています。

仕訳の詳細にリンクするには:

1. エンティティ詳細レポートを表示します。
2. レポートの ID 列で仕訳 ID をクリックします。

エンティティ詳細レポートの印刷

エンティティの詳細レポートを印刷すると、すべてのエンティティのレポートが一度に処理されます。すべてのエンティティの全ページが含まれる 1 つのレポートが生成されます。

レポートを印刷するには:

1. エンティティの詳細レポートで、「印刷可能なページ」をクリックします。
2. レポートが別のウィンドウで開き、そのウィンドウからレポートを印刷できます。

内部取引のドリルスルー

取引が勘定科目に転記された後、転記された金額を反映する勘定科目残高をデータ・グリッドに表示できます。転記済取引が含まれているグリッド内の勘定科目のセルは、緑のアイコンになります。勘定科目のセルに対応する取引の詳細は、別のウィンドウに表示されます。

内部取引にドリルスルーするには、「内部取引ユーザー」のセキュリティ役割が必要です。データ・グリッドでは、内部取引の表示のみ可能です。このビューを使用して内部取引を変更することはできません。

データ・グリッドで内部取引を表示するには:

1. データ・グリッドで、内部取引を含むセルを選択します。
2. 右クリックして「内部取引」を選択し、取引の詳細を表示します。

ソース・データへのドリルスルー

データのロードに Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition を使用している場合、データ・グリッドから FDMEE にドリルしてソース・データを表示できます。POV 情報およびロードの日時を含むデータ・ロードの追加情報を表示できます。

セルにドリル可能なステータスがあるのは、セルに外部ソースからロードしたデータがある場合と、定義済で Oracle Hyperion Financial Management にロードされている指定の領域内にセルの視点(POV)がある場合です。ドリル可能なセルは、セルの左下隅のアイコンで示されます。

FDMEE の詳細は、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition 管理者ガイドを参照してください。

ソース・データにドリルスルーするには:

1. データ・グリッドから、ドリル可能なインディケータを持つ入力セルを選択します。
2. 右クリックし、「ドリル・スルー」を選択して、選択済セルに対して視点を含む新規ページを開始します。このページでは、ソース・データにドリルスルーできます。

ノート:

FDMEE をドリルスルーした場合、新規ブラウザ・ウィンドウに情報が表示されます。ERPI へドリルスルーした場合は、Workspace の新規タブに情報が表示されます。

Oracle Financial Management Analytics の起動

Oracle Hyperion Financial Management から Oracle Financial Management Analytics にシームレスにアクセスし、Financial Management ダッシュボードを操作できます。まず、次の要件を満たす必要があります:

- 「ダッシュボード・ビューア」のセキュリティ役割を持っていることを確認します。この役割がない場合、管理者に問い合せてください。
- Oracle Financial Management Analytics を、ご使用の Financial Management マシンまたは他のマシンにインストールします。
- OFMA 構成ユーティリティを実行して、Financial Management ダッシュボードを構成します。このユーティリティから、Financial Management アプリケーションを構成する手順に従います。
- **HFM ワークスペース内の OFMA の有効化オプション**を選択します。

詳細は、*Oracle Financial Management Analytics 管理者ガイド*を参照してください。

Oracle Financial Management Analytics を起動するには:

1. Financial Management にログオンします。
2. 「**連結**」、「**分析**」の順に選択するか、左側のペインの「**アプリケーション・タスク**」メニューから「**分析**」を選択します。

ノート:

このメニュー・オプションが表示されるのは、「ダッシュボード・ビューア」のセキュリティ役割を持っていて、Oracle Financial Management Analytics がインストールおよび構成されている場合のみです。

3. Oracle Financial Management Analytics ホーム・ページから、OFMA 構成で設定したダッシュボード・ページを開きます。

プロセス管理のオプション

データ・グリッドから、次のプロセス管理のオプションを使用できます。

- 情報
- 開始

- レベルを上げる
- 却下
- サインオフ
- 送信
- 承認
- 発行

これらのオプションは、プロセス・コントロール・モジュールからも使用できます。
[プロセス管理の使用](#)を参照してください。

次の方法を使用して、プロセス管理のオプションにアクセスできます:

- データ・グリッドから、プロセス管理が設定されているデータ・グリッドのセルを選択し、右クリックして「**プロセス管理**」を選択します。
- プロセス・コントロール・モジュールを使用するには、「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。

次も参照:

[連結プロセス](#)

[換算レートを入力](#)

[連結比率を入力](#)

[データの計算](#)

[データの換算](#)

[連結オプション](#)

[データの連結](#)

[連結ステータス](#)

連結プロセス

連結は、依存エンティティからデータを収集し、親エンティティにデータを集約するプロセスです。基本レベルのエンティティにデータを入力またはロードし、データを計算および調整した後、組織全体にわたってデータを集約するために、選択したシナリオおよび期間の連結を実行します。データの連結時に、必要な通貨換算と内部取引消去、そして必要に応じて資本調整または少数出資比率計算が行われます。

Oracle Hyperion Financial Management はデフォルトの連結メソッドを提供します。法定連結を使用可能にするには、連結プロセスをカスタマイズします。アプリケーションの作成時に、連結ルール属性を設定できます。デフォルトでは、この設定は有効になっておらず、デフォルトの連結と消去が行われます。この設定を有効にすると、管理者が定義した `Sub Consolidate()` ルーチンに記述されているルールに従って連結が行われます。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

連結プロセスはデータ・グリッドから起動します。連結を開始すると、指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値に対して連結ルールが実行されます。そのプロセスの一部として、すべての子孫エンティティ、および同じ年のそれ以前のすべての期間に対して実行されます。連結プロセスは、影響を受ける個々のエンティティおよび値に対して、すべての `Calculate` 関数を実行します。換算プロセスは、子エンティティ通貨から親エンティティ通貨へのデータの変換が必要な場合に実行されます。子エンティティと親エンティティが同じ通貨を使用している場合、換算プロセスは実行されません。

依存エンティティを連結する親エンティティを選択した後、必要なプロセスが自動的に実行されます。

- エンティティのすべての子孫に対して計算ルールが実行されます。
- 子エンティティのデータと親エンティティのデータが異なる通貨の場合は、為替レートに基づいて換算が行われます。子エンティティの場合、換算値は、値ディメンションの親通貨メンバーに格納されます。親通貨の換算値は、親にロールアップされます。

- 仕訳に調整データを入力します。
- 連結プロセスが開始します。子の親の出資比率が 100%未満の場合、出資比率の割合が適用されます。比率および消去の詳細が生成され、コントリビューションデータが作成されます。仕訳でコントリビューションデータをさらに調整できます。

連結プロセスのエンティティ・レベルで、入力勘定科目にデータを入力し、仕訳を使用して調整をエンティティ通貨で入力します。計算ルールがエンティティ・レベルで実行され、そのエンティティのデータが調整されます。

Financial Management では値が倍精度浮動小数点数で保存され、等価の有効桁数 15 桁に変換されます。アプリケーションでの通貨や全体的な値の構成方法によっては、システムの精度の制限に達すると、値が丸められる可能性があります。このような状況が発生した場合は、この問題に関していくつかの対処方法を提案可能な信頼できるコンサルタントに相談することをお勧めします。数値の違いは精度の制限に起因するもので、ソフトウェアのバグではありません。オラクル社では、近い将来に精度を 16 桁以上に上げる予定はありません。

例:

次の 3 つの数があると仮定します。

A: 0.0000000000000003

B: 0.0000000000000003

C: 1

$A+B = 0.0000000000000006$ の加算を行い

その後で C を加算すると有効桁数が 16 桁になるので、システムによって最終桁の 6 が切り上げられます。結果は次のようになります:

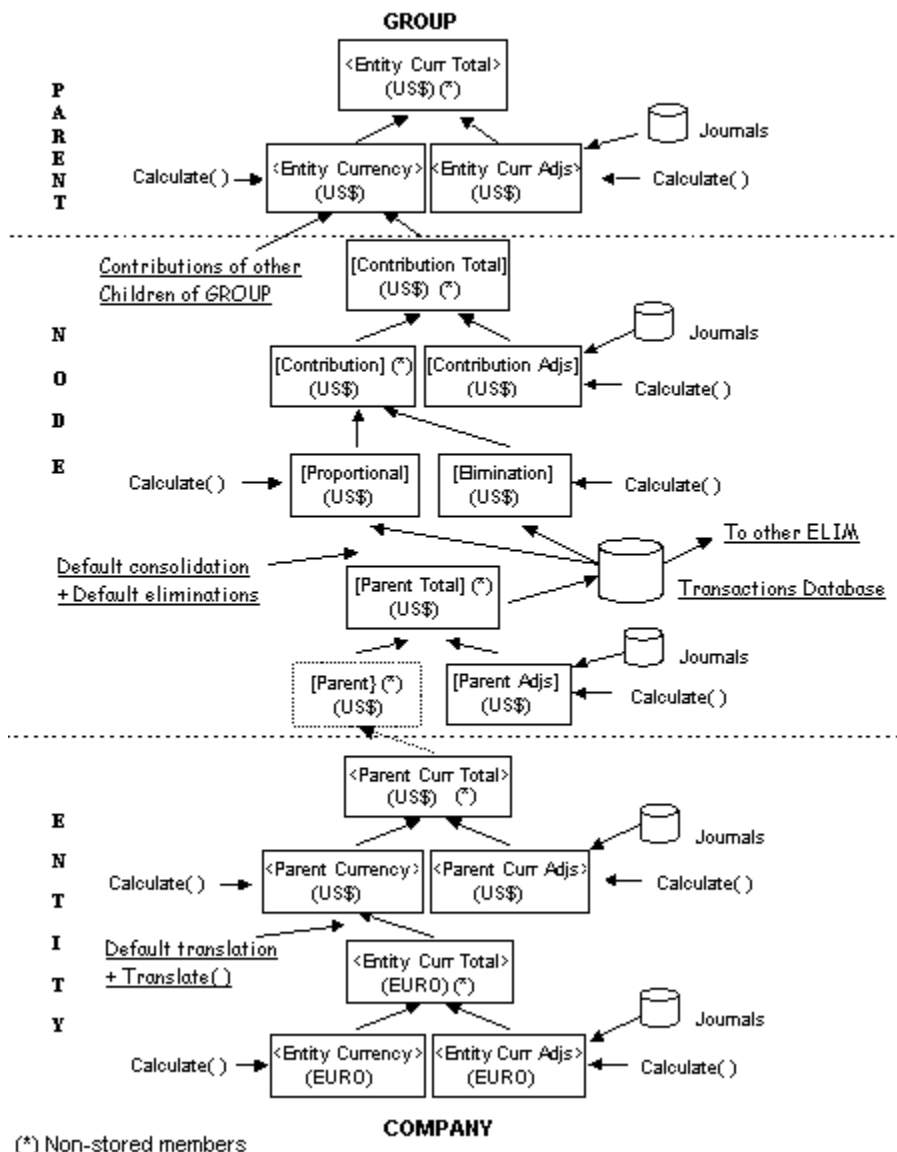
1.0000000000000001

$B+C$ を先に加算してから A を加算した場合、どちらの 0.0000000000000003 も 1 に加算されるとすぐに切り捨てられます(結果が有効桁数 15 桁を超えるため)。結果は 1 になります。

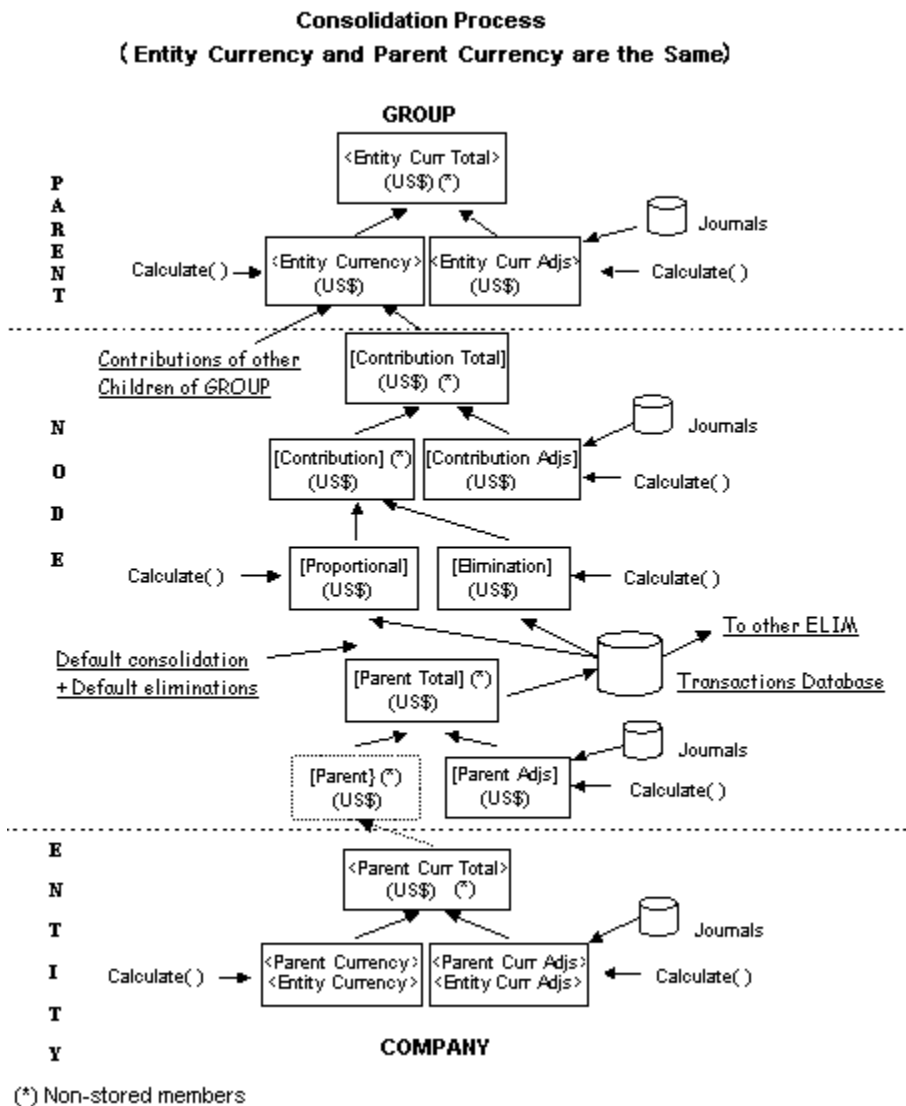
次に連結プロセスの例を示します。

1 つ目の例は、エンティティの通貨および親通貨が異なる場合のプロセスを示しています。

Consolidation Process
(Entity Currency and Parent Currency are Different)



次の例は、エンティティの通貨と親通貨が同じ場合のプロセスを示しています。



換算プロセス

通貨の換算では、勘定科目のデータがある通貨から別の通貨に変換されます。依存エンティティの現地通貨のデータが、現地通貨の為替レートを使用して親の通貨に換算されます。

基本エンティティのエンティティで通貨レートを入力できます。換算時にエンティティで通貨レートを入力すると、直接換算レートに対して現在のエンティティが使用されます。たとえば、エンティティ通貨レートが Euro で、親通貨レートが USD の場合は、換算されるエンティティで Rate.Euro.USD が使用されます。エンティティで通貨レートを入力しないと、通貨エンティティの間接レートから直接レートが取得されます。たとえば、Rate.USD.Euro で保管された金額がリバースされ、Euro/USD が取得されます。

通貨エンティティに通貨レートが見つからない場合は、None エンティティの直接レートが使用されます。直接レートが見つからない場合は、None エンティティの間接レートから直接レートが取得されます。たとえば、Rate.USD.Euro で保管されている金額がリバースされ、Euro/USD が取得されます。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

換算ルールが実行された後、換算済通貨ディメンションが保管されます。換算済金額を、仕訳を使用して各通貨で調整できます。

これら2つのレベル(換算済データと調整済データ)の合計は、連結プロセスの開始点です。エンティティと親のデフォルト通貨が同じ場合は、換算プロセスは発生しません。その場合は、自動的に連結プロセスに直接移動します。

依存エンティティの値は、連結時に親にロールアップするため、比率の詳細や消去の詳細などの連結の詳細を保管できます。比率の詳細には、連結ルールの実行結果である残高が含まれています。また、基本値に対する連結比率の結果も反映されます。消去の詳細には、消去ルールに基づいて連結時に取得された消去残高が含まれています。

コントリビューション(調整前)値が、集約として導出されます。この場合でも、仕訳を通してこのデータを調整できます。仕訳を転記すると、コントリビューションを調整するための計算ルールが実行されます。

コントリビューション・データ(調整前)と調整の合計は、その親への基本エンティティのコントリビューションを表します。そのコントリビューションは、親の連結データを取得するために、親のその他の直属の子のコントリビューションに追加されます。コントリビューションの中間レベルへの集約は、計算中に保存されません。ただし、親に連結されたデータはシステムによって保存されます。

計算プロセス

データの計算時には、指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値の計算ルールが実行されます。たとえば、前の月の期末残高を使用して、現在の月の期首残高を計算できます。

同じ年の前の期間の計算ルールが以前に実行されていない場合は、それらすべての計算ルールも実行されます。計算ルールでは、ソース・エンティティの連結や換算の実行は行われなため、ステータス(「換算要」、「連結が必要」など)はセルから削除されません。入力勘定科目が最新でない場合でも、計算ではそのデータを使用して計算済勘定科目が抽出されます。

換算レートの入力

通貨レートは、換算および連結時に使用されます。各アプリケーションの通貨レートは、データ・グリッドで通貨メンバーに手動でデータを入力するか、ASCII ファイルからレートをロードして維持します。[データのロード](#)を参照してください。

アプリケーション通貨ごとに、通貨(元)および通貨(先)ディメンションは、システム定義の通貨メンバーを含みます。勘定科目タイプが **Currencyrate** の勘定科目に、通貨レートを入力する必要があります。

通貨(元)ディメンションの通貨レートを通貨(先)ディメンションの通貨に換算します。

次の視点グリッド設定を使用して、データ・グリッドに通貨レートを入力できます:

- 行のディメンション = 通貨(元)
- 列のディメンション = 通貨(先)
- 行リストおよび列リスト = アプリケーションの通貨または通貨システム・リストが含まれる、ユーザーが作成したメンバー・リスト

表 5-1 換算レート入力用の視点

ディメンション	説明
シナリオ	通貨レートが適用されるシナリオ
年	通貨レートが適用される年

表 5-1 (続き) 換算レート入力用の視点

ディメンション	説明
期間	通貨レートが適用される期間
ビュー	YTD
エンティティ	通貨レートが適用されるエンティティ、または「なし」 「なし」を指定した場合は、デフォルト通貨レートが使用されます。
値	エンティティ通貨
勘定科目	通貨レートを格納するために作成する勘定科目。 勘定科目タイプは <code>currencyrate</code> である必要があります。メタデータ・ロード・ファイルで指定します。
内部取引パートナ	ICP なし
通貨(元)	変換元通貨 通貨システム・メンバー・リストを選択します。
通貨(先)	変換先通貨 通貨システム・メンバー・リストを選択します。

連結比率の入力

デフォルトでは、親エンティティによってその子エンティティが 100 パーセント連結されます。連結比率はオプションで指定できます。連結比率によって、親エンティティに連結される子エンティティの比率が決定されます。連結比率は、PCON というシステム定義アカウントに保管されます。データグリッドに手動で連結比率を入力することも、データ・ロードのプロセス中に情報をロードすることもできます。[データのロード](#)を参照してください。

次のグリッド設定を使用して、連結比率を入力できます。

- 行のディメンション = エンティティ
- 列のディメンション = 期間

この視点を使用して親エンティティのセルにデータを入力することで、連結比率を入力します。

表 5-2 連結比率入力用の視点

ディメンション	説明
シナリオ	連結比率が適用されるシナリオ
年	連結比率が適用される年

表 5-2 (続き) 連結比率入力用の視点

ディメンション	説明
期間	連結比率が適用される期間 (グリッドを上記のとおり設定している場合は、期間を指定する必要はありません。)
ビュー	YTD
エンティティ	親エンティティ
値	なし
勘定科目	PCON
ICP	子エンティティ
カスタム	なし

データの計算

データの計算は、データ・グリッドまたはプロセス・コントロール・モジュールから実行できます。

データを計算すると、選択したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値に対して計算ルールが実行されます。また、以前に計算されなかった同じ年のそれ以前の期間がすべて計算されます。たとえば、6月のデータを計算すると、1月から5月の以前に計算されなかったデータが計算されます。

親値ではなく、コントリビューション値を計算できます。コントリビューション値は、依存エンティティによって親に追加される値です。コントリビューション値を選択すると、コントリビューションの合計を親エンティティにロールアップせずに、現在のエンティティの値ディメンション・メンバーがロードされます。また、コントリビューション値を生成するために計算の実行を強制することもできます。

「計算」オプションは、セルの最後の計算以降にデータが変更されたセルにのみ使用できます。データが変更されていないセルを計算するには、「計算の強制」オプションを使用します。たとえば、セルで、前の期間の値に基づいて現在の期間の値を計算する式が使用されているとします。前の期間の値が変更されたら、「計算の強制」を使用して現在の期間の値を再計算できます。

データを計算した後、「データの計算」メニュー・オプションが使用不可になります。新規のデータまたはメタデータをロードまたは入力すると、「データの計算」メニュー・アイテムが再び使用可能になります。「データの計算」オプションが使用不可の場合に、「計算の強制」オプションを使用してデータを計算できます。

データを計算するには:

1. データ・グリッドを開き、視点を選択します。
2. データを計算するセルを選択します。
3. 右クリックし、次のいずれかのアクションを行います。
 - 選択したセルを計算するには、「**計算**」を選択します。
 - 選択したすべてのセルに対して計算の実行を強制するには、「**計算の強制**」を選択します。

- コントリビューション値を計算するには、「**コントリビューションの計算**」を選択します。
- 選択したすべてのコントリビューション値に対して計算の実行を強制するには、「**コントリビューションの計算の強制**」を選択します。

データの換算

通貨の換算では、勘定科目のデータがある通貨から別の通貨に変換されます。連結プロセス中またはそれ以外のときに独立して、エンティティの入力通貨から、アプリケーションに定義されている別の通貨にデータを換算できます。データの連結時、親エンティティのデフォルト通貨が子エンティティと異なる場合に、通貨の換算が行われます。子のエンティティ通貨の合計のデータが親の通貨に換算され、その結果が子の通貨メンバーに格納されます。親の通貨以外の通貨への換算が必要な場合もあります。値ディメンションには、すべてのアプリケーション通貨のメンバーが含まれます。

換算を開始すると、指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値に対してデフォルト換算ルールが実行されます。同じ年のそれ以前の期間の換算が必要な場合 (TR ステータス)は、それらのすべての期間の換算ルールもプロセスの一部として実行されます。換算ルールでは依存エンティティは連結されないため、セルに連結が必要かどうかを示すステータス (CN ステータス)は除去されません。エンティティのデフォルト通貨のデータが最新でない場合でも、そのデータを使用して、指定した通貨の入力勘定科目 (値ディメンション)が抽出されます。次に、換算ルールによって計算プロセスが自動的に開始され、計算済勘定科目が、指定した通貨に対してロードされます。

アプリケーションに通貨レートを入力したら、エンティティの通貨を、値ディメンションの任意のアプリケーション通貨に換算できます。

データの換算や換算ステータスの表示は、データ・グリッドまたはプロセス・コントロール・パネルから実行できます。[算出ステータスの表示](#)を参照してください。

データを換算した後、「データの換算」メニュー・コマンドは使用不可になります。新規データをロードすると、「データの換算」メニュー・オプションが再び使用可能になります。データの換算メニュー・オプションを使用できないが、換算プロセスを実行する必要がある場合には、「換算の強制」メニュー・コマンドを使用できます。

データを換算するには:

1. データ・グリッドを開き、視点を選択します。
2. 換算ルールを実行するセルを選択します。
3. 右クリックし、次のいずれかのアクションを行います。
 - 選択したセルを換算するには、「**換算**」を選択します。

ノート:

現在のシナリオ、年、期間、エンティティおよび値のすべてのセルで、換算が実行されます。

- 選択したすべてのセルに対して換算の実行を強制するには、「**換算の強制**」を選択します。

連結オプション

連結は、依存エンティティからデータを収集し、親エンティティにデータを集約するプロセスです。連結を開始すると、指定したシナリオ、年、期間、エンティティおよび値に対して連結プロセスが実行されます。また、同じ年のそれ以前の期間と子孫に対する連結が以前に実行されていない場合は、そのプロセスの一部として、その期間

と子孫すべてに対する連結が実行されます。連結プロセスでは、影響を受けた各エンティティおよび値に対して、すべての計算ルール関数が実行され、必要に応じて、子エンティティから親エンティティに変換するために換算プロセスが実行されます。連結プロセスでは、子から親エンティティ・データを抽出するプロセスで使用されない通貨に対しては換算ルールは実行されません。

データの連結に使用できるオプションは、「連結(変更したデータのみ連結)」、「データのあるものすべてを連結」、「すべて連結」です。

「連結(変更したデータのみ連結)」オプション

連結(変更したデータのみ連結)オプションは、ステータスが CN または CN ND の親エンティティに使用できます。親エンティティに対してこのオプションを選択すると、現在の年の現在の期間または以前の期間に算出ステータスが CN、CN ND、CH、TR、TR ND であった選択済の親の連結パス内にある依存エンティティに対して、計算(計算、換算、連結)が実行されます。連結が必要なエンティティのみが更新されるため、連結が最も効率的なオプションです。

現在の期間や同じ年度内のそれまでの期間で、ステータスが NODATA のプロセス単位がすべて無視されます。

現在の期間で、ステータスが OK または OK SC のプロセス単位が、再計算、再換算または再連結されることはありません。

選択した親の過去の期間に、ステータスが CN か CN ND のプロセス単位がある場合は、本年度内で、親に影響を及ぼす変更が加えられた最初の期間から現在の期間までのすべてのデータに対して連結が実行されます。

データのあるものすべてを連結

「データのあるものすべてを連結」オプションは、ステータスとは無関係にあらゆる親エンティティに対して使用できます。親エンティティに対してこのオプションを選択すると、現在の期間またはそれ以前の期間で、(ステータスには関係なく)データが含まれている選択した親の連結パス内のすべての依存エンティティが連結されます。このオプションは、メタデータの変更後にシステム・ステータスを OK SC から OK に更新するのに便利です。

現在の期間や同じ年度内のそれまでの期間で、ステータスが NODATA のプロセス単位がすべて無視されます。

現在の期間で、ステータスが OK または OK SC のプロセス単位が、再計算、再換算または再連結されます。

選択した親の過去の期間に、ステータスが CN か CN ND のプロセス単位がある場合は、本年度内で、親に影響を及ぼす変更が加えられた最初の期間から現在の期間までのすべてのデータに対して連結が実行されます。

すべて連結

「すべてを連結」オプションは、ステータスには関係なく、あらゆる親エンティティに対して使用できます。親エンティティに対してこのオプションを選択すると、ステータスには関係なく、選択した親の連結パス内のすべてのプロセス単位に対して計算が実行されます。データの有無にかかわらず、すべてのエンティティが連結されます。このオプションは、以前の期間からの更新が必要な場合や、データのないエンティティを配賦を使用してロードする必要がある場合に便利です。データのないエンティティが除外されず、連結パフォーマンスに重大な影響を与える可能性があるため、このオプションは慎重に使用する必要があります。

現在の期間で、ステータスが NODATA のプロセス単位が、計算、換算および連結されます。

現在の期間で、ステータスが OK または OK SC のプロセス単位が、再計算、換算および再連結されます。

選択した親の過去の期間に、ステータスが CN か CN ND のプロセス単位がある場合は、本年度内で、親に影響を及ぼす変更が加えられた最初の期間から現在の期間までのすべてのデータに対して連結が実行されます。

データの連結

連結は、データ・グリッドまたは「プロセス・コントロール」ペインから実行するか、タスクの自動化機能を使用してプロセスを自動化できます。連結オプションには、データ・グリッドの任意の親エンティティのショートカット・メニューからアクセスできます。連結する親を選択したら、その親のすべての子孫も連結されます。ある期間のデータを連結する際に、前の複数期間のデータがまだ連結されていない場合は、前の期間のデータも連結されます。

「連結」オプションを使用するには、連結のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。「すべて連結」を使用するには、「すべて連結」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。「データのあるものすべてを連結」を使用するには、「データのあるものすべてを連結」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

連結が完了すると、連結されたエンティティのステータスが OK に変わります。

ノート:

選択したエンティティの連結プロセスが実行中の場合は、重複する連結が開始されると、警告メッセージが表示されます。

データを連結するには:

1. データ・グリッドを開き、視点を選択します。
2. 連結を実行するセルを選択します。
3. 右クリックし、次のいずれかのアクションを行います。
 - 選択したエンティティを連結するには、「**連結**」を選択します。
 - データが含まれているかどうかとは関係なく、選択したすべてのエンティティを連結するには、「**すべて連結**」を選択します。

ノート:

現在のシナリオ、年、期間、エンティティおよび値のすべてのセルのデータが連結されます。

- データが含まれている、選択したすべてのエンティティを連結するには、「**データのあるものすべてを連結**」を選択します。

連結の進行状況の表示

データを連結する場合は、ある特定のセッションで開始した 1 つ以上の連結の進行状況をモニターできます。

連結が開始されると、別のウィンドウに進行状況バーが自動的に表示されます。連結の完了ステータス、視点および最終更新時間に関する情報を表示できます。一連のタスクを開始すると、実行中のタスクの進行状況を参照できます。

進行状況バーが表示されているときは、同じ Web ページを使用して Oracle Hyperion Financial Management の他のタスクを実行できません。別のユーザー・インターフェー

ス・インスタンスを開始することで、別のセッションを開始できます。タスクの開始元のインスタンスを終了しても、そのタスクは、そのままサーバーで引き続き実行されます。

また、タスクの実行モジュールで、タスクのステータスを表示できます。タスクの実行モジュールでは、実行中のすべてのタスクを表示できますが、自身が開始したタスクのみを取り消せます。

連結の進行状況を表示するには:

1. データ・グリッドを開き、連結を実行するセルを選択します。
2. 右クリックして、「**連結**」、「**すべてを連結**」または「**データのあるものすべてを連結**」を選択します。
3. 次のいずれかのアクションを行います:
 - 「**連結の進行状況**」 ページで、現在実行中のタスクの進行状況を確認します。
 - 「**タスクの実行**」 ページで、「**タスク**」 フィルタから「**連結**」 タスクを選択し、「**表示**」 をクリックして進行状況を表示します。

連結タスクの取消し

データの連結時に、連結タスクや一連の連結を取り消すことができます。実行中のタスク・モジュールから連結の進行状況を表示している場合は、自身が開始したタスクの取消しのみを行えます。管理者は、すべてのユーザーが開始した実行中のタスクを取り消して、リソースを解放できます。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

連結タスクを取り消すには、次のいずれかを行います。

- 「**連結の進行状況**」 ページで、取り消す連結の「**取消し**」 をクリックします。
- 「**タスクの実行**」 ページで、「**タスク**」 フィルタから「**連結**」 タスクを選択し、「**タスクの中止**」 をクリックします。

連結ステータス

データ・グリッドに連結ステータスを表示できます。基本レベルまたは親エンティティの連結ステータスが、次のことが原因で変わることがあります。

- 組織構造の変更
- 勘定科目の追加や削除
- エンティティの属性の変更
- データ・グリッドへのデータの入力、または外部ソースからのデータのロード
- 仕訳の転記または転記の戻し
- 内部取引の転記または転記の戻し
- ルールのリロード
- 連結比率の変更
- 換算レートの変更

データ・フォームの使用方法

次も参照:

- [データ・フォームの操作](#)
- [データ・フォームを開く](#)
- [データ・フォームのツールバーの使用方法](#)
- [データ・フォームの指示の表示](#)
- [データ・フォームのチャートとしての表示](#)
- [Smart View でデータ・フォームを開く](#)
- [データ・フォームのデータの入力](#)
- [ショートカット・メニュー・コマンド](#)
- [セル・テキストの使用](#)
- [データ・フォームへのドキュメントの添付](#)
- [データ・フォームのライン・アイテムの詳細の入力](#)
- [データ・フォームのライン・アイテムの詳細の表示](#)
- [データ・フォームでのライン・アイテムの詳細の削除](#)
- [リンクされたフォームの使用方法](#)
- [データ・フォームの視点の変更](#)
- [データ・フォームのデータの計算](#)
- [内部取引のドリルスルー](#)
- [ソース・データへのドリルスルー](#)

データ・フォームの操作

管理者が作成したフォームを使用して、アプリケーションにデータを入力できます。データ・フォームでは、特定の期間や勘定科目などの事前に定義されているビューにデータを入力できます。フォームは、マルチディメンショナル分析用のネストされた列および行をサポートしており、詳細にドリル・インできます。

使用可能なデータ・フォームのリストを表示できます。リストには、名前、説明、最終変更日が表示されます。「データ・フォームの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている場合は、各フォームのセキュリティ・クラスも表示できます。

フォルダにもフォームを含めることができます。データ・フォーム管理者は、フォームを整理するためのフォルダを作成できます。フォルダ内のフォームの表示はできませんが、フォルダの作成または削除は管理者のみが行えます。

セキュリティ権限を持っているフォームにのみデータを入力できます。データを開いたり、表示、入力、編集して、データ・フォームにデータを保存できます。フォームの作成、ロードおよび削除ができるのは、「データ・フォームの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている管理者のみです。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

開いているフォームから、**Oracle Smart View for Office** でフォームを起動し、操作することができます。**Smart View** の使用の詳細は、*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

次のトピックを参照してください:

- [データ・フォームのツールバーの使用方法](#)
- [データ・フォームのデータの入力](#)
- [データ・フォームへのドキュメントの添付](#)
- [データ・フォームのデータの計算](#)

データ・フォームを開く

データ・フォームを開き、データを表示、入力または編集できます。フォームを開くには、そのフォームのセキュリティ・クラスへのアクセス権を持っている必要があります。

データ・フォームを開くには:

1. 「**連結**」¹、「**ドキュメント**」の順に選択します。
2. データ・フォームのリストから、フォームを選択します。
3. 「**選択したドキュメントを開く**」をクリックするか、「**アクション**」、「**開く**」の順に選択して、フォームをダブルクリックします。

データ・フォームのツールバーの使用方法

データ・フォームの上にあるツールバーには、様々な機能のボタンが付いています。次の表に、フォームを開いているときに使用できるツールバー・ボタンを示します。

表 6-1 データ・フォームのツールバー・ボタン

関数	ツールバーのボタン
新規	
保存 (開いているフォームでは無効)	
名前を付けて保存 (開いているフォームでは無効)	
フォームを開く (開いているフォームでは無効)	
デザイナー	

表 6-1 (続き) データ・フォームのツールバー・ボタン

関数	ツールバーのボタン
スクリプト	
データの送信	
リフレッシュ	
計算	
計算の強制	
行の抑制	
列の抑制	
行と列の抑制	
セル・テキスト	
Instructions	
印刷	
Smart View で開く	

データ・フォームの指示の表示

データ・フォームにデータを入力する前に、管理者が作成したフォームの使用方法に関する指示を表示できます。管理者が指示を作成していない場合は、「指示」をクリックすると、指示が定義されていないというメッセージが表示されます。

データ・フォームの指示を表示するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。[データ・フォームを開く](#)を参照してください。
2. フォーム・ツールバーで、「指示」をクリックします。
3. 指示を見終わったら、「OK」をクリックします。

データ・フォームのチャートとしての表示

デフォルトでは、データ・フォームは表形式で表示されます。データ・フォームをチャートとして表示することもでき、通常こちらの方がすばやく読み込まれます。

フォーマットは、フォームで使用できるデータに基づきます。これは現在のページに基づいており、次のページに移動したり、メンバーを展開または縮小すると変更されます。チャートの表示をカスタマイズできます。

チャートの凡例内のカラーのボックスはチェック・ボックスとして機能します。アイテムをアクティブ化または非アクティブ化でき、これにより、表示される内容が影響されます。

データ・フォームをチャートとして表示するには:

1. データ・フォームを開きます。
2. メニュー・バーで、「**チャート**」を選択するか、「**アクション**」を選択してから「**チャート**」を選択します。
3. 「**チャート**」ダイアログ・ボックスで、オプション「**チャート**」、「**表**」または「**両方**」を選択します。
4. 「**両方**」を表示する場合は、「**チャートの場所**」で「**垂直**」または「**水平**」を選択します。
5. 「**チャートのタイプ**」から、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 折れ線
 - 棒(水平)
 - 棒(垂直)
 - 円
 - ドーナツ
 - 面
 - バブル
 - 極
 - レーダー
 - 縦棒(水平)
 - 縦棒(垂直)
 - ファンネル
 - パレート
6. オプション: チャートを3次元で表示する場合は「**3Dチャート**」チェック・ボックスを選択します。
7. 「**凡例の位置**」で、チャートの凡例の位置を選択します。
 - 上
 - 下
 - 左
 - 右

- なし
8. 「ラベルの位置」から、次のいずれかのオプションを選択します。
- **中央**。棒グラフでは、テキストは棒上の中央に表示されます。棒以外のグラフでは、テキストは、値が正の場合はデータ・ポイントの上に表示され、値が負の場合はデータ・ポイントの下に表示されます。
 - **最大**。棒グラフでは、テキストは棒上の上端近くに表示されます。棒以外のグラフでは、テキストは、値が正の場合はデータ・ポイントの下に表示され、値が負の場合はデータ・ポイントの上に表示されます。
 - **最小**。棒グラフでは、テキストは棒上の下端近くに表示されます。棒以外のグラフでは、テキストは、値が正の場合はデータ・ポイントの上に表示され、値が負の場合はデータ・ポイントの下に表示されます。
 - **なし**。ラベルは表示されません。
9. オプション: 「すべてのラベルを表示」を選択します。
10. 「背景」で、チャート背景のオプションとして、「なし」、「実線」または「グラデーション」のいずれかを選択します。
- 「実線」または「グラデーション」をクリックし、対応するドロップダウンから、「最後に使用した色」、「デフォルト色」または「カスタム色」を選択します。
11. チャート・オプションをフォーム定義に保存するには、「OK」をクリックします。

Smart View でデータ・フォームを開く

データ・フォームから、Oracle Smart View for Office でフォームを開き、操作できます。Smart View を開くには、インストールされている必要があります。Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイドを参照してください。

Smart View を介してフォームを開くと、新しいタブにフォームが開きます。Smart View がまだ開いていない場合、フォームを開く前に起動されます。

ノート:

フォームは、フォーム定義に POV が定義されて、Smart View にロードされません。ユーザー POV に変更を加えた場合、Smart View には反映されません。

Oracle Hyperion Financial Management に接続していない間、Microsoft Excel でフォームを操作し、フォームを保存し、オフラインで変更を加えることができます。Financial Management に接続すると、変更された値を Financial Management に送信できます。

Smart View でデータ・フォームを開くには:

1. データ・フォームを開きます。
2. 「Smart View で開く」をクリックするか、または「アクション」、「Smart View」の順に選択します。

データ・フォームのデータの入力

管理者が作成した事前定義されているデータ・フォームで、データの入力または編集ができます。入力セルにデータを入力するか、データ・グリッドで、金額を要約レベ

ルの期間に直接入力して、基本レベルの期間全体に配分できます。計算済セルや、無効な交差のセルへのデータの入力はできません。赤で表示されます。

データ・フォームにデータを入力するには、フォームのセキュリティ・クラスへのアクセス権と、フォームのセル内のデータに対するセキュリティ権限が必要です。

フォームの様々な部分を表示するには、行と列のスクロール・バーを使用します。

セル・テキストをフォームに追加するには、セルが読取り専用の場合、セル・テキストをセルに直接入力できません。セル・テキスト・エディタを使用する必要があります。データ・フォームのセル・テキストの入力を参照してください。

データ・フォームにデータを入力するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
データ・フォームを開くを参照してください。
2. 入力セルをダブルクリックして、データを入力します。入力セルは、白のセルとして表示されます。

ノート:

セルをクリアするには、内容を削除して NODATA と入力したり、右クリックして「クリア」を選択したりできます。

3. データを入力し終わったら、「データの送信」をクリックします。
4. データをリフレッシュするには、「リフレッシュ」をクリックします。

ショートカット・メニュー・コマンド

データ・フォームから、ショートカット・メニュー・コマンドを使用できます。これらのコマンドは、フォームで右クリックしたときに表示されます。データ・フォームには、データ・グリッドと同じ右クリック・メニュー・コマンドが用意されていますが、使用可能なメニュー・コマンドはセルのステータスおよびセキュリティ権限によって異なります。

ノート:

データ・フォームで連結アクションを実行する場合、連結処理の後、フォームは自動的にリフレッシュされません。連結処理が完了したら、データ・フォームから、「リフレッシュ」をクリックしてフォームのデータをリフレッシュします。連結の実行中にデータ・フォームのデータのリフレッシュを選択した場合は、タスクの実行ページを手動で閉じる必要があります。

表 6-2 データ・フォームの右クリック・メニュー・コマンド

メニュー・コマンド	説明
セル・テキスト	セル・テキストを表示します。データ・フォームのセル・テキストの表示を参照してください。
内部取引	内部取引を表示します。内部取引のドリルスルーを参照してください。

表 6-2 (続き) データ・フォームの右クリック・メニュー・コマンド

メニュー・コマンド	説明
リンクされたフォーム	リンク・フォームにナビゲートします。 リンクされたフォームの使用方法 を参照してください。
セル情報	フォーム・プロパティを表示します。 セル情報の表示 を参照してください。
計算の強制	基本エンティティの場合、計算の実行を強制します。 データの計算 を参照してください。
コントリビューション計算の強制	基本エンティティの場合、コントリビューション計算の実行を強制します。 データの計算 を参照してください。
連結	親エンティティの場合、エンティティを連結します。 データの連結 を参照してください。
コントリビューションの計算	親エンティティの場合、コントリビューションを計算します。 データの計算 を参照してください。
データのあるものすべてを連結	親エンティティの場合、ステータスに関係なく、選択した親の連結パス内にある、データを含むすべての依存エンティティを連結します。 データの連結 を参照してください。
すべて連結	親エンティティの場合、ステータスに関係なく、選択した親の連結パス内にあるすべてのプロセス単位について計算を実行します。次を参照してください。 データの連結
換算	選択したセルを換算します。 データの換算 を参照してください(換算が使用可能な場合のみ使用可能)。
換算の強制	換算の実行を強制します。 データの換算 を参照してください(換算が使用可能な場合のみ使用可能)。
ロック	期間のデータをロックします。 データのロック を参照してください。
ロック解除	期間のデータをロック解除します。 データのロック解除 を参照してください。
プロセス管理	プロセス単位のステータスを表示します。 プロセス・コントロールの要約の表示 を参照してください。
配賦	基本エンティティの場合、ソース勘定科目から宛先勘定科目にデータを配賦します。 データ配賦の実行 を参照してください。
ソース取引	ソース取引を表示します。 ソース取引と宛先取引の表示 を参照してください。
宛先取引	宛先取引を表示します。 ソース取引と宛先取引の表示 を参照してください。

表 6-2 (続き) データ・フォームの右クリック・メニュー・コマンド

メニュー・コマンド	説明
エンティティの詳細	エンティティの詳細を表示します。エンティティ詳細レポートの実行を参照してください。
セルの履歴	セルの履歴を表示します。セルの履歴の表示を参照してください。
EPU の実行	エクイティ・ピックアップ処理を実行します。エクイティ・ピックアップ調整の計算を参照してください。
EPU の強制	エクイティ・ピックアップ処理の実行を強制します。エクイティ・ピックアップ調整の計算を参照してください。
実行	オンデマンド・ルールを実行します。データ・フォームでのオンデマンド・ルールの実行を参照してください。
ドリル	ERPI を介してソース・データヘドリルスルーします。FDMEE または ERPI のドリル可能な領域をロードした場合のみ使用可能です。ソース・データへのドリルスルーを参照してください。

セル・テキストの使用

データ・フォームの任意の有効なセルにテキストの説明を追加できます。たとえば、Entity Currency や Parent Currency などのセルの通貨情報の説明を追加できます。

データ・フォームのセル・テキストの入力

データ・フォームのセルにテキスト説明を入力できます。たとえば、エンティティ通貨などのセルの通貨情報に説明を追加します。

セル・テキスト値に任意の文字を入力でき、空白文字を使用できます。ただし、ロード・フォーマットのセル・テキスト値の区切り文字として使用した場合、パイプ(|)またはチルダ(~)文字を含むことはできません。

MaxCellTextSize アプリケーション設定のメタデータ属性を使用して、アプリケーション内のセル・テキストのサイズ制限を設定できます。デフォルト設定の最大値は 8,000 バイトです。

視点の交差のさまざまなタイプの情報を格納するため、複数のセル・テキスト・エントリが必要な場合があります。複数のセル・テキスト・エントリを作成し、セル・テキスト・ラベルを定義して、セル・テキストを表示する際に情報のタイプを簡単に識別できます。複数のセル・テキスト・エントリを入力する前に、管理者はセル・テキスト・ラベルを定義する必要があります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

アプリケーションごとに、[Default]というセル・テキスト・ラベルに対してシステムで生成されたメンバーがあります。データ・セルに1つのセル・テキスト・エントリのみを入力する場合、[Default]メンバーを選択して、セル・テキスト情報を入力できます。セルは、[Default]セル・テキスト・ラベルを使用した1つのエントリ、複数の

セル・テキスト・ラベル・エントリ、またはセル・テキスト・ラベルと[Default]のエントリの組合せを持つことができます。

セル・テキストを追加すると、青の三角が表示され、セルに関連したテキストがあることを示します。

ノート:

計算されるセルには、テキストを付けることはできません。

データ・フォームにセル・テキストを入力するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. テキストを追加するセルを選択します。
3. 次のいずれかのアクションを行います:
 - セルを選択し、右クリックして、「セル・テキスト」を選択します。
 - セルを選択し、フォーム・ツールバーで「セル・テキスト」をクリックします。
 - 管理者がフォームにセル・テキスト用の列を設定している場合は、その列にテキストを入力します。

4. 右クリックし、「セル・テキスト」を選択します。

「セル・テキスト」ダイアログ・ボックスは、セル・テキストの POV 情報およびグリッドを含みます。セルのテキストが存在しない場合、空のグリッドが表示されます。

5. 「**行の追加**」をクリックします。

セル・テキスト・ラベルとして[Default]システム・メンバーを使用した行が追加されます。

6. [Default]ラベルを受け入れるか、ドロップ・ダウン・リストから他の以前にロードしたラベルのいずれかを選択します。

同じグリッドで同じラベルを 2 回使用することはできません。

ヒント:

ドロップダウン・リストのセル・テキスト・ラベルは、アルファベット順で表示されます。長いリストからセル・テキスト・ラベルをすばやく見つけるには、ラベルの 1 つ以上の文字を入力します。たとえば、**R** と入力すると、**R** で始まる最初のセル・テキスト・ラベルにすばやく移動します(たとえば、**Rating**)。

7. 「セル・テキスト」列の[Default]システム・メンバー・ラベルの横にある行で、セル・テキストを入力します。

ヒント:

任意の辺をドラッグして「セル・テキスト」ダイアログ・ボックス全体のサイズを変更でき、右下隅をドラッグして「セル・テキスト」列のサイズを変更できます。任意の辺をドラッグしてサイズの変更が可能な、別の大きなポップアップ・ウィンドウでセル・テキストを編集するには、「**編集**」ボタンをクリックします。

- オプション:**セル・テキストの行を追加するには、「**行の追加**」をクリックし、セル・テキスト・ラベルを選択して、テキストを入力します。
- セル・テキストの入力が終了したら、「**OK**」をクリックします。

データ・フォームのセル・テキストの表示

データ・フォームから、セル・テキストを表示できます。セルにテキストが含まれている場合は、セルの上部に青の三角が表示されます。

データ・フォームにセル・テキストを表示するには:

- ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
- セル・テキストを表示する入力セルを選択します。
- 次のメソッドのいずれかを使用します:
 - セルを選択し、右クリックして、「**セル・テキスト**」を選択します。
 - セルを選択し、フォーム・ツールバーで「**セル・テキスト**」をクリックします。
 - 管理者がフォームにセル・テキスト用の列を設定している場合は、その列にテキストが表示されます。

ノート:

セルの視点は、情報の目的としてのみ表示されます。

- オプション:** 読取り専用モードでセル・テキスト全体を表示するには、「**展開**」ボタンをクリックします。編集可能なセル・テキスト・ボックスに戻すには、「**縮小**」ボタンをクリックします。
- オプション:** 別の大きいテキスト・ボックスでセル・テキストを編集するには、「**編集**」ボタンをクリックします。

任意の辺をドラッグして編集ポップアップ・ウィンドウのサイズを変更できます。
- 「**OK**」をクリックします。

データ・フォームのセル・テキストの編集

セルにセル・テキストが含まれている場合は、「セル・テキスト」ダイアログ・ボックスではなく、セルの横にある列でセル・テキスト・タイトルを編集できます。セル・テキスト・タイトルは1行で、最大文字数は69文字です。最大文字数を超過してセルに入力されたテキストは、本文テキストとみなされます。

セル・テキスト・タイトルのみが含まれているセルでは、列にセル・テキスト・タイトルが表示され、セルの左上端に青色の三角マークは表示されません。69文字を超えるセル・テキストでは、セルに青色の三角マークが表示され、「セル・テキスト」ダイアログ・ボックスでのみ編集可能です。

セル・テキストを編集するには:

- ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
- テキストを編集するセルを選択します。
- 次のいずれかのアクションを行います:

- セルを選択し、右クリックして、「セル・テキスト」を選択します。
- セルを選択し、フォーム・ツールバーで「セル・テキスト」をクリックします。
- 管理者がフォームにセル・テキスト用の列を設定している場合は、その列にセル・テキストを入力するか、「セル・テキスト」をクリックして、さらにテキストを追加します。

「セル・テキスト」ダイアログ・ボックスは、セル・テキストの POV 情報およびグリッドを含みます。セルのテキストが存在しない場合、空のグリッドが表示されません。

4. 「行の追加」をクリックします。

セル・テキスト・ラベルとして[Default]システム・メンバーを使用した行が追加されます。

5. [Default]ラベルを受け入れるか、ドロップ・ダウン・リストから他の以前にロードしたラベルのいずれかを選択します。

同じグリッドで同じラベルを2回使用することはできません。

ヒント:

ドロップダウン・リストのセル・テキスト・ラベルは、アルファベット順で表示されます。長いリストからセル・テキスト・ラベルをすばやく見つけるには、ラベルの1つ以上の文字を入力します。たとえば、R と入力すると、R で始まる最初のセル・テキスト・ラベルにすばやく移動します(たとえば、Rating)。

6. 「セル・テキスト」列の[Default]システム・メンバー・ラベルの横にある行で、セル・テキストを入力します。

ヒント:

任意の辺をドラッグして「セル・テキスト」ダイアログ・ボックス全体のサイズを変更でき、右下隅をドラッグして「セル・テキスト」列のサイズを変更できます。任意の辺をドラッグしてサイズの変更が可能な、別の大きなポップアップ・ウィンドウでセル・テキストを編集するには、「編集」ボタンをクリックします。

7. オプション: セル・テキストの行を追加するには、「行の追加」をクリックし、セル・テキスト・ラベルを選択して、テキストを入力します。

ヒント:

行を削除するには、「行の削除」をクリックします。

8. セル・テキストの入力が終了したら、「OK」をクリックします。

データ・フォームへのドキュメントの添付

セル・テキストを入力するだけでなく、あるいは、セル・テキストを入力するかわりに、詳細を説明する1つ以上のドキュメントをセルに添付できます。たとえば、Microsoft Word ドキュメント、Microsoft Excel スプレッドシート、XSL ファイルまたは RPT ファイルを添付できます。カスタム・ドキュメントをサーバーに添付またはサーバーから抽出するには、「カスタム・ドキュメントの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーに対して、ドキュメントの添付ファイルのサイズ制限とファイル数制限をアプリケーションで設定できます。この制限は、アプリケーション・メタデータの AppSettings 属性で設定します。

複数のドキュメントを添付できますが、1つのセルに添付するドキュメントは3つ以下にすることを推奨します。データベースに与えるパフォーマンスの影響を制限するために、各ドキュメントのサイズは100K未満にする必要があります。

セルにドキュメントを添付するには:

1. データ・フォームから、ドキュメントを添付するセルを選択します。
2. 右クリックし、「セル・テキスト」を選択します。
3. 「添付」をクリックします。
4. 次のいずれかの手順を実行してください。
 - セルに1つのドキュメントの添付を含めるには、[Default]セル・テキスト・ラベルを使用したセルをクリックします。
 - セル・テキスト・ラベル・エントリに複数のドキュメントの添付を含めるには、各セル・テキストの行の右側にあるアイコンをクリックして、「ドキュメントの添付」ダイアログを開き、ドキュメントをそのセル・テキストの行に添付します。
5. カスタム・ドキュメントのリストで、セルに関連付けるドキュメントを1つ以上選択し、「添付」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。

ヒント:

セルのドキュメントを添付解除するには、添付解除するドキュメントを選択し、「添付解除」を選択します。

データ・フォームのライン・アイテムの詳細の入力

データ・フォームのセルにライン・アイテムの詳細を入力できます。セルがライン・アイテムの詳細をサポートしていない場合は、このメニュー・オプションは表示されません。

説明の最大長は80文字です。詳細説明の変更はできません。

データ・フォームにライン・アイテムの詳細を追加するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. 詳細を追加するセルを選択します。
3. 右クリックし、「セル・ライン・アイテムの詳細」を選択します。

ノート:

セルの視点は、情報の目的としてのみ表示されます。

4. セル・ライン・アイテムの詳細を入力し、「保存」をクリックします。
5. 行を追加するには、「新規項目」をクリックします。

ノート:

複数期間のライン・アイテムの詳細に対してフォームが設定された場合は、「**行の削除**」をクリックして、ライン・アイテムの詳細の行を削除します。「**行のクリア**」をクリックして、行からライン・アイテムの詳細をクリアすることもできます。

6. データをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。
7. ライン・アイテムの詳細を入力し終わったら、「**OK**」をクリックします。

ノート:

入力を保存すると、ライン・アイテムの詳細が含まれているセルには、セルの上部に赤い三角が表示されます。セル・テキストとライン・アイテムの詳細の両方が含まれているセルには、セルの上部に青と赤の三角が表示されます。

データ・フォームのライン・アイテムの詳細の表示

データ・フォームにセルのライン・アイテムの詳細を表示できます。セルにライン・アイテムの詳細が含まれている場合は、セルの上部に赤の三角が表示されます。ライン・アイテムの詳細は、1 期間ごと、または全期間で表示できます。システム管理者は、データ・フォームの作成時に、ライン・アイテムの詳細の表示方法を指定します。

データ・フォームにライン・アイテムの詳細を表示するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. ライン・アイテムの詳細を表示するセルを選択します。
3. 右クリックし、「**セル・ライン・アイテムの詳細**」を選択します。

データ・フォームでのライン・アイテムの詳細の削除

データ・フォームで、セルのライン・アイテムの詳細を削除できます。セルにライン・アイテムの詳細が含まれている場合は、セルの上部に赤の三角が表示されます。


ライン・アイテムの詳細を削除するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開き、すべての入力期間のライン・アイテムの詳細を表示するように管理者が設定しているかどうかを確認します。
2. ライン・アイテムの詳細を削除するセルを選択します。
3. 右クリックし、「**セル・ライン・アイテムの詳細**」を選択します。
4. 削除する行を選択し、「**行の削除**」を選択します。
5. 「**保存**」をクリックしてライン・アイテムの詳細ページを閉じ、「**リフレッシュ**」をクリックしてデータをリフレッシュします。

リンクされたフォームの使用方法

データ・フォームの作成時に、管理者は、あるフォームからさらに詳細なデータ入力ビューにドリルスルーできる別のフォームへのリンクを定義できます。たとえば、要約勘定科目残高が含まれているフォームは、勘定の詳細を持つ該当フォームへリンク

できます。あるフォームから別のフォームへのリンクは、行全体に適用されます。データ・フォームは、リンクされたフォームを最大 64 含むことができます。

リンクされたフォームは次のアイコンで示されます: .

リンクされたフォームを使用するには:

1. データ・フォームで、リンクされたフォームが含まれている行を選択します。
2. セルを右クリックして、「リンクされたフォーム」を選択します。
3. リンクされたフォームを使用し終わったら、「OK」をクリックします。

データ・フォームの視点の変更

管理者は、フォームおよび視点の行と列を定義して、データ・フォームを作成します。ただし、指定されたリストからメンバーを選択することで、フォームの視点の一部の要素をユーザーが変更できるようにすることも可能です。これによって、同じフォームを別のディメンション・メンバーに対して使用できます。

視点は、フォームの上部に表示されます。変更できる要素は、視点にリンクとして表示されます。たとえば、エンティティ・ディメンションがリンクとして表示される場合は、エンティティは変更できますが、視点の他のディメンションは変更できません。

フォームの POV バーの選択可能なディメンションにお気に入りメンバーが設定されている場合、そのメンバーを選択できます。これにより、「メンバーの選択」ダイアログから開いたり選択したりせずに、リスト内のメンバーを迅速および容易に選択できます。お気に入りメンバーのリストは、ディメンションの横にあるドロップダウン矢印で示されます。ドロップダウン矢印をクリックすると、そのディメンションのお気に入りメンバーのリストが、設定した順序で表示されます。たとえば、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで、エンティティ・ディメンションのお気に入りメンバーに、EastRegion.EastSales、EastRegion.EastProduction、EastRegion.Admin を設定した場合、データ・フォームの POV バーでエンティティ・ディメンションの横にあるドロップダウン矢印をクリックすると、そのメンバーのリストが表示されます。

管理者が動的 POV メンバー・リストを定義した場合、それを選択して、有効なメンバーを持つ行および列に迅速に移入できます。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで、現在のディメンションの有効な動的 POV メンバー・リストが、ダイアログ・ボックスの下部に接尾辞@POV を付けて表示されます。

データ・フォームの視点要素を変更するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. 視点で、変更する要素をクリックします。
3. 「メンバー選択」から、変更するディメンション・メンバーを選択して、「OK」をクリックします。

自動的にデータ・フォームに戻ります。

データ・フォームのデータの計算

データ・フォームにデータを入力した後、データを計算して結果を表示できます。データの計算を選択すると、グリッドに定義されているシナリオ、年、期間、値、親およびエンティティのデータが計算されます。

データ・フォームでデータを計算するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. データを計算して保存するセルを選択します。
3. 次のいずれかのアクションを行います:
 - 「**計算**」をクリックします。
 - ステータスとは無関係に、グリッドに定義されている各シナリオ、年、期間、値、エンティティに対して計算の実行を強制するには、「**計算の強制**」をクリックします。

ノート:

計算する前に、データを送信する必要があります。

データ・フォームでのオンデマンド・ルールの実行

管理者がデータ・フォームに対してオンデマンド・ルールを作成した場合、そのフォームで作業しているとき、ルールを実行できます。オンデマンド・ルールを使用すると、計算の結果を迅速に確認できます。たとえば、特定のオンデマンド・ルールを実行するよう設定されたデータ・フォームで作業している場合、データを入力し、オンデマンド・ルールを実行して、計算結果を確認できます。

オンデマンド・ルールを実行すると、現在表示されているフォームのセルの1つに有効な POV を持ち、ロックされていないすべてのサブキューブ上で、ルールが実行されます。セルの「**計算**」および「**計算の強制**」オプションが使用可能な場合のみ、ルールを使用できます。

オンデマンド・ルールを実行するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. データを計算するセルを選択します。
3. 次のメソッドのいずれかを使用します:
 - ツールバーで「**実行**」ボタンをクリックし、実行するルールを選択します。

ノート:

このプロセスではロックされていないフォーム上のすべての有効な POV でルールを実行します。

- セルを右クリックし、コンテキスト・メニューから「**実行**」を選択し、実行するルールを選択します。

ノート:

このプロセスでは選択されたセルの POV のルールのみを実行します。

管理者がフォームにオンデマンド・ルールを指定していない場合、「**実行**」ツールバー・ボタンおよび右クリック・メニュー・オプションは使用できません。

4. セルを右クリックし、「**セル情報**」を選択して、算出ステータスを確認します。

データ・フォームのデータの非表示

行および列の非表示オプションは、「行の抑制」および「列の抑制」オプションを使用して個別に設定することも、「行/列の抑制」オプションを使用してまとめて設定することもできます。たとえば、行/列の抑制を「NoData」に設定すると、「行の抑制」と「列の抑制」の両方が「NoData」に設定されます。行と列の非表示オプションが異なる場合は、選択されたオプションにチェックマークが表示されて、現在の設定を示します。たとえば、行では「NoData」が非表示、列では「ゼロ」が非表示の場合、「行/列の抑制」の設定は「NoData とゼロ」です。「NoData とゼロ」をクリックすると、行と列の両方で「NoData」と「ゼロ」が非表示になります。

ノート:

すべての非表示オプションを使用するには、「データ入力フォームの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。この役割が割り当てられていない場合、無効なセルの非表示オプションのみ使用できます。

データを非表示にするには:

1. ドキュメント・マネージャから、データ・フォームを開きます。
2. 次の1つまたは複数のアクションを行います。
 - 行を非表示にするには、ツールバーの「**行の抑制**」をクリックし、「なし」を選択するか、次のオプションを1つ以上選択します: 「データなし」、「ゼロ」または「無効」。
 - 列を非表示にするには、ツールバーの「**列の非表示**」をクリックし、「なし」を選択するか、または「NoData」、「ゼロ」または「無効」をいずれかを選択します。
 - 行および列を非表示にするには、ツールバーの「**行/列の抑制**」をクリックし、「なし」を選択するか、次のオプションを1つ以上選択します: 「データなし」、「ゼロ」または「無効」。

ヒント:

非表示オプションの設定を変更する行または列のヘッダーの上にカーソルを置き、右クリックして、非表示オプションを選択することもできます。行と列の両方のオプションを変更するには、行と列が交わる部分の左上にカーソルを置き、右クリックして、オプションを選択します。

データ・フォームへのメンバーの追加


管理者はデータ・フォームを定義するときに、フォームのユーザーがデータの追加行を挿入できるようにすることを選択できます。行を追加できる場合は、「メンバーの追加」ボタン(+)が、フォームの左側のヘッダー・セルに表示されます。ユーザーは追加のメンバーを選択し、データを入力して保存できます。新しいエントリがフォームに挿入されて、合計が更新されます。

たとえば、内部取引 1、内部取引 2、内部取引 4 の内部取引を持つ勘定科目に対して定義されているフォームがあるとします。内部取引 3 と内部取引 5 のメンバーを選択し、これらのメンバーにデータを入力して保存できます。フォームは新しく保存されたデータでリフレッシュされて、適切な階層順で新しい行が表示されます。

追加するメンバーを行から選択すると、選択したメンバーは行の左側に赤いプラス記号(+)が付いてフォームに表示され、他の行の「メンバーの追加」アイコンが使用不可

になります。フォームをリフレッシュすると、すべての「メンバーの追加」アイコンが表示されるので、他の行を選択してメンバーを追加できるようになります。

データ・フォームにメンバーを追加するには:

1. ドキュメント・マネージャから、データを入力するフォームを開きます。
2. ディメンションのメンバーをフォームに追加するには、フォームの左端のヘッダー・セルで、「メンバーの追加」
3. データを入力するメンバーを選択し、「追加」をクリックします。

ヒント:

複数のメンバーを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらメンバーを選択します。「すべて追加」または「すべて除去」を使用して、すべてのメンバーを追加したり除去したりできます。

4. 「OK」をクリックします。
5. 追加したメンバーのデータを入力します。
6. オプション: 次のいずれかの操作を行って、セルのテキストを入力します。
 - セルをハイライトし、右クリックして、「セル・テキスト」を選択します。
 - セルを選択し、「セル・テキスト」をクリックします。
 - 管理者がフォームにセル・テキスト用の列を設定している場合は、その列にテキストを入力します。
7. オプション: 選択したセルを計算するには「計算」を、手動で計算するには「計算の強制」をクリックします。

ノート:

計算する前に、データを送信する必要があります。

8. 変更を保存するには、「保存」をクリックします。

フォームが、新しく追加された項目のデータにリフレッシュされて、更新されます。

データ・フォームの印刷

データ・フォームをプレビューして印刷できます。

データを印刷するには:

1. ドキュメント・マネージャから、開くフォームを選択します。
2. フォームの「印刷」をクリックします。
3. フォームを開くか保存して、プリンタを選択し、「印刷」をクリックします。

内部取引のドリルスルー

取引が勘定科目に転記された後、転記された金額を反映する勘定科目残高をデータ・フォームに表示できます。転記済取引が含まれているフォーム内の勘定科目のセルに

は、セルの上部に緑の三角が表示されます。勘定科目のセルに対応する取引の詳細は、別のウィンドウに表示されます。

内部取引にドリルスルーするには、「内部取引ユーザー」のセキュリティ役割が必要です。内部取引はデータ・フォームで表示できますが、このビューから取引を変更することはできません。

データ・フォームから内部取引を表示するには:

1. データ・フォームから、内部取引を含むセルを選択します。
2. 右クリックして「内部取引」を選択し、取引の詳細を表示します。

ソース・データへのドリルスルー

データのロードに Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition を使用している場合、データ・フォームから FDMEE にドリル・ダウンしてソース・データを表示できます。FDMEE の詳細は、*Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition 管理者ガイド*を参照してください。

セルにドリル可能なステータスがあるのは、セルに外部ソースからロードしたデータがある場合と、定義済で Oracle Hyperion Financial Management にロードされている指定の領域内にセルの視点(POV)がある場合です。ドリル可能なセルは、セルの左上隅に薄青のアイコンで示されます。

ソース・データにドリルスルーするには:

1. データ・フォームから、ドリル可能なインディケータを持つ入力セルを選択します。
2. 右クリックし、「ドリル・スルー」を選択して、選択済セルに対して視点を含む新規ページを開始します。このページでは、ソース・データにドリルスルーできません。

ノート:

FDMEE をドリルスルーした場合、新規ブラウザ・ウィンドウに情報が表示されます。ERPI へドリルスルーした場合は、Workspace の新規タブに情報が表示されます。

出資比率の管理

次も参照:

[出資比率の管理](#)

[出資比率情報の入力](#)

[出資比率値のコピーおよび貼付け](#)

[出資比率の計算プロセス](#)

[出資比率の計算](#)

出資比率の管理

組織のエンティティが互いに所有する株式を記録して、組織の出資比率と支配を管理できます。組織については、通常の株式と議決権株式という2つのタイプの株式を記録できます。出資比率の計算では通常の株式が使用され、支配の計算では議決権株式が使用されます。

「出資比率の管理」グリッドには、階層に基づいてエンティティのリストが表示されます。出資比率(POWN システム勘定科目)および連結比率(PCON システム勘定科目)など、エンティティの部分的な出資比率にシステム勘定科目を割り当てることで、子エンティティにおける親エンティティの出資比率を定義できます。共有値を入力し、エンティティの連結メソッドを指定できます。[出資比率情報の入力](#)を参照してください。

出資比率は、共有出資比率に基づいて計算できます。[出資比率の計算](#)を参照してください。

持株会社を親エンティティに割り当てると、まず、出資比率と支配比率の計算に共有値が使用されます。その後で、それらの比率を使用して、その親に属するエンティティの連結比率と連結メソッドが提案されます。

次の図は、出資比率のグリッドの例です。行には、視点で親エンティティとして使用しているエンティティに基づいた子エンティティのリストが表示されています。列には、値を入力できるシステム勘定科目が表示されています。

図 7-1 「出資比率の管理」グリッドの例

	Active	Method	% Consol	% Owned	[PMIN]	% Control	Direct Owned	Consol 1	Consol 2	Consol 3	
CHINA	CNY	Yes	[None]	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	0	0
GERMANY	EUR	Yes	[None]	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	0	0
COLOMBIA	COP	Yes	[None]	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	0	0	0
UK	GBP	Yes	[None]	100.0000	100.0000	0.0000	100.0000	100.0000	0	0	0

視点の変更

出資比率の管理を初めて開始する場合、デフォルトの視点がバックグラウンド視点から表示されます。バックグラウンド POV が設定されていない場合、「出資比率の管理」では、デフォルトの POV を使用し、これは、ディメンションの最初のメンバーを使用します。

視点を変更するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**出資比率の管理**」の順に選択します。
2. 視点バーで、変更するディメンションをクリックします。
3. 「**メンバー選択**」から、ディメンション・メンバーを選択して、「**OK**」をクリックします。

表示オプションの設定

「出資比率の管理」グリッドの表示オプションを指定できます。アクティブなエンティティのみ、エンティティの説明、およびエンティティの通貨を表示できます。表示するシステム勘定科目列を次の中から選択できます - Active、Method、PCON、POWN、PMIN、PCTRL、DOWN および Consol。

ノート:

「エンティティ通貨」列は表示専用です。「出資比率」グリッドから通貨を変更することはできません。

表示オプションを設定するには:

1. 「出資比率の管理」グリッドを開きます。
2. オプション: エンティティの説明を表示するには、「**表示オプション**」で、「**エンティティの説明の表示**」を選択します。
3. オプション: アクティブなエンティティのみを表示するには、「**表示オプション**」で、「**アクティブなもののみ表示**」を選択します。

ノート:

このオプションは、アプリケーションで期間別組織が使用可能に設定されている場合のみ表示されます。このオプションを選択しないと、すべてのエンティティが表示されます。

4. オプション: 表示する列を選択するには、「**表示**」を選択して列を選択するか、または「**すべて表示**」を選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

出資比率情報の入力

出資比率情報を入力するには、適切な POV を使用して、データ・グリッドで共有情報をロードするか、共有情報を入力します。出資比率(POWN)、連結比率(PCON)および支配比率(PCTRL)など、システム勘定科目の値をロードまたは入力します。エンティティ

ィの連結メソッドや、子から親への連結ステータスをアクティブにするか非アクティブにするかを選択できます。

所有権情報を入力するには、「出資比率の管理」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

「出資比率の管理」グリッド行には、視点で親エンティティとして使用することを選択したエンティティに基づいて、子エンティティのリストが表示されます。複数の行を選択して、1つの行の値を複数の行に適用できます。

表 1 には、グリッドで表示できるシステム勘定科目列と、それぞれに入力できる値が表示されています。これらの出資比率および連結のシステム勘定科目は、アプリケーションの作成時に自動的に作成されます。詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

表 7-1 出資比率管理のシステム勘定科目

システム勘定科目	使用可能な値
Active - 親に含まれる子の連結ステータス。	アクティブの場合は「はい」、非アクティブの場合は「いいえ」。
Method - エンティティの連結メソッド。	「None」、またはメソッドのリストから選択されたメソッド。
PCON - 連結比率 - 親に連結されるエンティティの値の比率	-100 から 100 (0 を含む)の負数または正数。デフォルト値は 100 です。
POWN - 他のエンティティが所有するエンティティの株式数に基づく出資比率	0-100 の正数。デフォルト値は 100 です。
PMIN - 少数株主出資比率。	PMIN = PCON - POWN の式から計算された値。
PCTRL - 他のエンティティが所有するエンティティの議決権株式に基づく支配比率	0-100 の正数。デフォルト値は 100 です。
DOWN - 直接出資比率	0-100 の正数。デフォルト値は 100 です。
Consol1、2、3 - 連結メソッド	0 から 255 の間の数値

ノート:

PCON、POWN、PCTRL および DOWN システム勘定科目に部分的な出資比率の値が含まれない場合、値は 100 と表示されます。Consol 1、2、3 のメソッドに値を入力しない場合、メソッドはゼロ(0)と表示されます。

出資比率情報を入力するには:

1. 「連結」、「データ」、「出資比率の管理」の順に選択します。
2. 出資比率情報を入力する視点のシナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンション・メンバーを選択します。
3. オプション: エンティティ通貨を表示するには、「表示」、「列」の順に選択して、「エンティティ通貨」を選択します。

4. グリッドから、値を入力するエンティティを選択し、次のアクションを1つ以上実行します:
 - 「アクティブ」で、「はい」または「いいえ」を選択して、子から親への連結ステータスがアクティブかどうかを指定します。
 - 「メソッド」で、エンティティの連結メソッドを選択します。
 - 「PCON」に、連結比率の値を入力します。
 - 「POWN」に、出資比率の値を入力します。
 - 「PCTRL」に、支配比率の値を入力します。
 - 「DOWN」に、直接出資比率の値を入力します。
 - 「Consol1」、「Consol2」、「Consol3」に、連結メソッドを入力します。
5. 変更をデータベースに保存してグリッドをリフレッシュするには、「送信」をクリックするか、「アクション」、「送信」の順に選択します。

ヒント:

変更を保存せずに、データベースの値にデータをリセットするには、「リセット」をクリックするか、「アクション」、「リセット」の順に選択します。

出資比率値のコピーおよび貼付け

「出資比率の管理」グリッドでは、あるセルから別のセルに値をコピーして貼り付けることができます。特定のセルを選択し、そのセルにデータを入力してから、別のセルを選択し、そこに値を貼り付けることができます。

次の条件が発生した場合、値は宛先セルに貼り付けられません:

- ソースと宛先のセルのデータ型が一致しない場合(たとえば、はい/いいえと数字の場合)。
- ソース・セルの値が宛先セルの値の有効な範囲外である場合(たとえば、ソース値が-100で、宛先セルが0から255の範囲のConsol1の値である場合)。

出資比率値をコピーして貼り付けるには:

1. 「出資比率の管理」グリッドで、適用する値を含むセルを選択し、「コピー」をクリックするか、「アクション」、「コピー」の順に選択するか、右クリックして「コピー」を選択します。
2. 値を適用するセルを選択し、「貼付け」をクリックするか、「アクション」、「貼付け」の順に選択するか、右クリックして「貼付け」を選択します。
 選択したすべてのエンティティの勘定科目に、この値が挿入されます。
3. 現在の値をデータベースに保存し、データをリフレッシュするには、「送信」をクリックするか、「アクション」、「送信」の順に選択します。

ヒント:

データベースで最後に保存された値にデータをリセットするには、「リセット」をクリックするか、「アクション」、「リセット」の順に選択します。

出資比率の計算プロセス

出資比率の計算プロセスでは、**Shares%Owned** システム勘定科目に格納された株式数を使用して出資比率が計算され、**Voting%Owned** システム勘定科目に格納された株式数を使用して支配比率が計算されます。プロセスでは、次のシステム勘定科目で選択された親の子孫が計算されます: 出資比率(POWN)、連結比率(PCON)、支配比率(PCTRL)、直接出資比率(DOWN)および連結メソッド(METHOD)。

また、次の式を使用して、少数比率(PMIN)の金額も計算されます:

$$\text{Percent Consolidation (PCON)} - \text{Percent Ownership (POWN)} = \text{PMIN}$$

これらのシステム生成の出資比率と連結の勘定科目、および POWN や POWNMIN などの連結メソッドの詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

出資比率

出資比率(POWN)は、他のエンティティが直接的または間接的に保有する、エンティティの議決権のない株式の比率です。**Shares%Owned** 勘定科目に格納されている株式の値に基づいて、出資比率が計算されます。計算結果は、ICP デイメンションを使用して、親の POWN システム勘定科目に保管されます。たとえば、エンティティ A の計算結果が 90%の場合、ICP=A の親エンティティの POWN 勘定科目に 90 が保管されます。

コントロール比率

支配比率(PCTRL)は、他のエンティティが直接的または間接的に保有する議決権株式に基づいたエンティティの比率です。**Voting%Owned** 勘定科目に格納されている株式の値に基づいて、各子孫を支配する選択した親の持株会社の比率が計算されます。計算結果は、ICP デイメンションを使用して、親の PCTRL システム勘定科目に格納されます。たとえば、エンティティ A の計算結果が 80%の場合、ICP=A の親エンティティの PCTRL 勘定科目に 80 が保管されます。

直接出資比率

直接出資比率(DOWN)は、各エンティティが所有する株式のうち議決権のない通常株式の比率です。**Shares%Owned** 勘定科目の株式の値に基づいて比率が計算されます。計算結果は、ICP デイメンションを使用して、DOWN システム勘定科目に格納されます。

たとえば、エンティティ 002 の ICP が **holding** で **Shares%Owned** 勘定科目の値が 80(持株会社がエンティティ 002 の 80%を所有している)の場合、Entity=Group1 の ICP=A の DOWN 勘定科目に 80 が格納されます。

連結比率

連結比率(PCON)は、親に連結されるエンティティの値の比率です。システムは、連結メソッド・メタデータ表で定義されているメソッドを使用して、各エンティティに適用する連結比率を決定します。連結メソッドがエンティティに割り当てられていない場合や、エンティティに割り当てられているメソッドが **UsedByCalcRoutine** のマークが付いたメソッドと一致しない場合は、支配比率に応じて連結比率が使用されます。

たとえば、Custom1=Global、ICP=001 の Method 勘定科目の値が 1 で、連結メソッド表で、Global メソッドに対応する連結比率が 100%である場合、ICP=001 の PCON 勘定科目に 100 が格納されます。

連結メソッド

連結メソッドは、エンティティのデータをその親に連結する方法を決定するための一連のルールです。このメソッドは、UsedbyCalcRoutine 属性が含まれる連結メソッド・

メタデータ表の支配比率と連結メソッドに基づいて提案されます。支配比率が計算される各エンティティには、表で指定されている連結メソッドの支配比率に応じて、連結メソッドが割り当てられます。たとえば、エンティティ A に対して計算されたコントロール比率が 75% で、コントロール比率が 50%-100% の場合の連結メソッドに GLOBAL メソッドが割り当てられている場合、Custom1=GLOBAL、ICP=A の親エンティティの Method 勘定科目に 1 が保管されます。

ただし、親エンティティの持株会社には、このルールが適用されません。持株会社に対しては、連結メソッドの決定に支配比率は使用されません。かわりに、IsHoldingMethod 属性が含まれる連結メソッドが割り当てられます。

出資比率の計算

エンティティの株式に基づいて出資比率値を計算するには、「出資比率の計算」オプションを使用します。複数の親エンティティについて、または特定のシナリオと年の複数の期間について、出資比率を計算できます。計算はまとめて実行することも、別々に実行することもできます。

「出資比率の計算」オプションを使用するには、持株会社を親エンティティに割り当てる必要があります。アプリケーションのエンティティ・メンバーを定義する際に、エンティティの HoldingCompany 属性を指定します。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

出資比率を計算するには:

1. POV から、出資比率を計算する親エンティティを選択します。

ノート:

計算プロセスで使用する親エンティティが、視点のエンティティです。たとえば、POV のエンティティが Region.Europe の場合、計算は Region ではなく Europe に対して実行されます。

2. 右側のペインで、「出資比率の計算」オプションを 1 つ以上選択します:
 - 支配比率の連結メソッドを選択するには、「連結メソッド」を選択します。
 - 最終的な連結比率を計算するには、「連結比率」を選択します。
 - 最終的な出資比率を計算するには、「出資比率」を選択します。
 - 最終的なコントロール比率を計算するには、「コントロール比率」を選択します。
 - 直接出資比率を計算するには、「直接出資比率」を選択します。
3. 「エンティティ」オプションを選択します:
 - 現在のエンティティのみの出資比率を計算するには、「現在のエンティティ」を選択します。
 - 現在のエンティティとその下にあるすべての親エンティティの出資比率を計算するには、「子孫」を選択します。
 - すべてのエンティティの出資比率を計算するには、「すべてのエンティティ」を選択します。
4. 「期間」で、出資比率を計算する期間を選択するか、または「すべて」を選択します。

5. 「計算」をクリックします。

エクイティ・ピックアップの管理

次も参照:

- [エクイティ・ピックアップの概要](#)
- [エクイティ・ピックアップ調整の例](#)
- [エクイティ・ピックアップの管理](#)
- [エクイティ・ピックアップの管理表の表示変更](#)
- [エクイティ・ピックアップ調整の計算](#)
- [エクイティ・ピックアップ・レポートの印刷](#)
- [EPU 計算プロセス](#)

エクイティ・ピックアップの概要

エクイティ・ピックアップ(EPU)機能を使用すると、持株会社が所有する投資を再評価できます。再評価は、持株会社の貸借対照表で投資を調整して、対応する株式の現在価格を関連子会社の資本に反映させるために行います。EPU 調整を行うことで、持株会社が所有する有価証券の価値を公正に映し出すことができます。

ほとんどの資産と同様に、投資は貸借対照表に取得原価で示されます。つまり、投資金額は取得価格を表します。ただし、取得後に関連子会社で発生した損益により、取得原価と投資の実際の額にずれが発生する場合があります。また、海外の関連子会社の場合は、持株会社の通貨に換算する際に、為替通貨の変動の影響を受ける可能性があります。エクイティ・ピックアップ調整は、このような差額を計上します。

エクイティ・ピックアップ調整では、所有する資本の取得原価が実際額と置換されます。この点で、エクイティ・ピックアップは法定連結における資本メソッドと類似しています。

持株をグループごとに連結する前に、エクイティ・ピックアップ調整がその持株会社の現地通貨で行われます。このような調整は、最終的な親エンティティとは別に、持株会社に属します。

調整は、所有される会社ごとに次のように表されます:

$$\begin{aligned} & \text{Direct Ownership Percentage} * \text{Equity of Owned Entity} \\ & = \text{Current Equity Value} \\ & - \text{Investment} \\ & = \text{Equity Pickup Adjustment} \end{aligned}$$

エクイティ・ピックアップ調整の例

- [例 1: 直接出資比率](#)

- 例 2: 換算を行う直接出資比率
- 例 3: カスケード所有権と関連子会社
- 例 4: クロス所有権

例 1: 直接出資比率

- H は A の 80% を所有しています。
- A に対する投資の取得原価は 100 です。
- A の実際の資本は 100 です。
- A に対する投資に関する H の調整額 =

$$(80\% * 1000) = 800 - 100 = 700$$

EPU 調整は、持株会社の資産と資本の両方に影響を与えます。

A に対する投資: 700(借方)

資本: 700(貸方)

Balance Sheet of H before EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	100	Equity	2,000
Other Assets	1,900		
Total	2,000	Total	2,000

Adjustment in H

Adjustment in H	Debit	Credit
Investments in A	700	
Equity		700

Balance Sheet of H after EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	800	Equity	2,700
Other Assets	1,900		
Total	2,700	Total	2,700

例 2: 換算を行う直接出資比率

持株会社と関連子会社で使用する通貨が違う場合は、関連子会社の資本を持株会社の通貨に換算する必要があります。

たとえば、持株会社の通貨がユーロで、関連子会社の通貨がドルとすると、次の条件が適用されます:

- H (EUR)は A (USD)の 80%を所有
- 取得原価での A への投資: 100 (USD 1 = EUR 1)
- A の実際の資本: USD \$1000 (EUR 1,200: USD 1 = EUR 1.2)
- A に対する投資に関する H の調整額 =

$(80\% * 1,200) = 960 - 100 = 860$ ユーロ
--

Balance Sheet of H before EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	100	Equity	2,000
Other Assets	1,900		
Total	2,000	Total	2,000

Adjustment in H

Adjustment in H	Debit	Credit
Investments in A	860	
Equity		860

Balance Sheet of H after EPU Adjustment

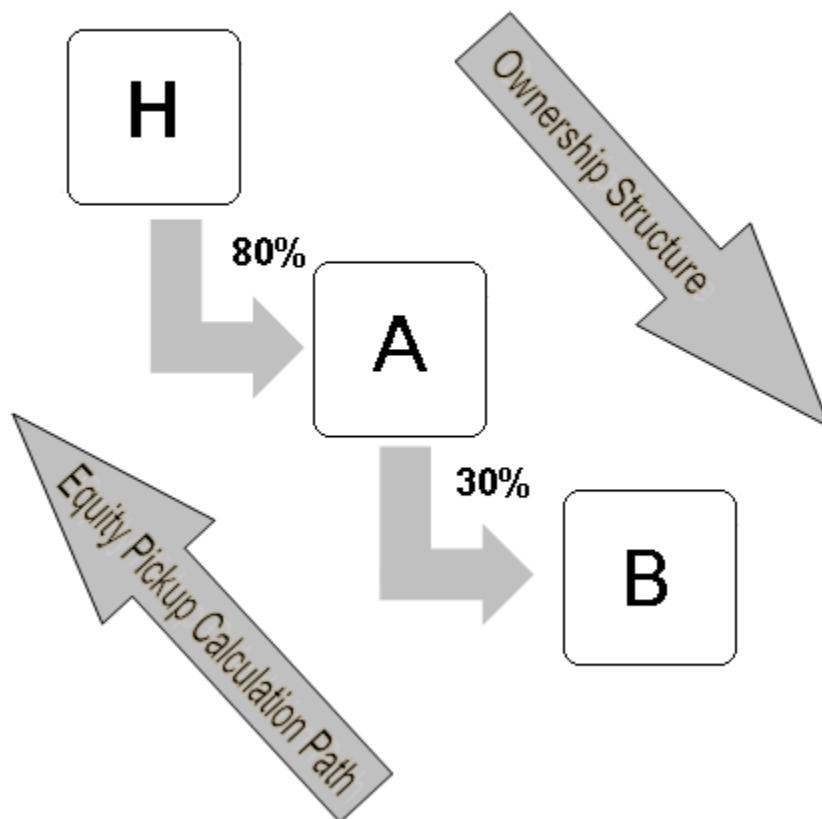
Assets		Liabilities	
Investment in A	960	Equity	2,860
Other Assets	1,900		
Total	2,860	Total	2,860

例 3: カスケード所有権と関連子会社

EPU 調整を行うと、持株会社の資本価値が変わります。このため、ある関連子会社が別の関連子会社に所有されている場合、この所有されている関連子会社を調整してからでなければ、所有者である関連子会社を調整できません。

カスケード所有権の場合、EPU 調整を正しい順序で行う必要があります。つまり、所有されている各関連子会社の調整を行った後で、その所有者の調整を行います。たとえば、B は A に所有されており、A は H に所有されている場合、EPU の計算は、B、A、H の順に行います。

Example 3: Cascading Ownership



- H は A の 80% を所有しています。
- H の A に対する投資の取得原価: 400
- 調整を行う前の A の実際の資本: 1000
- A は B の 30% を所有しています。
- A の B に対する投資の取得原価: 70
- B の実際の資本: 500

A の調整

EPU 計算は、A の EPU 調整から開始されます:

- A は B の 30%を所有しています。
- A の B に対する投資の取得原価: 70
- B の実際の資本: 500
- 直接出資率 * エンティティ所有資本 - 投資 = EPU 調整額
- B の投資に比例した A の調整額 =

$30\% * 500 = 150 - 70 = 80$

A に対する投資: 80(借方)

資本: 80(貸方)

Balance Sheet of A before EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in B	70	Equity	1,000
Other Assets	930		
Total	1,000	Total	1,000

Adjustment in H

Adjustment in H	Debit	Credit
Investments in A	80	
Equity		80

Balance Sheet of A after EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in B	150	Equity	1,080
Other Assets	930		
Total	1,080	Total	1,080

EPU 調整が A に転記され、A の資本価値が調整されて B に対する投資の現在価値に反映されたら、H の A に対する投資に関連する EPU 調整を計算できます。

この場合、EPU 調整の計算式は次のようになります。

Adjustment amount = (Percentage of ownership * Equity of entity owned after EPU adjustment) – Investment at historical cost

- HはAの80%を所有
- 取得原価でのAの投資額: 400
- Bの調整後のAの実際の資本: 1,180
- Aに対する投資に関するHの調整額:

$80\% * 1,080 = 864 - 400 = 464$

Aに対する投資: 464(借方)

資本: 464(貸方)

Balance Sheet of H before EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	100	Equity	2,000
Other Assets	1,900		
Total	2,000	Total	2,000

Adjustment in H

Adjustment in H	Debit	Credit
Investments in A	464	
Equity		464

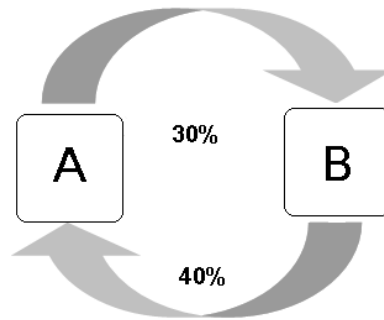
Balance Sheet of H after EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	864	Equity	2,764
Other Assets	1,900		
Total	2,764	Total	2,764

例 4: クロス所有権

クロス所有または相互所有では、EPU調整は繰り返し計算するか、または方程式を使用して計算します。

Example 4: Cross-Ownership



- A owns 30% of B
- Investment of A in B at historical cost: 70
- Actual Equity of A before adjustment: 800
- B owns 40% of A
- Investment of B in A at historical cost: 200
- Actual Equity of B before adjustment: 500

$$EPU A = (1/(1 - Inv\%AB * Inv\%BA)) * ((EqA - InvAB) + Inv\%AB * (EqB - InvBA)) - EqA$$

$$EPU A = (1/(1 - 0.40 * 0.30)) * ((800 - 70) + 0.30 * (500 - 200)) - 800 = 131.82$$

$$EPU A = (1/(1 - Inv\%BA * Inv\%AB)) * ((EqB - InvBA) + Inv\%BA * (EqA - InvAB)) - EqB$$

$$EPU B = (1/(1 - 0.30 * 0.40)) * ((500 - 200) + 0.30 * (800 - 70)) - 500 = 172.72$$

Balance Sheet of A before EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in B	70	Equity	800
Other Assets	730		
Total	800	Total	800

Adjustment in H

Adjustment in A	Debit	Credit
Investments in B	132	
Equity		132

Balance Sheet of A after EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in B	202	Equity	932
Other Assets	730		
Total	932	Total	932

Balance Sheet of B before EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	200	Equity	500
Other Assets	300		
Total	500	Total	500

Adjustment in H

Adjustment in B	Debit	Credit
Investments in A	173	
Equity		173

Balance Sheet of B after EPU Adjustment

Assets		Liabilities	
Investment in A	373	Equity	673
Other Assets	300		
Total	673	Total	673

エクイティ・ピックアップの管理

エクイティ・ピックアップ機能を使用するには、管理者により、エクイティ・ピックアップ・プロセスのルールが定義されている必要があります。エクイティ・ピックアップの管理タスクを使用して、エンティティの出資比率の表示、出資比率の計算、算出ステータスの表示、EPU レポートの実行などのタスクを実行できます。EPU タスクを実行するには、「出資比率の管理」および「エクイティ・ピックアップの実行」というセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

「エクイティ・ピックアップの管理」表には、エンティティのペアが表示されます:

- 関連子会社の株式を所有するエンティティである、所有者エンティティ
- 所有されるエンティティである、被所有エンティティ

相互所有を持つエンティティのペアは、「レベル」列に緑のアイコンが示されます。

それぞれのペアについては、EPU 計算が処理される順序、EPU 処理の出資比率、算出ステータスに応じて、表にレベル番号が表示されます。

デフォルトの視点には、現在のシナリオ、年、期間のディメンションのデフォルト・メンバーが含まれます。視点は変更可能です。

エクイティ・ピックアップ調整を管理するには:

1. 「連結」、「データ」、「エクイティ・ピックアップ」の順に選択します。

2. **オプション:** デフォルトの視点を変更するには、シナリオ、年、期間をクリックして、ディメンションのメンバーを選択します。
3. 行および列のオプションを選択します。 [エクイティ・ピックアップの管理表の表示変更](#)を参照してください。

Level	Owner	Owned	% EPU	Status
3	COLOMBIA	CHINA	20.000000	OK
2	CHINA	GERMANY	12.000000	OK
2	CHINA	COLOMBIA	50.000000	OK
0	CORP_OPS	CHINA	20.000000	Impacted
0	CORP_OPS	GERMANY	80.000000	Impacted
0	CORP_OPS	COLOMBIA	50.000000	Impacted

エクイティ・ピックアップの管理表の表示変更

エクイティ・ピックアップの列	説明
レベル	EPU の計算で各エンティティのペアが処理される順序を示す番号。 相互所有を持つエンティティのペアには、循環のアイコンが表示されます。
Owner	株式を所有する持株会社。
Owned	持株会社が所有するエンティティ。
% EPU	EPU の処理で考慮される出資比率。
ステータス	EPU の算出ステータス。

ラベル、説明、またはその両方を表示して、各列を昇順または降順でソートできます。所有者、被所有、%EPU、相互所有、ステータスまたはレベルの条件を使用して、行をフィルタできます。%EPU の値は、0 から 100 の間の正の数(小数あり)です。すべてのエンティティのペアを含めたり、相互所有を持つペアを除外したり、相互所有を持つペアのみを表示したりできます。

表示オプションを設定するには:

1. 「表示オプション」から、「列の表示」に、「ラベル」、「説明」または「両方」のいずれかを選択します。
2. 「桁数」に、0 から 9 までの値を選択します。
3. 「行のフィルタ」から、次を行います:
 - a. 「所有者」に入力するか、「参照」をクリックしてエンティティを検索します。

- b. 「被所有」に入力するか、「参照」をクリックしてエンティティを検索します。
- c. 「組合せの表示」を選択すると、選択した「所有者」および「所有」の可能なすべての組合せの行が表示されます。
- d. 「% EPU」で、「次より大きい(>)」、「次より小さい(<)」または「次と等しい(=)」を選択し、比率を入力します。
- e. 「相互所有」に、次のオプションを選択します:
 - すべてのエンティティのペアを表示する場合は「含む」
 - 相互所有を持つペアを表示しない場合は「除外」
 - 相互所有を持つペアのみを表示する場合は「表示のみ」
- f. 「ステータス」で、表示する計算のステータスに「OK」、「変更済」、またはその両方を選択します。
- g. 「レベル」に、表示するレベル範囲を選択します。

エクイティ・ピックアップ調整の計算

エクイティ・ピックアップ(EPU)調整の計算を有効にするには、アプリケーション管理者はSUB EquityPickUp というルール・ファイル内に、EPU 計算を定義するセクションを作成する必要があります。エクイティ・ピックアップ・ルールの詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

EPU 調整を計算するには、エクイティ・ピックアップの実行オプションまたはエクイティ・ピックアップの強制オプションを使用します。1つまたは複数のエンティティ・ペアに対して EPU 計算が実行されると、他のプロセスで追加の変更が行われなにかぎり、ペアの EPU ステータスが「OK」に変わります。

実行オプションは、EPU 算出ステータスが「変更済」のペア(所有者、被所有)に対してのみ EPU 計算を実行します。所有者、被所有、被所有エンティティの EPU 子孫の算出ステータスが変ると、EPU ペアに影響します。EPU 計算の後で、他のプロセスで追加の変更が行われなにかぎり、EPU ステータスが「OK」に変わります。

エクイティ・ピックアップの強制オプションは、ステータスに関係なく、選択したシナリオ、年、期間のすべてのペアに対して EPU 計算を実行します。

EPU 調整は、「エクイティ・ピックアップの管理」タスク、データ・グリッド、データ・フォームまたはプロセス・コントロールから計算できます。EPU 調整を計算するには、「出資比率の管理」および「エクイティ・ピックアップの実行」というセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

EPU を計算するには:

1. 「連結」、「データ」、「エクイティ・ピックアップ」の順に選択します。
2. 次のメソッドのいずれかを使用します:
 - 「エクイティ・ピックアップの管理」ページで、「EPU の実行」か「EPU の強制」をクリックするか、または、「アクション」、「EPU の実行」の順に選択するか、「アクション」、「EPU の強制」の順に選択します。
 - データ・グリッド、データ・フォームまたはプロセス・コントロールで、右クリックし、「EPU の実行」または「EPU の強制」を選択します。
3. 「リフレッシュ」をクリックします。

エクイティ・ピックアップ・レポートの印刷

エクイティ・ピックアップ表のレコードを示すエクイティ・ピックアップ・レポートを印刷できます。このレポートのヘッダーには、日付、時間、レポートを開始したユーザーのユーザー ID、アプリケーション名、POV、フィルタ・オプションが表示されます。レポートの本文には、選択した列および条件を反映した表が表示されます。

ノート:

レポートは、HFM-フォーマット、PDF、RTF、HTML、XLS または XLSX を使用して、フォーマットおよび印刷できます。[システム・レポートのフォーマット](#)を参照してください。

EPU レポートを印刷するには:

1. 「連結」、「データ」、「エクイティ・ピックアップ」の順に選択します。
2. レポートに表示する条件を選択します。
3. 「フル・レポート」か「フィルタ済レポート」をクリックするか、または、「アクション」、「フル・レポート」の順に選択するか、「アクション」、「フィルタ済レポート」の順に選択します。
4. 「レポートのフォーマット」で、次のいずれかのオプションを選択します: HFM-フォーマット、PDF、RTF、HTML、XLS または XLSX。
5. 「レポート・テンプレート」で、テンプレートを選択します。
6. 「OK」をクリックします。
7. レポートのプレビューで、「印刷」をクリックします。

EPU 計算プロセス

EPU 計算プロセスでは、所有者と被所有のエンティティの通貨が異なる場合に、所有者と被所有のエンティティに対して計算または連結を実行して、換算する必要がある場合があります。

計算は次の手順で行われます。

1. エンティティのペアごとに、デフォルト通貨で所有者エンティティと被所有エンティティが計算されます。値エンティティ通貨の合計の算出ステータスが「OK」または「ND」でない場合は、計算または連結(親エンティティの場合)プロセスが実行されます。
2. 被所有エンティティが所有者エンティティのデフォルト通貨に換算されて(値のステータスが換算済を意味する OK でない場合)、必要に応じて親通貨の調整の計算プロセスが実行されます(算出ステータスが OK または ND ない場合)。
3. 次に、ルール・ファイルの Sub EquityPickup()が実行されます。
4. 所有者エンティティが計算されます。エンティティ通貨で所有者の算出ステータスが「ND」以外の場合は、計算が実行され、エンティティが「OK」ステータスに設定されます。この最終計算は、所有者エンティティが次のペアを所有しておらず、新規データが所有者エンティティに転記された場合にのみ実行されます。

計算プロセスが終わると、別のプロセスでエンティティに変更が加えられないかぎり、算出ステータスとエクイティ・ピックアップのステータスの両方が OK になります。

Financial Management のデータのレポート

Oracle Hyperion Financial Management の次のタイプのシステム・レポートを生成できます:

- データ・グリッド・レポート: データ・グリッドに含まれている情報を示します
- 仕訳レポート: 仕訳モジュールで選択した条件に従って、仕訳または仕訳リストの情報を示します。
- 内部取引パートナー(ICP)照合レポート: 連結するときに消去される内部取引を示します。
- 内部取引レポート: 内部取引のリストを示します。
- 勘定科目による内部取引照合レポート: 選択した勘定科目に基づいて内部取引を示します。
- ID による内部取引照合レポート: 内部取引を取引 ID 別に示します。

レポートの作成

次の方法のいずれかを使用して、レポートを作成します:

- レポート・ページ・オプションを使用して、値を指定します。
- テキスト・エディタを使用して、スクリプトのレポート・オプションを指定します。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

「レポート」ページからレポートを作成するには:

1. 「連結」, 「ドキュメント」の順に選択します。
2. 「新規」をクリックするか、「アクション」、「新規」の順に選択します。
3. 「レポート」を選択し、レポートのタイプを選択します。
4. レポート情報およびレポートのオプションを指定します。

各レポート・オプションの詳細は、Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドのレポートの定義の章を参照してください。

レポートを開く

使用可能なレポート・タイプのリストをレポート・タイプ別またはファイル・タイプ別に表示して、リストをレポート名または最終更新日時でソートできます。「ドキュメントの管理」リスト、タスク・リストまたは「お気に入り」から、レポートを開くことができます。

レポートを開くには:

1. 「**連結**」と、「**ドキュメント**」の順に選択します。
2. 「**フィルタ**」ペインで、「**ドキュメント・タイプ**」の横にある「**フィルタ**」ボタンをクリックし、開くレポートのタイプを選択します。

システム・レポートのフォーマット

Oracle Hyperion Financial Management には、HFM-フォーマット、Oracle Business Intelligence Publisher テンプレートなどのサンプルのシステム・レポート・テンプレートがあります。

HFM-フォーマットのレポート・テンプレートは、Financial Management システムのレポートに使用します。レポートの生成時に、データが XML にエクスポートされるので、スタイル・シートを適用してレポートを HTML で表示できます。

HFM-フォーマットのレポート・テンプレートは、インストール・プロセス中にアプリケーション・サーバーの次のディレクトリにインストールされます:

FinancialManagement\Server Working Folder\Report Style Sheets.

BI Publisher のレポート・テンプレートを使用して、レポートをフォーマットできます。BI Publisher のレポート・テンプレートは、次のレポートのタイプに使用します: 内部取引、仕訳、内部取引、勘定科目別の内部取引照合、取引 ID 別の内部取引照合、エクイティ・ピックアップ、セキュリティ・レポート。

ノート:

データ・グリッド・システム・レポート用の BI Publisher テンプレートは、現時点では含まれていません。

BI Publisher のレポート・テンプレートには、PDF、RTF、HTML、XML および XSLX のレポート印刷オプションがあります。これらのテンプレートは、Microsoft Word でカスタマイズできます。たとえば、デフォルトでは、最大 30 列がレポートに表示されます。より多くの列を表示するよう、テンプレートをカスタマイズできます。テンプレートをカスタマイズするには、Microsoft Office Word と Oracle BI Publisher デスクトップをインストールして構成する必要があります。この後で BI Publisher を使用して、テンプレートのカスタマイズとレポートの更新を行います。

ノート:

Financial Management をアップグレードまたはアンインストールするときに、カスタマイズしたテンプレートを保持しておくには、アンインストールする前にテンプレートを別のディレクトリにバックアップします。

BI Publisher のレポート・テンプレートは、インストール・プロセス中にアプリケーション・サーバーの次のディレクトリにインストールされます: FinancialManagement\Server Working Folder\Report Style Sheets\Templates.

システム・レポートをフォーマットするには:

1. レポートを開きます。
2. 「**レポートのフォーマット**」で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - HFM-フォーマット

- PDF
- RTF
- HTML
- XLS
- XLSX

3. 「スタイル・シート」で、スタイル・シートを選択します。

ノート:

リストには、サンプル・テンプレートも含め、Report Style Sheets ディレクトリに保管されているスタイル・シートが表示されます。

4. レポートで必要な場合、「POVの上書き」を選択し、「OK」をクリックします。

ノート:

レポートを印刷するには、[レポートの印刷](#)を参照してください。

レポートの編集

以前に作成したレポートを編集できます。

レポートを編集するには:

1. 「連結」, 「ドキュメント」の順に選択します。
2. 編集するレポートを選択します。
3. 「編集」をクリックするか、「アクション」、「編集」の順に選択します。
4. レポートを編集します。
5. 編集が終了したら、レポートを保存します。

レポートの保存

レポートを保存すると、宛先フォルダ、セキュリティおよびプライバシー・オプションを指定できます。以前にレポートを保存した場合、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスから、異なる場所、セキュリティまたはプライバシー・オプションを指定できます。

レポート名には、20文字まで入力できます。二重引用符("")または等号(=)は、レポート名に使用しないでください。

レポートを保存するには:

1. 保存するレポートを開きます。
2. 「保存」または「名前を付けて保存」をクリックし、レポートの情報を入力します。
3. 「保存」をクリックします。

内部取引のドリルスルー

内部取引照合レポートを使用すると、内部取引を追跡して、分析や監査に役立てることができます。データを連結したら、内部取引照合レポートを実行して、消去されていた内部取引残高勘定科目の詳細を得ることができます。

内部取引照合レポートを残高勘定レベルで実行すると、照合するグループの内部取引の詳細を表示するようにレポートが設定されている場合、レポートにリンクが表示されます。このリンクをクリックすると、取引の詳細レベルで照合レポートを表示できます。

内部取引をドリルダウンするには、「内部取引ユーザー」というセキュリティ役割が必要です。内部取引はレポートでのみ表示できます; レポートの取引を変更することはできません。

内部取引レポートから内部取引を表示するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「レポート」の順に選択します。
2. レポートのリストで内部取引レポートを開きます。

ノート:

レポート・オプションを上書きするには、「編集」をクリックして、レポートを編集し、変更を保存せずに印刷します。

3. レポートで、取引の詳細へのリンクをダブルクリックします。

レポートの印刷

作成してローカル・クライアント・コンピュータまたはサーバーに保存したレポートを印刷できます。「印刷」を選択すると、レポートの選択項目に基づいてレポートが生成されます。

レポートを印刷する際に、レポート・タイプに使用可能なオプションの一部または全部を上書きするよう選択できます。たとえば、内部取引照合レポートの場合、レポートに異なるパートナー・エンティティを選択できます。オプションを上書きするよう選択しない場合、レポート定義からオプション設定が使用されます。最後に上書きされたオプションはセッションに保持されるため、同じまたは別のレポートを再実行した場合、最後にレポートを印刷したときから上書きされた1つ以上のオプションが表示されます。

レポートを印刷するには:

1. レポートのリストから、レポートを選択します。
2. オプション:POV を上書きするには、「POVの上書き」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. 「印刷」をクリックします。

レポートの削除

不要になったレポートは削除できます。レポートをサーバーから削除するには、削除するレポートのセキュリティ・クラスに対して「すべて」のアクセス権限が必要です。レポート・フォルダを削除する前に、含まれているレポートを最初に削除する必要があります。

レポートをサーバーから削除するには:

1. 「**連結**」, 「**ドキュメント**」の順に選択します。
2. 削除するレポートを選択して、「**削除**」をクリックします。
3. 削除を確認するメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。

内部取引の処理

次も参照:

- [内部取引モジュールの機能](#)
- [内部取引のセキュリティ役割](#)
- [内部取引タスクフローの例](#)
- [内部取引のロード・ファイル](#)
- [内部取引のロード](#)
- [内部取引ファイルの抽出](#)
- [内部取引の管理について](#)
- [内部取引の作成](#)
- [内部取引の表示](#)
- [内部取引の選択](#)
- [内部取引の編集](#)
- [内部取引の複製](#)
- [内部取引への理由コードの割当て](#)
- [内部取引の照合](#)
- [内部取引を未照合に戻す](#)
- [内部取引の転記](#)
- [内部取引の転記に戻す](#)
- [内部取引の進行状況の表示](#)
- [内部取引の削除](#)
- [内部取引のレポート](#)
- [内部取引明細レポートの実行](#)
- [照合レポートの実行](#)
- [取引の詳細へのドリルスルー](#)
- [内部取引の電子メール・アラート](#)

内部取引モジュールの機能

内部取引は、組織内の 2 つのエンティティの間での取引です。Oracle Hyperion Financial Management では、勘定科目とカスタム・ディメンションにまたがって、内

内部取引の詳細を追跡して調整できます。内部取引の一般的なタイプは、次のとおりです。

- 内部取引売上と仕入れ
- 内部取引売掛金と買掛金
- 関連会社への固定資産の売却と譲渡
- 内部取引貸付金と借入金

内部取引モジュールでは、内部取引勘定科目の差異の特定、レポート作成、調整を効率的に行えます。内部取引を入力、照合、転記および検証できます。取引の詳細をいつでも表示できるので、内部取引勘定科目の差異を頻繁に調整して、期末サイクルへの影響を最小限に抑えることができます。また、取引通貨の実際のエラーによる差異、または為替レートによる差異を分析できます。

内部取引モジュールを使用すると、次に示すビジネス・プロセスを実行できます:

- 内部取引の期間を開く
- 内部取引の詳細を請求書レベルで作成する。
- 請求書を照合する。
- 取引通貨、レポートの通貨または親通貨で取引を照合する。
- 取引を転記する。
- 内部取引照合レポートを作成する。
- 内部取引照合レポート、データ・グリッドまたはデータ・フォームにおいて、勘定科目残高から取引詳細にドリル・スルー。
- エンティティのパートナーの内部取引の詳細を、適宜エンティティとともに表示する。
- 一致しないエントリのコメントを入力する。
- 不一致の原因が取引通貨の間違いか、それとも為替レートによる差かを調べる。
- エンティティをロックして期間を閉じ、不正入力を防止する。

内部取引管理タスクの詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

内部取引のセキュリティ役割

内部取引のセキュリティ役割を持つ管理者は、内部取引照合タスクを処理するカスタム・ワークスペースを作成して、すべての内部取引タスクを実行できます。「内部取引ユーザー」という役割を持つユーザーは、内部取引機能と内部取引レポート機能を実行できます。

「内部取引ユーザー」という役割を持つユーザーは、次のタスクを実行できます。

- 取引を作成する。
- 取引を編集する。
- 取引のリストを表示する。
- 取引を削除する。

- 取引をロードして抽出する。
- 取引レポートと照合レポートを実行する。
- 他のモジュールから取引の詳細にドリルスルーする。

取引の照合タスクを実行するには、そのタスクについて次のセキュリティ役割を1つ以上割り当てられている必要があります。

- 内部取引照合テンプレート
- 勘定科目による内部取引の自動照合
- IDによる内部取引の自動照合
- 許容差による内部取引の手動照合
- 内部取引の手動照合

取引を未照合に戻すには、「内部取引の照合解除」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

取引を転記する、または転記に戻すには、「内部取引の転記/転記の戻し」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

内部取引タスクフローの例

取引を処理するには、管理者によって取引の期間が開かれていることが必要です。管理者は、照合に関する必要条件の設定、内部取引照合の許容差値の指定、不一致の取引の理由を示す理由コードの定義も行います。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

表 10-1 内部取引タスクフローの例

タスク	説明
理由コードの管理	管理者は、内部取引照合プロセスで使用する理由コードをアプリケーションに定義します。ユーザーは、内部取引を行うときに、このリストからコードを選択します。
内部取引の期間を開きます	内部取引を操作するには、管理者によって取引の期間が開かれていることが必要です。管理者はこのプロセス中に、転記前の照合/検証に関する必要条件と、照合プロセスで使用する照合許容差も定義します。
取引のロード	取引は、外部 ASCII ファイルからシステムにロードできます。取引を手動で入力することもできます。
取引の管理	取引のリストを表示したり、エンティティやパートナーの選択を変更したり、取引の表示用に他のフィルタ条件を選択したりできます。
取引の編集	コメントを加えたりして、取引を変更できます。
取引レポートの実行	取引レポートを実行し、フィルタの基準に従って取引のリストを表示できます。

表 10-1 (続き) 内部取引タスクフローの例

タスク	説明
取引 ID による照合レポートの実行	照合プロセスを実行する前に、照合レポートを実行して、どの取引が一致するのかが確認できます。
取引 ID による自動照合	取引は、取引 ID または参照 ID を基準にして照合できます。取引は、照合ステータスと照合コードが設定されて更新されます。照合設定を照合テンプレートに保存して、後で使用することもできます。
勘定科目による照合レポートの実行	取引や請求書ではなく、勘定科目によって照合したレポートを表示します。
勘定科目別の自動照合	完全に一致する取引 ID と詳細がアプリケーションにない場合は、このオプションを指定して取引を照合すると便利です。不一致の発生を防ぐために、最初に ID による自動照合を実行してから、勘定科目による自動照合を実行します。
取引の手動照合の実行	自動照合を実行した後、プロセスの照合条件を満たしていなくても、一致にする必要のある取引がある場合があります。特定の取引を選択して、その取引を手動で照合できます。照合プロセスにより、照合ステータスが更新され、照合コードが割り当てられます。
取引を未照合にする	照合プロセス中に、取引の特定グループを手動で未照合にする必要がある場合があります。取引を選択すると、照合コードが同一である取引のグループが表示されます。同じ照合グループ内のすべての取引を未照合にできます。
取引を転記する	すべての取引の照合が終わり、取引を転記する準備が整ったら、転記する取引を選択します。
取引レポートの実行	取引を転記したら、各取引のステータスを表示する取引レポートを作成できます。このレポートには、転記ステータス、転記したユーザー、転記の日時が表示されます。これを要約レポートとして使用すると、転記情報をすばやく表示できます。
エンティティのロック	管理者は、ユーザーが新規の取引を追加したり、特定のエンティティを変更できないように、エンティティをロックできます。ロックされているエンティティに対しては、照合を行うことも、追加の取引を転記することもできません。

表 10-1 (続き) 内部取引タスクフローの例

タスク	説明
内部取引照合システム・レポートから取引の詳細へのドリルダウン	取引を転記し、その残高が内部取引勘定に反映されると、内部取引照合システム・レポートを実行して、各取引の勘定科目が一致しているかどうかを確認できます。
データ・グリッドまたはデータ・フォームから取引の詳細にドリル・スルーします	データ・グリッドまたはデータ・フォームを使用している場合は、対応する内部取引を表示できます。ただし、データ・グリッドやフォームから取引を変更することはできません。
期間を閉じる	期末サイクルの終わりに、内部取引プロセスが完了すると、管理者は期間を閉じて、その期間の取引を変更できないようにします。その期間に対して「転記前に照合」オプションが選択されている場合、一致した取引または理由コードのある不一致取引のすべてを、期間を閉じる前に転記する必要があります。期間を閉じると、その後取引を変更できないように期間がロックされます。ただし、その期間の取引を参照したり、取引のレポートを実行したりすることはできます。

内部取引のロード・ファイル

内部取引を手動で入力するだけでなく、外部 ASCII ファイルからも取引詳細をロードできます。1回のロード・プロセスで複数の外部ファイルを選択して、取引をマージするか置換するかを選択できます。

ロード・ファイルのセクション・ヘッダー

内部取引のロード・ファイルには、2つのセクションがあります。

- 理由コード表: このセクションは、「内部取引管理者」というセキュリティ役割を持っている場合のみロードされます。それ以外の場合は、無視されます。
- 内部取引セクション: このセクションは最も頻繁に使用され、「内部取引ユーザー」というセキュリティ役割を持っている場合にロードされます。

ロード・ファイルからは転記ステータスや照合ステータスはロードされません。

ロード・ファイル内の特殊なキーワード

特殊なキーワードの前には、感嘆符(!)が付いています。

表 10-2 内部取引ロード・ファイルのキーワード

キーワード	説明
Intercompany Detail	データが内部取引の詳細であることを示します。
Column_Order	ファイル内のアイテムの順序を示します。

表 10-2 (続き) 内部取引ロード・ファイルのキーワード

キーワード	説明
Thousand_Separator	(オプション)。金額を 3 桁で区切るために使用する区切り文字を示します。この指定がない場合は、アプリケーション・サーバーで定義されている地域の数値の設定が使用されます。
Decimal	(オプション)。小数点記号に使用される文字を示します。この指定がない場合は、アプリケーション・サーバーで定義されている地域の数値の設定が使用されます。

内部取引ファイルの例

次に、内部取引のロード・ファイルの例を示します。新しいセクションの先頭を示すには、有効なセクション名の後に感嘆符(!)を付けます。コメント行を開始する場合は、アポストロフィ(')を使用します。ファイル内の情報を区切るには、次のいずれかのファイル区切り文字を使用します。

, ~ @ \$ % & ^ | : ; ? \

ファイル名やファイル内でその文字が使用されていないならば、有効な任意の文字を使用できます。たとえば、エンティティ・メンバー名にアンパサンド(&)が入っている場合は、アンパサンドを区切り文字にすることはできません。ファイル全体で同じ区切り文字を使用する必要があります。同じファイル内で異なる区切り文字を使用すると、ファイルのロード時にエラーが発生します。

ノート:

Oracle データベースを使用している場合は、ロード・プロセス中に取引 ID、サブ ID、参照 ID、参照コードが大文字に変換されます。たとえば、"t123"という取引 ID は、ファイルのロード中に"T123"に変換されます。

例:

```
!SCENARIO=Actual

!YEAR=2014

!PERIOD=January

!DECIMAL=.

!THOUSAND_SEPARATOR=,

INTERCOMPANY DETAIL

!
Column_Order=Entity;Partner;Account;Flows;Market;Region;CostCenter;TransID;SubID;Date;
TransCurr;TransAmt;EntCurrAmt;Rate;RefID;Comment1;Comment2

China;France;ICPay;Flows;Market;Region;CostCenter;DE124;08/10/06;EUR;
2000;8000;Ref123;Text1234;Text9995
```

China;France;ICPurch;Flows;Market;Region;CostCenter;BX3212;08/12/06;EUR;
2500;10000; ;Text2345;Text8984

China;Germany;ICRef;Flows;Market;Region;CostCenter;AC4345;08/15/06;EUR;
1700;6970;ABC12;Text2323;Text9232

...

内部取引のロード方法

内部取引ファイルをロードするときに、取引をマージするか、置換するかを指定できます。

マージ

レコードを新しい変更内容で更新し、新しいレコードを作成するには、このオプションを選択します。ステータスが「一致」または「転記済」のレコードの情報は更新されません。ロード・ログ・ファイルには、ロードされなかった取引に関する情報が含まれます。マージ・モードではデータベース内のレコードは削除されません。

表 10-3 マージ・モード:ロードの例

エンティティ A - 既存のレコード	エンティティ A にロードするファイル	マージ・モードのロード後のエンティティ A
レコード 1	N/A	レコード 1
レコード 2 - 一致	新しいレコード 2	レコード 2 - 一致(ロード・プロセス後も変更なし)
レコード 3	N/A	レコード 3
レコード 4 - 転記済	新しいレコード 4	レコード 4 - 転記済(ロード・プロセス後も変更なし)
レコード 5	新しいレコード 5	新しいレコード 5
N/A	新しいレコード 6	新しいレコード 6

置換

置換モードでは、指定されたシナリオ、年、期間、エンティティに関するデータベース内のすべての取引が、ロード・ファイルで指定された取引で置き換えられます。置換モードでは、まずシナリオ、年、期間のエンティティのレコードがすべてクリアされます。ステータスが「転記済」または「一致」のエンティティで内部取引が発生した場合、それらの取引はクリアされません。システムはそれらの取引をスキップしてロード・プロセスを続行します。エンティティの適切な取引をすべてクリアした後で、エンティティのすべての取引をロード・ファイルのレコードで置き換えます。

表 10-4 置換モード:ロードの例

エンティティ A - 既存のレコード	エンティティ A にロードするファイル	マージ・モードのロード後のエンティティ A
レコード 1	N/A	N/A

表 10-4 (続き) 置換モード:ロードの例

エンティティ A - 既存のレコード	エンティティ A にロードするファイル	マージ・モードのロード後のエンティティ A
レコード 2 - 一致	新しいレコード 2	レコード 2 - 一致(クリアおよびロード・プロセス後も変更なし)
レコード 3	N/A	N/A
レコード 4 - 転記済	新しいレコード 4	レコード 4 - 転記済(クリアおよびロード・プロセス後も変更なし)
レコード 5	新しいレコード 5	新しいレコード 5
N/A	新しいレコード 6	新しいレコード 6

内部取引のロード

内部取引は、外部 ASCII ファイルからロードできます。内部取引をロードするには、「内部取引ユーザー」または「管理者」の役割を割り当てられていることが必要です。また、内部取引管理者は、取引の期間を開いておく必要があります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

Web のポップアップ・ブロックの例外に Oracle Hyperion Financial Management 追加することをお勧めします。データのロードなどのいくつかのタスクを実行すると、ステータス・ウィンドウにタスクのステータスが表示されます。コンピュータでポップアップ・ブロックを使用可能にしている場合、このステータス・ウィンドウは表示されません。

内部取引をロードすると、進行状況バーに進行状況、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。

内部取引をロードするには:

1. 「連結」、「ロード」、「内部取引明細」の順に選択します。
2. 「デフォルトのロード・オプション」で、「区切り文字」に、ロード・プロセス中に区切り文字として使用する文字を選択します。
3. 「ロード・モード」で、次のいずれかのオプションを選択します:
 - マージ: 取引をマージします。
 - 置換: 取引を置換します。
4. ロードするファイルの名前を入力するか、「参照」をクリックしてファイルを検索します。
5. ロードする前にファイルをスキャンするには、「スキャン」をクリックします。
6. オプション: 追加のファイルをロードするには、「追加」をクリックし、追加する行数を、1、5 または 10 から選択します。
7. 「ロード」をクリックします。

既存のファイルをリロードすると、それらのファイルを再度使用するかどうかを確認する警告プロンプトが表示されます。行う場合、「はい」をクリックします。

各ファイル・スキャンとロード・ステータスが、新しいページに表示されます。

内部取引ファイルの抽出

「内部取引ユーザー」または「管理者」のセキュリティ役割がある場合は、内部取引ファイルを抽出できます。抽出する取引のステータス(「一致」、「未照合」、「不一致」、「転記済」、「転記の戻し済」)を指定したり、特定の取引通貨、照合コードまたは理由コードの取引を抽出するように指定できます。アプリケーションで定義されている理由コードのリストを抽出することもできます。

内部取引を抽出するには:

1. 「連結」、「抽出」、「内部取引明細」の順に選択します。
2. 視点バーで、シナリオ、年、期間を選択します。
3. エンティティとパートナのディメンション・メンバーの名前を入力するか、「参照」をクリックしてメンバーを見つけます。
4. 抽出プロセスに含める取引のタイプを、次から1つ以上選択します:
 - 一致
 - 未照合
 - 不一致
 - 転記済
 - 転記の戻し済
5. 「理由コード」で、理由コードを選択するか、デフォルト・オプションの「すべて」のままにします。
6. 「取引通貨」で、取引を抽出する際の取引通貨を選択するか、デフォルト・オプションの「すべて」のままにします。
7. 「取引の照合コード」で、照合コード値を入力するか、パーセント記号(%)をワイルドカードとして使用します。
8. オプション: アプリケーションで定義されている理由コードのリストを抽出するには、「理由コードを含める」を選択します。
9. 「抽出」をクリックします。
10. 抽出が正常に行われたという確認のプロンプトで、「OK」をクリックします。
11. 「ダウンロード」リンクをクリックし、「保存」を選択します。
12. 抽出したファイルの名前を入力し、ファイルの場所が設定したディレクトリ内であることを確認します。

ノート:

内部取引ファイルには、デフォルトで TRN ファイル拡張子が付きます。

- 13.「保存」をクリックします。

内部取引の管理について

内部取引の管理ページはメイン・ページで、ユーザーは大部分の内部取引処理をこのページから実行し、次のタスクを実行します:

- [内部取引の作成](#)
- [内部取引の表示](#)
- [内部取引の編集](#)
- [内部取引の照合](#)
- [内部取引を未照合に戻す](#)
- [内部取引の転記](#)
- [内部取引の転記に戻す](#)
- [内部取引の削除](#)
- [内部取引のレポート](#)

内部取引の作成

Oracle Hyperion Financial Management では、次のようにして内部取引を作成できます:

- ASCII ファイルから内部取引をロードします。[内部取引のロード](#)を参照してください。
- 内部取引の管理ページから、手動で取引を入力します。

内部取引は、管理者が内部取引勘定として設定した勘定科目に対して入力できます。内部取引として互いに処理されるエンティティを、内部取引パートナといいます。内部取引パートナとなるエンティティは管理者が特定します。

内部取引を入力する前に必ず内部取引の期間を開きます。期間が開かれると、アプリケーションから手動で取引を入力できるようになります。取引を作成するには、「内部取引ユーザー」のセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

取引には、データの視点のエンティティに関連した1つの取引にのみ関する情報が含まれています。取引 ID とサブ ID は、取引の詳細レコードのキーとして使用されます。

表 10-5 取引の詳細

取引の詳細	説明
シナリオ	アプリケーションで定義された有効なシナリオ。
年	アプリケーションで定義された有効な年。
期間	アプリケーションで定義された有効な基本期。

表 10-5 (続き) 取引の詳細

取引の詳細	説明
取引 ID	この ID は必須です。取引の ID を 40 文字以内で入力する必要があります。サブ ID と組み合わせて使用する場合は、この ID は、シナリオ/年/期間の組合せにおいて、エンティティ/パートナ/勘定科目/C1/C2 の一意の識別子になります。
取引サブ ID	<p>(オプション)。取引のサブ ID を 40 文字以内で入力できます。2 つのエンティティ間で 1 対多または多対多の取引を処理する必要がある場合は、サブ ID を使用すると便利です。たとえば、取引元のエンティティのブックの 1 つの取引がパートナのブックの複数の取引と対応する場合は、共通の参照には取引 ID を、複数の取引にはサブ ID を使用できます。</p> <p>また、「エンティティ通貨の調整」で調整仕訳を転記するのではなく、「エンティティ通貨」で取引を調整する必要がある場合にも、サブ ID を使用します。この場合、ダミーの取引を作成して元の請求書と同じ取引 ID を使用できますが、調整として識別されるサブ ID を使用します。つまり、サブ ID に「ADJ1」と入力して、これが本当の請求書ではなく調整であることを示します。</p>
参照 ID	<p>(オプション)。参照 ID を入力して、取引の参照情報を保管できます。たとえば、エンティティは、請求書を発行したエンティティとは異なる固有の請求書一連番号を持つ場合があります。この場合は、「参照 ID」ボックスに参考用として補足情報を入力できます。</p> <p>パートナの取引 ID にも参照 ID を使用できます。「取引 ID」にエンティティの参照 ID を入力し、このテキスト・ボックスにパートナ・エンティティの対応する請求書番号を入力できます。</p>
取引の日付	(オプション)。これは有効な日付であることが必要です。
エンティティ	エンティティは有効な ICP の親エンティティではなく、基本エンティティである必要があります。
パートナのエンティティ	パートナ・エンティティは、勘定科目の有効な ICP エンティティである必要があります。

表 10-5 (続き) 取引の詳細

取引の詳細	説明
勘定科目	勘定科目は、有効な ICP 勘定科目で、かつルール・ファイルで指定されている取引をセルでサポートできる必要があります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドのルールに関する項を参照してください。
カスタム	勘定科目の有効なカスタム・メンバー。
取引金額	取引通貨での請求書の金額。エンティティの通貨が入力されていない場合にのみ必要です。
取引通貨	これは、請求書取引に使用する通貨です。アプリケーションで定義された有効な通貨である必要があります。
換算レート	取引通貨での金額を、ローカル・レポート通貨に換算するときのレート。 現地通貨額の計算で、演算子が除算の場合は、現地通貨=取引通貨/レートの式が使用されます。演算子が乗算の場合は、現地通貨=取引通貨*レートの式が使用されます。 Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。
演算子	取引の現地通貨に応じた、乗算または除算のどちらかの演算子。最初にアプリケーションの通貨表で、特定の通貨に対して乗算または除算の演算子を定義します。デフォルトの演算子は除算です。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。
エンティティ通貨額	ローカル・エンティティ通貨での請求書のコ 金額。通貨はアプリケーションで定義されている有効な通貨です。 取引金額が入力されていない場合は、必須です。入力されている場合は、取引金額と換算レートを 入力すると、この情報が自動的に再計算されます。
コメント 1	(オプション)。取引のコメントを入力できます。最大 256 文字まで入力できます。

表 10-5 (続き) 取引の詳細

取引の詳細	説明
コメント 2	<p>(オプション)。取引の追加のコメントを入力できます。最大 256 文字まで入力できます。</p> <p>「コメント 2」には、パートナーの取引に関するコメントを入力できます。たとえば、エンティティ A が取引に関するコメントを「コメント 1」に入力したとします。後でエンティティ A が照合レポートを実行するか、パートナーの取引を参照したところ、パートナーの金額に食い違いがあることがわかりました。エンティティ A は「コメント 2」に追加のコメントを入力して、パートナーのレコードの情報に関する内容を記述できます。この情報は取引の一部として、参考用または監査証跡用の照合レポートに含めることができます。</p> <p>「コメント」にはパートナーの情報を入力できませんが、情報を入力できるのはエンティティに限られます。パートナー・エンティティはエンティティのレコードに情報を入力できません。</p>
理由コード	<p>(オプション)。理由コードは、管理者が定義した有効な理由コードであることが必要です。理由コードの主な目的は、取引のステータスが「不一致」であることの理由を示すことです。たとえば、パートナー・エンティティからの請求書がないため、またはパートナーが間違った金額を入力したためなどの理由を示します。取引が「一致」ステータスを持つ場合は、取引に理由コードを割り当てる必要はありません。ステータスが「未照合」の取引には、理由コードを割り当てることはできません。</p>

内部取引を作成するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 視点バーで、シナリオ、年および基本期間を選択します。
3. 「内部取引の編集」ペインのメニュー・バーで、「新規」を選択します。
4. 「新規内部取引」ペインで、「取引 ID」に、取引または請求書の番号を入力します。
40 文字まで入力できます。
5. オプション: 「取引のサブ ID」に、取引または請求書のサブ ID を入力します。
40 文字まで入力できます。
6. オプション: 「参照 ID」に、取引の参照情報を入力します。
40 文字まで入力できます。
7. オプション: 「取引日」に有効な日付を入力するか、ポップアップ・カレンダーで日付を選択します。

8. 「エンティティ」で、エンティティを入力するか、「メンバーの選択」アイコンをクリックしてメンバーを選択します。
9. 「パートナ」で、パートナ・エンティティを入力するか、「メンバーの選択」アイコンをクリックしてメンバーを選択します。
10. 「勘定科目」で、勘定科目を入力するか、「メンバーの選択」アイコンをクリックしてメンバーを選択します。
11. 「カスタム」で、カスタム・メンバーを入力するか、「メンバーの選択」アイコンをクリックしてメンバーを選択します。
12. 「取引額」に請求書の金額を入力し、「取引通貨」で取引に使用する通貨を選択します。
13. 「換算レート」に、取引通貨での金額をローカル・レポート通貨に換算するときのレートを入力します。

ノート:

このボックスを空白のままにし、エンティティ通貨額を入力した場合は、レートが再計算されます。

14. 「エンティティ通貨額」に、ローカル・エンティティ通貨で請求書の金額を入力し、レポート・エンティティの通貨を入力します。
15. オプション: 「コメント 1」および「コメント 2」に、取引のコメントを入力します。

ノート:

最大 256 文字まで入力できます。

16. 取引を保存するには、「取引の編集」ウィンドウの上部で、「保存」をクリックするか、または「アクション」、「保存」の順に選択します。

ヒント:

行をデフォルト設定にリセットするには、「取引の編集」ウィンドウの上部で、「リセット」をクリックするか、または「アクション」、「リセット」の順に選択します。

17. 新しく作成された取引を表示するには、「リフレッシュ」をクリックするか、「アクション」、「リフレッシュ」の順に選択します。

内部取引の表示

取引の詳細をロードするか、または手動で作成すると、「内部取引の管理」ページに取引リストを表示できます。エンティティおよびパートナの選択を変更し、他の検索条件を選択して、取引リストをフィルタ処理できます。

取引を表示する視点を選択します。シナリオと年は、アプリケーションで定義されている有効なディメンション・メンバーにし、期間はシナリオ期間単位の基本期間にします。エンティティは、有効な基本エンティティにします。視点を選択すると、選択した視点に関連する取引の詳細が表示されます。

図 10-1 内部取引の管理での取引の例

Status	Transaction ID	Transaction Sub ID	Entity	ICP (Partner)	Account	Transaction Am
1	T444	A01	A	B	RedtIC	
2	T444	A02	A	B	RedtIC	
3	T789	A01	A	C	RedtIC	
4	T789	A02	A	C	RedtIC	
5	T222	A01	A	B	RedtIC	
6	W999		A	B	RedtIC	
7	W789		A	B	RedtIC	
8	K887		A	B	RedtIC	

取引リストには、入力した取引の詳細だけでなく、手動では変更できない自動生成された取引の情報も表示されます。たとえば、照合ステータス、転記ステータス、照合コード、最後に取引を変更したユーザーのユーザー ID、取引の最終更新日時が表示されます。一致する取引は緑の二重ボックスで示され、転記済の取引は「ステータス」列に緑のフラグが示されます。不一致の取引は赤い三角形で示されます。

内部取引を表示するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 視点バーで、シナリオ、年、期間を選択します。
3. オプション: 取引・リストをフィルタするには、列と行を選択します。

エンティティとパートナーの選択

シナリオ/年/期間の1つの組合せに対して、複数の取引をアプリケーションに入力できます。表示するエンティティとパートナーの取引のみを選択して、取引リストをフィルタ処理できます。

エンティティとパートナーテキスト・ボックスを使用して、メンバー名を手動で入力して表示したり、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで参照して、メンバーを選択したりできます。メンバー名をセミコロン(;)で区切ると、複数のメンバーを選択できます。メンバー・リストを選択することもできます。

エンティティとパートナーのメンバーを選択しないと、すべてのエンティティとパートナーが表示されます。

取引列の表示

取引リストに表示する列を選択できます。列は昇順または降順でソートできます。ソートしないこともできます。たとえば、すべての転記済の取引をリストの上部に表示するには、転記ステータスを降順でソートします。

取引列を選択して表示するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 「表示」、「列」の順に選択し、列を選択するか、「すべて表示」を選択します。
3. オプション: 列を表示または非表示にするには、「表示」、「列」、「列の管理」の順に選択し、矢印キーを使用して列を「非表示」または「表示可能」リストに移動し、「OK」をクリックします。

4. **オプション:** 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、矢印キーを使用して列を並べ替えます。
5. **オプション:** 列のソート順を変更するには、ヘッダー・アイコンをクリックし、オプションを選択します。
 - 昇順
 - 降順
 - ソートなし
6. デイメンション・ラベル、対応する説明、またはその両方を表示するには、右側のペインの「表示オプション」を展開し、「デイメンション・オプション」で、デイメンションを選択し、「ラベル」、「説明」または「両方」を選択します。
7. 現在の設定を保存するには、「現在の設定の保存」をクリックします。

ヒント:

設定を最後に保存した状態にリセットするには、「設定のリセット」をクリックします。

取引行の表示

行を選択して取引リストに表示し、取引リストをフィルタ処理できます。エンティティ取引、パートナ取引、またはその両方を表示できます。

特定のエンティティとパートナの内部取引のみ表示できます。パートナとエンティティから対応する取引を表示することもできます。たとえば、エンティティとパートナの選択肢からエンティティ A とパートナ B の取引のみを選択すると、エンティティ A がパートナ B と持つ取引のみが表示されます。ただし、エンティティ B のパートナ A に対する取引を表示するには、エンティティ取引とパートナ取引の両方を含めます。

アスタリスク(*)が付いている次のフィールドでは、パーセント記号(%)をワイルドカードとして使用できます: 「取引 ID」、「取引サブ ID」、「参照 ID」、「照合コード」。フィルタ処理しない場合は、テキスト・ボックスを空白のままにします。行の設定は、セッションの終了時に保存されます。

行のフィルタを指定しないと、すべての行が表示されます。

ノート:

データベースの設定によっては、テキスト・ボックスで大文字と小文字が区別される場合があります。そのような場合は、「testgroup」でのフィルタ処理と「TestGroup」でのフィルタ処理では、異なる結果が戻されます。

取引行を選択して表示するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 「行のフィルタ」で、行のフィルタ・オプションを選択します:
 - a. 「エンティティ」には、デフォルト・エンティティを使用してエンティティを入力するか、「参照」をクリックしてメンバーを選択します。
 - b. 「パートナ」には、デフォルト・パートナ・エンティティを使用してパートナ・エンティティを入力するか、「参照」をクリックしてメンバーを選択します。

- c. エンティティ取引を表示するよう選択した場合、「エンティティ勘定およびカスタム」に勘定科目を入力するか、または「参照」をクリックして勘定科目を選択します。
 - d. パートナ取引を表示するよう選択した場合、「パートナ勘定およびカスタム」にパートナ勘定を入力するか、または「参照」をクリックして勘定科目を選択します。
 - e. オプション: ID で行をフィルタするか、空白のままにして次のすべてを表示します:
 - 取引 ID
 - 取引サブ ID
 - 参照 ID
 - f. オプション: 取引条件で行をフィルタするか、空白のままにして次のすべてを表示します:
 - 金額: 自および至
 - 開始日および終了日
 - 理由コード
 - 照合コード
 - 取引通貨
3. 「表示」で、「エンティティの内部取引」、「パートナの内部取引」またはその両方を選択します。
 4. 「含む」で、次のうち1つ以上のオプションを選択します: 「一致」、「未照合」、「不一致」、「転記済」または「転記の戻し済」。
 5. 「表示オプション」を展開し、「位取り」で、値を選択するかデフォルト値を使用します。
 6. 「表示する小数点以下の桁数」で、0 から 6 の間の値を選択するか、デフォルト値を使用します。
 7. 「共通通貨」で、通貨を選択します。
 8. 「ディメンション・オプション」で、ディメンションに対して「ラベル」、「説明」または「両方」を表示するよう選択します。

内部取引の選択

内部取引の管理ページから、複数の取引を選択し、それらを転記、転記の戻し、照合、照解除または削除できます。

内部取引を選択するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 視点バーで、シナリオ、年、期間を選択します。
3. 次のメソッドのいずれかを使用します:

- 処理する取引行の横にあるチェック・ボックスをクリックします。
- すべての取引を選択または選択解除するには、列ヘッダーのチェック・ボックスをクリックします。

「すべて選択」を使用すると、現在のページから 5000 の取引が選択されます。スクロールして、別のページから取引を選択できます。

内部取引の編集

取引を編集して情報を変更したり、コメントを取引に追加したりできます。取引のステータスが「一致」または「転記済」でない限り、何回でも変更できます。転記済取引に変更を加えるには、最初取引の転記を戻す必要があります。ステータスが「一致」の取引に変更を加えるには、まず取引の照合を解除する必要があります。この場合、同じ照合プロセス内で同じ照合コードを持つ、関連するすべての取引の照合が解除されます。取引のステータスが「不一致」の場合、変更を加えるとステータスが「不一致」から「未照合」に変わります。ただし、不一致の取引に理由コードが割り当てられている場合、または不一致の取引にコメントが入力されている場合は、ステータスは変わりません。

取引を保存した後で、「取引 ID」、「サブ ID」、「エンティティ」、「パートナ」、「勘定科目」、または元の取引の「カスタム」のディメンションを編集できるようになります。編集した取引を保存すると、元の取引が新しい情報で置換されます。

内部取引を編集するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 内部取引リストから編集する取引を選択します。
3. 視点バーで、シナリオ、年および基本期間を選択します。
4. 取引を編集します。
5. 変更を保存するには、「内部取引の編集」ペインの上部で、「保存」をクリックするか、または「アクション」、「保存」の順に選択します。

内部取引の複製

内部取引を複製して、別の取引から情報をコピーして新しい取引を作成できます。

内部取引を複製するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 内部取引リストから複製する取引を選択します。
3. 「新規内部取引」ペインのメニュー・バーで、「複製」をクリックします。
4. 変更を保存するには、「新規内部取引」ペインの上部で、「保存」をクリックするか、または「アクション」、「保存」の順に選択します。

内部取引への理由コードの割当て

内部取引に理由コードを割り当てると、ステータスが「不一致」になった理由を示すことができます。たとえば、パートナ・エンティティからの請求書がないためや、間違った金額が取引に入力されたために不一致になることがあります。理由コードはアプリケーションの管理者が定義します。ユーザーはリストから 1 つ選択して、取引に適用します。

個々の内部取引に理由コードを割り当てることも、複数の内部取引に同じ理由コードを割り当てることもできます。

理由コードは、アクセス権のある内部取引だけでなく、パートナーの取引に対して割り当てることができます。パートナーとして取引に割り当てられているエンティティに対して「すべて」のアクセス権がない場合であっても、これは可能です。また、「コメント 2」ボックスにコメントを入力して、理由コードの割当ての説明を追加することもできます。

理由コードを割り当てるには:

1. 「**連結**」、「**内部取引**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 内部取引リストから、理由コードを割り当てる取引を選択します。

ノート:

理由コードを割り当てられる取引は、ステータスが「**不一致**」の取引のみです。

3. 「**理由コードの設定**」をクリックするか、「**アクション**」、「**理由コードの設定**」の順に選択します。
4. 「**理由コード**」リストから、理由コードを選択し、「**OK**」をクリックします。

内部取引の照合

内部取引を内部取引勘定に転記する前に、照合プロセスを実行して、エンティティとそのパートナーの両方が取引に入力されていることを確認できます。たとえば、エンティティ A からエンティティ B への内部販売取引の場合、エンティティ A の売掛金の入力には、エンティティ B の対応する買掛金が必要です。

転記前に照合が要求される期間が管理者によって設定されている場合は、取引を照合してから転記する必要があります。照合プロセスにより、すべてのエントリが入力され、内部取引の勘定科目残高間で差異が調整されることを確認できます。ステータスが「**不一致**」の取引は、有効な理由コードを割り当てて転記できます。

取引は、いくつかの方法で照合できます。指定した条件に基づいて取引を自動的に照合できます。取引を自動照合プロセスで照合しない場合は、許容差ありまたは許容差なしで、特定の取引を手動で照合することも可能です。

次の手順を参照してください:

- [内部取引の自動照合](#)
- [許容差を使用した手動照合](#)
- [許容差を使用しない手動照合](#)

内部取引自動照合プロセス

自動照合では、ステータスが「**未照合**」および「**不一致**」の取引のみ照合します。このような取引は、未転記の取引でもあります。自動照合を選択するときに、取引を勘定科目で照合するか、または ID で照合するかを選択できます。

リストをフィルタ処理して、特定の取引通貨の取引のみを照合できます。以前に照合された取引には照合コードが割り当てられているため、これらは照合から除外されます。

照合プロセスに含めた取引の照合ステータスは、「**一致**」または「**不一致**」になります。不一致の取引は、自動照合にもう一度含めることができます。

内部取引を自動照合すると、進行状況バーに進行状況、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。

取引 ID 別の自動照合

取引 ID を基準にして自動照合を実行する方法は、最も一般的かつ正確に内部取引を照合できる方法です。エンティティ/パートナー/取引 ID/取引通貨に選択された現在のフィルタを使用して、取引 ID で自動照合プロセスが実行されます。参照 ID をフィルタし、自動照合を実行すると、取引は、現在のフィルタのエンティティ/パートナー/参照 ID/取引通貨に基づいて照合されます。取引 ID と参照 ID の両方を同時にフィルタして、自動照合を実行することはできません。

異なる照合方法を使用する場合、「自動照合テンプレート」オプションを選択します。[自動照合テンプレートの使用](#)を参照してください。

ID を指定することも、ワイルドカードを使用することもできます。ID が空白の場合は、エンティティとパートナーのすべての取引が照合されます。

取引 ID または参照 ID を基準にして取引を照合するときは、必ず取引通貨が使用されます。エラーなしで金額が一致すれば取引は「一致」とみなされるため、許容金額を指定する必要はありません。取引のグループごとに別個の照合コードが割り当てられます。

取引 ID または参照 ID が同じで通貨が異なる取引がある場合、それらの取引は自動照合中に通貨グループごとに照合されます。すべての通貨グループのすべての取引が照合される場合は、すべての取引に対して 1 つの照合コードが割り当てられます。

表 10-6 ID が同じで通貨が異なる取引の例

取引 ID	エンティティ	パートナー	Currency
T123	A	B	EUR
T123	B	A	EUR
T123	A	B	USD
T123	B	A	USD

この例で、EUR の取引が照合されて USD の取引が照合される場合、4 つのすべての取引に 1 つの照合コードが割り当てられます。EUR の取引が照合されて USD の取引は照合されない場合は、すべての取引が「不一致」とみなされます。

次の表に、ID を使用して取引を照合するときに適用されるルールを示します。

表 10-7 取引 ID または参照 ID を基準にした照合

照合プロセス	エンティティの取引	パートナーの取引	コメント
取引 ID を基準にした照合	取引 ID	取引 ID	エンティティの取引 ID とパートナーの取引 ID を照合します。

表 10-7 (続き) 取引 ID または参照 ID を基準にした照合

照合プロセス	エンティティの取引	パートナーの取引	コメント
参照 ID を基準にした照合	取引 ID 参照 ID 参照 ID	参照 ID 取引 ID 参照 ID	最初にエンティティの取引 ID とパートナーの参照 ID を照合します。 これらが不一致の場合は、エンティティの参照 ID とパートナーの取引 ID を照合します。 まだ不一致になる場合は、エンティティの参照 ID とパートナーの参照 ID を照合します。

自動照合における勘定科目タイプのグループ

ID による自動照合を行うと、取引 ID または参照 ID が同じ内部取引が、勘定科目タイプごとにグループに細分化されます。つまり、ID が同じ取引のグループごとに、別々の照合コードと照合ステータスが割り当てられます。

これらの取引は、次のように、それぞれの勘定科目タイプ(貸借対照表または損益)によってグループ化されます。

貸借対照表グループ

- 資産
- 負債
- 残高
- 経常残高

損益計算書グループ

- 収益
- 費用
- フロー

取引の各グループに対して、1 つの照合ステータスと別々の照合コードが割り当てられます。たとえば、取引の貸借対照表グループのステータスが「一致」で、照合コードが割り当てられたとしても、取引の損益計算書グループのステータスは「不一致」の場合があります。

例

次の例では、すべての内部取引が「123」という同じ取引 ID を持っています。

エンティティ	パートナー	勘定科目	金額	勘定科目タイプ
A	B	Recltic	100	資産
A	B	Sales	110	収益

エンティティ	パートナ	勘定科目	金額	勘定科目タイプ
B	A	Payltic	100	負債
B	A	Cog	100	費用

取引は、次のように、BS グループと PL グループに細分されます。

BS グループ

A、B、Recltic、100、資産

B、A、Payltic、100、負債

サブグループのステータス: 一致。このグループには照合コードが割り当てられます。

PL グループ

A、B、Sales、110、収益

B、A、COG、100、支出

サブグループのステータス: 不一致。このグループには照合コードは割り当てられません。

勘定科目別の自動照合

取引 ID を使用して照合プロセスを実行するだけでなく、特定の勘定科目に基づいて勘定科目を照合し、取引を照合することもできます。ユーザーが指定したエンティティとパートナの照合プロセスが実行されます。照合される取引は、照合プロセス中に取引通貨ごとにグループ化されて、通貨グループごとに別々の照合コードが割り当てられます。

照合プロセスに含まれる取引ごとに、まず取引通貨額が、アプリケーションのデフォルトの換算ルールに基づいてアプリケーション通貨に換算されます。換算された金額は差額合計に追加されます。自動照合プロセスに含まれる取引ごとに換算が行われて、差額が計算されます。

ノート:

使用される換算レートは、特定の通貨とアプリケーションの通貨の換算レート勘定に保管されているレートです。

計算された差額合計は、期間の照合許容差額セットと比較されます。照合許容差額はアプリケーション通貨で表示され、金額はアプリケーション通貨の位取りで入力されます。

差額が許容範囲内の場合は、取引が一致したとみなされ、取引グループに照合コードが割り当てられます。

差額が許容範囲外の場合は、エンティティ通貨額がアプリケーション通貨に換算されます。取引通貨以外の取引には、エンティティ通貨額が使用されます。差額が許容範囲内の場合は、取引が一致したとみなされ、取引グループに照合コードが割り当てられます。

内部取引の自動照合

内部取引は、勘定科目または ID を基準にして自動照合できます。取引を自動照合するには、「勘定科目による内部取引の自動照合」、または「ID による内部取引の自動照合」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

取引の自動照合のテンプレートも作成できます。[自動照合テンプレートの使用](#)を参照してください。

テンプレートを使用しない取引の自動照合

テンプレートを使用せずに内部取引を自動照合するには:

1. 「**連結**」、「**内部取引**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 取引リストから、照合する取引の横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. テンプレートを使用せずに取引を自動照合するには、「**自動照合**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**自動照合**」、「**自動照合**」の順に選択します。
4. 現在のフィルタ設定に基づいて自動照合しようとしているという確認のプロンプトで、「はい」または「いいえ」をクリックし、設定を変更します。
5. 「**リフレッシュ**」をクリックして、更新された内部取引リストを表示し、「一致」ステータスであることを確認します。

テンプレートを使用した取引の自動照合

テンプレートを使用して内部取引を自動照合するには:

1. 「**連結**」、「**内部取引**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 取引リストから、照合する取引の横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. テンプレートを使用して取引を自動照合するには、「**自動照合**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**自動照合**」、「**自動照合テンプレート**」の順に選択します。
「自動照合」タブが開きます。
4. 「**テンプレート**」リストから、テンプレートを選択します。
5. 「**照合**」をクリックするか、「**アクション**」、「**照合**」の順に選択します。
6. 「**内部取引の管理**」タブで、「**リフレッシュ**」をクリックして、更新された内部取引リストを表示し、「一致」ステータスであることを確認します。

自動照合テンプレートの使用

自動照合で頻繁に使用する設定をテンプレートとして保存できます。テンプレートは、次に自動照合プロセスを実行するときを使用するために保存されます。

自動照合テンプレートは、デフォルトの自動照合プロセスとは異なるオプションを選択するためにも使用します。テンプレートを使用して、TID または RID または勘定科目のいずれかによる照合など、異なる照合の方法を選択し、ID または勘定科目のペア情報を選択します。選択内容をテンプレートとして保存するか、またはテンプレートとして保存せずに照合プロセスを実行するよう「照合」を選択できます。

自動照合テンプレートを作成するには、「内部取引の照合テンプレート」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

自動照合テンプレートを使用するには:

1. 「**連結**」、「**内部取引**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 「**自動照合**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**自動照合**」、「**自動照合テンプレート**」の順に選択します。

3. 次のいずれかのアクションを選択します:
 - 既存のテンプレートを使用して自動照合プロセスを実行するには、「**テンプレート**」でテンプレートを選択して「**照合**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**照合**」の順に選択します。
 - 自動照合テンプレートを作成するには、次の手順に進みます。
4. 視点バーで、シナリオ、年および基本期間を選択します。
5. エンティティとパートナーのディメンション・メンバーの名前を入力するか、「参照」をクリックしてメンバーを見つけます。
6. 「**取引通貨**」から通貨を選択します。
7. 「**照合基準**」で、「**ID**」または「**勘定科目**」を選択します。
8. 次のいずれかのオプションを選択します:
 - 「**ID 別に照合**」を選択した場合、「**取引 ID**」または「**参照 ID**」を選択し、IDを入力するか、ワイルドカードを使用します。
 - 「**勘定科目別に照合**」を選択した場合、「**追加**」をクリックし、勘定科目ディメンション・メンバーまたはカスタム・メンバーを選択し、「**照合対象勘定科目**」セクションで、「**追加**」をクリックし、照合対象勘定科目ディメンション・メンバーまたはカスタム・メンバーを選択します。

ヒント:

勘定科目または照合対象勘定科目を削除するには、「**削除**」または「**すべて削除**」をクリックします。
9. 次のいずれかのアクションを選択します:
 - 選択内容を保存せずに照合プロセスを実行するには、「**照合**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**照合**」の順に選択します。
 - 設定をテンプレートとして保存するには、「**保存**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**保存**」の順に選択します。

許容差を使用した手動照合

取引 ID のレコードに食い違いがあったり、金額に多少の差異があるために、取引とパートナーの取引を手動で照合しなければならない場合があります。手動で照合を行うと、取引のステータスが「一致」に更新されて取引の照合コードが生成されます。

取引を手動で照合するには、「許容差による内部取引の手動照合」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

手動照合プロセスを実行するには、フィルタ・オプションを使用して、指定したエンティティとパートナーのペアに関する未照合の取引のみを表示します。取引グループを選択して、手動照合を実行できます。

手動照合プロセスを実行する前に、ステータスが「不一致」の取引がないかどうかを確認されます。手動照合を行うと、取引が有効なペアであるかどうかを確認されます。たとえば、A と B の間の取引と、B と A の間の取引を選択した場合、取引は有効なペアとみなされます。A と B の間の取引を選択し、B と C の間の取引を選択した場合、取引は有効な取引ペアとみなされません。

手動照合では、有効なパートナー取引のない片側のみの取引は使用できません。たとえば、A から B、A から B のように、同じ方向の 2 つの取引を選択することはできません。

「許容差を使用した手動照合」というセキュリティ役割を持つユーザーが照合を実行する場合は、金額が取引に一致するかどうかも確認されます。システムによって、アプリケーション通貨への換算が行われます。照合に含まれる取引ごとに、まず換算通貨額を使用して取引が照合されます。つまり、アプリケーションで設定されているデフォルトの換算ルールに基づいて、取引金額をアプリケーション通貨に換算し、その金額を差額に適用します。差額が照合許容差の範囲外の場合は、エンティティ通貨額をアプリケーション通貨に換算して、差額を期間に指定した照合許容差と比較します。

差額が許容範囲内の場合は、取引が一致したとみなされ、取引グループに照合コードが割り当てられます。[照合ステータス](#)および[照合コード](#)を参照してください。

「手動照合」というセキュリティ役割がある場合は、許容金額はチェックされません。[許容差を使用しない手動照合](#)を参照してください。

手動照合では、取引は取引通貨別にグループ化されません。このため、取引通貨の異なる取引を選択すると、取引ごとに換算が行われます。

手動照合における勘定科目タイプのグループ

手動照合を行うと、取引 ID または参照 ID が同じ内部取引が、勘定科目タイプごとにグループに細分化されます。手動照合に含まれる取引のグループ全体が一致してからでなければ、取引に「一致」ステータスと照合コードは割り当てられません。

両方のサブグループが一致すると、すべての取引に「一致」ステータスと1つの照合コードが割り当てられます。一方のサブグループのみ一致し、もう一方は一致しない場合は、すべての取引は不一致とみなされます。

これらの取引は、次のように、それぞれの勘定科目タイプ(貸借対照表または損益)によってグループ化されます。

貸借対照表グループ

- 資産
- 負債
- 残高
- 経常残高

損益計算書グループ

- 収益
- 費用
- フロー

例

次の例では、すべての内部取引が「123」という同じ取引 ID を持っています。

エンティティ	パートナ	勘定科目	金額	勘定科目タイプ
A	B	Recltic	100	資産
A	B	売上高	110	収益
B	A	Payltic	100	負債
B	A	Cog	100	費用

取引は、次のように、BS グループと PL グループに細分されます。

BS グループ

A、B、Recltic、100、資産

B、A、Payltic、100、負債

サブグループのステータス: 一致。

PL グループ

A、B、Sales、110、収益

B、A、COG、100、支出

サブグループのステータス: 不一致。

一方のサブグループのみが一致して、他方が一致しないため、すべての取引は不一致とみなされます。この手動照合プロセスではすべての取引に「不一致」ステータスが割り当てられ、照合コードは割り当てられません。

内部取引を手動で照合するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 取引リストから、照合する取引の横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. 「手動照合」をクリックするか、「アクション」、「手動照合」の順に選択します。

許容差を使用しない手動照合

許容差額との差異を比較しないで内部取引を手動で照合できます。このプロセスでは、通貨の換算も許容差額との比較も行われません。ただし、取引はステータスが「不一致」および「転記の戻し済」の有効なペアであることが必要です。

照合が終わったら、照合ステータスが更新され、照合コードが割り当てられます。

この方法で取引を手動で照合するには、「内部取引手動照合」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。この手順は、許容差を使用する照合と同じですが、許容金額はチェックされません。[許容差を使用した手動照合](#)を参照してください。

手動照合を行うと、取引は勘定科目タイプに基づいて個々のグループに細分化されます。

取引金額の差の調整

照合プロセスを実行した後で、ステータスが「不一致」の取引がある場合があります。たとえば、レコードの間違いや、通貨の換算レートの違い、取引の記録のタイミングなどの理由などにより、不一致になった可能性があります。このような場合は、調整入力を行って差額を調整する必要があります。調整は、取引で行うことも、残高勘定で行うこともできます。

取引での調整

内部取引を取引レベルで調整してからデータベースに転記するには、同じ取引 ID を使用して新しい取引を入力します。ただし、取引のサブ ID は異なる ID (たとえば、SubID=調整 1) を使用して、これが調整であることを表します。転記中に、同じ取引 ID の取引がすべて累積されて、その総額が勘定科目に転記されます。この方法では、エンティティ通貨の残高勘定への転記で調整が行われます。

残高勘定での調整

残高勘定で調整を行うには、仕訳入力で調整を行い、調整額をエンティティ通貨調整値ディメンションに転記します。これは他の仕訳調整と同様に処理されて、エンティティ通貨合計の残高勘定に反映されます。

照合ステータス

内部取引の照合ステータスは、「未照合」、「一致」、「不一致」のどれか1つになります。照合ステータスは自動的に更新され、手動での変更はできません。

取引を作成またはロードしたときのデフォルトのステータスは「未照合」です。自動照合プロセスに含まれる取引の場合は、ステータスが「一致」または「不一致」に更新されます。「不一致」は、取引に対して照合プロセスが行われたが一致しなかったか、またはアプリケーションで定義されている照合許容差外であったことを意味します。この問題を解決するには、自動照合プロセスをもう一度実行するか、手動照合を行います。[内部取引の自動照合](#)および[許容差を使用した手動照合](#)を参照してください。

「未照合」から「一致」または「不一致」への変更

自動照合または手動照合のプロセスを行うと、「未照合」の取引のステータスが「一致」または「不一致」に変わります。

「不一致」から「未照合」への変更

自動照合プロセスの結果ステータスが「不一致」になった取引に、コメントと理由コード以外の変更を加えると、ステータスが「未照合」になります。これは、手動入力および取引のロードの両方に適用されます。

「一致」から「未照合」への変更

ステータスが「一致」の取引には、コメントと理由コード以外の変更を加えることはできないため、手動入力でも、取引のロードでも変更を加えることはできません。ただし、照合解除プロセスを手動で実行して、「一致」ステータスを「未照合」ステータスに変更することはできます。

照合コード

取引を作成したとき、ステータスは「未照合」で、照合コードはデフォルトで空白です。照合プロセスを実行すると、照合ステータスが「一致」に変更されて、照合コードが生成されます。照合コードは表示のみで、手動で変更できません。

グループ内のすべての照合対象取引に同じ照合コードが適用されます。たとえば、次の取引を照合する場合、このグループのすべての取引に同じコードが適用されます。逆取引がある場合、それらは別のグループとみなされて、別の照合コードが割り当てられます。

IDによる照合を行うと、同じ取引IDまたは参照IDの内部取引が、勘定科目タイプに基づいて別々のグループに細分化されます。つまり、IDが同じ取引の各グループに、別々の照合コードと照合ステータスが割り当てられます。

照合プロセス中にシステムによって照合コードが生成された際に、照合プロセスのタイプの違いを示す次のいずれかの接頭辞が使用されます。

- A - 勘定科目を使用する自動照合
- I - 取引IDを使用する自動照合
- R - 参照IDを使用する自動照合
- M - 手動照合

表 10-8 照合コードの例

エンティティ	パートナ	勘定科目	取引 ID	取引金額	照合ステータス	照合コード
A	B	ICRec1	XY234	100	一致	A11
A	B	ICRec2	XY235	300	一致	A11
B	A	ICPay1	XY234	100	一致	A11
B	A	ICPay2	XY235	300	一致	A11

勘定科目による照合では、取引通貨でグループ分けするオプションを選択できます。ある取引グループの取引通貨が別のグループと異なる場合は、グループごとに別々の照合コードが生成されます。

内部取引を未照合に戻す

一致した取引に変更を加えることはできません。取引を編集する必要がある場合は、取引の照合を解除する必要があります。「照合解除」オプションを使用すると、特定の内部取引の照合ステータスを手動で「未照合」に戻すことができます。

ステータスを「未照合」に戻すプロセスを行うには、「内部取引未照合」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

照合解除は、同じ照合コードを持つすべての取引に適用されます。これにより、特定の照合に関連するすべての取引が元のステータスに確実に戻されます。

取引の照合を解除するときに、一致している取引のリストが表示されます。これらの取引のステータスはすべて「一致」で、同じ照合コードを持ちます。転記済取引やロックされているエンティティの取引の照合は解除されません。転記済取引の照合を解除するには、最初に取引の転記を戻してから未照合にします。

「すべて未照合にする」を選択して、すべての取引の照合を解除すると、進行状況バーに、進行状況(%)、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。[内部取引の進行状況の表示](#)を参照してください。

照合解除プロセスが完了すると、取引の照合ステータスが「未照合」に変わり、照合コードが空白になります。

たとえば、T123、T124、T125、T126 という取引を含むグループが照合されて、A122 という照合コードが割り当てられたとします。取引 T125 を変更する場合は、T125 を選択して照合を解除します。T125 を選択すると、このグループ内のすべての取引が表示されます。選択内容を確認すると、照合解除が開始されて、このグループのすべての取引の照合が解除されます。

内部取引の照合を解除するには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。
2. 内部取引のリストから、照合を解除する取引の横にあるチェック・ボックスを選択するか、または列ヘッダーから、「すべて選択」をクリックします。
3. 「選択した取引を未照合にする」か「すべて未照合にする」をクリックするか、または「アクション」、「選択した取引を未照合にする」か「すべて未照合にする」の順に選択します。
4. 「未照合」タブで、照合を解除する取引を確認し、「未照合」をクリックします。

照合が解除されると、これらの取引の照合ステータスが「未照合」に変わり、照合コードが空白になります。

内部取引の転記

内部取引を勘定科目残高に含めるには、それらの取引を転記します。内部取引を作成またはロードしたときのステータスは、デフォルトで「転記の戻し済」になり、残高勘定科目に金額が表示されません。たとえば、エンティティ A のエンティティ B に対する内部取引を USD \$100 で入力したとします。ただし、金額は ICRec 勘定科目には記録されていません。ICRec 勘定科目の残高は、取引が転記されるまでゼロのままです。

選択した内部取引を勘定科目に転記すると、取引のステータスが「転記済」に更新され、取引の合計取引金額が勘定科目残高に反映されます。

取引を転記するには、「内部取引の転記/転記の戻し」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

期間に「転記前に照合」条件が設定されている場合は、転記前に取引がチェックされ、ステータスが「一致」、またはステータスが「不一致」で理由コードが割り当てられている取引のみが残高勘定に転記されます。期間にこの条件が設定されていない場合は、照合は不要です。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

「すべて転記」を選択すると、フィルタ条件を満たすすべての取引が転記されます。POV のすべての取引は転記されません。進行状況バーに、進行状況(%）、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。[内部取引の進行状況の表示](#)を参照してください。

内部取引の転記後は、変更できなくなります。転記済取引を変更する必要がある場合は、転記を戻してから変更を加え、もう一度取引を照合して転記する必要があります。[内部取引の転記を戻す](#)を参照してください。

内部取引を転記するには:

1. 「**連結**」、「**内部取引**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 内部取引のリストから、転記する取引の横にあるチェック・ボックスを選択するか、または列ヘッダーから、「**すべて選択**」をクリックします。
3. 次のいずれかのアクションを選択します:
 - 「**転記**」をクリックするか、「**アクション**」、「**転記**」の順に選択します。
 - フィルタ条件を満たす取引を転記するには、「**すべて転記**」をクリックするか、または「**アクション**」、「**すべて転記**」の順に選択します。
4. 「**結果**」タブで、転記結果を確認し、「**OK**」をクリックします。

内部取引の管理リストで、転記済の取引は「ステータス」列に緑のフラグが示されます。

転記プロセス

転記プロセス中に、特定の勘定科目セルに関連する取引が累計されて、金額が残高勘定に累計されます。たとえば、ICRec 勘定に 2 つの取引があり、その合計が 100 であるとする、合計額の 100 が ICRec の残高勘定に適用されます。これが最初の取引であれば、ICRec 勘定の残高は 100 です。この勘定科目に対して、後で合計 300 の取引を転記すると、この金額が残高勘定に追加されるため、転記後の ICRec 勘定の残高は 400 になります。

取引はエンティティ通貨値ディメンションに転記されます。勘定科目が残高の種類の場合は、シナリオのデフォルト・ビューに関係なく、金額は YTD ビューで転記されます。

フロー勘定への転記

フロー勘定では、シナリオに指定されているルールに従って転記が行われます。管理者はアプリケーションにルールを定義するときに、内部取引を入力できるセルを定義します。管理者はシナリオごとに期間単位を定義し、PER ファイルに定義されている有効な期間単位に基づいて、取引をサポートする期間を決定できます。月次シナリオで有効な期間単位は、MTD、QTD、HYTD、YTD です。これらを使用して、取引をサポートする期間の期間単位を指定することもできます。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

たとえば、四半期ごとに内部取引を入力するように設定されたシナリオでは、内部取引を入力できる月は3月、6月、9月、12月のみです。それ以外の月については、ユーザーは取引を入力せずにセルの金額を手動で入力する操作のみ行うことができます。ただし、四半期の月に入力する取引については、四半期の月だけではなく四半期の期間全体の取引をすべて入力します。たとえば、3月であれば、1月、2月、3月の取引を入力します。これで、取引をドリルダウンすると YTD の金額と一致します。

転記済ステータスの表示

転記済取引は、内部取引の処理ページの「ステータス」列で緑のフラグで示されます。列をソートして、取引を照合ステータスまたは転記ステータスでソートできます。つまり、すべての転記済取引をリストの上部に表示するには、転記ステータスを降順でソートします。

また、データ・グリッドやデータ・フォームで、勘定科目残高に転記された金額を確認することもできます。

ステータスが「転記済」の取引を表示するには、次のいずれかを行います。

- 内部取引の管理から、視点(POV)を選択し、転記済取引の「ステータス」列を確認します。
- 内部取引の管理で、視点を選択し、転記ステータスでソートします。
- データ・グリッドをドリルダウンして、取引を表示します。内部取引のドリルルールを参照してください。
- データ・フォームをドリルダウンして、取引を表示します。内部取引のドリルルールを参照してください。

内部取引の転記を戻す

ステータスが「転記済」になった内部取引には、変更を加えることができません。そのような取引は編集、削除できません。転記済取引を変更する必要がある場合は、取引の転記を戻し、必要な変更を加えてから、取引をもう一度照合して転記します。

取引の転記を戻すには、「内部取引の転記/転記の戻し」というセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

転記の戻しを行うと、残高勘定の金額が元に戻されて、ステータスが「転記済」から「転記の戻し済」に変わります。取引の転記を戻しても、照合ステータスは変わりません。

「すべての転記を戻す」を選択すると、フィルタ条件を満たすすべての取引の転記が戻されます。POV のすべての取引の転記は戻されません。進行状況バーに、進行状況(%)、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。内部取引の進行状況の表示を参照してください。

内部取引の転記を戻すには:

1. 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。

2. 内部取引のリストから、転記を戻す取引の横にあるチェック・ボックスを選択するか、または列ヘッダーから、「すべて選択」をクリックします。
3. 次のいずれかのアクションを選択します:
 - 「転記の戻し」をクリックするか、「アクション」、「転記の戻し」の順に選択します。
 - フィルタ条件を満たす取引の転記を戻すには、「すべての転記を戻す」をクリックするか、または「アクション」、「すべての転記を戻す」の順に選択します。
4. 「結果」タブで、転記結果を確認し、「OK」をクリックします。

内部取引の進行状況の表示

ロード取引、「自動照合」、「すべて転記」、「すべての転記を戻す」、「すべて未照合にする」、「すべて削除」、「取引 ID 別の照合レポート」、「勘定科目別の照合レポート」および取引レポートのオプションでは、内部取引プロセスの進行状況を表示できます。これらのオプションを選択すると、別のブラウザ・ウィンドウに進行状況バーのページが開き、現在の進行状況、ステータス、前回の更新時間が表示されます。

タスクのステータスは、タスクの実行モジュールからも表示できます。タスクの実行モジュールでは、管理者またはタスクの適切なセキュリティ権限を持つユーザーであれば、タスクを停止できます。プロセスが終了した後で、タスクの実行モジュールでログの表示を選択して、ステータス情報を表示することもできます。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

内部取引の進行状況を確認するには:

1. 取引のリストで取引を選択してから、タスクを選択します。
2. 次のいずれかのアクションを行います:
 - **内部取引の管理** ページで、実行中のタスクの進行状況バーを表示します。
 - 「**タスクの実行**」 ページで、進行状況を表示するタスクを選択します。

内部取引の削除

不要な内部取引を削除できます。ただし、削除できるのは、転記ステータスが「転記の戻し済」の取引と、照合ステータスが「未照合」または「不一致」の取引のみです。ステータスが「転記済」または「一致」の取引は削除できません。転記済の取引は転記を戻してから、一致の取引は照合を解除してからでなければ削除できません。

取引を削除するには、「内部取引ユーザー」のセキュリティ役割を割り当てられている必要があります。

「すべて削除」を選択すると、フィルタ条件を満たすすべての取引が削除されます。POV のすべての取引は削除されません。進行状況バーに、進行状況(%）、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。[内部取引の進行状況の表示](#)を参照してください。

内部取引を削除するには:

1. 削除する取引の横にあるチェック・ボックスを選択するか、または列ヘッダーから、「すべて選択」をクリックします。
2. 次のいずれかのアクションを選択します:
 - 「削除」をクリックするか、「アクション」、「削除」の順に選択します。

- フィルタ条件を満たす取引を削除するには、「すべて削除」をクリックするか、または「アクション」、「すべて削除」の順に選択します。

ノート:

「すべて削除」を選択した場合でも、ステータスによって削除されない取引もあります。たとえば、「転記済」、「一致」の取引は削除されません。

3. 削除を確認するメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

内部取引のレポート

取引をアプリケーションにロードしたら、照合レポートを実行して、一致する取引と不一致の取引を確認できます。次のタイプのレポートを実行できます:

- 内部取引レポート。取引のリストを表示します。[内部取引明細レポートの実行](#)を参照してください。
- 勘定科目による照合レポート。選択した勘定科目に基づく照合レポートです。[勘定科目による照合レポートの実行](#)を参照してください。
- 取引 ID による照合レポート。取引 ID を基準にした照合レポートです。[取引 ID による照合レポートの実行](#)を参照してください。

レポートを実行すると、進行状況バーに、進行状況(%)、ステータス、前回の更新時間が表示されます。進行状況はタスクの実行モジュールから確認することもできます。[内部取引の進行状況の表示](#)を参照してください。

内部取引明細レポートの実行

内部取引明細レポートを実行して、取引のリストを表示できます。レポートに表示する列と行を選択したり、列のソート順を変更したりできます。

ノート:

レポートは、HFM-フォーマット、PDF、RTF、HTML、XLS または XLSX を使用して、フォーマットおよび印刷できます。[システム・レポートのフォーマット](#)を参照してください。

次の方法でレポートを作成できます:

- 「内部取引明細レポート」ページからレポートを実行する。
- テキスト・ファイルにスクリプトを記述する。*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

ノート:

このレポートには、選択した取引のリストが、指定したソート順および桁区切りで表示されます。これは、調整用の照合レポートではありません。[照合レポートの実行](#)を参照してください。

内部取引明細レポートを実行するには:

- 次のメソッドのいずれかを使用します:
 - 「連結」、「内部取引」、「レポート」の順に選択します。「新規」、「レポート」、「内部取引明細」の順にクリックします。
 - 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。「レポート」メニューから、「内部取引明細」を選択します。
 - 「連結」、「ドキュメント」の順に選択します。「新規」、「レポート」、「内部取引明細」の順にクリックします。
- レポートに表示する行および列を選択します。

内部取引明細レポートの列の表示および内部取引明細レポートの行の表示を参照してください。

ノート:

ツールチップによって任意のアクション(行の削除など)が隠れる場合、タブ移動またはマウス・クリックを行って焦点をコンポーネントの外側に移動することで、ツールチップを終了できます。

- レポートを印刷またはプレビューするには、「印刷/プレビュー」をクリックするか、または「アクション」、「印刷/プレビュー」の順に選択します。

新しいタブにレポートが開きます。

- レポートを保存するには、「保存」をクリックするか、または「アクション」、「保存」の順に選択します。

ヒント:

変更を保存せずに選択したオプションをデフォルト値にリセットするには、「リセット」をクリックするか、または「アクション」、「リセット」の順に選択します。

- レポートが正常に保存されたという確認のプロンプトで、「OK」をクリックします。

内部取引明細レポートの列の表示

レポートの列に表示するアイテムと、その表示順序を選択できます。列は昇順または降順でソートできます。ソートしないこともできます。合計オプションを選択すると、列の金額に小計が表示されます。

すべての行に情報を繰り返し表示するかどうかを選択できます。たとえば、エンティティのラベルで「繰返し」オプションを選択すると、そのエンティティに対して選択したすべての取引にエンティティのラベルが表示されます。「繰返し」オプションを選択しない場合は、最初の取引にエンティティのラベルが表示されますが、それ以降の取引には同じラベルは表示されません。

表 10-9 エンティティ列の「繰返し」オプションを選択した場合

エンティティ	パートナ	勘定科目
A	B	ICRec1
A	B	ICRec2

表 10-9 (続き) エンティティ列の「繰返し」オプションを選択した場合

エンティティ	パートナ	勘定科目
A	B	ICPay1
B	C	ICRec1
B	D	ICRec2

表 10-10 エンティティ列の「繰返し」オプションを選択しなかった場合

エンティティ	パートナ	勘定科目
A	B	ICRec1
A	B	ICRec2
A	B	ICPay1
B	C	ICRec1
B	D	ICRec2

内部取引明細レポートの列を表示するには:

1. 新しいレポートを開くか、作成します。
2. 「表示オプション」から、「表示」、「列」の順に選択し、列を選択するか、「すべて表示」を選択します。

ヒント:

列を並べ替えたり、列を表示または非表示にするには、「列の管理」をクリックし、列を選択して、「OK」をクリックします。

3. オプション: 列を選択し、次のオプションを設定します:
 - 列をソートするには、「昇順」、「降順」を選択するか、または「アクション」、「昇順」または「降順」の順に選択します。
 - 選択されて昇順または降順に設定されている列に対して、ソートしないよう選択するには、「昇順」または「降順」のいずれかをクリックして、「ソートなし」を表示します。
 - 各行に情報を繰り返すには、「繰返し」をクリックするか、または **Actions**、「繰返し」の順に選択します。
 - 金額の小計を表示するには、「合計」をクリックするか、または「アクション」、「合計」の順に選択します。

内部取引明細レポートの行の表示

特定の行を選択して、特定のタイプの取引のみをレポートに表示できます。レポートの条件を指定すると、フィルタ条件を満たす取引のみがレポート用に処理されます。たとえば、ステータスが「一致」や「転記済」の取引のみを表示したり、一定の日付範囲の取引を選択したりできます。

内部取引明細レポートの行を表示するには:

1. 新しいレポートを開くか、作成します。
2. 「行のフィルタ」で、ID を入力するか、すべて表示する場合は空白のままにします。
 - 取引 ID
 - 取引サブ ID
 - 参照 ID
3. オプション: 取引条件で行をフィルタするか、空白のままにして次のすべてを表示します:
 - 金額: 自および至
 - 開始日および終了日
 - 理由コード
 - 照合コード
 - 取引通貨
4. 「含む」で、次のうち1つ以上のオプションを選択します: 「一致」、「未照合」、「不一致」、「転記済」または「転記の戻し済」。
5. 「表示」で、「エンティティの内部取引」、「パートナーの内部取引」またはその両方を選択します。
6. オプション: すべての取引の詳細は表示せずに、小計行のみを表示するには、「詳細を非表示」を選択します。

照合レポートの実行

取引をアプリケーションにロードしたら、照合レポートを実行して、一致する取引と不一致の取引を確認できます。勘定科目、取引 ID および参照 ID による照合レポートを実行できます。

レポートに表示する列および行を選択したり、列のソート順を変更したりできます。

照合レポートを作成するには、次の方法があります。

- 「内部取引照合レポート」 ページからレポートを実行する。
- テキスト・ファイルにスクリプトを記述する。 *Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド* を参照してください。

照合レポートのオプションの選択

照合レポートを実行するときに、取引のタイプと取引の詳細を表示したり、非表示にしたりできます。たとえば、取引の詳細およびステータスが「一致」の取引を非表示にできます。

エンティティとパートナーの選択のリストで、メンバーを1つだけ選択することも、複数選択することもできます。エンティティとパートナーのメンバーを選択しないと、すべてのエンティティとパートナーが表示されます。

エンティティとパートナーの選択の他に、レポートで使用する照合通貨を指定する必要があります。

詳細の非表示

照合レポートに小計額のみ表示する場合は、内部取引の詳細を非表示にするよう選択できます。このオプションを選択すると、エンティティ/パートナーの各セクションに合計の差額のみがレポートに表示されます。不一致が存在するために、各内部取引を表示する必要がある場合は、レポートを再生成して、内部取引の詳細を表示できます。

一致した取引の非表示

一致した取引を非表示にするには、次のオプションを選択します。

- 取引通貨額で一致した取引
- 照合通貨額で一致した取引

ノート:

両方のオプションを選択すると、両方の条件に当てはまる取引のみが非表示になります。

照合許容差は、常に照合レポートの通貨と位取りで入力されるため、まず、取引通貨額またはエンティティ通貨額が換算され、次に、差額の合計が照合許容差と比較されます。

取引通貨または照合通貨を使用して、一致した取引を非表示にすることを選択した場合は、エンティティとパートナーの金額が照合許容差の範囲内であれば取引が非表示になります。たとえば、エンティティの金額が 299 でパートナーの金額が 200 の場合、差額は 99 です。照合許容差が 100 であれば、エンティティとパートナーの差額は 100 より小さく照合許容差内であるため、取引は非表示になります。

勘定科目による照合レポートの実行

勘定科目別で照合レポートを実行し、取引レベルで内部取引を照合できます。何も一致しない場合は、取引のエントリが間違っているか、パートナー側で取引エントリが記録されていない可能性があります。

照合通貨は、特定の通貨にすることも、共通の親通貨にすることもできます。取引通貨額とエンティティ通貨額は、ユーザーが選択した照合通貨に換算されます。「照合する通貨」に何も指定しないと、換算処理は行われなため、「照合通貨でのエンティティ額」、「照合通貨での親の額」、「照合通貨の差額」、「取引エラー」および「変換エラー」の列がレポートに表示されません。

[照合レポートのオプションの選択](#)を参照してください。

勘定科目による照合レポートを実行するには:

1. 次のメソッドのいずれかを使用します:
 - 「連結」、「内部取引」、「レポート」の順に選択します。「新規」、「レポート」、「勘定科目別の内部取引照合」の順にクリックします。
 - 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。「レポート」メニューから、「勘定科目別の内部取引照合」を選択します。
 - 「連結」、「ドキュメント」の順に選択します。「新規」、「レポート」、「勘定科目別の内部取引照合」の順にクリックします。
2. 「名前」に、レポート名を入力します。
3. オプション: 「説明」に、レポートの説明を入力します。

4. 「セキュリティ・クラス」ドロップダウン・リストで、レポートのセキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
5. 「レポートのフォーマット」で、フォーマットを選択します。
6. オプション: 「スタイル・シート」で、レポートのスタイル・シートを選択します。
7. 視点で、シナリオ、年および基本期間を選択します。
8. 「エンティティ」にエンティティを入力するか、「参照」をクリックしてエンティティを選択します。
9. 「パートナ」にパートナ・エンティティを入力するか、「参照」をクリックしてパートナ・エンティティを選択します。
10. 「メンバー名」で、次のオプションを選択します:
 - ディメンション・メンバーのラベルを表示するには、「ラベル」を選択します。
 - ディメンション・メンバーの説明を表示するには、「説明」を選択します。
 - ラベルと説明を表示するには、「両方」を選択します。
11. オプション: 「位取り」および「表示する小数点以下の桁数」で、取引の表示金額の値を選択します。
12. 「レポートの列」セクションで、レポートに表示する列を選択します。
13. 「勘定科目」で、「追加」をクリックし、勘定科目ディメンション・メンバーまたはカスタム・メンバーを選択し、「照合対象勘定科目」セクションで、「追加」をクリックし、照合対象勘定科目ディメンション・メンバーまたはカスタム・メンバーを選択します。
14. オプション: 行のフィルタ抑制セクションで、次を抑制するよう選択します:
 - 詳細
 - 取引通貨で一致した取引: 必要に応じて許容差を入力します
 - 照合通貨で一致した取引: 必要に応じて許容差を入力します
15. 「処理に含む」で、次のうち1つ以上の照合または転記ステータスを選択します:
 - 一致
 - 未照合
 - 不一致
 - 転記済
 - 転記の戻し済
16. オプション: 取引通貨でフィルタ処理するには、「取引通貨」で通貨を選択します。
17. レポートを印刷またはプレビューするには、「印刷/プレビュー」をクリックするか、または「アクション」、「印刷/プレビュー」の順に選択します。

新しいタブにレポートが開きます。
18. レポートを保存するには、「保存」をクリックするか、または「アクション」、「保存」の順に選択します。

ヒント:

変更を保存せずに選択したオプションをデフォルト値にリセットするには、「リセット」をクリックするか、または「アクション」、「リセット」の順に選択します。

19. レポートが正常に保存されたという確認のプロンプトで、「OK」をクリックします。

取引 ID による照合レポートの実行

取引 ID による照合レポートを実行すると、内部取引を取引レベルで照合できます。照合通貨は、特定の通貨にすることも、共通の親通貨にすることもできます。取引通貨額とエンティティ通貨額は、ユーザーが選択した照合通貨に換算されます。「照合する通貨」に何も指定しないと、換算処理は行われなため、「照合通貨でのエンティティ額」、「照合通貨での親の額」、「照合通貨の差額」、「取引エラー」および「変換エラー」の列がレポートに表示されません。

[照合レポートのオプションの選択](#)を参照してください。

取引 ID による照合レポートを実行するには:

1. 次のメソッドのいずれかを使用します:
 - 「連結」、「内部取引」、「レポート」の順に選択します。「新規」、「レポート」、「ID 別の内部取引照合」の順にクリックします。
 - 「連結」、「内部取引」、「管理」の順に選択します。「レポート」メニューから、「ID 別の内部取引照合」を選択します。
 - 「連結」、「ドキュメント」の順に選択します。「新規」、「レポート」、「ID 別の内部取引照合」の順にクリックします。
2. 「名前」に、レポート名を入力します。
3. オプション: 「説明」に、レポートの説明を入力します。
4. 「セキュリティ・クラス」ドロップダウン・リストで、レポートのセキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
5. 「レポートのフォーマット」で、フォーマットを選択します。
6. オプション: 「スタイル・シート」で、レポートのスタイル・シートを選択します。
7. 視点で、シナリオ、年および基本期間を選択します。
8. 「エンティティ」にエンティティを入力するか、「参照」をクリックしてエンティティを選択します。
9. 「パートナー」にパートナー・エンティティを入力するか、「参照」をクリックしてパートナー・エンティティを選択します。
10. 「メンバー名」で、次のオプションを選択します:
 - ディメンション・メンバーのラベルを表示するには、「ラベル」を選択します。
 - ディメンション・メンバーの説明を表示するには、「説明」を選択します。
 - ラベルと説明を表示するには、「両方」を選択します。
11. オプション: 「位取り」および「表示する小数点以下の桁数」で、取引の表示金額の値を選択します。

12. 「レポートの列」セクションで、レポートに表示する列を選択します。
13. 「照合基準」で、オプションを選択し、IDを入力します:
 - パートナの取引 ID に対するエンティティの取引 ID
 - パートナの参照 ID に対するエンティティの取引 ID
 - パートナの取引 ID に対するエンティティの参照 ID
 - パートナの参照 ID に対するエンティティの参照 ID
14. オプション: 行のフィルタ抑制セクションで、次を抑制するよう選択します:
 - 詳細
 - 取引通貨で一致した取引: 必要に応じて許容差を入力します
 - 照合通貨で一致した取引: 必要に応じて許容差を入力します
15. 「処理に含む」で、次のうち1つ以上の照合または転記ステータスを選択します:
 - 一致
 - 未照合
 - 不一致
 - 転記済
 - 転記の戻し済
16. オプション: 取引通貨でフィルタ処理するには、「取引通貨」で通貨を選択します。
17. レポートを印刷またはプレビューするには、「印刷/プレビュー」をクリックするか、または「アクション」、「印刷/プレビュー」の順に選択します。

新しいタブにレポートが開きます。
18. レポートを保存するには、「保存」をクリックするか、または「アクション」、「保存」の順に選択します。

ヒント:
変更を保存せずに選択したオプションをデフォルト値にリセットするには、「リセット」をクリックするか、または「アクション」、「リセット」の順に選択します。
19. レポートが正常に保存されたという確認のプロンプトで、「OK」をクリックします。

取引の詳細へのドリルスルー

内部取引の管理ページと照合レポートで取引の詳細を表示するだけでなく、取引が勘定科目セルに転記された後で、その他のモジュールから対応する取引の詳細を表示できます。取引の詳細は、次の3つの場所からドリルスルーできます。

- 内部取引照合レポートからのドリルスルー(残高勘定レベル)。内部取引のドリルスルーを参照してください。

- データ・グリッドからのドリルスルー。 [内部取引のドリルスルー](#)を参照してください。
- データ・フォームからのドリルスルー。 [内部取引のドリルスルー](#)を参照してください。

内部取引の電子メール・アラート

内部取引の電子メール・アラートを生成できます。たとえば、エンティティ A とパートナー C 間の取引 M865 のステータスが不一致であることに気が付いたとします。エンティティ A に電子メールを送信し、ステータスについてユーザーに警告し、追加情報を求めることができます。ユーザーにアラートを送信する前に、そのユーザーに内部取引アラートを受信するセキュリティ権限があることを確認する必要があります。

内部取引のモニターページおよび内部取引の管理ページから、電子メール・アラートを生成できます。

電子メール・アラートの使用方法については、 [電子メール・アラートの使用方法](#)を参照してください。

仕訳の使用方法

次も参照:

- [仕訳について](#)
- [仕訳のセキュリティ役割](#)
- [仕訳テンプレートの使用方法](#)
- [仕訳の期間の管理](#)
- [仕訳の処理](#)
- [仕訳の作成](#)
- [仕訳のスキャン](#)
- [仕訳ステータス](#)
- [仕訳グループの管理](#)
- [仕訳リストの表示](#)
- [仕訳の編集](#)
- [仕訳のディメンションのメンバーの選択](#)
- [仕訳セルのコピーと貼付け](#)
- [仕訳の送信](#)
- [仕訳の送信を戻す](#)
- [仕訳の承認](#)
- [仕訳の却下](#)
- [仕訳の転記](#)
- [仕訳の転記の戻し](#)
- [仕訳の確認](#)
- [仕訳の検証](#)
- [自動連結仕訳の表示](#)
- [仕訳レポートの作成](#)
- [仕訳の削除](#)
- [Smart View での仕訳の操作](#)

仕訳について

会計期間中には、基本レベルのエンティティに入力またはロードされた後に、データの調整が必要になる場合があります。仕訳には、アプリケーションで行われた変更の監査証跡機能があり、調整を行ったユーザーや、影響を受けた勘定科目、エンティティ、期間を特定できます。

仕訳を使用して、次を実行できます:

- 借方と貸方を使用して、複式の仕訳入力を作成できます
- エンティティの貸借を一致させるか、単一仕訳や貸借不一致の入力を許可するかを選択できます
- 将来の期間に何度も繰り返される繰返しテンプレートを作成できます
- 次の期間に逆仕訳の入力が生成される自動逆仕訳を作成できます
- 説明責任を実現するため仕訳の承認プロセスを使用できます

仕訳を作成したら、データベースに転記する前に、スーパーバイザに送信して承認を受ける必要があります。

仕訳のセキュリティ役割

実行できる仕訳タスクは、管理者から割り当てられている役割に応じて異なります。仕訳タスクを使用できない場合は、タスクが無効になっているか、アクションを実行するために必要な権限がないことを知らせるメッセージが表示されます。

仕訳を開くには、ライン・アイテムで参照されるセルの1つ以上に対して、読取りアクセス権を持っている必要があります。セルへの読取りアクセス権がない場合、仕訳タスクを実行するためのアクセス権がないことがエラー・メッセージによって表示されます。

仕訳を編集するには、仕訳のセキュリティ・クラスに対してすべてのアクセス権が必要です。仕訳を転記するには、詳細行でセキュリティ・クラスを使用するすべてのディメンションのセキュリティ・クラスに対して、すべてのアクセス権限が必要です。

次に示すデフォルトのセキュリティ役割は、仕訳に関連するものです。

- 仕訳管理者(無制限のアクセス権)
- テンプレートの管理
- 仕訳の作成
- 貸借不一致の仕訳の作成
- 繰返しの生成
- 仕訳の読取り
- 仕訳の承認
- 仕訳の転記

仕訳テンプレートの使用方法

エンティティまたは勘定科目など、共通の情報が含まれる調整を転記するための仕訳テンプレートを作成できます。そのテンプレートを使用して、類似の情報が含まれる仕訳を作成できます。

次の2つのタイプの仕訳テンプレートを作成できます:

- 標準テンプレート: 頻繁に入力する勘定科目およびエンティティが含まれています。仕訳の標準テンプレートの作成を参照してください。
- 繰返しテンプレート: 複数の期間にわたる、同じ仕訳入力についての完全な情報が含まれています。繰返しテンプレートの作成を参照してください。

仕訳テンプレートは、シナリオおよび年に依存しません。テンプレートに基づいて仕訳を作成する際に、シナリオおよび年を選択します。ただし、繰返しテンプレートには、値ディメンションを選択する必要があります。

テンプレートにアクセスするには、「テンプレートの管理」というセキュリティ役割を持っている必要があります。

次の手順を参照してください:

- [仕訳の作成](#)
- [仕訳テンプレートの編集](#)
- [繰返しテンプレートを使用した仕訳の作成](#)
- [仕訳テンプレートの削除](#)

仕訳の標準テンプレートの作成

標準テンプレートには、頻繁に入力する調整用の勘定科目およびエンティティが含まれています。

テンプレートを作成するときは、テンプレートから作成された仕訳の貸借を一致させるか、エンティティで一致させるか、または不一致でよいかを選択します。

- 貸借一致 - 貸借一致の仕訳では、仕訳を転記する前に、仕訳の借方合計と貸方合計が一致する必要があります。
- エンティティで貸借一致 - エンティティで貸借一致の仕訳では、仕訳入力に含まれるエンティティごとに、借方合計と貸方合計が一致する必要があります。
- 貸借不一致 - 貸借不一致の仕訳では、仕訳を転記する前に、借方合計と貸方合計が一致する必要はありません。

標準の仕訳テンプレートを作成するには:

1. 「連結」、「仕訳」、「テンプレート」の順に選択します。
2. 「新規」、「標準テンプレート」の順に選択します。
3. 視点を設定するには、ディメンション名をクリックし、「メンバー選択」からディメンション・メンバーを選択します。
4. 「ラベル」で、テンプレート・ラベルを入力します。

ノート:

ラベルには最大 20 文字まで入力できます。ラベルには、空白、., +、-、*、/、#、{ }、;、,、@、"の文字は使用できません。

5. 「残高の種類」で、オプション(「貸借一致」、「貸借不一致」または「エンティティで貸借一致」)を選択します。

6. オプション: 「グループ」で、仕訳を割り当てるグループを選択します。

ノート:

割り当てる仕訳グループは、アプリケーションに存在する必要があります。

7. 「セキュリティ・クラス」で、セキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
8. オプション: テンプレートの説明を入力します。
9. 「勘定科目」で、行をダブルクリックし、「メンバー選択」から勘定科目を選択して、「OK」をクリックします。
10. オプション: ディメンションを POV から表の行に移動するには、「ディメンションを表に移動」をクリックします。

ヒント:

行に対して選択されたディメンションを POV に移動するには、行をクリックし、「ディメンションを POV に移動」をクリックします。

11. 「借方」列または「貸方」列に調整額を入力します。
12. オプション: 行を追加するには、「アクション」、「行の追加」の順に選択します。行はテンプレートが一番下に追加されます。

ヒント:

エントリを削除するには、行を選択し、「行の削除」をクリックするか、または「アクション」、「行の削除」の順に選択します。

13. オプション: テンプレートをスキャンし、仕訳入力の有効であることを検証するには、「スキャン」をクリックします。
14. テンプレートを保存するには、「保存」をクリックします。

ヒント:

テンプレートを最後に保存した状態に戻すには、「リセット」をクリックします。

15. オプション: テンプレートをプレビューして印刷するには、「印刷」をクリックします。

繰返しテンプレートの作成

同じ調整を頻繁に行う場合は、繰返しテンプレートを作成します。繰返しテンプレートには、複数の期間にわたる、同じ仕訳入力についての完全な情報が含まれています。たとえば、すべての仕訳情報を含む繰返しテンプレートを作成し、これを使用して、特定のシナリオ、年、期間に対して承認済の仕訳を自動的に生成できます。

テンプレートを変更するには、テンプレートに割り当てたセキュリティ・クラスへの「すべて」のアクセス権を持っていない限りなりません。

繰返しテンプレートを作成するには:

1. 「連結」、「仕訳」、「テンプレート」の順に選択します。
2. 「新規」、「繰返しテンプレート」の順に選択します。

3. 視点を変更するには、ディメンション名をクリックし、「メンバー選択」からディメンション・メンバーを選択します。
4. 「ラベル」で、テンプレート・ラベルを入力します。

ノート:

ラベルには最大 20 文字まで入力できます。ラベルには、空白、.、+、-、*、/、#、{|、;、ハ、@、"の文字は使用できません。

5. 「残高の種類」で、オプション(「貸借一致」、「貸借不一致」または「エンティティで貸借一致」)を選択します。
6. オプション: 「グループ」で、仕訳のグループを選択します。

ノート:

割り当てる仕訳グループは、アプリケーションに存在する必要があります。

7. 「セキュリティ・クラス」で、セキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
8. オプション: テンプレートの説明を入力します。
9. 「勘定科目」で、行をダブルクリックし、「メンバー選択」から勘定科目を選択して、「OK」をクリックします。
10. オプション: ディメンションを POV から表の行に移動するには、「ディメンションを表に移動」をクリックします。

ヒント:

行に対して選択されたディメンションを POV に移動するには、行をクリックし、「ディメンションを POV に移動」をクリックします。

11. 「借方」列または「貸方」列に調整額を入力します。
12. オプション: 行を追加するには、「アクション」、「行の追加」の順に選択します。行はテンプレートの一番下に追加されます。

ヒント:

エントリを削除するには、行を選択し、「行の削除」をクリックするか、または「アクション」、「行の削除」の順に選択します。

13. オプション: テンプレートをスキャンし、仕訳入力の有効であることを検証するには、「スキャン」をクリックします。
14. テンプレートを保存するには、「保存」をクリックします。

ヒント:

テンプレートを最後に保存した状態に戻すには、「リセット」をクリックします。

15. オプション: テンプレートをプレビューして印刷するには、「印刷」をクリックします。

仕訳テンプレート・リストの表示

「仕訳テンプレート」ページから、システム内にあるすべての仕訳テンプレートのリストを表示できます。表示する列、および列によるリストのソート方法を選択して、リストの表示方法を選択できます。また、リストはいつでもリフレッシュできます。

テンプレート・リストを表示するには、「**連結**」、「**仕訳**」、「**テンプレート**」の順に選択します。

仕訳テンプレート・リストのフィルタ

表示する仕訳テンプレートのリストをフィルタできます。こうすると、選択した条件に基づいてテンプレートを見つけることができます。リストは、グループ、ラベル、説明、残高の種類またはテンプレートの種類でフィルタできます。エンティティによってリストをフィルタできません。テキスト・フィルタ(ワイルドカードとしてのパーセント記号(%))を含むを入力するか、テキストをフィルタしない場合は、テキスト・ボックスには何も入力しません。

ノート:

データベースの設定によっては、仕訳フィルタのテキスト・ボックスで大文字と小文字が区別される場合があります。そのような場合は、"testgroup"でのフィルタ処理と"TestGroup"でのフィルタ処理では、異なる結果が戻されます。

仕訳テンプレート・リストをフィルタするには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**テンプレート**」の順に選択します。
2. 「**フィルタ**」ペインで、グループ、ラベルまたは説明のフィルタ条件を入力します。
3. 「**残高の種類**」で、「**フィルタ**」ボタンをクリックし、残高の種類を選択して、「**OK**」をクリックします。
4. 「**テンプレートの種類**」で、「**標準**」または「**繰返し**」を選択します。
5. **オプション:** フィルタ定義を保存するには、「**テンプレート・フィルタの保存**」をクリックします。

ヒント:

フィルタの選択をデフォルト値にリセットするには、「**テンプレート・フィルタのリセット**」をクリックします。

仕訳テンプレート・リストの列の表示

テンプレート・リストに表示する列を選択できます。表示できる列は、「ラベル」、「残高の種類」、「グループ」、「説明」、「短縮説明」、「テンプレートの種類」、「エンティティ」、「親」、「値」および「セキュリティ・クラス」です。列を並べ替えたり、昇順または降順に列をソートしたりできます。「エンティティ」列はソートできません

テンプレート・リストに表示する列を選択するには:

1. 仕訳テンプレートを作成するか開きます。
2. 「**表示**」、「**列**」の順に選択し、表示する列を選択するか、「**すべて表示**」を選択します。

3. 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、矢印キーを使用して列を並べ替えます。
4. **オプション:** 列のソート順を変更するには、ヘッダー・アイコンをクリックし、オプションを選択します。
 - 昇順にソート
 - 降順にソート
 - ソートなし

仕訳テンプレートの編集

以前に作成した仕訳テンプレートを編集できます。たとえば、説明や残高の種類を変更したり、行を追加して調整を加えたりできます。

仕訳テンプレートを編集するには:

1. テンプレートのリストで、編集するテンプレートを選択します。
2. テンプレートの情報を編集します。
3. 行を追加するには、「**行の追加**」をクリックします。行はテンプレートが一番下に追加されます。
4. **オプション:** テンプレートをプレビューするには、「仕訳テンプレート」ページの下部にある「**プレビュー**」詳細を参照します。個別のページにより大きいフォーマットでテンプレートを表示するには、「**添付解除**」をクリックします。
5. 「**保存**」をクリックして、変更を保存します。

仕訳テンプレートの印刷

作成した仕訳テンプレートは、いつでも印刷できます。テンプレートのレポートには、画面に表示される仕訳のヘッダー情報、行と列の詳細情報、借方および貸方の情報、差異、行の説明の情報が含まれています。レポートの一番下のコメントは、仕訳テンプレートの行の詳細に対応します。

仕訳テンプレートを印刷するには:

1. テンプレートのリストで、印刷するテンプレートを開きます。
2. 「**印刷**」をクリックします。
ブラウザの別のウィンドウが開き、テンプレート・レポートが表示されます。
3. 「**ファイル**」、「**印刷**」の順にクリックします。

仕訳テンプレートの削除

不要になった仕訳テンプレートを削除できます。たとえば、ある勘定科目の調整用の仕訳テンプレートを作成済で、勘定体系からその勘定科目を削除する場合は、調整用のテンプレートも削除できます。

仕訳テンプレートを削除するには:

1. テンプレートのリストから、削除するテンプレートを選択して「**削除**」をクリックするか、「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します。

2. 削除を確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

仕訳の期間の管理

仕訳の作業を行うには、まず仕訳の期間を開きます。デフォルトでは、すべての期間の初期ステータスは「開いていません」です。期間はいつでも開いたり閉じたりできますが、開いている期間を開いていない状態にすることはできません。

ノート:

仕訳期間を管理するには、管理者または仕訳管理者のセキュリティ役割を持っている必要があります。

期間の表示

仕訳の期間のリストに特定の期間のみを表示するには、シナリオと年を選択して、期間のステータス(「開いている」、「締切り済」、「開いていない」など)を選択します。

期間を表示するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**期間**」の順に選択します。
2. 「**シナリオ**」および「**年**」で、期間を表示するシナリオと年を選択します。

期間を開く、閉じる

仕訳を転記するには、まず、転記する各シナリオの期間を開きます。開いていない期間や締切り済期間には、仕訳を転記できません。

デフォルトでは、すべての期間の初期ステータスは「開いていません」です。期間はいつでも開いたり閉じたりできますが、開いている期間を開いていない状態にすることはできません。

転記を戻し済の自動逆仕訳が期間内にある場合は、期間を閉じることはできません。承認済の仕訳が含まれている期間を閉じると、警告メッセージが表示されます。

期間を開くまたは閉じるには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**期間**」の順に選択します。
2. シナリオおよび年の場合には、開く期間のメンバーを選択します。
3. 開くまたは閉じる期間を選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います:
 - 選択された期間を開くには、「**開く**」をクリックするか、「**アクション**」、「**開く**」の順に選択します。
 - 選択された期間を閉じるには、「**閉じる**」をクリックするか、「**アクション**」、「**閉じる**」の順に選択します。

仕訳の処理

仕訳を設定した後、仕訳に情報を入力して処理できます。次の手順を参照してください:

- [仕訳の作成](#)
- [仕訳のスキャン](#)

- [仕訳リストの表示](#)
- [仕訳の編集](#)
- [仕訳の送信](#)
- [仕訳の送信を戻す](#)
- [仕訳の承認](#)
- [仕訳の却下](#)
- [仕訳の転記](#)
- [仕訳の転記の戻し](#)
- [仕訳の確認](#)
- [仕訳レポートの作成](#)
- [Smart View での仕訳の操作](#)
- [仕訳の削除](#)

仕訳の作成

仕訳を使用して残高勘定に調整を入力し、データに加えた変更の監査証跡を管理できます。仕訳ラベルと説明、残高の種類、視点を入力して仕訳を作成し、金額を調整します。仕訳のフィルタやソートで使用する、仕訳のセキュリティ・クラスや仕訳グループも入力できます。作成した仕訳ステータスは「作業中」になります。

仕訳を作成する前に、視点バーで、シナリオ、年、期間および値のメンバーが、調整額を入力する正しいメンバーであることを確認してください。

仕訳グリッドと POV の間で、エンティティ、ICP およびすべてのカスタム・ディメンションをドラッグ・アンド・ドロップできます。仕訳明細行内のすべてのディメンションが同じである場合、ディメンションは POV ヘッダー情報に移動されます。これらが同じではない場合、仕訳明細に残ります。勘定科目ディメンションは明細行に残り、他のすべてのディメンションはヘッダーに残ります。単一エンティティの仕訳を作成する場合、仕訳行にドラッグせずに POV ヘッダーからエンティティ・ディメンションを使用できます。

仕訳データを入力する際は、仕訳をスキャンして、入力の有効であることを検証できます。この方法では、必要な変更を加えてから仕訳を転記できます。[仕訳のスキャン](#)を参照してください。

標準の仕訳を作成するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 「**新規**」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 新規仕訳を作成する場合は、「**仕訳**」を選択します。
 - 仕訳テンプレートを使用するには、「**テンプレートからの仕訳**」を選択し、テンプレートを選擇して、「**OK**」をクリックします。
3. 視点を変更するには、ディメンション名をクリックし、「**メンバー選択**」からディメンション・メンバーを選択します。
4. 「**ラベル**」で、仕訳ラベルを入力します。

ノート:

ラベルには最大 20 文字まで入力できます。次の文字は使用しないでください: . + - * / # { } ; , @ " ラベルまたは説明に他の特殊文字を入力する必要がある場合、ラベル全体または説明を二重引用符で囲って入力する必要があります。

5. 「残高の種類」で、種類(「貸借一致」、「貸借不一致」または「エンティティで貸借一致」)を選択します。
6. 「種類」で、「標準仕訳」を選択します。
7. オプション: 「グループ」で、仕訳のグループを選択します。

ノート:

割り当てる仕訳グループは、アプリケーションに存在する必要があります。 [仕訳グループの作成](#)を参照してください。

8. 「セキュリティ・クラス」で、セキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
9. オプション: 仕訳の説明を入力します。
10. 「勘定科目」で、次のいずれかの方法を使用して勘定科目を選択し、「OK」をクリックします:
 - 「勘定科目」行をダブルクリックします。
 - 「メンバーの選択」をクリックします
 - 「アクション」、「メンバーの選択」の順に選択します。
11. オプション: ディメンションを POV から表の行に移動するには、「ディメンションを表に移動」をクリックします。

ヒント:

行に対して選択されたディメンションを POV に移動するには、行をクリックし、「ディメンションを POV に移動」をクリックします。

12. 「借方」列または「貸方」列に調整額を入力します。
13. オプション: 行を追加するには、「アクション」、「行の追加」の順に選択します。行は仕訳の一番下に追加されます。

ヒント:

エントリを削除するには、行を選択し、「行の削除」をクリックするか、または「アクション」、「行の削除」の順に選択します。

14. オプション: 仕訳をスキャンして、エントリが有効であることを確認します。仕訳を保存して、「スキャン」をクリックします。 [仕訳のスキャン](#)を参照してください。
15. 仕訳を保存するには、「保存」をクリックします。

自動逆仕訳の作成

自動逆仕訳を作成して、次の期間に集金や支払が発生する販売や費用など、次の期間で逆仕訳する調整額を入力します。自動逆仕訳はデータの2つの期間に影響を与えます。自動逆仕訳を転記して、1つの期間の値を調整します。自動逆仕訳を転記すると、それらの調整の逆仕訳が次の期間に自動的に作成され(承認済自動逆仕訳と呼ばれます)、「承認済」のステータスが割り当てられます。承認済のこの仕訳を転記すると、逆仕訳が行われます。

たとえば、1月の勘定科目を調整する自動逆仕訳を作成して転記します。システムにより、それらの調整を2月に逆仕訳する承認済自動逆仕訳が作成されます。

承認済自動逆仕訳はシステムによって自動的に生成されるため、転記または転記の戻しのみを行うことができます。承認済自動逆仕訳の転記を戻した場合、ステータスは「転記済」から「承認済」に戻ります。

作成した元の自動逆仕訳の転記を戻した場合、自動的に生成された次の期間の承認済自動逆仕訳はシステムによって削除されます。承認済自動逆仕訳が転記された後で、自動逆仕訳の転記を戻すことはできません。

自動逆仕訳を作成するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 「**新規**」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 新規仕訳を作成する場合は、「**仕訳**」を選択します。
 - 仕訳テンプレートを使用するには、「**テンプレートからの仕訳**」を選択し、テンプレートを選択して、「**OK**」をクリックします。
3. 視点を変更するには、ディメンション名をクリックし、「**メンバー選択**」からディメンション・メンバーを選択します。
4. 「**ラベル**」で、仕訳ラベルを入力します。

ノート:

ラベルには最大 20 文字まで入力できます。次の文字は使用しないでください: . + - * / # { } ; , @ "

5. 「**残高の種類**」で、種類(「**貸借一致**」、「**貸借不一致**」または「**エンティティで貸借一致**」)を選択します。
6. 「**種類**」で、「**自動逆仕訳**」を選択します。
7. オプション: 「**グループ**」で、仕訳のグループを選択します。

ノート:

割り当てる仕訳グループは、アプリケーションに存在する必要があります。[仕訳グループの作成](#)を参照してください。

8. 「**セキュリティ・クラス**」で、セキュリティ・クラスを選択するか、デフォルトのセキュリティ・クラスを使用します。
9. オプション: 仕訳の説明を入力します。

10. 「勘定科目」で、次のいずれかの方法を使用して勘定科目を選択し、「OK」をクリックします:

- 「勘定科目」行をダブルクリックします。
- 「メンバーの選択」をクリックします
- 「アクション」、「メンバーの選択」の順に選択します。

11. オプション: ディメンションを POV から表の行に移動するには、「ディメンションを表に移動」をクリックします。

ヒント:

行に対して選択されたディメンションを POV に移動するには、行をクリックし、「ディメンションを POV に移動」をクリックします。

12. 「借方」列または「貸方」列に調整額を入力します。

13. オプション: 仕訳に行を追加するには、「アクション」、「行の追加」の順に選択します。行は仕訳の一番下に追加されます。

ヒント:

エントリを削除するには、行を選択し、「行の削除」をクリックするか、または「アクション」、「行の削除」の順に選択します。

14. オプション: 仕訳をスキャンして、エントリが有効であることを確認します。仕訳を保存して、「スキャン」をクリックします。仕訳のスキャンを参照してください。

15. 仕訳を保存するには、「保存」をクリックします。

繰返しテンプレートを使用した仕訳の作成

繰返しテンプレートを使用して、仕訳を自動的に作成できます。繰返しテンプレートを使用して仕訳を作成すると、仕訳が作成されたことを知らせるメッセージが表示されます。この仕訳ステータスは「承認済」です。

繰返しテンプレートを使用して仕訳を作成するには、「繰返しの生成」というセキュリティ役割が必要です。また、テンプレートに割り当てられているセキュリティ・クラスに対する「すべて」のアクセス権も必要です。

テンプレートに割り当てられているセキュリティ・クラスは、仕訳のセキュリティ・クラスとして使用されます。仕訳に割り当てるセキュリティ・クラスを変更する必要がある場合は、仕訳を却下してから再送信します。仕訳を編集するには、仕訳に割り当てられているセキュリティ・クラスに対して「すべて」のアクセス権が必要です。テンプレートを変更するには、テンプレートに割り当てられているセキュリティ・クラスに対して「すべて」のアクセス権が必要です。

繰返しテンプレートを使用して仕訳を作成するには:

1. 「連結」、「仕訳」、「テンプレート」の順に選択します。
2. 仕訳を作成する繰返しテンプレートを開きます。
3. 「生成」をクリックします。
4. 仕訳を作成するシナリオ、年、期間を選択して、「OK」をクリックします。

仕訳のスキヤン

仕訳データを入力したら、仕訳をスキヤンして、すべての入力の有効であることを検証できます。スキヤン・プロセスにより、仕訳を転記する前にエラーを識別し、必要な変更を加えることができます。

スキヤンを実行して仕訳にエラーがある場合は、別のウィンドウが開き、スキヤンの結果が行番号ごとに表示されます。すべての入力がある場合、メッセージは表示されません。

仕訳をスキヤンするには:

1. 仕訳を作成するか開きます。
2. 「スキヤン」をクリックします。

仕訳ステータス

仕訳ステータスは、仕訳の現在の状態を示します。仕訳ステータスは、仕訳を作成、送信、承認、却下、転記すると変わります。

表 11-1 仕訳ステータス

ステータス	説明
作業中	仕訳が作成されます。仕訳が作成されて保存されていますが、まだ不完全です。たとえば、ラベルや単一エンティティを割り当てる必要があります。
送信済	仕訳が承認のために送信されました。
承認済	仕訳の転記が承認されました。
拒否済	仕訳が却下されたか、転記が戻されています。
転記済	仕訳の調整がデータベースに転記されました。

実行できる仕訳アクションは、仕訳ステータスで決まります。たとえば、仕訳ステータスが「承認済」の場合、実行できる操作は「却下」または「転記」のみです。

仕訳グループの管理

仕訳を種類で分類するための仕訳グループを作成し、そのグループを使用して仕訳リストをフィルタできます。仕訳グループを作成するには、アプリケーションの所有者であるか、「管理者」または「仕訳管理者」のセキュリティ役割が必要です。

仕訳のロード中に仕訳グループをロードすることもできます。仕訳を作成して仕訳グループを指定すると、指定したグループはグループのリストと照合されます。指定したグループが無効な場合は、エラー・メッセージが表示されます。

次の手順を参照してください:

- [仕訳グループの作成](#)
- [仕訳グループの削除](#)

仕訳グループの作成

仕訳グループを作成するには、アプリケーションの所有者であるか、「管理者」または「仕訳管理者」のセキュリティ役割を持っていないなりません。

仕訳グループを作成すると、グループのリストがアルファベット順に表示されます。

仕訳グループを作成するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**グループ**」の順に選択します。
2. 「**作成**」をクリックするか、「**アクション**」、「**作成**」の順に選択します。
3. 「**名前**」に、グループ名を入力します。

ノート:

ラベルには、空白を含み、英数字を 30 文字まで入力できます。ただし、#、*、@、+、-、/、.、:、;、"、{、} の特殊文字は使用できません。

4. オプション: 「**説明**」に、グループの説明を入力します。

ノート:

グループの説明には、255 文字までの英数字と空白を入力できます。

5. 「**作成**」をクリックします。

仕訳グループの削除

仕訳グループを削除できるのは、アプリケーションの所有者である場合か、管理者または仕訳管理者のセキュリティ役割を割り当てられていて、他のユーザーがそのグループを使用していない場合です。

仕訳グループを除去するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**グループ**」の順に選択します。
2. 次のいずれかのアクションを行います:
 - 削除する 1 つ以上の仕訳グループを選択して、「**選択した項目の削除**」をクリックするか、「**アクション**」、「**選択した項目の削除**」の順に選択します。
 - すべての仕訳グループを削除するには、「**すべて削除**」をクリックするか、「**アクション**」、「**すべて削除**」の順に選択します。

仕訳リストの表示

仕訳リストには、システム内のすべての仕訳のラベル、ステータス、エンティティ、短い説明およびグループが表示されます。仕訳リストをソートできます。表示する列を選択し、そのリストを列でソートすることや、アルファベットの昇順または降順でソートすることが可能です。エンティティでソートすると、複数エンティティの仕訳では仕訳が繰り返し表示されます。また、リストはいつでもリフレッシュできます。

仕訳のリストに表示する列を選択するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 仕訳リストから、「**表示**」、「**列**」の順にクリックし、表示する列を選択するか、「**すべて表示**」を選択します。
3. **オプション**: 列を表示または非表示にするには、「**表示**」、「**列**」、「**列の管理**」の順に選択し、矢印キーを使用して列を「非表示」または「表示可能」列リストに移動します。
4. **オプション**: 列のソート順を変更するには、ヘッダー・アイコンをクリックし、オプションを選択します。
 - 昇順にソート
 - 降順にソート
 - ソートなし

仕訳の編集

前に作成した仕訳は編集できます。たとえば、仕訳の説明を変更したり、調整額を追加したり、残高の種類を変更したりできます。

仕訳は、ステータスが「作業中」、「送信済」、「却下済」になっているもののみ編集できます。「承認済」または「転記済」の仕訳は、編集できません。仕訳を編集するには、仕訳のセキュリティ・クラスに対して「すべて」のセキュリティ・アクセス権が必要です。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

仕訳を編集するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**管理**」の順に選択します。
2. 視点を変更するには、ディメンション名をクリックし、「**メンバー選択**」からディメンション・メンバーを選択します。
3. 仕訳のリストで、ステータスが「**作業中**」、「**送信済**」または「**却下済**」のステータスの仕訳を選択します。
4. 「**編集**」をクリックするか、「**アクション**」、「**編集**」の順に選択するか、仕訳行をダブルクリックします。
5. 必要に応じて仕訳を編集します。
6. **オプション**: 仕訳をスキャンし、入力の有効であることを検証するには、「**スキャン**」をクリックします。
7. 「**保存**」をクリックして変更を保存します。

仕訳のディメンションのメンバーの選択

仕訳の詳細には、特定の仕訳でアクセスするデータを指定するために定義する、ディメンション・メンバーのセットが含まれています。各仕訳には、仕訳の詳細とともに選択したディメンション情報が保存されます。ディメンション情報は、次に仕訳を開いたときに自動的に表示されます。

視点には、シナリオ、年、期間および値の各ディメンションのメンバーが表示されません。仕訳の行を右クリックすれば、仕訳の詳細の視点を設定できます。各ディメンションのメンバーは、表示される視点から選択できます。親の調整の仕訳を作成するには、値ディメンションの Parent Adjs メンバーを選択します。値ディメンションが、Parent Currency Adj、Parent Adj または Contribution Adj の場合、仕訳の詳細の各行

で Parent メンバーを指定する必要があります。また、エンティティ、勘定科目、内部取引パートナおよびカスタム・ディメンションを指定する必要があります。

エンティティは、仕訳で選択した値ディメンションに基づいて表示されます。選択した値ディメンションが Entity Currency Adjs または Parent Currency Adjs の場合、Allow Adjustments アプリケーション属性が使用可能になっているエンティティのリストが表示されます。また、選択した値ディメンションが Contribution Adjs または Parent Adjs の場合、Allow Adjustments from Children アプリケーション属性が使用可能になっているエンティティのリストが表示されます。

表 11-2 値ディメンションのデフォルト・メンバー・リスト

値ディメンション	デフォルト・メンバー・リスト
<Ent Curr Adjs>	[Adjs Ent]
<Parent Curr Adjs>	[Par Adjs Ent]
[Parent Adjs]	[Par Adjs Ent]
[Contrib Adjs]	[Par Adjs Ent]
ST テンプレート	[Adjs Ent]
Rec テンプレート EC	[Adjs Ent]
Rec テンプレート PC	[Par Adjs Ent]
Rec テンプレート PA	[Par Adjs Ent]
Rec テンプレート CA	[Par Adjs Ent]

仕訳ステータスが「作業中」、「送信済」または「却下済」の場合、仕訳の詳細を選択できます。仕訳ステータスが「承認済」または「転記済」の場合は、仕訳の詳細を変更することはできません。

仕訳のディメンションを選択するには:

1. 仕訳を作成するか開きます。
2. 視点を変更するには、ディメンション名をクリックし、「メンバー選択」からシナリオ、年、期間および値のメンバーを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

ヒント:

開いている仕訳からディメンション・メンバーを選択するには、「メンバーの選択」をクリックするか、仕訳行を右クリックして「メンバーの選択」を選択し、メンバーを選択して、「OK」をクリックします。

仕訳セルのコピーと貼付け

仕訳のグリッドの情報を 1 つのセルから別のセルにコピーして、仕訳のエントリを作成できます。

仕訳の行をコピーして貼り付けるには:

1. 仕訳を作成するか開きます。
2. 仕訳のグリッドの行を選択します。

3. 行の情報をコピーしてクリップボードに格納するには、「**行のコピー**」をクリックするか、「**アクション**」、「**行のコピー**」の順に選択します。
4. 値を貼り付ける行を選択します。
5. クリップボードから選択した行に情報を貼り付けるには、「**行の貼付け**」をクリックするか、「**アクション**」、「**行の貼付け**」の順に選択します。

仕訳の送信

仕訳を作成して仕訳データを入力したら、データベースに転記する前に、スーパーバイザに送信して承認を受ける必要があります。仕訳は、作成したときに送信することも、使用可能な仕訳のリストから選択して後から送信することも可能です。

仕訳は、1つずつ、またはまとめて送信できます。仕訳を送信すると、ステータスが「送信済」に変わります。その後、レビュー担当者が仕訳を承認または却下し、承認された場合は転記できます。

仕訳を送信するには:

1. 「**仕訳の管理**」ページで、仕訳の視点を設定します。
2. 仕訳のリストから、送信する「作業中」または「却下済」の仕訳を選択します。
3. 「**送信**」をクリックするか、「**アクション**」、「**送信**」の順に選択します。

仕訳の送信を戻す

前に送信した仕訳の送信を戻すことができます。仕訳の送信を戻すと、ステータスが「送信済」から「作業中」に戻ります。

仕訳の送信を戻すには:

1. 「**仕訳の管理**」ページで、仕訳の視点を設定します。
2. 送信を戻す、送信済の仕訳を選択します。
3. 「**送信を戻す**」をクリックするか、「**アクション**」、「**送信を戻す**」の順に選択します。

仕訳の承認

仕訳を送信したら、これを承認して転記できます。仕訳を作成して送信した後、「仕訳の編集」タブから仕訳を承認するか、仕訳リストから選択して後で承認することができます。

仕訳は、1つずつ、またはまとめて承認できます。仕訳を承認すると、ステータスが「承認済」に変わり、編集できなくなります。

仕訳を承認するには:

1. 「**仕訳の管理**」ページで、仕訳の視点を設定します。
2. 承認する送信済の仕訳を選択します。
3. 「**承認**」をクリックするか、「**アクション**」、「**承認**」の順に選択します。

仕訳の却下

承認を受ける仕訳を送信または承認した後、その仕訳を却下できます。仕訳は、1 つずつ、またはまとめて却下できます。仕訳を却下すると、ステータスが「却下済」に変わります。

ノート:

仕訳が「送信済」状態の場合、「却下」オプションは使用不可になります。

仕訳を却下するには:

1. 「**仕訳の管理**」 ページで、仕訳の視点を設定します。
2. 却下する送信または承認した仕訳を選択します。
3. 「**却下**」 をクリックするか、「**アクション**」、「**却下**」 の順に選択します。

仕訳の転記

仕訳は、承認した後に転記できます。仕訳は、送信して承認された後に転記することも、使用可能な仕訳のリストから選択して後から転記することも可能です。

仕訳を転記するシナリオ・ビューは、Scenario 属性 "ZeroViewForAdj" の設定によって異なります。この属性が Periodic(期別)に設定されている場合は、仕訳は Periodic 値に転記されます。この属性が YTD に設定されている場合は、仕訳は YTD 値に転記されます。

仕訳は、1 つずつ、またはまとめて転記できます。仕訳を転記するには、仕訳期間を開いておく必要があり、明細行の各エンティティのセキュリティ・クラスに対して「すべて」のアクセス権を持っている必要があります。

仕訳を転記できるかどうかは、仕訳データのプロセス単位のレベルによります。たとえば、「確認者 2」のプロセス管理のセキュリティ役割があり、仕訳により影響されるデータがプロセス単位のレベル 6 である場合は、仕訳を転記することはできません。[プロセス単位のレベル](#)を参照してください。

仕訳から調整を転記する際、調整値は、指定された調整メンバーに格納されます。仕訳の転記には、値ディメンションの Entity Currency Adjustments、Parent Currency Adjustments、Parent Adjustments および Contribution Adjustments の、4 つのメンバーを使用できます。

値ディメンションの次のメンバーのいずれかを使用して、特定の親と子の組合せ(ノード)に転記できます。

- Parent Adjs - 連結する前にノードで使用します。
- Contribution Adjs - コントリビューションの合計を決めるときに使用します。

ノート:

ノードの調整は、親通貨で転記されます。

同じ勘定科目の Entity Currency Adjs メンバーに複数の仕訳が転記されると、結果は累積されます。現在の仕訳の合計が、Entity Currency Adjs の既存の合計に加算されるか減算されます。

仕訳を転記すると、勘定科目残高が再計算されるため、データベースにより調整が反映されます。仕訳ステータスは「転記済」に変更され、調整はデータ・グリッドに表示されます。

ノート:

仕訳により作成された調整値のデータが未解決になるため、転記済の仕訳の削除や名前の変更は行わないでください。

仕訳を転記するには:

1. 「仕訳の管理」 ページで、仕訳の視点を設定します。
2. 転記する仕訳を選択します。
すでに転記済の仕訳は転記できません。
3. 「転記」 をクリックするか、「アクション」、「転記」 の順に選択します。

仕訳の転記の戻し

仕訳を転記した後に、仕訳の転記を戻すことができます。たとえば、1つのエンティティに対して調整を行う必要のあるエンティティがいくつかあり、そのエンティティの新しいデータを受信したとします。このような場合、仕訳の転記を戻して、新しいデータをロードし、再度仕訳を転記できます。

仕訳の転記を戻すと、仕訳ステータスは「却下済」に変わります。自動逆仕訳の転記を戻すと、仕訳ステータスは「承認済」に戻ります。

仕訳の転記を戻すには:

1. 「仕訳の管理」 ページで、仕訳の視点を設定します。
2. 転記を戻す、転記済の仕訳を選択します。
3. 「転記の戻し」 をクリックするか、「アクション」、「転記の戻し」 の順に選択します。

仕訳の確認

作成、編集、送信、送信の戻し、承認、却下または転記を行った仕訳を確認できます。仕訳は、転記する前または転記した後、または仕訳レポートを実行する前に確認できます。

仕訳を確認するには:

1. 「仕訳の管理」 ページで、仕訳のリストを表示します。
2. 仕訳をクリックして開き、確認します。

仕訳の検証

仕訳は、送信、承認または転記するときに検証されます。システムでは、次の条件が調べられます。

- 期間が、シナリオの基本期間単位の基本期間です。

- 仕訳を転記するか、転記を戻すときは、期間が開いている必要があります。
- 値ディメンションで調整メンバーを選択している。
- 適切なステータスの仕訳を選択している。
- 仕訳のライン・アイテムがある。
- エンティティとその親は、有効なディメンションにしてください。通常仕訳の場合、エンティティで調整を行えるようにしておく必要があります。仕訳を **Parent Currency Adjs** に転記する場合は、有効な親を入力する必要があります。エンティティは、仕訳のエンティティに指定した親の子にしてください。
- 仕訳をノードに転記する場合、親は子のエンティティで調整を行えるようにしておく必要があります。エンティティは、指定した親の子にしてください。
- ノードの仕訳は、有効な親エンティティの組合せにする必要があります。ノードの仕訳を転記しようとする、期間別組織のアプリケーション設定が確認されます。転記する期間の親のエンティティは、アクティブである必要があります。
- 勘定科目は有効なものにしてください。また、**Asset(資産)**、**Liability(負債)**、**Revenue(収益)**、**Expense(費用)**、**Balance(残高)**、**Flow(フロー)**または **Balance Recurring(経常残高)**勘定科目である必要があります。勘定科目は、基本勘定科目にする必要があり、メタデータで計算するように指定することはできません。ロール・アップ・プロセスで計算することもできません; 勘定科目に子を含めることはできません。
- 他のすべてのディメンションは有効なものにしてください。ICP ディメンションは、**ICP Top**、**ICP Entities** または空白にすることはできませんが、**ICP None** を選択できます。ICP が指定されている場合、勘定科目は **ICP 勘定科目**として設定する必要があります。
- カスタム・ディメンションはメタデータで計算するように指定することができず、ロールアップ・プロセスでの計算もできません; カスタム・ディメンションに子を含めることはできません。
- 貸借一致の仕訳の場合、借方の合計と貸方の合計を等しくしてください。エンティティで貸借が一致している通常仕訳の場合、各エンティティの借方合計と貸方合計を等しくしてください。エンティティで貸借が一致しているノードの仕訳の場合、各ノードの借方合計と貸方合計が等しいこと、親と子のエンティティの通貨が同一であることが必要です。値ディメンションが **Entity Currency** の場合、仕訳の親エンティティには複数の通貨を含めることができますが、子エンティティと同じ通貨にする必要があります。
- すべてのディメンションの交差が有効であることが必要です。
- ライン・アイテム・セルを含むディメンションのサブキューブをロックすることはできません。
- ルールで、セルを **NoInput** に指定することはできません。

自動連結仕訳の表示

自動連結取引は、連結処理の一部として自動的に作成されます。取引は自動連結仕訳として表示し、仕訳を外部ファイルに抽出して仕訳レポートとして印刷できます。

自動連結仕訳を生成するには、管理者は、連結処理についてルール・ファイルの種類値を指定する必要があります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

連結処理から生成された自動連結仕訳は、[Elimination]または[Proportion]値ディメンションとして表示され、連結中に親エンティティにロール・アップされる子エンティティの金額をレポートできません。連結仕訳のリストは、親エンティティおよびエンティティでソートでき、親エンティティ、現在のエンティティ、種類の値でグループ化できます。

ノート:

自動連結仕訳は、編集、スキャン、送信、承認、却下、転記、転記の戻し、または削除できません。実行できるのは、仕訳の表示、レポートの実行および仕訳の抽出のみです。

自動連結仕訳で仕訳レポートを実行する場合は、[仕訳レポートの作成](#)を参照してください。レポートを印刷するには、[仕訳レポートの印刷](#)を参照してください。

自動連結仕訳を表示するには:

1. 「**仕訳の管理**」で、次のようにして視点を選択します:

- 表示する連結データの「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。
- 値メンバーについて、[Proportion]または[Elimination]を選択し、「OK」をクリックします。

連結処理時に生成された仕訳のリストが表示されます。

2. 仕訳をクリックして、取引を表示します。

ノート:

視点のメンバーおよび仕訳セキュリティ・クラスに対するセキュリティ権限に基づいて取引を表示できます。さらに、仕訳の読取りまたは仕訳管理者のセキュリティ役割が必要です。

仕訳レポートの作成

仕訳レポートを作成して、仕訳ステータスをチェックすることや、仕訳の調整を確認することが可能です。仕訳レポートのプロパティの設定、表示する列の選択、レポートのプレビュー、保存および印刷を実行できます。

ノート:

このレポートは、HFM-フォーマット、PDF、RTF、HTML、XLSでフォーマットして印刷できます。[システム・レポートのフォーマット](#)を参照してください。

消去値または比率値を使用して仕訳レポートを実行すると、消去仕訳または比率仕訳が自動的に作成されますが、仕訳のボリュームが大きいことが原因でエラー・メッセージが表示される場合があります。この問題を回避するには、フィルタとして仕訳グループを使用し、レポートに表示する仕訳のリストをフィルタする必要があります。

仕訳レポートを作成するには:

1. 「**連結**」、「**仕訳**」、「**レポート**」の順に選択します。

2. 「新規」、「レポート」、「仕訳」の順にクリックするか、「アクション」、「新規」、「レポート」、「仕訳」の順に選択します。
3. 視点で、レポートを実行するシナリオ、年、期間、値を選択します。

ノート:

自動連結仕訳の仕訳レポートを実行するには、値メンバーとして[Elimination]または[Proportion]を選択する必要があります。

4. レポートに表示する列と表示オプションを選択します。

[レポートの列の表示](#)を参照してください。

レポートの列の表示

仕訳レポートに表示する列を選択して、昇順または降順にソートできます。

列に合計を表示するかどうかを指定できます。合計オプションを選択すると、列の金額に小計が表示されます。

各行で、フィールド情報を繰り返すかどうかを選択できます。たとえば、エンティティのラベルで「繰り返し」オプションを選択すると、それぞれのエンティティで選択されたすべての仕訳のエンティティのラベルが表示されます。「繰り返し」オプションを選択しない場合は、最初の仕訳のエンティティのラベルは表示されますが、同じラベルを持つ後続の仕訳は表示されません。

レポートに表示する列を選択するには:

1. 仕訳レポートから、「表示」、「列」の順にクリックし、表示する列を選択するか、「すべて表示」を選択します。
2. オプション: 列を表示または非表示にするには、「表示」、「列」、「列の管理」の順に選択し、矢印キーを使用して列を「非表示」または「表示可能」列リストに移動します。
3. オプション: 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、上矢印および下矢印を使用して列を並べ替えて、「OK」をクリックします。
4. オプション: 列のソート順を変更するには、ヘッダー・アイコンをクリックし、オプションを選択します。
 - 昇順
 - 降順
 - ソートなし
5. オプション: 各行に情報を繰り返すには、「繰り返し」をクリックするか、「アクション」、「繰り返し」の順に選択します。
6. オプション: 金額の小計を表示するには、「合計」をクリックするか、「アクション」、「合計」の順に選択します。

ヒント:

列の設定をデフォルトに戻すには、「デフォルトに戻す」をクリックします。

レポート用の仕訳リストのフィルタ

仕訳のリストをフィルタし、レポートに表示できます。テキスト・フィルタを入力し、パーセント記号(%)をワイルドカードとして使用することも、テキスト・ボックスに何も入力せず、エフィルタしないことも可能です。

ノート:

データベースの設定によっては、仕訳フィルタのテキスト・ボックスで大文字と小文字が区別される場合があります。そのような場合は、"testgroup"でのフィルタ処理と"TestGroup"でのフィルタ処理では、異なる結果が戻されます。

仕訳リストをフィルタするには:

1. 仕訳レポートから、「**行のフィルタ**」リストを展開します。
2. エンティティを基準にしてフィルタするには、エンティティ名を入力するか、または「**参照**」をクリックしてエンティティを選択します。
3. グループ、ラベルまたは説明を基準にしてフィルタするには、テキストを入力するか、パーセント記号(%)をワイルドカードとして使用します。
4. ステータスを基準にしてフィルタするには、「**作業中**」、「**送信済**」、「**承認済**」、「**却下済**」または「**転記済**」の1つ以上のオプションを選択するか、「**すべて表示**」を選択します。
5. 種類を基準にしてフィルタするには、「**標準仕訳**」、「**自動逆仕訳**」、「**逆仕訳済**」の1つ以上のオプションを選択するか、「**すべて表示**」を選択します。
6. 残高の種類を基準にしてフィルタするには、「**貸借一致**」、「**貸借不一致**」または「**エンティティで貸借一致**」の1つ以上のオプションを選択するか、「**すべて表示**」を選択します。

ヒント:

リストをデフォルト・ステータスに戻すには、「**デフォルトに戻す**」をクリックします。

7. **オプション:** フィルタ定義を保存するには、「**現在のフィルタを保存**」をクリックします。

仕訳レポートの保存

仕訳レポートのオプションを選択した後、レポートを保存できます。

仕訳レポートを保存するには:

1. 仕訳レポートを作成するか開きます。
2. 「**保存**」または「**名前を付けて保存**」をクリックし、レポートの情報を入力して、「**保存**」をクリックします。

仕訳レポートの印刷

ローカル・コンピュータやサーバーに保存したレポートを、プレビューして印刷できます。

仕訳レポートを印刷するには:

1. 仕訳レポートのリストから、印刷するレポートを選択します。
2. レポートに表示する列を選択します。
3. 「印刷/プレビュー」をクリックします。
ブラウザで別のウィンドウが開き、レポートが表示されます。
4. 仕訳レポートを印刷するには、「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

個々の仕訳レポートの印刷

複数の仕訳のレポートを印刷するだけでなく、個々の仕訳のレポートを印刷することもできます。これは、監査の上で便利です。レポートには、画面に表示されるのと同じように、仕訳のヘッダー情報、行および列の詳細情報、借方および貸方の情報、差異、および行の説明が表示されます。レポートの下部にあるコメントは、仕訳の行の詳細に対応します。

ノート:

仕訳を開いてから、選択した仕訳のレポートを印刷するときは、列またはフォーマットを選択できません。レポートのオプションを選択する手順については、[仕訳レポートの印刷](#)を参照してください。

個々の仕訳のレポートを印刷するには:

1. 「連結」、「仕訳」、「管理」の順に選択します。
2. レポートを印刷する仕訳を開きます。
3. 「印刷」をクリックします。
ブラウザの別のウィンドウが開き、レポートが表示されます。
4. 「ファイル」、「印刷」の順にクリックします。

仕訳の削除

まだ転記していない仕訳で、必要なくなったものを削除できます。仕訳により作成された調整値のデータが未解決になるため、承認済または転記済の仕訳は削除できません。

仕訳を削除するには:

1. 仕訳リストから、削除する仕訳を選択して「削除」をクリックするか、「アクション」、「削除」の順に選択します。
2. 削除を確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

Smart View での仕訳の操作

Oracle Smart View for Office で仕訳を開き、操作できます。Smart View を使用するには、インストールされている必要があります。

Smart View での仕訳の使用の詳細手順は、*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

Smart View で次の仕訳タスクを実行できます:

- 仕訳を開きそのプロパティ(ステータス、種類、残高の種類、グループ、セキュリティ・クラスなど)を表示
- 空の仕訳の新規作成あるいは標準テンプレートまたは繰返しテンプレートを使用した仕訳の作成
- データ・グリッドまたはデータ・フォームから右クリック・オプションを使用した仕訳の作成
- 仕訳の編集および保存
- 仕訳の送信、承認、転記、転記の戻しおよび削除
- データ・グリッドまたはデータ・フォームからエンティティの詳細レポートを開き、詳細については、ドリル・ダウンするジャーナルをクリックします。
- タスクリストから仕訳の管理モジュールを開く

Smart View でフォームを開く

仕訳から、Oracle Smart View for Office で仕訳を開き、直接操作できます。Smart View を起動するには、Smart View がインストールされている必要があります。Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイドを参照してください。

Smart View を介して仕訳を開くと、新しいタブで仕訳が開きます。Smart View がまだ開いていない場合、仕訳を開く前に起動されます。

この機能は保存されている仕訳でのみ使用できます。仕訳を編集してから Smart View を起動すると、最後に保存した詳細のみが表示されます。

Smart View に表示される仕訳の詳細は、POV、仕訳プロパティ、使用可能な操作など Oracle Hyperion Financial Management の内容と同じです。ただし、Smart View のライン・アイテム表にはすべてのディメンションが表示されます。

Smart View で仕訳を開くには:

1. 保存済仕訳を開きます。
2. 仕訳の上部のメニュー・バーで、「**Smart View で開く**」をクリックします。

Microsoft Excel が起動し、Smart View で仕訳が開きます。

タスクリストから仕訳の管理へのアクセス

Oracle Smart View for Office で、タスクリストから仕訳の管理モジュールにアクセスできます。

タスクリストから仕訳の管理にアクセスするには:

1. Oracle Hyperion Financial Management ドキュメント・マネージャで、仕訳の管理をタスクの1つとして含むタスクリストを作成します。[タスク・リストの作成](#)を参照してください。
2. Smart View でアプリケーションを開き、「タスク・リスト」を開いて仕訳の管理タスクを選択します。
3. 「仕訳の管理」タスクをクリックすると、Smart View で「仕訳の管理」ダイアログ・ボックスが開きます。

プロセス管理の使用

次も参照:

- [プロセス管理について](#)
- [プロセス管理の開始](#)
- [プロセス・コントロールの使用方法](#)
- [プロセス単位のレベルを上げる](#)
- [プロセス単位の送信](#)
- [プロセス単位の承認](#)
- [プロセス単位の却下](#)
- [プロセス単位のサインオフ](#)
- [プロセス単位の発行](#)
- [プロセス単位のロックとロック解除](#)
- [プロセス管理の履歴の表示](#)
- [プロセス・コントロールの電子メール・アラート](#)
- [プロセス管理の検証](#)
- [プロセス管理と連結](#)

プロセス管理について

プロセス管理は、財務データの検証プロセスと承認プロセスを管理します。プロセス管理を使用して、予算プランを送信し、これを効率的に承認することや、データの出资日期を転送することができます。集中管理された環境では、プロセス管理で検証を制御し、データのプライバシーを保護することもできます。

確認の目的のため、データはプロセス単位で編成されています。プロセス単位は、特定のシナリオ、年、期間、エンティティおよび値のディメンションを持つデータを組み合わせたものです。値ディメンションで、ロケール・データ、換算済データ、またはコントリビューション・データを選択できます。たとえば、プロセス単位を、実績、2014、1月、WestSales および USD のデータの組合せにすることができます。検証サイクル中にプロセス管理を使用して、プロセス単位の送信、レベルの移行、承認、却下および発行を行うことができます。

プロセス管理の有効化

プロセス管理を使用するには、メタデータ・ファイルのシナリオ・ディメンションの SupportSubmissionPhase 属性を使用して、管理者がプロセス管理を有効にする必要があります。この属性を使用可能にすると、指定されたシナリオでプロセス管理を使用できるようになります。

セルを選択するときは、プロセス管理はそのシナリオの入力期間単位でのみ使用できます。たとえば、入力期間単位が月の場合、プロセス管理は **January(1月)** を選択したときにのみ使用できますが、**Q1** などの四半期を選択したときは使用できません。複数のセルを選択し、その中にプロセス管理でサポートしていないデータ・セルが含まれている場合、プロセス管理オプションを使用できません。

シナリオでプロセス管理機能が使用可能になっている場合は、プロセス単位のレベルが変わるたびにデータが検証されます。勘定科目の収支が合うように、管理者により検証チェックが定義されています。[プロセス管理の検証](#)を参照してください。

プロセス単位へのアクセス

プロセス単位のデータにアクセスできるかどうかは、次のアイテムの組合せに基づいて決まります。

- 割り当てられたセキュリティ役割。
[プロセス管理のセキュリティ役割](#)を参照してください。
- プロセス単位の現在の確認レベル。
[プロセス単位のレベル](#)を参照してください。
- プロセス単位へのアクセス権。
アクセス権には、「なし」、「読取り」、「レベルを上げる」、「すべて」があります。
 - なし - プロセス単位にアクセスできません。
 - 読取り - プロセス単位のデータの表示のみが可能です。
 - レベルを上げる - データの表示が可能で、「すべて」のアクセス権がない場合でもエンティティのレベルを上げられます。
 - すべて - データを表示および変更する権限を含め、プロセス単位に対する完全なアクセス権があります。

プロセス管理のセキュリティ役割

プロセス管理がアプリケーションのシナリオで使用可能になっている場合は、アプリケーション管理者は各ユーザーに特定のセキュリティ役割を割り当てる必要があります。管理者は、ユーザーに1つ以上のセキュリティ役割を割り当てることができます。[Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド](#)を参照してください。

プロセス管理を開始するには、「確認監督者」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。確認監督者がプロセス単位を開始し、これを「第1パス」ステータスに上げると、他のユーザーはこれを検証して変更データを入力し、次のレベルに上げることができます。送信者のセキュリティ役割を持っている場合は、確認レベルをスキップして、データを「送信済」ステータスに上げることもできます。

アプリケーションには12までのセキュリティ役割を設定できます。

表 12-1 プロセス管理のセキュリティ役割

セキュリティ役割	説明
確認者 1-9	プロセス単位を次のレベルに上げるか、却下できます。 プロセス単位のレベル を参照してください。

表 12-1 (続き) プロセス管理のセキュリティ役割

セキュリティ役割	説明
確認者 10	プロセス単位を却下することはできますが、次のレベルがないため、レベルを上げることはできません。プロセス単位を最終的な承認のために「送信済」レベルに移動するには、送信者である必要があります。
送信者	プロセス単位を確認プロセスの最終ステージに進めて承認できるようにするアクセス権があります。デフォルトのアクションは、プロセス単位を次のレベルに上げることですが、送信者は、いくつかの確認レベルを省略して最後のプロセス単位のレベル(送信済)に直接進み、最終的な承認を得ることができます。
確認監督者	エンティティのデータへの入力を許可するプロセス単位を開始するアクセス権があると、データを承認して公開することができます。プロセス単位のレベルを上げるか却下するには、プロセスのレベルに応じて、確認者 1 から確認者 10 の役割も必要になる場合があります。プロセス単位のレベルを参照してください。

プロセス単位のレベル

プロセス単位は、確認サイクル中に複数のプロセス・レベルを通過します。表 1 に、プロセス単位のレベルと各レベルの説明、および必要なアクセス権を示します。

表 12-2 プロセス単位のレベル

レベル	説明
未開始	確認監督者がプロセス単位を開始しておらず、監督者のみがデータを入力できます。プロセス単位のレベルを「第 1 パス」に変更できるのは、エンティティに対して「すべて」のアクセス権を持っている確認監督者のみです。
第 1 パス	プロセス単位が開始されており、適切なアクセス権を持つユーザーがデータを入力する最初のステージです。適切なアクセス権を持つユーザーがデータを入力する最初のステージです。「読取り」または「レベルを上げる」のアクセス権を持つユーザーは、エンティティのデータを変更できます。プロセス単位が「第 1 パス」のレベルにあるときは、セキュリティ役割は確認されません。

表 12-2 (続き) プロセス単位のレベル

レベル	説明
確認レベル 1-10	プロセス単位は、指定された確認レベルになります。データを表示するには、「読取り」、「レベルを上げる」または「すべて」のアクセス権と、データのプロセス単位のレベルより小さいまたは等しいセキュリティ役割が必要です。データまたはステータスを変更するには、「すべて」のアクセス権と、データのプロセス単位のレベルと等しいセキュリティ役割が必要です。
送信済	プロセス単位が送信され、最終的な承認を受ける準備ができています。データを表示するには、「読取り」、「レベルを上げる」または「すべて」のアクセス権と、いずれかのプロセス・コントロールのセキュリティ役割(「確認者 X」、「送信者」、「確認監督者」)が必要です。データまたはステータスを変更するには、「すべて」アクセス権と「確認監督者」のセキュリティ役割が必要です。 「送信済」のレベルは、通常、プロセス単位を承認する前の最終プロセスです。「送信者」のセキュリティ役割を持っている場合は、確認のレベルを飛ばすか、プロセス単位を直接「送信済」レベルに上げるかを選択できます。
承認済	プロセス単位が承認されています。データを表示するには、「読取り」、「レベルを上げる」または「すべて」のアクセス権と、いずれかのプロセス・コントロールのセキュリティ役割(「確認者 X」、「送信者」、「確認監督者」)が必要です。データまたはステータスを変更するには、「すべて」アクセス権と「確認監督者」のセキュリティ役割が必要です。
発行済	プロセス単位のパブリック・アクセスが発行されています。データを表示するには、「読取り」、「レベルを上げる」または「すべて」のアクセス権といずれかのセキュリティ役割が必要です。データまたはステータスを変更するには、「すべて」アクセス権と「確認監督者」のセキュリティ役割が必要です。
サポートされていません	シナリオでプロセス管理が使用可能になっていません。

ノート:

ここで説明する「データの変更」には、仕訳の転記も含まれます。

要約期間のプロセス単位のレベル

要約期間に表示されるプロセス単位のレベルは、その要約期間の最後の期間のプロセス単位のレベルに対応しています。たとえば、会計年度が7月から始まる場合は、9月のプロセス単位のレベルが **Quarter 1** のプロセス単位のレベルとして表示されます。**Quarter 1** に7月、8月、9月などの複数のセルを選択し、プロセス単位のレベルを更新する場合に **Q1** の処理を試みると、**Q1** は入力期間ではないためエラー・メッセージが表示されます。要約期間の最後の期間(9月)のプロセス単位のレベルを更新すると、レベルは **Q1** に反映されます。

上位のレベル期間(この例では **Quarter 1**)のセキュリティ・アクセスは、下位期間(7月、8月および9月)の最も厳しいセキュリティ権限に依存します。たとえば、確認レベル1のユーザーは、すべての子期間(この場合は7月および8月)にアクセスできないため、親期間(**Quarter 1**)の情報は表示されません。

9月のプロセスが開始する前の7月と8月のプロセス管理ステータスが公開済である場合、確認レベル1のユーザーは、7月と8月に対して読取り専用でアクセス可能なため、**Quarter 1** に対しても読取り専用でアクセスできます。

確認レベルと提出フェーズ

プロセス管理で提出フェーズを使用している場合は、提出フェーズにより、各プロセス単位の確認レベルが保管されます。各提出フェーズの確認レベルは、個々に上げる必要があります。ここでも、各確認レベルへの移行処理のルールが適用されます。また、提出フェーズの番号によっては、次の依存関係があります。

提出フェーズの確認レベルは、そのサブキューブにあるすべての下位番号フェーズの確認レベル以下にする必要があります。

たとえば、勘定科目が提出フェーズ1、提出フェーズ1の確認レベルが確認レベル4である場合は、提出フェーズ2の勘定科目を4より高い確認レベルに上げることはできません。貸借対照表および損益計算書勘定科目が提出フェーズ1の勘定科目であり、提出フェーズ1が確認レベル4ステータスである場合は、提出フェーズ2の勘定科目である補足勘定科目を4より高い確認レベルに上げることはできません。同様に、提出フェーズのルールに反している場合は、プロセス単位を却下できません。

提出フェーズの定義の詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

プロセス管理の開始

確認監督者は、他のユーザーがデータを入力する前にプロセス単位を開始するか、プロセス管理を実行する必要があります。ステータスが「開始していません」のときにプロセス単位にアクセスできるのは、確認監督者または管理ユーザーのみです。[プロセス管理のセキュリティ役割](#)を参照してください。

確認監督者がプロセス管理を開始すると、プロセス単位のレベルが「第1パス」に変わります。

プロセス管理は、データ・グリッドまたはプロセス・コントロール・モジュールから開始できます。プロセス単位をプロセス・コントロール・モジュールから開始すると、データ・ビュー、フィルタ、およびソートのオプションを選択できます。[プロセス・コントロールの使用法](#)を参照してください。

プロセス・コントロールからのプロセス管理の開始

プロセス・コントロールからプロセス管理を開始するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。

2. POV バーからディメンション名をクリックし、「メンバー選択」からシナリオ、年および期間のディメンション・メンバーを選択します。
3. オプション: エンティティ・リストの TopMember を変更するには、「メンバー選択」からエンティティを選択します。
4. 「表示オプション」、「グリッド設定」から、「データ・ビュー」を選択します:
 - ローカル
 - 換算
 - コントリビューション

[データ・ビューの選択](#)を参照してください。
5. オプション: グリッド、ビューおよび列のオプションを選択します。

[プロセス・コントロールの表示オプションの設定](#)を参照してください。
6. 開始するプロセス単位を選択します。
7. 「プロセス管理」をクリックして、「開始」を選択します。
8. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。

[プロセス単位へのドキュメントの添付](#)を参照してください。
9. オプション: ツリー・ビューを使用する場合、**選択されたエンティティのみにアクションを適用**または**選択されたエンティティと子孫にアクションを適用**を選択します。
10. 「OK」をクリックします。

データ・グリッドからのプロセス管理の開始

データ・グリッドからプロセス管理を開始するには:

1. データ・グリッドで、プロセス管理を開始するセルを選択します。
2. 右クリックして「プロセス管理」を選択し、「開始」を選択します。
3. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
4. 「OK」をクリックします。

プロセス・コントロールの使用方法

プロセス・コントロールを使用すると、データ・グリッドを使用するかわりにプロセス・コントロールのタスクを実行できます。プロセス・コントロール・モジュールでは、確認プロセスと連結プロセスが集中して行われ、プロセスの検証を簡単に表示できます。また、算出ステータスと仕訳ステータスが表示されるため、仕訳の詳細、連結ステータス、および通貨レート情報にドリルダウンできます。さらに、プロセス管理ステータスに関する警告を生成し、電子メールで送信することもできます。

プロセス・コントロール・モジュールにアクセスするには、「連結」、「データ」、「プロセス・コントロール」の順に選択します。

Data Process Control *

Action ▼ [Icons]

Point Of View

Scenario: Actual Year: 2012 Period: January Entity: {[Hierarchy]}

	Calc Status	ECA Status	Review Level	Pass / Fail	Validation
[None]	NODATA		Not Supported		
[-] Geographical	CN ND		Not Started		
[+] UnitedStates	CN ND		Not Started		
[+] Europe	NODATA		Not Started		
[+] SouthAmerica	NODATA		Not Started		
[+] ASIA	NODATA		Not Started		
[+] JointVenture	NODATA		Not Started		
[-] Function	CN ND		Not Started		
[+] Sales	CN ND		Not Started		
[+] Production	NODATA		Not Started		
[+] Administration	NODATA		Not Started		

No Unposted Journals: Unposted Journals:
 Default: Action Required: Pass: Fail:

プロセス・コントロールのチャートの表示と印刷

デフォルトでは、プロセス・コントロール情報は表形式で表示されます。「確認レベルの要約」と「算出ステータスの要約」をチャートとして表示することもでき、通常こちらの方がすばやく読み込まれます。チャートのタイプも選択できます。

表とチャート間のスプリッタのサイズを変更できます。両方のチャートを表示する場合は、チャート間のスプリッタのサイズも変更できます。チャートの設定はユーザーごとに保存されます。

プロセス・コントロール・チャートは印刷もできます。

プロセス・コントロールのチャートを表示するには:

1. 「連結」、「データ」、「プロセス・コントロール」の順に選択します。
2. POV バーからディメンション名をクリックし、「メンバー選択」からシナリオ、年および期間のディメンション・メンバーを選択します。
3. 右側の「表示オプション」パネルの「チャート設定」セクションで、「確認レベルの要約」または「算出ステータスの要約」（あるいはその両方）を選択します。
4. チャートの右側で、「チャートのタイプ」として次を選択します。
 - 折れ線
 - 棒(垂直)

- 棒(水平)
 - 面
5. **オプション:** チャートを印刷するには、チャートで右クリックし、「印刷」を選択します。これによってチャートのみ印刷されます。

プロセス・コントロール・タスク

アクセス権のあるプロセス単位の「プロセス管理」メニューに、すべてのプロセス・コントロール・タスクが表示されます。次の手順を参照してください:

- [データ・ビューの選択](#)
- [プロセス・コントロールのエンティティの選択](#)
- [プロセス・コントロールの表示オプションの設定](#)
- [プロセス管理の開始](#)
- [プロセス単位のレベルを上げる](#)
- [プロセス単位の送信](#)
- [プロセス単位の承認](#)
- [プロセス管理の履歴の表示](#)
- [プロセス単位のサインオフ](#)
- [プロセス単位の発行](#)
- [プロセス・コントロールでのデータの計算](#)
- [プロセス・コントロールでのデータの換算](#)
- [プロセス・コントロールでのデータの連結](#)
- [プロセス・コントロールの要約の表示](#)
- [合格または不合格のステータスの表示](#)
- [検証勘定の詳細の表示](#)
- [算出ステータスの表示](#)
- [仕訳ステータスの表示](#)
- [レート・データの表示](#)
- [出資比率の管理情報の表示](#)
- [プロセス単位へのドキュメントの添付](#)

データ・ビューの選択

プロセス・コントロール・ページには、シナリオ、年および期間の視点が表示されます。これらのディメンションはいずれも変更できます。

プロセス・コントロールでは、ローカル、換算または連結のデータ・ビューを選択できます。対応する視点の値ディメンションが使用され、選択したデータ・ビューに基

づいて算出ステータスと仕訳ステータスが表示されます。また、プロセス単位の検証では、対応する値ディメンションの値が使用されます。[算出ステータスの表示](#)、[仕訳ステータスの表示](#)および[検証勘定の詳細の表示](#)を参照してください。

ローカル・ビュー

「ローカル」データ・ビューが選択されている場合、算出ステータス列(Calc Status)は、値ディメンションの Entity Currency Total メンバー(Entity Curr Total)に基づいています。仕訳ステータス列(ECA Status)は、値ディメンションの Entity Currency Adjustment メンバー(Entity Curr Adjs)に基づいています。

換算ビュー

「換算」データ・ビューが選択されている場合、算出ステータス列(Calc Status)は、値ディメンションの Parent Currency Total メンバー(Parent Curr Total)に基づいています。仕訳ステータス列(PCA Status)は、値ディメンションの Parent Currency Adjustment メンバー(Parent Curr Adjs)に基づいています。

連結ビュー

「連結」データ・ビューが選択されている場合、算出ステータス列(Calc Status)は、値ディメンションの Contribution Total メンバー(Contribution Total)に基づいています。仕訳ステータス列(PA および CA Status)は、値ディメンションの Parent Adjustment メンバー(Parent Adjs)および Contribution Adjustment メンバー(Contribution Adjs)に基づいています。

プロセス・コントロールのエンティティの選択

プロセス・コントロールの行には、選択したエンティティの TopMember に基づいて、エンティティのリストが表示されます。エンティティ・リストは、ユーザー定義のリストか、階層、子孫、祖先、子または基本などのシステム・リストになります。TopMember のテキスト・ボックスは、データ・グリッドの視点で使用しているエンティティに基づいて入力されます。この TopMember を変更して、エンティティのリストをフィルタできます。

階層エンティティ・リストを選択すると、エンティティをツリー・ビューまたはリスト・ビューに表示できます。エンティティをツリー・ビューに表示する場合は、プラス(+)記号とマイナス(-)記号を使用して展開したり縮小したりできます。ツリー・ビューを使用する場合は、行のソートまたはフィルタはできません。リスト・ビューを使用する場合は、行のソートまたはフィルタができます。

プロセス・コントロールのエンティティを選択するには:

1. 「連結」、「データ」、「プロセス・コントロール」の順に選択します。
2. POV バーからディメンション名をクリックし、「メンバー選択」からシナリオ、年および期間のディメンション・メンバーを選択します。
3. オプション: エンティティ・リストの TopMember を変更するには、「メンバー選択」からエンティティを選択します。
4. 「表示オプション」、「グリッド設定」から、「データ・ビュー」を選択します:
 - ローカル
 - 換算
 - コントリビューション

[データ・ビューの選択](#)を参照してください。

5. **オプション:** グリッド、ビューおよび列のオプションを選択します。

[プロセス・コントロールの表示オプションの設定](#)を参照してください。

プロセス・コントロールの複数行の選択

プロセス管理アクションを実行する複数行を選択できます。連続する行や連続しない行、またはすべての行を選択できます。プロセス管理アクションを実行すると、アクションは選択したすべてのアイテムに適用されます。

複数の行を選択するには、プロセス・コントロール・ページで、次のいずれかを行います。

- 隣接する行を選択するには、ある行をハイライトし、ドラッグして隣接する行を選択します。
- 隣接しない行を選択するには、ある行をハイライトし、[Ctrl]キーを押しながら他の行を選択します。
- すべての行を選択するには、グリッドの左上隅のセルをクリックします。

プロセス・コントロールの表示オプションの設定

エンティティと確認レベルのリストを表示するためのオプションを設定できます。以下の情報を表示できます。

- 確認レベル(「開始済」、「第1パス」、「確認レベル1」、「承認済」など)。[プロセス単位のレベル](#)を参照してください。
- 成功/失敗のステータス。このステータスは、プロセス単位を次のレベルに上げる準備ができていないかどうかが表示されます。[合格または不合格のステータスの表示](#)を参照してください。
- 検証ステータス。エンティティの検証勘定科目の金額に基づいて、エンティティの検証ステータスを示します。[検証勘定の詳細の表示](#)を参照してください。
- 算出ステータス(OK、NODATA、CHなど)。[算出ステータスの表示](#)を参照してください。
- 仕訳ステータス。Entity Currency Adjustments、Parent Currency Adjustments、Parent Adjustments、Contribution Adjustmentsなどのエンティティの仕訳ステータスを赤または緑のフラグで示します。[仕訳ステータスの表示](#)を参照してください。

「プロセス・コントロール」ページでは、セルの色を使用してデータの追加情報を示すこともできます。[ステータスを判別するためのデータ・セルの色の使用法](#)を参照してください。

プロセス・コントロールの表示オプションを設定するには:

1. 「プロセス・コントロール」ページの「**表示オプション**」、「**グリッド設定**」から、「**データ・ビュー**」を選択します:
 - ローカル
 - 換算
 - コントリビューション

[データ・ビューの選択](#)を参照してください。

2. 「スタイル」で、「ツリー」または「リスト」を選択します。
3. 「1 ページ当たりの行数」で、行数を入力するか、デフォルト値の 1024 を使用します。
4. 「エンティティ・ビュー」で、「ラベル」、「説明」または「両方」を選択します。
5. 「期間ビュー」で、「単一」または「すべて」を選択します。
6. 「確認レベル列」で、「確認レベル」、「合格/不合格」または「検証」の 1 つ以上のオプションを選択します。
7. 「ステータス列」で、「算出ステータス」または「仕訳ステータス」の 1 つ以上のオプションを選択します。

例 12-1 Style

エンティティは、フラット・リストで表示することも、ツリー階層形式で表示することも可能です。ツリー・ビューは、階層システム・メンバー・リストを選択した場合にのみ使用できます。その他のすべてのメンバー・リストは、フラット・リストとして表示されます。

エンティティをツリー・ビューに表示する場合は、エンティティの横にあるプラス(+)記号とマイナス(-)記号を使用して展開したり縮小したりできます。ツリー・ビューでプロセス単位のレベルを変更するときは、アクションを現在選択しているエンティティに適用するか、選択しているエンティティとその子孫に適用するかを選択できます。エンティティと子孫に適用するオプションを使用すると、組織全体を手動で展開しなくても、アクションを実行できます。

リストをツリー・ビューで表示する場合は、行のソートやフィルタはできません。

例 12-2 エンティティ・ビュー

エンティティ情報には、エンティティのラベル、説明、またはこれらの両方を表示できます。デフォルト設定では、ラベルが表示されます。

例 12-3 アクティブなもののみ表示

アプリケーションで期間別組織が設定されている場合は、親エンティティのアクティブな子孫のみ表示できます。

例 12-4 フィルタ

リスト・ビューを使用すると、行のソートとフィルタを使用できます。たとえば、確認レベルに基づいて行をフィルタしたり、特定の確認レベルの上または下にあるすべての行(「第 1 パス」より上にあるすべてのレベルなど)を表示したりできます。また、確認レベルごとに、降順または昇順に行をソートすることもできます。

「合格のみ」または「不合格のみ」などの検証ステータスで行をフィルタできます。また、「OK」、「CN」または「TR」などの算出ステータスで行をフィルタすることもできます。[算出ステータスの表示](#)を参照してください。

設定したソートやフィルタのオプションは、プロセス・コントロール・ページの各列のツールチップに表示されます。

例 12-5 期間ビュー

期間は、1 つの期間またはすべての期間を表示できます。すべての期間を選択した場合、一度に表示できるのは 1 つの提出フェーズのステータスのみで、プロセス確認レベルまたは算出ステータスのいずれを表示するかを選択する必要があります。選択した情報は、シナリオ内のすべての期間の列に表示されます。

例 12-6 提出フェーズ

アプリケーションに提出フェーズが含まれる場合は、ステータスを表示する提出フェーズを選択できます。また、列を含める確認およびステータスの情報も選択できます。

例 12-7 ページ・サイズ

エンティティ・リストの選択によっては、プロセス・コントロールに複数のエンティティを表示できます。多くのエンティティを表示することにより発生するパフォーマンス上の問題を最小限に抑えるため、ページに表示するエンティティの数を選択できます。

プロセス・コントロールでの提出フェーズの表示

提出フェーズを使用し、プロセス単位を提出フェーズに分割して、データのサブセットを処理するようにできます。プロセス・コントロールでは、複数の提出フェーズの表示、確認レベルのステータスの表示、複数の提出フェーズに対するプロセス管理アクションの実行が可能です。

「単一」期間ビューを選択した場合は、1つ以上の提出フェーズを選択して列に含めることができます。各列について、「算出ステータス」、「仕訳」、「確認レベル」、「合格/不合格」および「検証」から、1つ以上のオプションを表示できます。オプションを選択すると、「確認レベル」、「合格/不合格」および「検証」が各フェーズに含まれるようになります。「算出ステータス」と「仕訳」はプロセス単位全体に適用されるため、選択したフェーズの数にかかわらず、一度のみ表示されます。

「すべて」の期間ビューを選択した場合は、列の「算出ステータス」または「確認レベル」情報を選択できます。「確認レベル」情報を選択した場合は、表示用に1つの提出フェーズを選択する必要があります。「すべて」の期間を選択した場合、または表示にツリー・ビューを選択した場合は、フィルタ・オプションは使用できません。

プロセス・コントロール・ツールの使用方法

プロセス・コントロールのオプションは、グリッドの上にあるツールバーから選択できます。




表 12-3 プロセス・コントロールのツールバー・ボタン

関数	ツールバーのボタン	説明
Rates		レート・データを含む定義済のデータ・グリッドにリンクします。
出資比率の管理		出資比率の管理モジュールにリンクします。
リフレッシュ		プロセス・コントロールのアクションを行った後で、グリッドをリフレッシュします。
プロセス管理		プロセス単位の開始、レベルの移行、送信、承認、却下、サインオフ、発行を行います。

ノート:

定義済の Web グリッドのグリッド・ラベルは、「レート」という名前にする必要があります。

表 12-3 (続き) プロセス・コントロールのツールバー・ボタン

関数	ツールバーのボタン	説明
連結		連結、すべて連結、データのあるものすべてを連結、コントリビューションの計算、またはコントリビューションの計算の強制を行います。
計算		データの計算または強制的な計算を行います。
換算		データの換算または強制的な換算を行います。

プロセス・コントロールの要約の表示

プロセス・コントロールに表示されるエンティティのステータスの要約を参照できます。要約には、フィルタ選択する前のすべてのエンティティのステータスが表示されます。「確認レベル」の要約には、確認レベルごとにエンティティの合計数が表示されます。算出ステータスの要約には、現在のページに表示されているエンティティのみでなく、すべてのエンティティの算出ステータス別に要約が表示されます。

要約ページを表示するには:

1. 「プロセス・コントロール」で、要約を表示するプロセス単位を、シナリオ、年、期間、および TopMember エンティティの中から選択します。
2. 右側のペインで、「確認レベルの要約」または「算出ステータスの要約」を展開します。

合格または不合格のステータスの表示

プロセス単位のレベルを上げることができるのは、算出ステータスが OK、OK SC または NODATA で、検証勘定の金額がゼロに等しい場合のみです。「合格/不合格」列には、プロセス単位を次のレベルに上げることができるかどうかを示すアイコンが表示されます。プロセス単位が合格したのか不合格したのかを確認するため、システムにより算出ステータスと検証勘定科目の金額が確認されます。表 1 に示すように、プロセス・コントロールで選択したデータ・ビューに応じて、算出ステータスと、これに対応するエンティティの値ディメンションの検証勘定科目が確認されます。検証に使用される値は、TopMember にカスタム・ディメンションを持つ検証勘定科目のセルになります。

アプリケーションで提出フェーズを使用する場合は、フェーズとその合格/不合格のステータスを表示できます。

表 12-4 プロセス・コントロールのデータ・ビューと値ディメンション

データ・ビュー	値ディメンション
ローカル・データ	エンティティ通貨の合計
換算データ	親通貨の合計
連結データ	コントリビューションの合計

算出ステータスが OK、OK SC または NODATA で、検証勘定科目の金額がゼロまたは NODATA の場合は、「合格/不合格」列に、この単位を次のレベルに上げられることを示す「合格」チェックマークが表示されます。

プロセス単位が不合格した場合は、「合格/不合格」列に「X」が表示されます。この場合、レベルを上げるデータが有効であることを確認するため、現在の期間で計算を実行する必要があります。計算後、検証勘定科目がゼロの場合は、算出ステータスが「OK」に更新され、列のステータスも「合格」になります。

合格/不合格ステータスが確認されるときは、現在の期間で派生したデータが確認されます。検証勘定科目がフロー勘定科目で、シナリオのメタデータ属性が ZeroViewforNonAdj に設定されている場合は、期間に派生したデータを含めることができます。算出ステータスが「NODATA」のプロセス単位は、前の期間にデータがない場合のみ合格します。算出ステータスが「NODATA」でもデータが前の期間に存在する場合は、プロセス単位に不合格ステータスが表示されます。たとえば、1月にデータがない場合は、1月の算出ステータスは、ステータスが「合格」の「NODATA」になります。1月にデータがあり2月にデータがない場合は、1月から派生したデータが2月にあるため、ステータスは「不合格」になります。

[検証勘定の詳細の表示](#)を参照してください。

合格/不合格のステータスを表示するには:

1. プロセス・コントロールを開きます。
2. ステータスを表示するエンティティを選択します。

合格/不合格のステータスは、合格/不合格の列に表示されます。

検証勘定の詳細の表示

「合格/不合格」列は「検証勘定の詳細」ページにリンクされており、このページでは、算出ステータスや検証勘定科目の情報などの、プロセス単位のサポート詳細を表示できます。このページには、検証勘定科目に関連付けられたすべての子と、これらの勘定科目のすべての残高が表示されます。

アプリケーションで提出フェーズを使用する場合は、フェーズとその検証の詳細を表示できます。

詳細画面にドリルダウンすると、次の情報が表示されます。

- 算出ステータス
- 検証勘定の金額

選択したプロセス単位の「データ・ビュー」オプションに応じて、異なるデータ・ビューが表示されます。

- データ・ビューが「ローカル・データ」の場合は、Entity Curr Total、Entity Curr Adjs および Entity Currency が表示されます
- データ・ビューが「換算データ」の場合は、Parent Curr Total、Parent Curr Adjs および Parent Currency が表示されます。
- データ・ビューが「連結データ」の場合は、Proportion、Elimination、Contribution Adjs および Contribution Total が表示されます。

「書式未設定のデータ」オプションには、データが単位で表示されます。「フォーマットされたデータ」オプションには、エンティティに割り当てられた通貨のスケールに基づいて、通貨の位取りでデータが表示されます。

たとえば、エンティティのディメンション・メンバーである WestSales の「検証」列に「X」が表示されているとします。列の「X」をクリックすると、詳細情報を表示できます。次の図に、WestSales 勘定科目の検証勘定科目の詳細を示します。

図 12-1 検証の詳細の例

The screenshot shows a 'Validation' window with the following details:

- POV Bar:** Scenario: Actual, Year: 2012, Period: January, Entity: UnitedStates
- Options:** Suppress Rows Containing Zero (checkbox), NoData (checkbox), Validation Account Detail (radio), Raw Data (radio), Formatted Data (radio)
- Table:**

	<Entity Curr Total>	<Entity Curr Adjs>	<Entity Currency>
Calculate Status!	CN ND	OK ND	CN ND
Validation - Validation Accounts			
Surplus - Surplus			
ICMatch - Intercompany Matching			
- Buttons:** Help, OK

次の例では、Surplus と ICMATCH の 2 つの検証勘定科目があります。Surplus 勘定科目に残高があるため、WestSales 勘定科目の検証に失敗します。検証勘定科目がゼロと等しくないため、WestSales を次のレベルに上げる準備ができていません。WestSales は、Surplus 勘定科目の貸借が一致するまで、次のレベルに上げることができません。

検証の詳細を表示するには:

1. 「プロセス・コントロール」で、検証の詳細を表示するエンティティを選択します。
2. 選択したエンティティの「検証」列にあるアイコンをダブルクリックします。

ヒント:

合格/不合格の列のアイコンをクリックすることもできます。

別のウィンドウが開き、検証の詳細が表示されます。

3. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - データを単位で表示するには、「書式未設定のデータ」を選択します。
 - エンティティに割り当てられた通貨の位取りでデータを表示するには、「フォーマットされたデータ」を選択します。
4. 検証の詳細を検証したら、「ウィンドウを閉じる」をクリックします。

算出ステータスの表示

算出ステータスの列には、エンティティの算出ステータスが表示されます。プロセス・コントロールで選択したデータ・ビューに応じて、算出ステータスと、これに対応するエンティティの値ディメンションの検証勘定科目が確認されます。

算出ステータスを表示するには:

1. プロセス・コントロールを開きます。
2. 算出ステータスを表示するエンティティ TopMember を選択します。

算出ステータスが算出ステータスの列に表示されます。

仕訳ステータスの表示

仕訳ステータス列(ECA、PCA、PA または CA)には、選択したエンティティのリストに含まれるエンティティの仕訳ステータスが表示されます。列のタイトルは、データ・ビューに選択されたメンバーに応じて、次のいずれかになります: 「ローカル」、「換算」またはコントリビューション。

ローカル・データ・ビューの場合、列には Entity Currency Adjustments(ECA)のステータスが表示されます。

換算データ・ビューの場合、列には Parent Currency Adjustments(PCA)のステータスが表示されます。

連結データ・ビューの場合は、Parent Adjustments(PA)のステータスと Contribution Adjustments(CA)の列が 1 列ずつ表示されます。

仕訳ステータスの列にある緑のフラグは、戻された仕訳の転記がないことを示します。赤いフラグは、戻された仕訳の転記をエンティティに転記する必要があることを示します。

仕訳ステータスのフラグ上にカーソルを置くと、そのエンティティがセキュリティ・アクセス権を持つ、戻された仕訳の転記の数が表示されます。フラグをクリックすると、仕訳モジュールが開き、選択したプロセス単位の戻された仕訳の転記を表示できます。これで、転記が必要な仕訳を転記できます。

ノート:

セキュリティ・アクセス権を持っている転記の戻し済の仕訳のみを含むリストが表示されます。

仕訳ステータスを表示するには:

1. 「プロセス・コントロール」から、仕訳ステータスを表示するエンティティ TopMember を選択します。

仕訳ステータスが ECA、PCA、PA または CA のステータス列に表示されます。


2. **オプション:** プロセス単位の転記の戻し済の仕訳を示す赤いフラグが列に表示された場合は、フラグをクリックして仕訳モジュールを開き、転記の戻し済の仕訳を表示します。

レート・データの表示

「プロセス・コントロール」では、データ・グリッドにリンクして、レート・データを表示できます。リンクした後は、データ・グリッドから直接レートを変更できます。

このリンクを使用するには、前に作成した"レート"という名前の、レート情報を含んだデータ・グリッドが必要です。[データ・グリッドの使用](#)を参照してください。


レートを表示するには:

1. 「プロセス・コントロール」で、レートを表示するプロセス・コントロールの単位を選択します。
2. ツールバーの「レート」をクリックします。
前に定義したレートのデータ・グリッドが開きます。レートのデータ・グリッドがない場合は、エラー・メッセージが表示されます。

出資比率の管理情報の表示

プロセス・コントロールで、出資比率の管理グリッドにリンクして出資比率情報を表示できます。[出資比率の管理](#)を参照してください。

出資比率情報を表示するには:

1. 「プロセス・コントロール」で、出資比率の管理情報を表示するプロセス・コントロール単位を選択します。
2. ツールバーの「出資比率の管理」をクリックします。

前に定義した「出資比率の管理」グリッドが開きます。「出資比率の管理」グリッドがない場合、エラー・メッセージが表示されます。

プロセス単位へのドキュメントの添付

プロセス・コントロールでは、追加情報のセルに1つ以上のドキュメントを添付できます。たとえば、Microsoft Word ドキュメント、Excel スプレッドシート、XSL または RPT ファイルを添付できます。カスタム・ドキュメントをサーバーに添付またはサーバーから抽出するには、「カスタム・ドキュメントの管理」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

アプリケーションを作成するときに、ユーザーごとにドキュメントの添付ファイルのサイズ制限や最大数を設定できます。この制限は、アプリケーション・メタデータの AppSettings 属性で設定します。

複数のドキュメントを添付できます;ただし、1つのセルに対して3つより多くのドキュメントを添付しないことをお勧めします。データベースに与えるパフォーマンスの影響を制限するために、各ドキュメントのサイズは100K未満にする必要があります。

プロセス単位に添付したドキュメントをダウンロードすることはできますが、添付を解除することはできません。

セルにドキュメントを添付するには:

1. 「プロセス・コントロール」で、ドキュメントを添付するプロセス単位を選択します。
2. プロセス単位のアクションを選択します。
3. 「行の追加」をクリックします。
4. 「添付ドキュメント」列から、「添付」をクリックします。
5. カスタム・ドキュメントのリストで、プロセス単位に添付するドキュメント(複数可)を選択し、「添付」をクリックします。

ノート:


プライベート・ドキュメントは添付できません。

ドキュメントは、シナリオ、年、期間、エンティティの組合せ、およびプロセス単位のレベルに関連付けられます。

プロセス・コントロールでのデータの計算

ステータスが正しくないプロセス単位のレベルを上げる必要がある場合、そのプロセス単位に対する適切なセキュリティ・アクセス権があれば、「プロセス・コントロール」から直接、計算または強制的な計算を実行することができます。[データの計算](#)を参照してください。


計算する、または強制的に計算するには:

1. プロセス・コントロールで、データを計算するプロセス単位を選択します。
2. 「計算」  をクリックするか、右クリックして「計算」または「計算の強制」を選択します。

プロセス・コントロールでのデータの換算

ステータスが正しくないプロセス単位のレベルを上げる必要がある場合、そのプロセス単位に対する適切なセキュリティ・アクセス権があれば、「プロセス・コントロール」から直接、換算または強制的な換算を実行することができます。[データの換算](#)を参照してください。


換算する、または強制的に換算するには:

1. プロセス・コントロールで、データを換算するプロセス単位を選択します。
2. 「換算」  をクリックするか、右クリックして「換算」または「換算の強制」をクリックします。

プロセス・コントロールでのデータの連結

ステータスが正しくないプロセス単位のレベルを上げる必要がある場合、そのプロセス単位に対する適切なセキュリティ・アクセス権があれば、「プロセス・コントロール」から直接、連結、コントリビューションの計算または強制的なコントリビューションの計算を実行することができます。[データの連結](#)を参照してください。

データの連結、コントリビューションの計算、およびコントリビューションの強制的な計算を行うには:

1. プロセス・コントロールで、データの連結またはコントリビューションの計算を行うプロセス単位を選択します。
2. 「連結」  をクリックするか、右クリックして「連結」、「すべてを連結」、「データのあるものすべてを連結」、「コントリビューションの計算」または「コントリビューション計算の強制」を選択します。

プロセス・コントロールからのエクイティ・ピックアップ計算の実行

エクイティ・ピックアップ・プロセスを実行または強制して、プロセス単位に対する適切なセキュリティ・アクセス権がある場合に、プロセス・コントロールから直接実行できます。[エクイティ・ピックアップ調整の計算](#)を参照してください。EPU 計算を実行するには、「出資比率の管理」というセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

エクイティ・ピックアップ計算を実行または強制するには:

1. 「プロセス・コントロール」で、エクイティ・ピックアップ計算を実行または強制するプロセス単位を選択します。
2. 右クリックし、「EPUの実行」または「EPUの強制」を選択します。

プロセス単位のレベルを上げる

「プロセス管理」ページには、選択したプロセス単位の現在のレベル、行えるアクション、および現在のステータスとセキュリティ役割に基づいた移行先のレベルが表示されます。

プロセス単位を次のプロセス単位のレベルに上げるには、プロセス単位に対するセキュリティ役割とアクセス権を割り当てられている必要があります。たとえば、プロセス単位が確認レベル2にある場合、次のレベルに上げるには、エンティティのデータに対して「すべて」または「レベルを上げる」のアクセス権を持ち、「確認者2」の役割が割り当てられている必要があります。[プロセス管理のセキュリティ役割](#)を参照してください。

ノート:

プロセス単位のステータスが「第1パス」である場合、セキュリティ役割は確認されません。エンティティに対して「すべて」のアクセス権を持つすべてのユーザーがデータを変更できます。

プロセス単位の算出ステータスが「OK」、「OK SC」または「NODATA」で、検証勘定の残高がゼロになっていないと、レベルを上げることができません。

親エンティティのデータを次のプロセス・レベルに上げる場合、子エンティティが親を上げるレベルにあることを確認するために検証が行われます。親は、直接の子の最下位のレベル以下のレベルにのみ上げることができます。

アプリケーションでフェーズ送信を使用する場合は、セルを選択するときに、システムによりセルに適用する送信フェーズが決定されます。各提出フェーズに対して決定される確認ステータスは1つのみなので、セルのレベルを上げると、その提出フェーズのすべてのセルのレベルを上げることになります。データ・グリッドの複数のセルのレベルを上げる場合は、これらのセルに適用されるすべての提出フェーズが決定され、確認レベルの従属ルールによっては、同時にフェーズのレベルも上がります。

プロセス単位のレベルを上げた後は、そのプロセスレベルが次のプロセス単位のレベルに変更されます。プロセス単位は、最後のプロセス単位のレベルとなる確認レベル10まで上げることができます。プロセス単位のステータスが確認レベル10の場合は、これを送信して承認を受けることができます。[プロセス単位の送信](#)を参照してください。

ノート:

移行プロセス中にJavaScriptのエラーが発生した場合は、Oracle Hyperion Reporting and Analysisのプロキシ・サーバーのタイムアウト設定の値を大きくする必要があります。Oracle Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイドを参照してください。

プロセス・コントロールでプロセス単位のレベルを上げる

プロセス・コントロールでプロセス単位のレベルを上げるには:

1. 「連結」、「データ」、「プロセス・コントロール」の順に選択します。

2. 行と列を設定します。
プロセス・コントロールのエンティティの選択を参照してください
3. レベルを上げるプロセス単位を選択します。
4. 「プロセス管理」をクリックして、「レベルを上げる」を選択します。
5. 「移動先のレベル」で、プロセス単位の移行先の確認レベルを選択します。
6. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
7. オプション: ツリー・ビューを使用する場合、**選択されたエンティティのみにアクションを適用**または**選択されたエンティティと子孫にアクションを適用**を選択します。
8. 「レベルを上げる」をクリックします。

データ・グリッドでプロセス単位のレベルを上げる

データ・グリッドでプロセス単位のレベルを上げるには:

1. データ・グリッドで、レベルを上げるプロセス単位のセルを選択します。
2. 右クリックして「プロセス管理」を選択し、「レベルを上げる」を選択します。
3. 「移行先のレベル」で、プロセス単位の確認レベルを選択します。
4. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
5. 「OK」をクリックします。

プロセス単位の送信

プロセス単位を送信して、承認を受ける準備ができたことを示します。プロセス単位を送信して承認を受けるには、「送信者」のセキュリティ役割と、「すべて」または「レベルを上げる」のアクセス権が割り当てられている必要があります。「送信者」のセキュリティ役割が割り当てられている場合は、「開始していません」以外のすべてのレベルからプロセス単位を送信できます。

プロセス単位を確認プロセスの最終ステージに送信するときは、ファイルが承認を受ける準備ができて示すことを示します。デフォルトの確認アクションでは、プロセス単位が次のレベルに上がります。ただし、送信者は、最終的な承認を得る前に確認レベルをスキップして、直接プロセス単位のレベルに進むことができます。

また、送信者は、プロセス単位のレベルを上げるために、現在のレベルに対する確認者の役割も割り当てられている必要があります。たとえば、「確認レベル 5」と「送信者」のセキュリティ役割を持つ送信者は、プロセス単位のレベルを「確認レベル 6」に上げたり、プロセス単位を送信したりできます。

プロセス単位を送信する前のステータスは、「OK」、「OK SC」または「NO DATA」である必要があります。プロセス単位を送信すると、そのプロセス単位のレベルは「送信済」に変わります。プロセス単位のステータスが「送信済」のときに、データを変更して、「承認済」のステータスに上げるか却下するには、「確認監督者」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

プロセス・コントロールでのプロセス単位の送信

プロセス・コントロールでプロセス単位を送信するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。
2. 行と列を設定します。
プロセス・コントロールのエンティティの選択を参照してください。
3. 送信するプロセス単位を選択します。
4. 「**プロセス管理**」をクリックして、「**送信**」を選択します。
5. オプション: 「**コメント**」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
プロセス単位へのドキュメントの添付を参照してください。
6. オプション: ツリー・ビューを使用する場合、**選択されたエンティティのみにアクションを適用**または**選択されたエンティティと子孫にアクションを適用**を選択します。
7. 「**送信**」をクリックします。

データ・グリッドでのプロセス単位の送信

データ・グリッドでプロセス単位を送信するには:

1. 送信するプロセス単位のセルを選択します。
2. 右クリックして「**プロセス管理**」を選択し、「**送信**」を選択します。
3. オプション: 「**コメント**」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
4. 「**OK**」をクリックします。

プロセス単位の承認

ステータスが「送信済」のプロセス単位は、承認を受ける準備ができています。プロセス単位を承認するには、「**確認監督者**」のセキュリティ役割と、「すべて」または「レベルを上げる」のアクセス権が割り当てられている必要があります。[プロセス管理のセキュリティ役割](#)を参照してください。

プロセス単位を承認する前のステータスは、「OK」、「OK SC」または「NO DATA」である必要があります。プロセス単位を承認すると、そのステータスは「承認済」に変わります。プロセス単位のステータスが「承認済」のときに、データの変更、却下、またはデータを発行して次のレベルに上げるには、「**確認監督者**」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

プロセス・コントロールでのプロセス単位の承認

プロセス・コントロールでプロセス単位を承認するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。
2. 行と列を設定します。
プロセス・コントロールのエンティティの選択を参照してください。
3. 承認するプロセス単位を選択します。
4. 「**プロセス管理**」をクリックして、「**承認**」を選択します。

5. **オプション:** 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
[プロセス単位へのドキュメントの添付](#)を参照してください。
6. **オプション:** ツリー・ビューを使用する場合、**選択されたエンティティのみにアクションを適用**または**選択されたエンティティと子孫にアクションを適用**を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

データ・グリッドでのプロセス単位の承認

データ・グリッドでプロセス単位を承認するには:

1. 承認するプロセス単位のセルを選択します。
2. 右クリックして「**プロセス管理**」を選択し、「**承認**」を選択します。
3. **オプション:** 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
4. 「**承認**」をクリックします。

プロセス単位の却下

プロセス単位を却下して前の状態に戻すには、プロセス単位に対して適切なセキュリティ役割とアクセス権(読取りやレベルを上げるなど)が割り当てられている必要があります。プロセス単位のステータスが「発行済」の場合、これを却下するには「すべて」のアクセス権が必要です。[プロセス管理のセキュリティ役割](#)を参照してください。

プロセス単位を却下すると、プロセス単位は自動的に前の状態に戻ります。たとえば、確認レベル2のプロセス単位を却下すると、確認レベル1に戻ります。確認レベル5から、残りのプロセス単位のレベルを飛ばして直接送信されたプロセス単位を却下すると、「送信済」のすぐ下のプロセス単位のレベルである確認レベル10ではなく、前にあった確認レベル5に戻ります。

プロセス単位のステータスが「第1パス」の場合は、確認監督者のみがこれを却下し「開始していません」のステータスに戻すことができます。「承認済」のステータスを持つプロセス単位を却下すると、そのステータスは「送信済」になります。

プロセス・コントロールでのプロセス単位の却下

プロセス・コントロールでプロセス単位を却下するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。
2. 行と列を設定します。
[プロセス・コントロールのエンティティの選択](#)を参照してください。
3. 却下するプロセス単位を選択します。
4. 「**プロセス管理**」をクリックして、「**却下**」を選択します。
5. **オプション:** 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
6. 「**却下**」をクリックします。

データ・グリッドからのプロセス単位の却下

データ・グリッドでプロセス単位を却下するには:

1. 却下するプロセス単位のセルを選択します。
2. 右クリックして「プロセス管理」を選択し、「却下」を選択します。
3. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
4. オプション: ツリー・ビューを使用する場合、「選択されたエンティティのみ」または「選択されたエンティティと子孫」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

プロセス単位のサインオフ

プロセスの状態が確認レベル 1 から確認レベル 10 の間である場合、プロセス単位をサインオフできます。プロセス単位をサインオフしても、そのステータスは変わりません。アクションは、監査記録として情報を提供する目的でのみログ・ファイルに記録されます。

プロセス・コントロールでのプロセス単位のサインオフ

プロセス・コントロールでプロセス単位をサインオフするには:

1. 「連結」、「データ」、「プロセス・コントロール」の順に選択します。
2. 行と列を設定します。
[プロセス・コントロールのエンティティの選択](#)を参照してください。
3. サインオフするプロセス単位を選択します。
4. 「プロセス管理」をクリックして、「確認」を選択します。
5. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
[プロセス単位へのドキュメントの添付](#)を参照してください。
6. オプション: ツリー・ビューを使用する場合、**選択されたエンティティのみにアクションを適用**または**選択されたエンティティと子孫にアクションを適用**を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

データ・グリッドでのプロセス単位のサインオフ

データ・グリッドでプロセス単位をサインオフするには:

1. サインオフするプロセス単位のセルを選択します。
2. 右クリックして「プロセス管理」を選択し、「確認」を選択します。
3. オプション: 「コメント」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
4. 「サインオフ」をクリックします。

プロセス単位の発行

プロセス単位が承認された後、これを発行してそのデータをすべてのユーザーに表示できます。プロセス単位を発行するには、「確認監督者」のセキュリティ役割と「すべて」のアクセス権が割り当てられている必要があります。

プロセス単位を発行する前のステータスは、「OK」、「OK SC」または「NO DATA」である必要があります。プロセス単位を発行すると、そのステータスが「発行済」に変わります。プロセス単位のステータスが「発行済」のときにデータを変更するには、「確認監督者」のセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。

ノート:

プロセス単位のステータスが「発行済」の場合は、セキュリティ役割は確認されません。エンティティに対して読取りまたはすべてのアクセス権を持つユーザーは、エンティティのデータを表示できますが、表示することしかできません。

プロセス・コントロールでのプロセス単位の発行

プロセス・コントロールでプロセス単位を発行するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。
2. 行と列を設定します。 [プロセス・コントロールのエンティティの選択](#)を参照してください。
3. 発行するプロセス単位を選択します。
4. 「**プロセス管理**」をクリックして、「**公開**」を選択します。
5. **オプション**: 「**コメント**」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
[プロセス単位へのドキュメントの添付](#)を参照してください。
6. **オプション**: ツリー・ビューを使用する場合、**選択されたエンティティのみにアクションを適用**または**選択されたエンティティと子孫にアクションを適用**を選択します。
7. 「**公開**」をクリックします。

データ・グリッドからのプロセス単位の公開

データ・グリッドでプロセス単位を発行するには:

1. 発行するプロセス単位のセルを選択します。
2. 右クリックして「**プロセス管理**」を選択し、「**公開**」を選択します。
3. **オプション**: 「**コメント**」にコメントを入力するか、詳細を説明したドキュメントを添付します。
4. 「**OK**」をクリックします。

プロセス単位のロックとロック解除

送信したデータの承認を受けた後、データをロックして変更できないようにする必要があります。ロックすることで、選択したカテゴリ、年、期間のエンティティのデータを変更できなくなります。データのロックやロック解除は、データ・グリッドまたはデータ・フォームで実行できます。

ロックまたはロック解除のセキュリティ・ロックがある場合は、プロセス単位をロックまたはロック解除できます。プロセス単位をロックする前に、これを発行する必要があります。プロセス単位を発行するには、「確認監督者」のセキュリティ役割と「すべて」のアクセス権が割り当てられている必要があります。

親エンティティをロックすると、そのすべての子孫も自動的にロックされます。プロセス単位のいくつかの子エンティティに対して「すべて」のアクセス権を持っていない場合は、そのような子エンティティのロック・ステータスがスキップされ、残りのエンティティの処理が続行されます。ただし、すべての子がロックされるわけではないため、非アクティブな子エンティティおよび親エンティティはロックされません。

親エンティティのロックを解除すると、そのすべての子孫のロックも自動的に解除されます。子エンティティが複数の親エンティティに従属する場合は、最初に手動ですべての親エンティティのロックを解除してから、子エンティティのロックを解除する必要があります。

フェーズ送信をサポートするアプリケーションでは、プロセス単位のすべてのセルがロックされる前に、そのステータスが「発行済」または「サポートされていません」になっていることが確認されます。また、ロック・ステータスを適用する前に、該当するフェーズのすべての検証勘定科目の値がゼロになっていることも確認されます。ロック・ステータスは算出ステータスで、プロセス単位全体に適用されます。

データをロックするには:

1. データ・グリッドで、データをロックするセルを選択します。
2. 右クリックし、「**ロック**」を選択します。

データのロックを解除するには:

1. データ・グリッドで、データのロックを解除するセルを選択します。
2. 右クリックし、「**ロック解除**」を選択します。

プロセス管理の履歴の表示

「プロセス管理の履歴」ウィンドウには、日時、ユーザー、実行したアクション、プロセス・レベルおよびコメントごとにプロセス管理の履歴が表示されます。この情報は変更も削除もできません。この情報は、個々のユーザーが単位を処理するのに伴い、自動的に更新されます。たとえば、USER1 がプロセス単位のレベルを確認レベル 2 に上げると、プロセス管理履歴に次の行が表示されます:

```
01/05/2014 2:18:36PM USER1 Promote Review Level 2
```

ノート:

ローカル・マシンとサーバーの時間が異なる場合は、ローカル・マシンまたはサーバー上のプロセス単位に対して表示されるタイムスタンプが異なる場合があります。

プロセス・コントロールでプロセス管理の履歴を表示するには:

1. 「**連結**」、「**データ**」、「**プロセス・コントロール**」の順に選択します。
2. 行と列を設定します。
プロセス・コントロールのエンティティの選択を参照してください。
3. 履歴を表示するプロセス単位を選択します。
4. 右クリックし、「**プロセスの履歴**」を選択します。
5. プロセス履歴を確認したら、「**OK**」をクリックします。

データ・グリッドでプロセス管理の履歴を表示するには:

1. データ・グリッドで、プロセス管理の履歴を表示するプロセス単位を選択します。
2. 右クリックして「**プロセス管理**」を選択し、「**プロセスの履歴**」を選択します。
3. プロセス履歴を確認したら、「**OK**」をクリックします。

プロセス・コントロールの電子メール・アラート

プロセス・コントロール・モジュールを設定して、プロセス・コントロールでのステータスの変更に基づいて電子メール・アラートをトリガーできます。たとえば、プロセス単位が次のレベルへの移行処理の準備ができたことを通知する電子メール・アラートを送信できます。次のアクションのアラートを生成できます: 初回パス、確認レベル 1 から確認レベル 10、送信済、承認済および公開済。プロセス単位が「開始していません」レベルの場合、またはサインオフ・アクションに対しては、電子メール・アラートは生成されません。

プロセス・コントロールの電子メール・アラートを使用するには、管理者が、プロセス単位シナリオのプロセス管理メタデータ設定を使用可能にする必要があります。アラートの詳細は、[電子メール・アラートの使用方法](#)を参照してください。

プロセスの確認アクションがプロセス・コントロール・モジュールまたはデータ・グリッドで実行されると、確認レベルの割当てに基づいて、アクションを行う適切なユーザーに対して自動的に電子メール・アラートが生成されます。プロセス・コントロールのアクションの前のレベルのユーザーに、プロセス・コントロールのアクションの後には現在のレベルのユーザーに、それぞれアラートが送信されます。アラートが生成されると、アクションを起こしたユーザーは、実行したアクション、アクションの一部として影響を受けるプロセス単位、電子メール・アラートを受信するユーザー名(プロセス単位ごと)、アクションについて入力されたコメントを含む確認の電子メールを受信します。

プロセス管理の検証

アプリケーションを作成する場合、検証勘定科目を選択できます。確認プロセス中に、プロセス単位のレベルの移行、送信、承認、サインオフまたは発行を行うと、検証勘定科目の勘定科目の値がゼロまたは「NODATA」と等しいかどうかを確認されます。等しくない場合は、アクションを実行できないことを通知するメッセージが表示されます。

アプリケーションでフェーズ送信を使用するよう設定されている場合は、提出フェーズごとに検証勘定科目を設定できます。

プロセス単位のレベルの移行、送信、承認、サインオフまたは発行を行うと、データのステータスが「OK」、「OK SC」または「NO DATA」であることが調べられます。プロセス単位がこのいずれのステータスにも該当しない場合、プロセス管理アクションを行う前に、データの再計算、換算または連結を行う必要があります。

また、プロセス単位でデータがロックされているかどうかも確認されます。データのロックが解除されるまでは、プロセス管理アクションを行うことはできません。デー

タが発行されている場合にのみ、データをロックできます。[データのロック](#)を参照してください。

親エンティティのプロセス単位のレベルは、常にすべての直接の子以下である必要があります。子エンティティのプロセス単位のレベルは、常にすべての直接の親以上である必要があります。

レベルを上げるときの検証

プロセス単位のレベルを上げるときに、次のことが検証されます。

- 直属の子孫のプロセス単位のレベル。これは、エンティティの子のレベルより上に、プロセス単位が移行されないようにするためです。
- プロセス単位のエンティティの入力通貨。これは、エンティティで別の通貨を使用している場合に、現在の換算レートが使われるようにするためです。
- プロセス単位の親の入力通貨。これは、ノードを使用している場合に、ノードの値が間違った値にならないようにするためです。

却下するときの検証

プロセス単位を却下するとき、次のことが検証されます。

- 直属の親のプロセス単位のレベル。これは、エンティティの親より低いレベルに却下しないようにするためです。
- 値ディメンションでエンティティの入力通貨が使用されている場合は、すべての親の入力通貨が調べられます。親の入力通貨がエンティティの入力通貨と同じ場合は、ノードのプロセス単位が調べられます。親の入力通貨がエンティティの入力通貨と異なる場合は、親の入力通貨のエンティティ・レベルでのプロセス単位のレベルが調べられます。
- 値ディメンションでエンティティの入力通貨以外の通貨が使用されている場合は、ノードのプロセス単位のレベルが調べられます。
- 値ディメンションでノードのプロセス単位が使用されている場合は、親の入力通貨のプロセス単位のレベルが調べられます。

プロセス管理と連結

子孫のプロセス単位のレベルに関係なく、データはいつでも連結できます。プロセス単位のデータを最初に連結する場合、親データのステータスは「NODATA」で最初のプロセス単位のレベルは「開始していません」です。連結した後は、親データのステータスは「OK」に変わりますが、プロセス単位のレベルは「開始していません」のままになります。ここで、確認監督者はプロセス単位を開始できます。

いずれかの子に「NODATA」が含まれている場合でも、連結処理は行われます。親エンティティのデータを次のプロセス単位のレベルに上げようとする、検証が行われます。最初のプロセス単位のレベルは「開始していません」です。データを連結した後も、親のプロセス単位のレベルは「開始していません」のままです。プロセス単位の「開始していません」のプロセス単位のレベルは手動で変更できます。「NODATA」のプロセス単位を変更した後は、親をその直接の子の最下位レベル以下のレベルに上げることができます。

電子メール・アラートの使用方法

次も参照:

[電子メール・アラートについて](#)

[内部取引のアラートの生成](#)

[プロセス・コントロールのアラートの生成](#)

電子メール・アラートについて

電子メール・アラートは、内部取引およびプロセス・コントロールの確認プロセスで使用できます。電子メール・アラートを使用すると、主要なイベントまたはシステム内でのデータの変更をハイライトできます。たとえば、内部取引が一致していないので一致させる必要があることや、プロセス単位を次のレベルに上げる準備ができたことを通知する電子メール・アラートを送信できます。

電子メール・アラートは、標準の SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)を使用して送信されるため、インターネット電子メールで動作するすべての電子メール・システムでアラートを使用できます。アラートを使用するには、Oracle Hyperion Financial Management 構成ユーティリティを実行するときに SMTP サーバー名を指定する必要があります。Oracle Enterprise Performance Management System インストレーションおよび構成ガイドを参照してください。

アラート・プロセスでは、LDAP、MSAD、Native Directory などの認証ファイルに保管された電子メール・アドレスを使用します。

電子メール・アラートを送信または受信する前に、次の手順を実行する必要があります:

- アラートのシナリオおよびエンティティに割り当てられたセキュリティ・クラスは電子メール・アラートをサポートしている必要があります。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。
- ユーザーには電子メール・アラートを受信するためのセキュリティ役割を割り当てる必要があります。Oracle Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイドを参照してください
- SMTP メール・サーバーを構成する必要があります。Oracle Enterprise Performance Management System インストレーションおよび構成ガイドを参照してください。

次の手順を参照してください:

- [内部取引のアラートの生成](#)
- [プロセス・コントロールのアラートの生成](#)

内部取引のアラートの生成

内部取引の電子メール・アラートを生成できます。たとえば、エンティティ A とパートナ C 間の取引 M865 のステータスが不一致であることに気が付いたとします。このような場合に、エンティティ A に電子メールを送信して、ステータスのユーザーに警告し、追加情報を求めることができます。ユーザーにアラートを送信する前に、そのユーザーに内部取引アラートを受信するセキュリティ権限があることを確認する必要があります。

内部取引の電子メール・アラートの送信

内部取引のモニター・ページには、プロセス・ステータスとロック・ステータスの内部取引エンティティのリストが表示されるため、ここで取引ステータスをモニターできます。取引のリストから任意のエンティティを選択して、電子メール・アラートを生成できます。たとえば、モニタリング・プロセス中に、特定のエンティティが内部取引プロセスを開始していないことに気が付くことがあります。この場合、そのエンティティを担当するユーザーに電子メール・アラートを送信する場合があります。

エンティティを担当するユーザーにのみ、電子メールが生成されます。同じユーザーがセキュリティ・アクセス権を持つ複数のエンティティが選択された場合は、そのユーザーに対して選択したすべてのエンティティに関する情報を含むアラートが 1 つ送信されます。[内部取引の電子メール・アラートの受信](#)を参照してください。

電子メール・コンテンツには、取引情報に加え、コメントを含めることができます。

電子メール・アラートを生成すると、各種ユーザーに送信された電子メールの情報を含む確認ログを受信します。

内部取引のモニター・ページで電子メール・アラートを送信するには:

1. エンティティのリストで、アラートを送信するエンティティを選択します。
2. 「電子メール・アラート」をクリックするか、「アクション」、「電子メール・アラート」の順に選択します。
3. オプション: 「すべてのアラートのコメント」に、コメントを入力します。
コメントは、生成されたすべてのアラートに使用されます。
4. 「提出」をクリックします。

内部取引の電子メールの内容

アラートの件名の行には、電子メールが生成されたアプリケーション名とモジュール名が表示されます。本文には、実行されたアクションと取引の詳細に関する次の情報が含まれます:

コメント: ユーザーが入力した追加コメント

シナリオ、年、期間

エンティティ、パートナ、TID、SID、勘定科目、顧客、フロー

エンティティ、パートナ、TID、SID、勘定科目、顧客、フロー

次の図に、内部取引の電子メール・アラートの例を示します。

From:	HFMAAdmin@oracle.com
To:	JSmith@oracle.com
Date:	Feb. 5, 2012 10:05:22 AM
Subject:	StatApp - Process IC Transactions
<p>Comment: Please explain why there is a difference in your amount. ActMon, 2012, January</p> <p>A, C, M865, A03, RecitIC, Increases, [None], [None]</p>	

内部取引の電子メール・アラートの受信

内部取引の電子メール・アラートを受信するには、次のセキュリティ・アクセス権をすべて持っている必要があります。

- 内部取引の「内部取引管理」または「内部取引ユーザー」セキュリティ役割。内部取引照合レポートの電子メールを受信する場合は、これらの役割は必要ありません。
- 「内部取引の電子メール・アラートを受信」セキュリティ役割。
- 取引のデータ・セルに対する「すべて」、「読取り」または「レベルを上げる」セキュリティ・アクセス権。
- シナリオとエンティティの両方に対して **SupportAlert=Y** というセキュリティ・クラス属性。

内部取引の電子メール・アラートを受信すると、アラートが生成されたモジュール(内部取引など)が表示されます。また、アラートが生成された取引で使用された視点も表示されます。

アラートの生成時に使用されたコメントは、すべてのユーザーに対して表示されます。ただし、アラートに固有の情報は、取引に割り当てられたセキュリティ役割およびセキュリティ・クラスにより異なります。

セキュリティ上の理由から、電子メール・アラートにはデータは表示されません。電子メールは、ステータスの変更やアラートのアイテムについてアクションを行う必要があることを通知するために機能します。

プロセス・コントロールのアラートの生成

プロセス・コントロール・モジュールを設定して、プロセス・コントロールでのステータスの変更に基づいて電子メール・アラートをトリガーできます。アラートは、「第1パス」、「確認レベル1」から「確認レベル10」、「送信済」、「承認済」、または「発行済」のアクションに対して設定できます。プロセス単位が「開始していません」レベルの場合、またはサインオフ・アクションに対しては、電子メール・アラートは生成されません。

電子メール・アラートを生成する前に、メタデータ・ファイルのシナリオ・ディメンションの **Supports Process Management=A** 属性を使用可能にする必要があります。この属性を使用可能にすると、確認時に、電子メール・アラートを受信するセキュリティ権限を持っているユーザーに向けて電子メール・アラートが生成されます。

データ・グリッドまたはプロセス・コントロール・モジュールでプロセスの確認アクションを行うときは、管理者が設定したシナリオ設定およびセキュリティ権限に基づいて、アクションの適切なユーザーに対して電子メール・アラートが自動的に送信されます。たとえば、プロセス単位が次のレベルに上がるときは、その確認レベルのプ

プロセス単位に対して適切なアクセス権を持つユーザーのみが、アラートを受信できません。

プロセス・コントロールのアクションの前には、前のレベルのユーザーに、プロセス・コントロールのアクションの後には現在のレベルのユーザーに、それぞれ電子メール・アラートが送信されます。たとえば、ユーザー 1 とユーザー 2 は、両者とも「確認者 4」の役割アクセス権を持っています。また、ユーザー 3 とユーザー 4 は、「確認者 5」の役割アクセス権を持っています。プロセス単位がレベル 4 にあり、これがレベル 5 に上がるときは、ユーザー 1 とユーザー 2 はアクションのレベルを上げる前のレベル 4 にあるため、電子メール・アラートを受信します。ユーザー 3 とユーザー 4 は、アクションのレベルを上げた後の現在のレベルはレベル 5 になり、このレベルにあるため、電子メール・アラートを受信します。

アラートが生成されるとアクションを行ったユーザーは確認の電子メールを受信します。確認の電子メールには、実行されたアクション、アクションにより影響を受けたプロセス単位、および各プロセス単位の電子メール・アラートを受信したユーザー名が含まれます。

プロセス・コントロールから電子メール・アラートを生成するには:

1. プロセス単位、およびアクションを行う適切なユーザーに対して、電子メール・アラートのセキュリティ・アクセス権を使用可能にします。

*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

2. **オプション:** コメントを追加するには、「プロセス・コントロール」でプロセス単位を選択し、「コメント」にコメントを入力します。

確認アクションを行った結果、適切なユーザーに対してアラートが生成されます。コメントは、生成されたすべてのアラートに使用されます。

プロセス・コントロールの電子メールの内容

この電子メール・アラートの件名行には、プロセスの確認アクション、アクション後の確認レベル、およびエンティティ、期間、年、シナリオ情報が表示されます。

たとえば、確認アクションに対する電子メールの次の件名行は、Actual(実績)シナリオの France エンティティのプロセス単位が却下されて、確認レベル 3 に戻されたことをユーザーに通知します。

件名: Reject RL3 - France, January, 2012, Actual

この電子メール本文には、プロセスされたプロセスとプロセス単位に関する次の情報が含まれます。

アクション: 実行された確認アクション

コメント: 電子メールに含める追加コメント

プロセス単位の情報: 確認アクションのエンティティのリスト

エンティティのラベル - エンティティの説明、期間、年、シナリオ、アクション前の確認レベル、アクション後の確認レベル

次の図に、プロセス・コントロールの電子メール・アラートの例を示します。

From:	Reviewer1@oracle.com
To:	HFMAAdmin@oracle.com
Date:	Jan 5 2012 15:21:26-0400
Subject:	Process Control - Start - First Pass - EastProduction, BudV1
Action:	Start
Comment:	Moved to first pass, 1/5/12 by Reviewer1
Processing Unit Information:	
EastProduction - East Production, Jan, 2012, BudV1, Not Started-> First Pass	

プロセス・コントロールのアラートを送信するプロセスは、アラートを送信するときにコメントを入力できる内部取引のプロセスとは異なります。システムでプロセス・コントロールのアラートが生成されるため、本文に追加コメントを含めたり、アラートを生成するときにコメントを含めることができます。追加コメントは、1つの確認アクションから生成されたすべてのアラートに含まれます。そのため、特定の配布リストに含まれるすべてのユーザーは、同じコメント情報を受信します。

プロセス・コントロールの電子メール・アラートの受信

プロセス単位は、シナリオ、年、期間およびエンティティから構成されます。確認アクションの電子メール・アラートを受信するには、次のセキュリティ・アクセス権が割り当てられている必要があります。

- 「プロセス・コントロールの電子メール・アラートを受信」セキュリティ役割。
- プロセス単位のシナリオとエンティティのセキュリティ・クラスに対する「すべて」または「レベルを上げる」セキュリティ・アクセス権。
- 元のプロセス単位のステータスまたは新しいプロセス単位のステータスに基づいてアラートを必要とするセキュリティ役割。

プロセス管理の電子メール・アラートを受信すると、アラートが生成されたモジュール(プロセス・コントロールなど)が表示されます。また、アラートが生成されたプロセス単位で使用された視点も表示されます。

アラートの生成時に使用されたコメントは、すべてのユーザーに対して表示されます。

セキュリティ上の理由から、電子メール・アラートにはデータは表示されません。電子メールは、ステータスの変更やアラートのアイテムについてアクションを行う必要があることを通知するために機能します。

タスクの自動化

次も参照:

- タスクの自動化の概要
- 自動化に使用可能な **Financial Management** タスク
- タスクの自動化に必要な条件
- タスクフローの管理
- タスクフローの表示
- タスクフローの作成
- タスクフローの編集
- タスクフローの削除
- タスクフローのコピー
- テストのためのタスクフローの手動での実行
- タスクフローへのアクセスの制御
- タスクフローのスケジュール
- タスクフローのステータスの表示

タスクの自動化の概要

タスクの自動化は、一連のタスクをまとめてタスクフローにする方法です。タスクの自動化を使用すると、Oracle Hyperion Financial Management でよく実行するタスクを自動化できます。

Financial Management では、データのロードや計算および換算の実行、親エンティティの連結、およびデータ抽出などのタスクを定期的に行います。実行する重要なタスクを必要に応じてスケジュールするために、タスクフローを作成、管理および保持できます。

自動化に使用可能な **Financial Management** タスク

次のアクティビティはタスクの自動化に使用できます:

- 配賦
- 計算
- コントリビューションの計算
- 換算

- 連結
- 仕訳のロード
- 仕訳の抽出
- データのロード
- データの抽出(非推奨)
- データベースへのデータの抽出
- ファイルへのデータの抽出
- 仕訳の処理
- プロセス管理の使用

タスクの自動化に必要な条件

タスクフロー操作を実行するには、次に示す Oracle Hyperion Shared Services のいずれかの役割が割り当てられている必要があります:

- タスクフローの管理 - タスクフローの作成および編集が可能です。
- タスクフローの実行 - タスクフローの実行および表示のみが可能です。この役割を持つユーザーは、新規タスクフローの作成や既存タスクフローの編集はできません。

ノート:

どちらの役割もグローバル・ユーザーの役割です。これらの役割を割り当てられているユーザーは、任意のアプリケーションおよび製品のタスクフローを変更または実行できます。Oracle Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイドを参照してください。

タスクフローの管理

タスクフローは、タスクの自動化で作成できる一連のタスクです。たとえば、タスクフローを作成して、データのロード、計算および連結を行うことができます。タスクフローの作成、編集、保存、コピーおよび削除、使用可能なタスクフローのリストの表示、タスクフローへのアクセス権の割当て、テストするタスクフローの手動実行、自動実行するタスクフローのスケジュールを行うことができます。

タスクフローのロギング機能を有効化できます。Oracle Enterprise Performance Management System インストレーションおよび構成トラブルシューティング・ガイドを参照してください。

次の手順を参照してください:

- [タスクフローの表示](#)
- [タスクフローの作成](#)
- [タスクフローの編集](#)
- [タスクフローの削除](#)

- [タスクフローのコピー](#)
- [テストのためのタスクフローの手動での実行](#)
- [タスクフローへのアクセスの制御](#)
- [タスクフローのスケジュール](#)

タスクフローの表示

タスクフローは Oracle Hyperion Shared Services で保管および管理します。「タスクフローのリスト(要約)」には、アプリケーション別に使用可能なタスクフロー、タスクフローを作成したユーザー、および説明が表示されます。

タスクフローを表示するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。

ノート:

タスクフローのタスクを表示する際に、ユーザーが表示できるのはアクセス権のあるタスクのみです。

タスクフローの作成

一連のタスクにリンクするタスクフローを作成し、それらを実行する時間を指定します。タスクフローを作成するときは、タスクフローに名前と説明を割り当てます。次に、タスクのステージと、タスク間のリンクを追加します。ステージは、データ・ロードのような特定のタスクを定義します。リンクは、手順の終了後に、システムがどのように続行するかを指定します。

タスクフローを作成するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
3. 「タスクフロー」ページから、「新規」をクリックします。
4. 「名前」に、タスクフローの名前を入力します。
名前には、40 文字まで入力できます。
5. 「アプリケーション」に、タスクフローの作成先の名前を入力します。
6. オプション: 「説明」に、タスクフローの説明を入力します。
7. 「送信」をクリックします。

タスクフロー・エディタが表示されるので、ステージとリンクを追加します。

タスクフローへのステージの追加

ステージはタスクフロー内の手順を説明します。各ステージには、データのロードなどのアクションがあります。これらのアクションには、実行時に値が提供されるパラメータがあります。

ステージを定義するには、次の3つのタブを使用します:

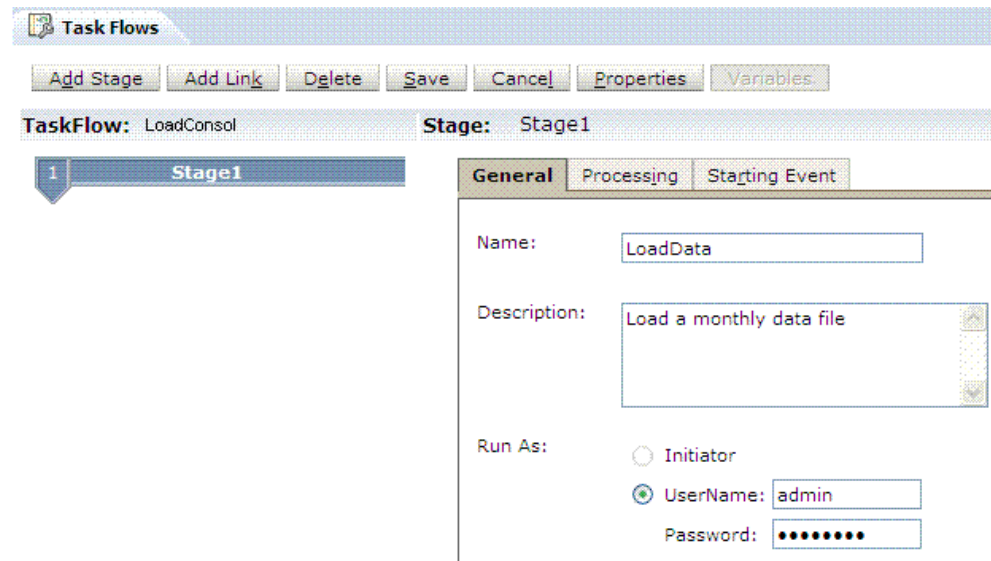
- **全般:** ステージ名、説明、およびステージの実行を担当するユーザーのユーザー ID を定義します。ユーザーは、タスクフローの最初のステージの所有者である開始者か、他のステージの別のユーザーになります。
- **処理中:** ステージで実行するアクションと、必要に応じて、そのパラメータを定義します。
- **開始イベント:** タスクフローを開始するイベントと、イベントが発生する予定時間を定義します。予定時間は、ローカル・ユーザーのコンピュータの時間ではなく、アプリケーション・サーバーの時間に基づいています。週次、月次、月の初めなどのスケジュールに従って実行するようにタスクフローをスケジュールできます。このタブは、タスクフローの最初のステージにのみ表示されます。スケジュール済のイベント(タスクフローの開始時間)が表示されるか、使用不可になります(「今すぐ実行」オプションで実行されるタスクフローを手動で開始する場合)。

ステージを追加するには:

1. タスクフロー・エディタで、「**ステージの追加**」をクリックします。

新しいステージが左のペインに、ステージの詳細が右のペインに表示されます。タスクフローにステージが存在する場合は、新しいステージはタスクフローの最後に作成されます。

図 14-1 タスクの自動化の「一般」タブ



2. 「**全般**」タブを選択し、次の情報を入力します:
 - a. 「**名前**」に、LoadData などのステージ名を入力します。

ノート:

ステージ名にスペースを含めることはできません。名前には、30 文字まで入力できます。

- b. **オプション:** 「説明」で、「毎月のデータ・ファイルのロード」など、タスクフローの説明を入力します。
 - c. 「別のユーザーとして実行」で「ユーザー名」を選択し、タスクフローを起動するユーザー名およびパスワードを入力します。
-
-

ノート:

ステージ 1 では、ユーザー名とパスワードが必要です。後続のステージでは、開始者を選択できます。この場合は、ステージ 1 で定義したユーザー ID とパスワードが使用されます。

3. 「処理中」タブを選択し、次の情報を入力します:

- a. 「アプリケーション」で、タスクを実行するアプリケーションを選択します。
 - b. 「アクション」で、LoadData などの実行するアクションを選択します。
-
-

ノート:

[Financial Management](#) のステージのアクションとパラメータを参照してください。

- c. 各パラメータの「タイプ」で、アクションに応じて「選択リスト」、「テキスト・ボックス」または「URL」を選択して、パラメータの値を入力します。

たとえば、「データのロード」アクションでは、「モード」パラメータの選択リストから、「マージ」、「累計」または「置換」を選択できます。

視点を編集するには、「編集」をクリックし、視点のメンバーを選択します。

データ・ファイルとログ・ファイル名およびパスには、テキスト・ボックスに手動で情報を入力する必要があります。タスクフローはサーバーから実行されるため、ファイル名とパスが有効であること、タスクを実行するサーバーからアクセスできることを確認する必要があります。そのため、ユーザーのハード・ドライブを参照する c:\file.dat などのパスは入力しないでください。また、Universal Naming Convention(UNC)を使用して、\\HFMServer\share\path\file.dat などのようにコンピュータ名と共有ディレクトリを指定する必要があります。

図 14-2 データのロード用のパラメータのサンプル

Parameter Name	Type	Value
Data File	Textbox	HFMServer/task\data
Log File	Textbox	HFMServer/task\data
Delimiter	Textbox	;
Mode	Picklist	Merge
Accumulate within File	Picklist	True
Contains Ownership Data	Picklist	True

4. 「開始イベント」タブを選択し、「スケジュール済イベント」を選択し、次の情報を入力します:

a. 「開始イベント」で、イベントを選択します。

「サーバーの日付」情報は、情報の目的で表示されます。

図 14-3 タスクの自動化の「開始イベント」タブ

Starting Event: Scheduled Event

Server Date: June 5, 2012 10:54:11 AM EDT

Start Date: 06/05/2012

Start Time: 12:00 PM

Recurrence Recurrence Pattern: Monthly

Day 10 of every 1 Month(s)

The First Sunday Of Every 1 Month(s)

No End Date

End After Occurrences

End Date End Time 12:00 AM

b. 「開始日」で、タスクを実行するスケジュールされた日付を入力するか、ポップアップ・カレンダーをクリックして日付を選択します。

c. 「開始時間」で、タスクを実行するスケジュールされた時刻を選択します。

ノート:

スケジュールされた時刻は、ローカル・ユーザーのコンピュータの時刻ではなく、「サーバーの日付」行で識別されるアプリケーション・サーバーの時刻に基づきます。

- d. 繰り返しタスクの場合は、**繰り返し**を選択し、**繰り返しパターン**からタスクの頻度を選択します。
- e. タスクの終了日と時間を入力するオプションを選択します。
- 「終了日なし」
 - 「終了条件」: 繰り返し数を入力します。
 - 「終了日」: 終了日を選択し、「終了時間」を選択します。
5. オプション: ステージを追加するには、「**ステージの追加**」をクリックし、「**全般**」および「**処理**」にステージ情報を入力します。

ノート:

開始イベント・タブは、1 番目のステージにのみ使用できます。ただし、タスクフローのスケジュール機能を使用して、作成ステージに関係なくタスクフローをスケジュールできます。[タスクフローのスケジュール](#)を参照してください。

Financial Management のステージのアクションとパラメータ

次の表に、使用できる Oracle Hyperion Financial Management のアクションとパラメータを示します。

表 14-1 Financial Management のステージのアクションとパラメータ

アクション	パラメータ名	タイプ	使用可能な値	目的
配賦	POV	URL	視点	データを配賦する視点を示します。 データ配賦の実行 を参照してください。
計算	POV	URL	視点	データを計算する視点を示します。 データの計算 を参照してください。
計算	強制	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> • TRUE • FALSE 	ステータスにかかわらず、選択したセルのデータを強制的に計算するかどうかを示します
コントリビューションの計算	POV	URL	視点	コントリビューションデータを計算する視点を示します。 データの計算 を参照してください。
コントリビューションの計算	強制	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> • TRUE • FALSE 	すべての入力期間のコントリビューションを強制的に計算するかどうかを示します

表 14-1 (続き) *Financial Management* のステージのアクションとパラメータ

アクション	パラメータ名	タイプ	使用可能な値	目的
換算	POV	URL	視点	データを換算する視点を示します。データの換算を参照してください。
換算	強制	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	ステータスにかかわらず、選択したセルのデータを強制的に換算するかどうかを示します
連結	POV	URL	視点	データを連結する視点を示します。データの連結を参照してください。
連結	タイプ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> 変更済 データのあるものすべて すべて 	実行する連結のタイプを示します
仕訳のロード	仕訳ファイル	テキスト・ボックス	ファイルの名前およびパス	ロードする仕訳ファイルを示します。 <i>Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド</i> を参照してください。
仕訳のロード	ログ・ファイル	テキスト・ボックス	ログ・ファイルの名前およびパス	ロード・ログ・ファイルのパス
仕訳のロード	区切り文字	テキスト・ボックス	仕訳の区切り文字。デフォルトはセミコロン(;)です。	ファイルのデータを区切ります
仕訳の抽出	仕訳ファイル	テキスト・ボックス	ファイルの名前およびパス	抽出する仕訳ファイルを示します。 <i>Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド</i> を参照してください。
仕訳の抽出	ログ・ファイル	テキスト・ボックス	ログ・ファイルの名前およびパス	抽出ログ・ファイルのパス
仕訳の抽出	区切り文字	テキスト・ボックス	仕訳の区切り文字。デフォルトはセミコロン(;)です。	ファイルのデータを区切ります
仕訳の抽出	テンプレートの抽出	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	仕訳テンプレートを抽出するかどうかを示します

表 14-1 (続き) *Financial Management* のステージのアクションとパラメータ

アクション	パラメータ名	タイプ	使用可能な値	目的
仕訳の抽出	繰返しテンプレートの抽出	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	繰返しテンプレートを抽出するかどうかを示します
仕訳の抽出	仕訳の抽出	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	仕訳を抽出するかどうかを示します
仕訳の抽出	POV	URL	視点	仕訳を抽出する視点を示します
データのロード	データ・ファイル	テキスト・ボックス	ファイルの名前およびパス	ロードするデータ・ファイルを示します。 データのロード を参照してください。
データのロード	ログ・ファイル	テキスト・ボックス	ログ・ファイルの名前およびパス	ロード・ログ・ファイルのパス
データのロード	区切り文字	テキスト・ボックス	データ・ファイルの区切り文字。デフォルトはセミコロン(;)です。	ファイルのデータを区切ります
データのロード	モード	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> マージ セキュリティを基準にして置換 置換 累計 	データのロードに使用するモードを示します
データのロード	ファイル内の累計	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	データ・ファイル内のデータを累計するかどうかを示します
データのロード	出資比率データを含みます	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	ファイルに出資比率データが含まれているかどうかを示します
データの抽出(非推奨)	データ・ファイル	テキスト・ボックス	ファイルの名前およびパス	抽出するデータ・ファイルを示します。 データの抽出 を参照してください。
データの抽出	ログ・ファイル	テキスト・ボックス	ログ・ファイルの名前およびパス	抽出ログ・ファイルのパス
データの抽出	区切り文字	テキスト・ボックス	データ・ファイルの区切り文字。デフォルトはセミコロン(;)です。	ファイルのデータを区切ります

表 14-1 (続き) *Financial Management* のステージのアクションとパラメータ

アクション	パラメータ名	タイプ	使用可能な値	目的
データの抽出	ビュー	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> 年次累計 期別 シナリオのデフォルト 	データの抽出に使用するビューを示します
データの抽出	POV	URL	視点	データを抽出する視点を示します
データの抽出	計算済	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	データが計算されているかどうかを示します
仕訳の抽出アクション	仕訳のアクション	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> 送信 承認 転記 転記の戻し 送信を戻す 却下 削除 	仕訳で行うアクションのタイプを示します。 仕訳の処理 を参照してください。
仕訳の抽出アクション	POV	URL	視点	仕訳のアクションを行う視点を示します
仕訳の抽出アクション	仕訳ラベル	テキスト・ボックス	ファイルの名前およびパス	アクションを行う仕訳を示します
データベースへのデータの抽出	DSN	テキスト・ボックス	データを抽出するデータソース名	データ・ソース名を示します。 <i>Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド</i> を参照してください。
データベースへのデータの抽出	表の接頭辞	テキスト・ボックス	ディメンション表のキー	ディメンション表のキーを含みます
データベースへのデータの抽出	プッシュ・タイプ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> スター・スキーマの作成 スター・スキーマの更新 スター・スキーマの削除 	スター・スキーマを作成、更新または削除するかを示します
データベースへのデータの抽出	抽出タイプ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> 標準 メタデータのみ 選択したメタデータのみ Essbase データ・ウェアハウス 	データの抽出に使用するモードを示します

表 14-1 (続き) *Financial Management* のステージのアクションとパラメータ

アクション	パラメータ名	タイプ	使用可能な値	目的
データベースへのデータの抽出	動的勘定科目を除く	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出で動的勘定科目を除外するかどうかを示します
データベースへのデータの抽出	算出データ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出に算出データを含めるかどうかを示します
データベースへのデータの抽出	派生データ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出に派生データを含めるかどうかを示します
データベースへのデータの抽出	ライン・アイテムの詳細	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> なし セルの合計要約 	抽出にライン・アイテムの詳細を含めるかどうかを示します
データベースへのデータの抽出	POV	URL	視点	データベースへのデータ抽出に使用する視点を示します。
ファイルへのデータの抽出	データ・ファイル	テキスト・ボックス	ファイルの名前およびパス	抽出データ・ファイルのパス
ノート: データ・ファイルは抽出されると圧縮され、この作業で指定したのと同じ名前で、 .gz が追加されます。				
ファイルへのデータの抽出	ログ・ファイル	テキスト・ボックス	ログ・ファイルの名前およびパス	抽出ログ・ファイルのパス
ファイルへのデータの抽出	抽出タイプ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> ヘッダーを含むフラット・ファイル ヘッダーを含まないフラット・ファイル 	データの抽出に使用するフォーマットを示します
ファイルへのデータの抽出	動的勘定科目を除く	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	動的勘定科目を除外するかどうかを示します
ファイルへのデータの抽出	算出データ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出に算出データを含めるかどうかを示します
ファイルへのデータの抽出	派生データ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出に派生データを含めるかどうかを示します

表 14-1 (続き) *Financial Management* のステージのアクションとパラメータ

アクション	パラメータ名	タイプ	使用可能な値	目的
ファイルへのデータの抽出	ライン・アイテムの詳細	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> なし 個々のライン・アイテム セルの合計要約 	抽出にライン・アイテムの詳細を含めるかどうかを示します
ファイルへのデータの抽出	セル・テキスト	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出にセル・テキストを含めるかどうかを示します
ファイルへのデータの抽出	フェーズ送信グループ・データ	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> TRUE FALSE 	抽出にフェーズ送信グループ・データを含めるかどうかを示します
ファイルへのデータの抽出	POV	URL	視点	データを抽出する視点を示します。
プロセス管理	POV	URL	シナリオ、年、期間、エンティティ、値	プロセス管理に使用する視点を示します。 プロセス管理について を参照してください。
プロセス管理	コメント	テキスト・ボックス	コメント・テキスト	プロセス単位のコメントのテキスト
プロセス管理	アクション	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> 開始 レベルを上げる 却下 サインオフ 送信 承認 発行 	プロセス単位で行うアクションのタイプを示します
プロセス管理	移動先の状態	選択リスト	<ul style="list-style-type: none"> なし 確認レベル 1-10 	プロセス単位の移動先のレベルを示します
プロセス管理	フェーズ	選択リスト	フェーズ 1 から 9	アクションを行うフェーズを示します。

タスクフローへのリンクの追加

リンクは、タスクフローを実行するところで、あるステージのアクティビティが終了し、タスクフローが終了するか、またはその制御が次に開始する別のステージに渡される場所です。リンクは、無条件(1つのステージが終了したら次のステージを開始する)にも、条件付き(操作のシーケンスが1つ以上のリンクの条件によって異なる)にもできます。

リンクは、次に実行されるシステムのアクションを指定します。リンクはすべてのステージに必要です。通常、ほとんどのステージが2つのリンク(成功および失敗)を保持します。最初のステージが成功した場合に2番目のステージ(受信ステージ)に進むこ

とを指定できます。最初のステージで問題が発生して正常に完了しない場合に実行するアクションも指定できます。

たとえば、最初のステージ **LoadData** が成功した場合に **Consolidation** の受信ステージに進む成功リンクを設定できます。また、**LoadData** ステージで失敗したか問題が発生した場合に、プロセスを終了してタスクフローを停止する **End** の受信ステージに進む失敗リンクを設定できます。

ターゲットでタスクフローを完了するため、タスクフローの最後のステージには"End"の最終リンクを含める必要があります。

リンクの条件を指定できます。たとえば、データのロード・タスクに、**LoadData_Result==Success** などの条件を追加できます。

変数の後に等号を2つ(==)入力し、評価する条件を一重引用符(')で囲みます。値は TRUE または FALSE です。

リンクを追加するには:

1. タスク・フローから、「**リンクの追加**」をクリックします。
2. 「**全般**」タブで、「**名前**」にリンク名を入力します。
名前には、30文字まで入力できます。
3. 「**説明**」に、リンクの説明を入力します。
送信ステージは表示専用です。変更できません。
4. 「**受信ステージ**」で、ステージを選択します。
5. 必要に応じて、「**条件**」タブを選択し、「**変数**」で、**LoadData_Result** などの変数を選択します。

ヒント:

条件を削除するには、「**削除**」をクリックします。

6. 「**リレーショナル演算子**」で、「**次と等しい**」または「**次と等しくない**」を選択します。
7. 「**値**」で「**成功**」または「**失敗**」を選択します
8. 「**追加**」をクリックします。

ノート:

タスクフローの最後のステージに End 目標へのリンクがあることを確認します。

ヒント:

条件を削除するには、「**削除**」をクリックします。

タスクフローの編集

タスクフローを作成したら、タスクフローの説明の編集、およびタスクフローの変数の作成、編集または削除ができます。また、ステージやリンクの追加または削除もできます。

タスクフローを編集するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
 2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
 3. 「タスクフローのリスト(要約)」ページで、編集するタスクフローを選択し、「編集」をクリックします。
 4. タスクフロー・エディタで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ステージを追加するには、「**ステージの追加**」をクリックします。[タスクフローへのステージの追加](#)を参照してください。
 - リンクを追加するには、「**リンクの追加**」をクリックします。[タスクフローへのリンクの追加](#)を参照してください。
 - ステージを削除するには、まず削除するステージのリンクからすべての条件を削除する必要があります。タスクフローを保存し、「**削除**」をクリックします。
-
- ノート:**
- ステージを削除すると、そのステージに関連したリンクもすべて削除されます。
-
- タスクフローの説明を編集するには、「**プロパティ**」をクリックします。
5. タスクフローを編集して、次のいずれかのアクションを行います。
 - 編集したタスクフローを保存するには、「**保存**」をクリックします。
 - 編集を取り消すには、「**取消し**」をクリックします。変更が保存されずに、「タスクフローのリスト(要約)」に戻ります。

タスクフローの削除

使用しなくなったタスクフローを削除できます。

タスクフローを削除するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
3. 「タスクフローのリスト(要約)」ページで、削除するタスクフローを選択し、「**削除**」をクリックします。

タスクフローのコピー

タスクフローを定義したら、そのタスクフローを別のアプリケーションにコピーできます。

タスクフローをコピーするには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。

3. 「タスクフローのリスト(要約)」 ページで、コピーするタスクフローを選択し、「名前を付けて保存」をクリックします。
4. タスクフローの新しい名前と説明を力します。
5. 「送信」をクリックします。

Oracle Hyperion Shared Services によってタスクフローのコピーが、新しい名前前で「タスクフローのリスト(要約)」に追加されます。

テストのためのタスクフローの手動での実行

タスクフローは、自動的に開始されるのを待たずに手動で実行できます。実行する前にタスクフローをテストできるため、実際に実行する前にタスクフローを調整できます。

タスクフローを手動で実行するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
3. 「タスクフローのリスト(要約)」 ページで、実行するタスクフローを選択し、「今すぐ実行」をクリックします。

タスクフローへのアクセスの制御

Oracle Hyperion Shared Services Console を使用した役割ベースの権限に加えて、アクセス制御リスト(ACL)を使用し、より粒度の細かいタスクフロー・レベルでアクセス権限を管理できます。タスクフローに権限を割り当てる前に、まず Shared Services Console を使用して適切な役割を作成する必要があります。たとえば、"Manage Financials TF"のようなわかりやすい名前での Oracle Hyperion Financial Management の役割(すべての Financials タスクフローを管理できる役割)を作成し、「タスクフローの管理」に基づく役割を選択します。役割が Shared Services Console を使用して作成された後、個々のタスクフローにアクセス権限を割り当てることができます。

Oracle Hyperion Shared Services は、各タスクフローについて次のタイプの権限を提供します:

- 管理
- 実行

各タスクフローに権限を割り当てるには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
3. タスクフローのリストからタスクフローを選択し、「アクセス・コントロール」をクリックします。
4. 管理権限役割および実行権限役割に対して適切な基本役割を選択します。

たとえば、権限役割の管理には"Manage Financials TF"の役割を選択し、権限役割の実行には"Execute Financials TF"の役割を選択します。

5. 「保存」をクリックします。

タスクフローのスケジュール

タスクフローを作成または編集しなくても、自動的に実行するようにタスクフローをスケジュールすることができます。タスクフローのスケジュールを使用すると、ローカル・ユーザーのコンピュータではなくアプリケーション・サーバーの時刻に基づいてタスクフローの開始時刻やイベント発生 の予定時刻を定義できます。

タスクフローをスケジュールするには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
3. タスクフローのリストからタスクフローを選択し、**タスクフローのスケジュール**をクリックします。
4. 次の情報を入力します:
 - a. **開始イベント**で、**スケジュールされたイベント**を選択します。
「サーバーの日付」情報は、情報の目的で表示されます。
 - b. 「**開始日**」で、タスクを実行する日付を入力するか、ポップアップ・カレンダーをクリックして日付を選択します。
 - c. 「**開始時間**」で、タスクを実行する時刻を選択します。

ノート:

この時刻は、サーバーの日付に表示されている、アプリケーション・サーバーでの時刻です。

- d. 繰返しタスクの場合は、**繰返し**を選択し、**繰返しパターン**からタスクの頻度を選択します。
 - e. タスクの終了日と時間を入力するオプションを選択します。
 - 「終了日なし」
 - **終了条件**を選択して、終了条件数を入力します。
 - 「**終了日**」: 終了日を選択し、「**終了時間**」を選択します。
5. 「保存」をクリックします。

タスクフローのステータスの表示

「タスクフロー・ステータス(要約)」では、タスクフローのステータス(アクティブ、完了、または停止済など)を確認できます。すべてのタスクフローを表示するか、またはステータス、アプリケーション、またはタスクフローが開始された日付または日付の範囲でタスクフローのリストをフィルタできます。

個々のタスクフローをドリルダウンして、タスクフローの詳細を表示できます。「タスクフロー参加者(要約)」ページには、タスクフローの各ステージのステータスと完了した時間が表示されます。正常に完了したステージと失敗したステージを確認できます。この情報はタスクの自動化のトラブルシューティングに使用できます。

タスクフローのステータスを表示するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「ステータス」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「ステータス」を選択します。
3. タスク ID をダブルクリックして、ステータスを表示します。
4. オプション: タスクフローを検索するには、フィルタ条件を選択して「検索」をクリックします。

図 14-4 「タスクフロー・ステータス(要約)」ページのサンプル

The screenshot shows the 'Task Flows Status' page. At the top, there's a 'Taskflow Status Summary' section with filters for Status (Active), Application (Comma), and Taskflow (Consol). Below this is an 'Initiated between' field with date pickers and a 'Search' button. A navigation bar includes 'Stop', 'Delete', 'Delete All', and pagination controls (1 of 3) with a 'Refresh' button. The main content is a table with columns: Id, Application, Taskflow, Initiator, Started, Status, and Description. The table contains five rows of data, all with 'Active' status and 'Run Now button initiated workflow' description.





Id	Application	Taskflow	Initiator	Started	Status	Description
wf-1337286043539	Comma	NewEatoFile	admin	May 17, 2012 4:20:43 PM	Active	Run Now button initiated workflow
wf-1337285697264	Comma	NewEatoFile	admin	May 17, 2012 4:14:57 PM	Active	Run Now button initiated workflow
wf-1337285050120	Comma	NewEatoFile	admin	May 17, 2012 4:04:10 PM	Active	Run Now button initiated workflow
wf-1337284889569	Comma	NewEatoFile	admin	May 17, 2012 4:01:29 PM	Active	Run Now button initiated workflow
wf-1337283838146	Comma	NewEatoFile	admin	May 17, 2012 3:43:58 PM	Active	Run Now button initiated workflow

表 1 では、「タスクフロー・ステータス(要約)」ページの要素を説明します。

表 14-2 タスク・フローのステータス(要約)の要素

要素	説明
ステータス	次のタスクフロー・タイプでフィルタします。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ • 完了 • 停止 • すべて
アプリケーション	タスクフローに使用されるアプリケーション。
タスクフロー	タスクフローの名前
開始期間(オプション)	タスクフローを開始した日付を入力するか、クリックして選択します。
検索	指定する検索基準に一致するタスクフローのリストを表示します。

表 14-2 (続き) タスク・フローのステータス(要約)の要素

要素	説明
タスクフローのリスト	<p>次のような指定の検索条件に一致するタスクフローを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ID • アプリケーション* • タスクフロー* • 開始者* • 開始済*(最新のタスクフローを最初に表示します) • ステータス* • 説明 <p>*ソート可能なデータを示します。列ヘッダーをクリックして、アプリケーション、タスクフロー、開始者、開始済またはステータス別にタスクフローをソートできます。</p>
停止	アクティブなタスクフロー・インスタンスを停止します。
削除	選択したタスクフロー・インスタンスを削除します。
<hr/> <p>ノート: タスクフローを中止してから削除する必要があります。</p> <hr/>	
すべて削除	選択したタスクフロー・インスタンスのすべてを削除します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの最初のページをタスクフローのリスト領域に表示します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの前のページを表示します。
	ページのドロップダウン・リストで選択したページをタスクフローのリスト領域に表示します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの次のページをタスクフローのリスト領域に表示します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの最後のページを表示します。
リフレッシュ 	表示されたタスクフロー・インスタンスをリフレッシュします。

「タスクフロー・ステータス(要約)」ページでは、アクティブなタスクフローの停止、「タスクフローの参加者(要約)」の表示、または「タスクフロー参加者(詳細)」の表示を行うこともできます。

- [アクティブ・タスクフローの停止](#)
- [「タスクフローの参加者\(要約\)」の表示](#)
- [「タスクフロー参加者\(詳細\)」の表示](#)

アクティブ・タスクフローの停止

アクティブなタスクフローは、進行中のタスクフローです。進行していないタスクフローを停止できます。たとえば、エラーのあるタスクフローや調整を行うタスクフローを停止できます。

アクティブなタスクフローを停止するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「管理」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「管理」を選択します。
3. 「ステータス」で「アクティブ」を選択します。
4. オプション: リストをフィルタするには、タスクフローの検索条件を選択して「検索」をクリックします。
5. 停止するタスクフローを選択して、「停止」をクリックします。

「タスクフローの参加者(要約)」の表示

「タスクフローの参加者(要約)」ページには、タスクフローの参加者のリストと、各参加者インスタンスのステータス情報が表示されます。

タスクフローの参加者のステータスを表示するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「ステータス」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「ステータス」を選択します。
3. タスクフローの検索条件を選択して、「検索」をクリックします。

Oracle Hyperion Shared Services タスクフロー管理システム内のすべてのタスクフローを表示するには、(ステータス)「すべて」を選択し「検索」をクリックします。

4. タスクフローのリストで、参加者の要約を表示するタスクフローを見つけて、タスクフロー ID をクリックします。

「タスクフローの参加者(要約)」ページが表示されます。

5. 「タスクフロー・ステータス(要約)」ページに戻るには、「取消し」をクリックします。

表 14-3 タスクフローの参加者(要約)ページの要素

要素	説明
タスクフローの要約	選択したタスクフロー(完了順に表示)の次の要約情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • ID • アプリケーション • タスクフロー • 開始者 • 開始済 • ステータス • 説明
参加者	ステージの参加者の名前。参加者は選択できます。タスクフロー参加者の詳細を表示するには、参加者をクリックします。
ステージ名	ステージ名
ステータス	ステージ・ステータス: <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ • 完了 • 停止 • すべて
成功変数	完了ステージの結果
ステータス・メッセージ	タスクフローの現在のステータスを説明するメッセージ
完了	ステージが完了した日付と時刻

「タスクフロー参加者(詳細)」の表示

タスクフロー参加者(詳細)ページには、タスクフローの各ステージのステータスと完了した時間が表示されます。正常に完了したステージと失敗したステージを確認できます。この情報はタスクの自動化のトラブルシューティングに使用できます。

タスクフローの参加者の詳細を表示するには:

1. 「ナビゲート」、「管理者」、「連結管理」の順に選択します。
2. 「管理」、「タスクフロー」、「ステータス」の順に選択するか、または左側のナビゲーション・ペインから「タスクフロー」を展開し、「ステータス」を選択します。
3. タスクフローの検索条件を選択して、「検索」をクリックします。

Oracle Hyperion Shared Services タスクフロー管理システム内のすべてのタスクフローを表示するには、(ステータス)「すべて」を選択し「検索」をクリックします。

4. タスクフローのリストで、参加者の要約を表示するタスクフローを見つけて、タスクフロー ID をクリックします。
5. 参加者をクリックして、タスクフロー参加者の詳細を表示します。

Shared Services で、タスクフロー参加者(詳細)ページが表示され、参加者イベントが発生順にソートされます。

6. 「タスクフロー参加者(要約)」ウィンドウに戻るには「取消し」をクリックします。